

浜岡原子力発電所

敷地の地質・地質構造（コメント回答）

データ集 2 （本編及び補足説明資料 2 関連）

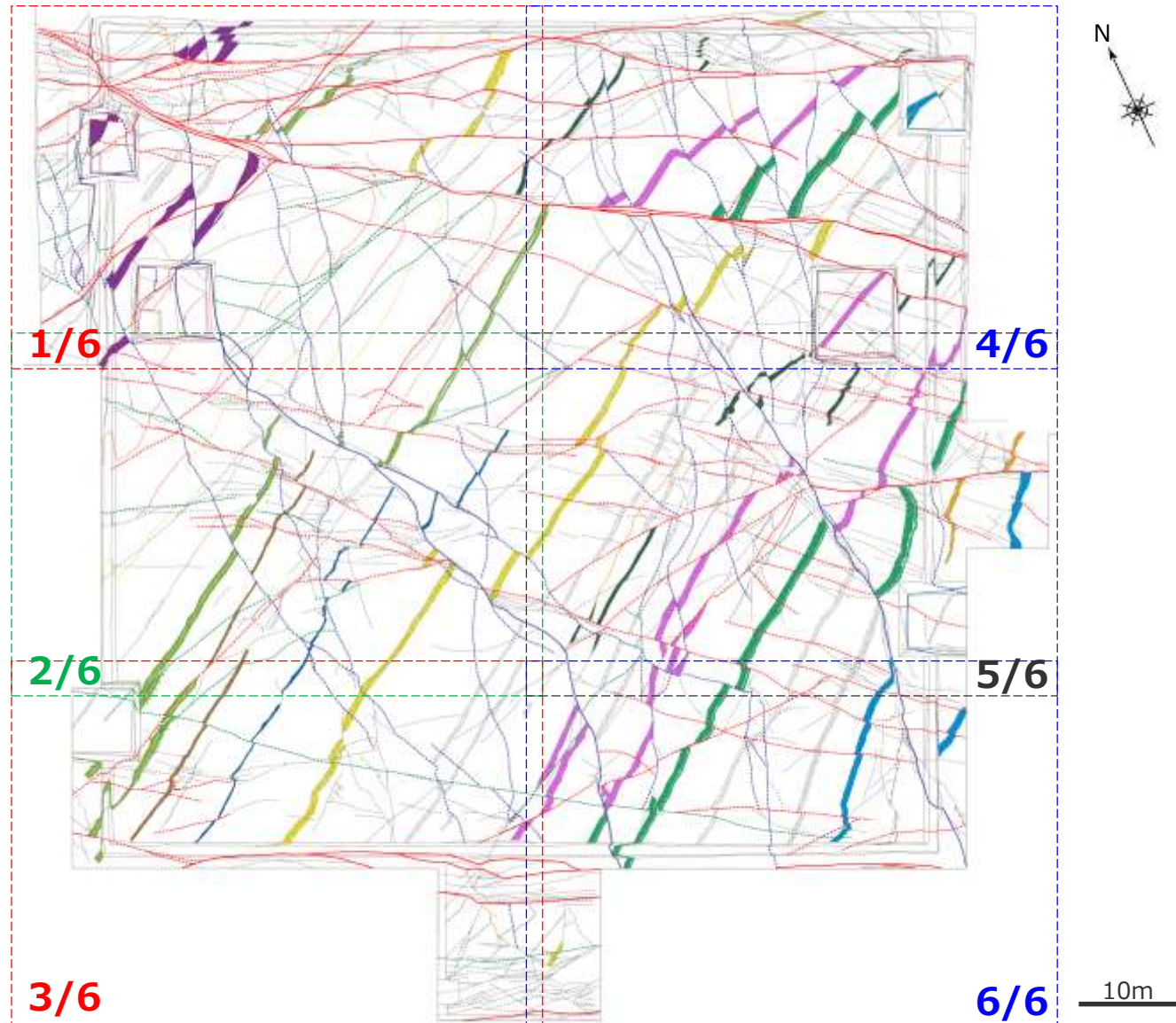
2019年12月20日

1. 4号炉原子炉建屋基礎露頭観察記録	2
2. H断層系の深部への連続性の検討関連資料	1 3

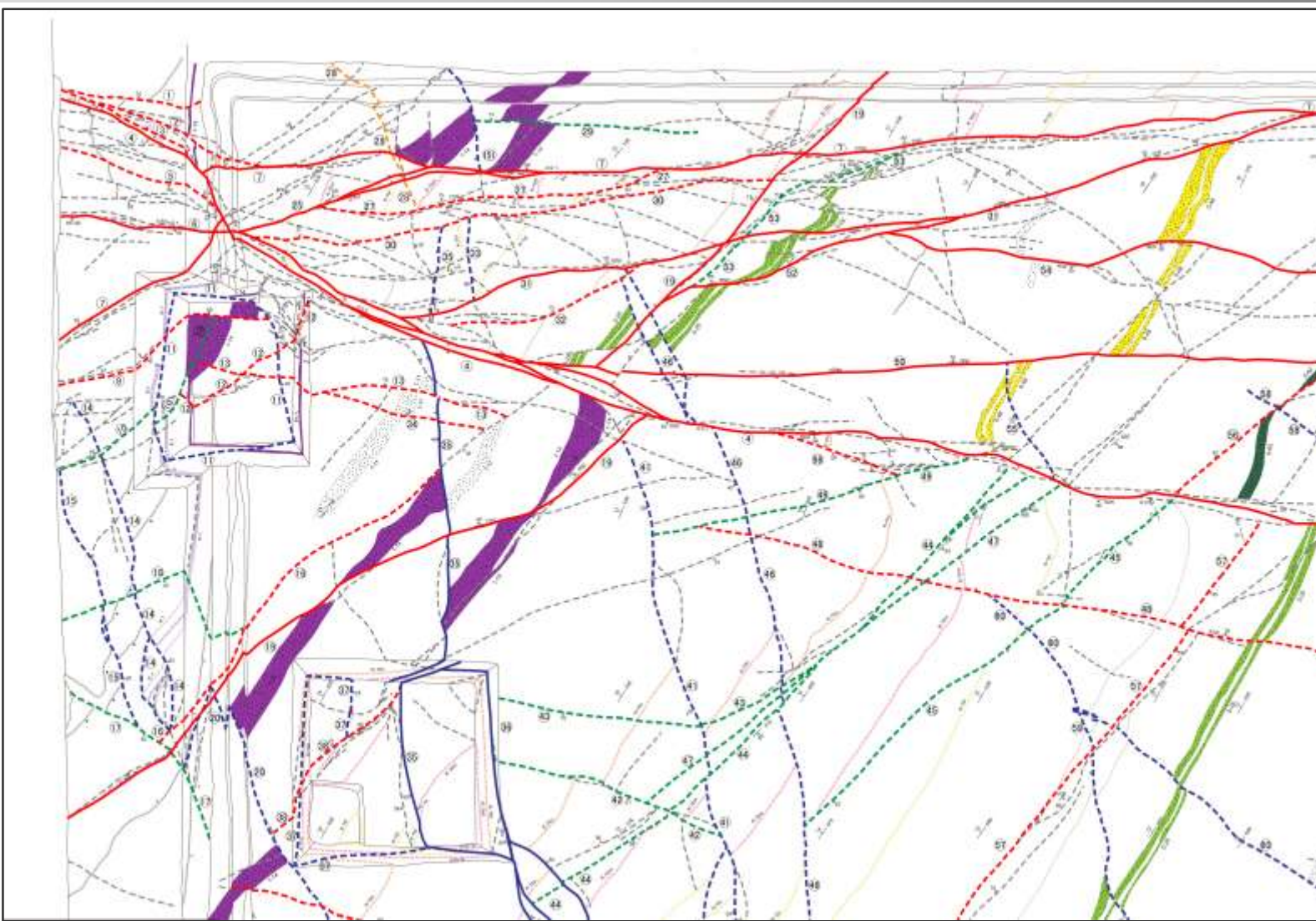
1







4号炉原子炉建屋基礎露頭觀察記録

4号炉原子炉建屋基礎露頭 地質スケッチ 全体図



4号炉原子炉建屋基礎露頭 地質スケッチ 1 / 6



-  砂岩・泥岩互層
-  凝灰岩層
-  特徴的な砂岩層
(同一砂岩層を同色で表記)
-  断層の走向・傾斜
(走向は磁北を基準とする)
-  地層の走向・傾斜
-  d: 粘土幅 (mm)
- 赤線** : EW系正断層
- 青線** : NS系逆断層
- 緑線** : EW系逆断層
- 橙線** : NS系正断層
- 灰線 : 特に小規模な断層
- 実線 : 開離型断層
- 破線 : ゆ着型断層
- 内に記載した数字は断層名称を表す。
例) @ : 4R-10断層



4号炉原子炉建屋基礎露頭 地質スケッチ 2 / 6

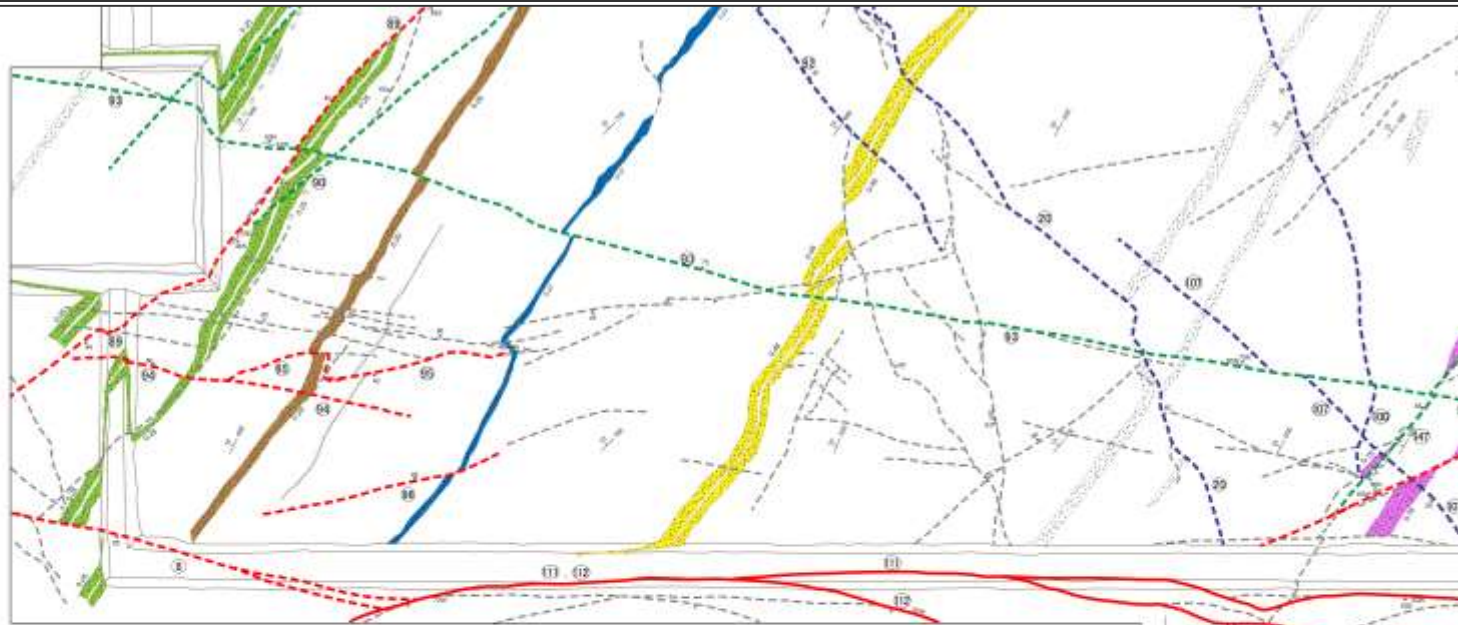















N

- 砂岩・泥岩互層
- 凝灰岩層
- 特徴的な砂岩層
(同一砂岩層を同色で表記)
- 断層の走向・傾斜
(走向は磁北を基準とする)
- 地層の走向・傾斜
- cl: 粘土幅(mm)
- 赤線: EW系正断層
- 青線: NS系逆断層
- 緑線: EW系逆断層
- 橙線: NS系正断層
- 灰線: 特に小規模な断層
- 実線: 開離型断層
- 破線: ゆ着型断層
- 内に記載した数字は断層名称を表す。
例) Ⓞ: 4R-10断層

0 10m

4号炉原子炉建屋基礎露頭 地質スケッチ 3 / 6

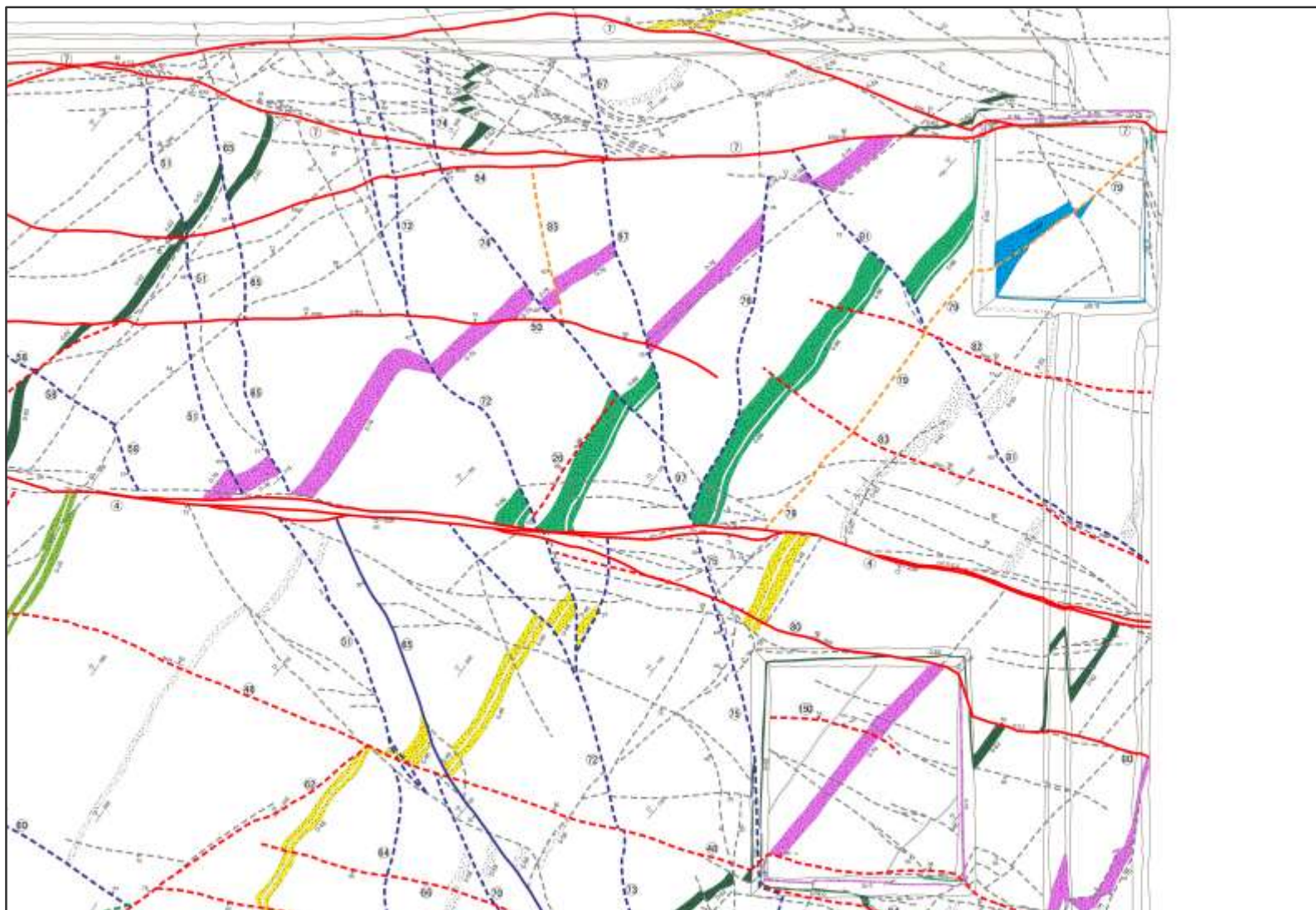


-  砂岩・泥岩互層
-  凝灰岩層
-  特徴的な砂岩層
(同一砂岩層を同色で表記)
-  断層の走向・傾斜
(走向は磁北を基準とする)
-  地層の走向・傾斜
-  d: 粘土幅 (mm)
-  赤線 : EW系正断層
-  青線 : NS系逆断層
-  緑線 : EW系逆断層
-  橙線 : NS系正断層
-  灰線 : 特に小規模な断層
-  実線 : 開離型断層
-  破線 : ゆ着型断層

○内に記載した数字は断層名称を表す。
例) ④ : 4R-10断層

0 10m

4号炉原子炉建屋基礎露頭 地質スケッチ 4 / 6



- 砂岩・泥岩互層
- 凝灰岩層
- 特徴的な砂岩層
(同一砂岩層を同色で表記)
- 断層の走向・傾斜
(走向は磁北を基準とする)
- 地層の走向・傾斜
- cl: 粘土幅 (mm)
- 赤線: EW系正断層
- 青線: NS系逆断層
- 緑線: EW系逆断層
- 橙線: NS系正断層
- 灰線: 特に小規模な断層
- 実線: 開離型断層
- 破線: ゆ着型断層
- 内に記載した数字は断層名称を表す。
例) ④: 4R-10断層



4号炉原子炉建屋基礎露頭 地質スケッチ 5 / 6



- 砂岩・泥岩互層
- 凝灰岩層
- 特徴的な砂岩層
(同一砂岩層を同色で表記)
- 断層の走向・傾斜
(走向は磁北を基準とする)
- 地層の走向・傾斜
- d: 粘土幅 (mm)
- 赤線 : EW系正断層
- 青線 : NS系逆断層
- 緑線 : EW系逆断層
- 橙線 : NS系正断層
- 灰線 : 特に小規模な断層
- 実線 : 開離型断層
- 破線 : ゆ着型断層
- 内に記載した数字は断層名称を表す。
例) ⊗ : 4R-10断層



4号炉原子炉建屋基礎露頭 地質スケッチ 6 / 6



- 砂岩・泥岩互層
- 凝灰岩層
- 特徴的な砂岩層
(同一砂岩層を同色で表記)
- 断層の走向・傾斜
(走向は磁北を基準とする)
- 地層の走向・傾斜
- cl: 粘土幅 (mm)
- 赤線: EW系正断層
- 青線: NS系逆断層
- 緑線: EW系逆断層
- 橙線: NS系正断層
- 灰線: 特に小規模な断層
- 実線: 開離型断層
- 破線: ゆ着型断層
- 内に記載した数字は断層名称を表す。
例) @: 4R-10断層



4号炉原子炉建屋基礎露頭 断層一覽表 1 / 3

断層名称 ※1	断層 グループ	走向	傾斜	ゆ着型 開離型 ※2	正断層 逆断層	全長(m) ※3	落差(m) ※4
4R-1	EW系正断層	61 W	75NE	ゆ着型	正断層	6	0.2
4R-2	EW系正断層	46 W	70SW	ゆ着型	正断層	8 +	0.3
4R-3	EW系正断層	42 W	SW	ゆ着型	正断層	5	0.1
4R-4	EW系正断層	44 W	63SW	開離型	正断層	100 +	6~9
4R-5	EW系正断層	51 W	60SW	ゆ着型	正断層	8 +	0.05
4R-6	EW系正断層	66 W	85SW	開離型	正断層	7 +	0.2
4R-7	EW系正断層	76 W	82N	開離型	正断層	98 +	2~4
4R-8	EW系正断層	46 W	65S	ゆ着型	正断層	14 +	0.5
4R-9	EW系正断層	69 W	65N	ゆ着型	正断層	10 +	0.3
4R-10	EW系逆断層	86 E	82N	ゆ着型	逆断層	10 +	0.1
4R-11	NS系逆断層	8 E	30E	ゆ着型	逆断層	6 +	0.3
4R-12	EW系正断層	78 E	60S	ゆ着型	正断層	6	0.2
4R-13	EW系正断層	61 W	78NE	ゆ着型	正断層	13	0.2
4R-14	NS系逆断層	1 W	20E	ゆ着型	逆断層	16	0.5
4R-15	NS系逆断層	4 E	20E	ゆ着型	逆断層	12	0.2
4R-16	EW系正断層	84 E	N	ゆ着型	正断層	17	0.1
4R-17	EW系逆断層	40 W	50SW	ゆ着型	逆断層	9 +	0.2
4R-18	EW系逆断層	84 W	50S	ゆ着型	逆断層	10 +	0.1
4R-19	EW系正断層	78 W	58N	開離型	正断層	49 +	0.3
4R-20	NS系逆断層	4 W	28E	ゆ着型	逆断層	71	0.3~1
4R-21	EW系正断層	39 W	60S	ゆ着型	正断層	38	0.05
4R-22	EW系正断層	54 W	80NE	ゆ着型	正断層	10	0.05
4R-23	EW系正断層	54 W	80NE	ゆ着型	正断層	50 +	0.05
4R-24	EW系逆断層	56 W	62SW	ゆ着型	逆断層	13 +	0.05
4R-25	EW系正断層	83 W	68N	開離型	正断層	9	0.05
4R-26	EW系正断層	63 E	88N	ゆ着型	正断層	6	0.05

断層名称 ※1	断層 グループ	走向	傾斜	ゆ着型 開離型 ※2	正断層 逆断層	全長(m) ※3	落差(m) ※4
4R-27	EW系正断層	76 W	75N	ゆ着型	正断層	15	0.2
4R-28	NS系正断層	2 E	E	ゆ着型	正断層	7 +	1
4R-29	EW系逆断層	67 W	73N	ゆ着型	逆断層	10	0.2
4R-30	EW系正断層	78 W	60N	ゆ着型	正断層	22	0.5
4R-31	EW系正断層	71 W	55N	開離型	正断層	40	0.05
4R-32	EW系正断層	85 E	70N	ゆ着型	正断層	8	0.4
4R-33	NS系逆断層	24 E	60W	ゆ着型	逆断層	4	0.4
4R-34	EW系正断層	61 W	78NE	ゆ着型	正断層	7	0.05
4R-35	NS系逆断層	17 E	45W	(開離型)	逆断層	93 +	1~2
4R-36	NS系逆断層	4 W	40E	(開離型)	逆断層	46	0.5
4R-37	NS系逆断層	24 E	25E	ゆ着型	逆断層	8	0.05
4R-38	EW系正断層	73 E	78N	ゆ着型	正断層	8	0.05
4R-39	EW系正断層	80 E	84N	ゆ着型	正断層	16	0.2
4R-40	NS系逆断層	46 E	44NW	ゆ着型	逆断層	7	0.3
4R-41	NS系逆断層	6 E	35W	ゆ着型	逆断層	30	0.8
4R-42	EW系逆断層	46 W	81S	ゆ着型	逆断層	10	0.3
4R-43	EW系逆断層	61 W	70SW	ゆ着型	逆断層	13	0.05
4R-44	EW系逆断層	75 E	65S	ゆ着型	逆断層	28	0.2
4R-45	EW系逆断層	69 E	67S	ゆ着型	逆断層	21	0.3
4R-46	NS系逆断層	21 E	43W	ゆ着型	逆断層	37	0.5
4R-47	EW系逆断層	79 E	90	ゆ着型	逆断層	22	0.1
4R-48	EW系正断層	51 W	76NE	ゆ着型	正断層	73 +	0.1
4R-49	EW系逆断層	77 W	80S	ゆ着型	逆断層	14	0.05
4R-50	EW系正断層	64 W	78NE	開離型	正断層	56	0~1
4R-51	NS系逆断層	1 E	46W	ゆ着型	逆断層	31	0.2
4R-52	EW系正断層	72 W	65N	開離型	正断層	13	0.3

※1 断層名称が、赤字の断層は他の断層に切られることが確認できる断層を、黒字の断層は他の断層に切られることが確認できない断層を、それぞれ表す。

※2 “(開離型)”は、一部ゆ着型断層の性状を示す開離型断層を表す。

※3 断層の全長の考え方については、本編「3.敷地の地質・地質構造」参照。断層端部のうち少なくとも一方が確認できない断層については、観察範囲における全長に“+”をつけて表記した。

※4 落差は、断層を挟んで隣合う異なる地層間の層厚（層間落差）または同一地層の見かけの水平変位量と地層の傾斜角（15°N）から算出した。

4号炉原子炉建屋基礎露頭 断層一覧表 2 / 3

断層名称 ※1	断層 グループ	走向	傾斜	ゆ着型 開離型 ※2	正断層 逆断層	全長(m) ※3	落差(m) ※4
4R-53	EW系逆断層	69 E	82N	ゆ着型	逆断層	11	2
4R-54	EW系正断層	62 W	58SW	開離型	正断層	40	0.2
4R-55	NS系逆断層	N S	50W	ゆ着型	逆断層	5	0.1
4R-56	EW系正断層	71 E	82N	ゆ着型	正断層	10	0.1
4R-57	EW系正断層	64 E	69S	ゆ着型	正断層	29	0.4
4R-58	NS系逆断層	6 W	37W	ゆ着型	逆断層	8	0.05
4R-59	NS系逆断層	N S	40W	ゆ着型	逆断層	16	0.1
4R-60	NS系逆断層	30 W	33E	ゆ着型	逆断層	22	0.1
4R-61	EW系逆断層	89 E	86S	ゆ着型	逆断層	19	0.2
4R-62	EW系正断層	76 E	76N	ゆ着型	正断層	21	0.05
4R-63	EW系正断層	64 W	70N	ゆ着型	正断層	5	0.05
4R-64	NS系逆断層	24 E	40W	ゆ着型	逆断層	41	0.3
4R-65	NS系逆断層	1 W	30W	(開離型)	逆断層	93 +	0.4~2
4R-66	EW系正断層	56 W	56SW	ゆ着型	正断層	13	0.1
4R-67	EW系正断層	57 W	85SW	ゆ着型	正断層	17	0.1
4R-68	EW系正断層	64 W	S	ゆ着型	正断層	3	0.05
4R-69	EW系正断層	59 W	75SW	ゆ着型	正断層	17	0.2
4R-70	NS系逆断層	1 E	60W	ゆ着型	逆断層	16	0.3
4R-71	EW系正断層	50 W	80SW	ゆ着型	正断層	10	0.05
4R-72	NS系逆断層	2 E	42W	ゆ着型	逆断層	28	0.4
4R-73	NS系逆断層	2 E	38W	ゆ着型	逆断層	9	0.2
4R-74	NS系逆断層	22 W	48W	ゆ着型	逆断層	20	0.2
4R-75	NS系逆断層	4 E	43W	ゆ着型	逆断層	26	1
4R-76	NS系逆断層	29 E	38E	ゆ着型	逆断層	14	0.5
4R-77	EW系正断層	54 W	70SW	ゆ着型	正断層	12	0.4
4R-78	EW系正断層	71 E	80N	ゆ着型	正断層	10	0.1

断層名称 ※1	断層 グループ	走向	傾斜	ゆ着型 開離型 ※2	正断層 逆断層	全長(m) ※3	落差(m) ※4
4R-79	NS系正断層	59 E	S	ゆ着型	正断層	22	0.1
4R-80	EW系正断層	44 W	85NE	開離型	正断層	29 +	0.4
4R-81	NS系逆断層	16 W	52W	ゆ着型	逆断層	22 +	0.5
4R-82	EW系正断層	44 W	58NE	ゆ着型	正断層	15 +	0.3
4R-83	EW系正断層	41 W	65NE	ゆ着型	正断層	18 +	0.05
4R-84	EW系正断層	41 W	51SW	ゆ着型	正断層	12	0.05
4R-85	NS系正断層	16 E	62W	ゆ着型	正断層	7	0.1
4R-86	EW系正断層	53 W	65SW	ゆ着型	正断層	17	0.05
4R-87	EW系逆断層	68 W	75S	ゆ着型	逆断層	14 +	0.2
4R-88	EW系逆断層	66 E	N	ゆ着型	逆断層	24	0.1
4R-89	EW系正断層	72 E	65S	ゆ着型	正断層	36 +	0.8
4R-90	EW系逆断層	89 W	60S	ゆ着型	逆断層	23	0.05
4R-91	EW系逆断層	42 W	52SW	ゆ着型	逆断層	8	0.05
4R-92	NS系逆断層	13 W	35E	ゆ着型	逆断層	14	0.05
4R-93	EW系逆断層	58 W	80N	ゆ着型	逆断層	79 +	0.1
4R-94	EW系正断層	59 W	60N	ゆ着型	正断層	12	0.05
4R-95	EW系正断層	79 W	43S	ゆ着型	正断層	11	0.1
4R-96	EW系正断層	82 W	80N	ゆ着型	正断層	8	0.1
4R-97	NS系逆断層	8 E	35W	ゆ着型	逆断層	21	1
4R-98	EW系正断層	51 W	59SW	ゆ着型	正断層	6	0.5
4R-99	NS系逆断層	10 E	40W	開離型	逆断層	15	0.6
4R-100	NS系逆断層	18 E	39W	ゆ着型	逆断層	42	0.1
4R-101	EW系正断層	58 W	68SW	ゆ着型	正断層	5	0.05
4R-102	EW系正断層	53 W	80SW	ゆ着型	正断層	26	0.05
4R-103	EW系正断層	76 W	50S	ゆ着型	正断層	17	0.5
4R-104	NS系正断層	4 E	40E	ゆ着型	正断層	5	0.3

※1 断層名称が、赤字の断層は他の断層に切られることが確認できる断層を、黒字の断層は他の断層に切られることが確認できない断層を、それぞれ表す。

※2 “(開離型)”は、一部ゆ着型断層の性状を示す開離型断層を表す。

※3 断層の全長の考え方については、本編「3.敷地の地質・地質構造」参照。断層端部のうち少なくとも一方が確認できない断層については、観察範囲における全長に“+”をつけて表記した。

※4 落差は、断層を挟んで隣合う異なる地層間の層厚（層間落差）または同一地層の見かけの水平変位量と地層の傾斜角（15°N）から算出した。

4号炉原子炉建屋基礎露頭 断層一覧表 3 / 3

断層名称 ※1	断層 グループ	走向	傾斜	ゆ着型 開離型 ※2	正断層 逆断層	全長(m) ※3	落差(m) ※4
4R-105	NS系逆断層	24 W	38W	ゆ着型	逆断層	9	0.1
4R-106	EW系逆断層	83 E	45S	ゆ着型	逆断層	5	0.3
4R-107	NS系逆断層	25 W	50W	ゆ着型	逆断層	16	0.05
4R-108	EW系逆断層	74 E	85N	ゆ着型	逆断層	12	0.6
4R-109	EW系正断層	89 W	80N	ゆ着型	正断層	41	0.3
4R-110	NS系逆断層	22 E	40W	ゆ着型	逆断層	5	0.2
4R-111	EW系正断層	71 W	63S	開離型	正断層	94 +	1~2
4R-112	EW系正断層	66 W	70S	開離型	正断層	94 +	9
4R-113	EW系逆断層	79 W	60S	ゆ着型	逆断層	17 +	0.1
4R-114	EW系正断層	69 W	68S	開離型	正断層	15 +	6~7
4R-115	EW系正断層	84 E	48S	ゆ着型	正断層	15	0.5
4R-116	EW系正断層	32 W	52W	ゆ着型	正断層	7	0.05
4R-117	NS系逆断層	6 W	40W	ゆ着型	逆断層	34	0.3
4R-118	EW系正断層	54 W	60SW	ゆ着型	正断層	53 +	0.2
4R-119	EW系正断層	56 W	60NE	ゆ着型	正断層	16	0.2
4R-120	EW系正断層	68 W	68N	(開離型)	正断層	55 +	0.3~1
4R-121	NS系逆断層	26 W	35E	ゆ着型	逆断層	11	0.05
4R-122	NS系正断層	41 E	80SE	ゆ着型	正断層	21	0.8
4R-123	NS系逆断層	24 E	40W	ゆ着型	逆断層	9	0.05
4R-124	NS系逆断層	38 E	40NE	ゆ着型	逆断層	11	0.3
4R-125	EW系正断層	78 E	75N	ゆ着型	正断層	31	0.3
4R-126	EW系正断層	54 W	70SW	ゆ着型	正断層	33	0.1
4R-127	NS系逆断層	20 E	37W	ゆ着型	逆断層	12	0.05
4R-128	EW系正断層	45 W	55SW	ゆ着型	正断層	7	0.05
4R-129	EW系正断層	70 W	75S	ゆ着型	正断層	21	0.2
4R-130	NS系逆断層	22 E	38W	ゆ着型	逆断層	18 +	0.05

断層名称 ※1	断層 グループ	走向	傾斜	ゆ着型 開離型 ※2	正断層 逆断層	全長(m) ※3	落差(m) ※4
4R-131	NS系逆断層	31 E	38SE	ゆ着型	逆断層	5	0.6
4R-132	EW系正断層	54 W	78NE	ゆ着型	正断層	19 +	0.05
4R-133	EW系正断層	54 W	55NE	ゆ着型	正断層	19	0.05
4R-134	EW系正断層	52 W	70NE	ゆ着型	正断層	25 +	0.1
4R-135	EW系正断層	49 W	60NE	ゆ着型	正断層	11	0.05
4R-136	EW系逆断層	69 E	80S	ゆ着型	逆断層	10	0.05
4R-137	NS系逆断層	5 W	45W	ゆ着型	逆断層	7	0.05
4R-138	EW系正断層	64 E	90	ゆ着型	正断層	20	0.4
4R-139	EW系正断層	56 W	75SW	ゆ着型	正断層	7	0.1
4R-140	EW系正断層	67 W	80S	ゆ着型	正断層	10	0.2
4R-141	EW系正断層	61 W	60NE	ゆ着型	正断層	7	0.2
4R-142	EW系逆断層	56 W	50NE	ゆ着型	逆断層	10	0.1
4R-143	EW系正断層	18 W	60E	ゆ着型	正断層	7	0.05
4R-144	EW系正断層	48 W	65SW	ゆ着型	正断層	11 +	0.2
4R-145	EW系正断層	34 W	60W	ゆ着型	正断層	5 +	0.05
4R-146	NS系逆断層	33 E	40SE	ゆ着型	逆断層	9 +	0.8
4R-147	EW系逆断層	64 E	80N	ゆ着型	逆断層	15	0.3
4R-148	EW系正断層	82 W	73S	ゆ着型	正断層	13 +	0.1
4R-149	NS系逆断層	49 E	SE	ゆ着型	逆断層	11	0.7
4R-150	EW系正断層	55 W	74NE	ゆ着型	正断層	6	0.05
4R-151	NS系逆断層	24 E	NW	ゆ着型	逆断層	5	0.4

※1 断層名称が、赤字の断層は他の断層に切られることが確認できる断層を、黒字の断層は他の断層に切られることが確認できない断層を、それぞれ表す。

※2 “(開離型)”は、一部ゆ着型断層の性状を示す開離型断層を表す。

※3 断層の全長の考え方については、本編「3.敷地の地質・地質構造」参照。断層端部のうち少なくとも一方が確認できない断層については、観察範囲における全長に“+”をつけて表記した。

※4 落差は、断層を挟んで隣合う異なる地層間の層厚（層間落差）または同一地層の見かけの水平変位量と地層の傾斜角（15°N）から算出した。

2

H断層系の深部への連続性の検討関連資料

(1)

断層カード集 (W25孔)

W25孔（孔口標高6.02m）No.1断層（深度8.85～10.68m）

【柱状図】

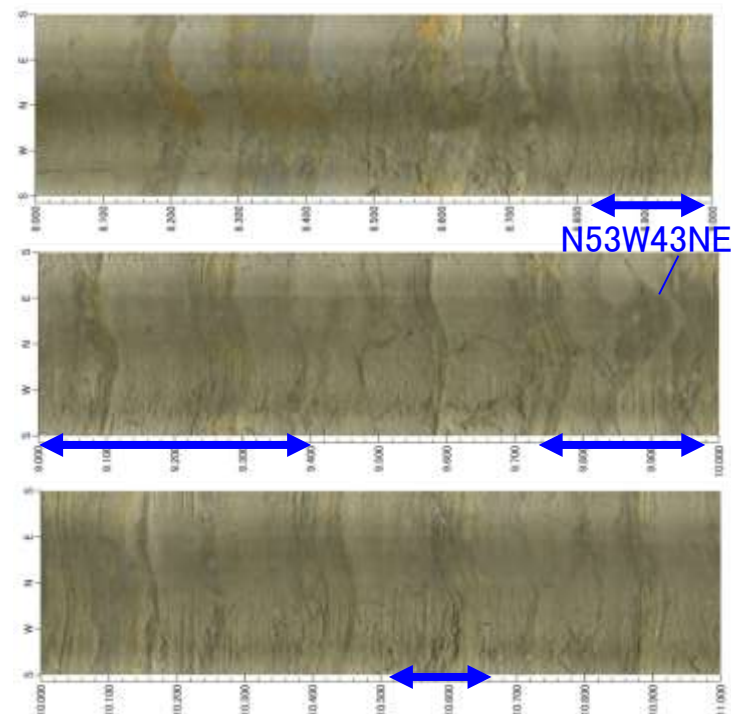
<ul style="list-style-type: none"> 8.85-9.42 コア欠
<ul style="list-style-type: none"> 9.60 ゆ着型断層 $\angle 65^\circ$
<ul style="list-style-type: none"> 9.68 ゆ着型断層 $\angle 15^\circ$ $\angle 50^\circ$
<ul style="list-style-type: none"> 9.76-10.00 岩片状
<ul style="list-style-type: none"> 10.53-10.68 岩片状
<ul style="list-style-type: none"> 10.84 ゆ着型断層 $\angle 45^\circ$

コア長： -

【解釈】

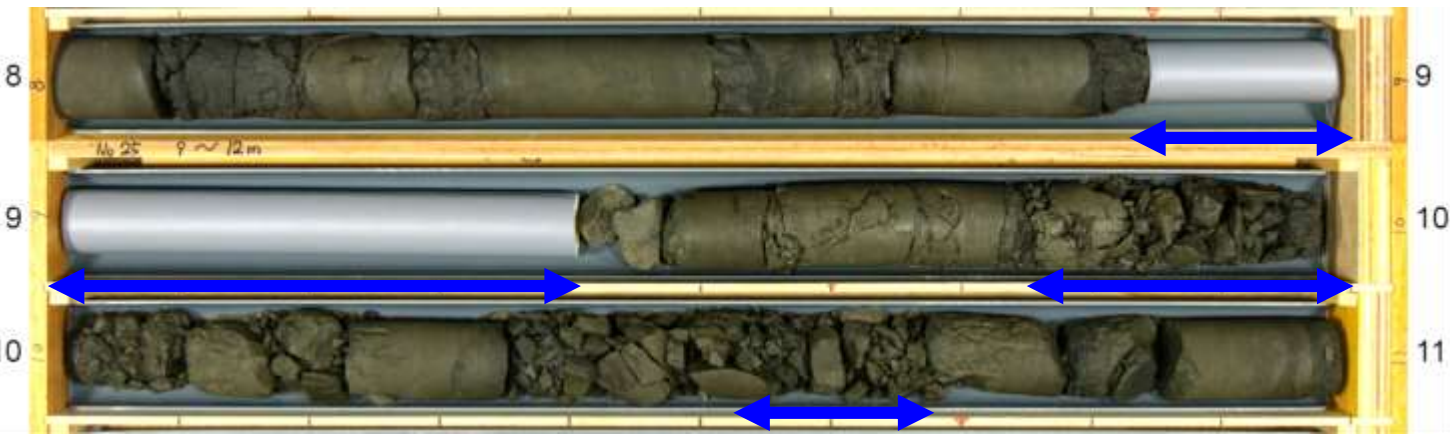
- コアでは、複数のゆ着型断層とコア欠け、岩片状が認められる。
- BHTVでは、一部に小規模な断層が認められるが、層理面に变形は認められない。
- これらのことから、コア欠および岩片状のコアは掘削・採取時のコアの乱れ、断層は幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.2断層（深度12.70~13.26m）

【柱状図】

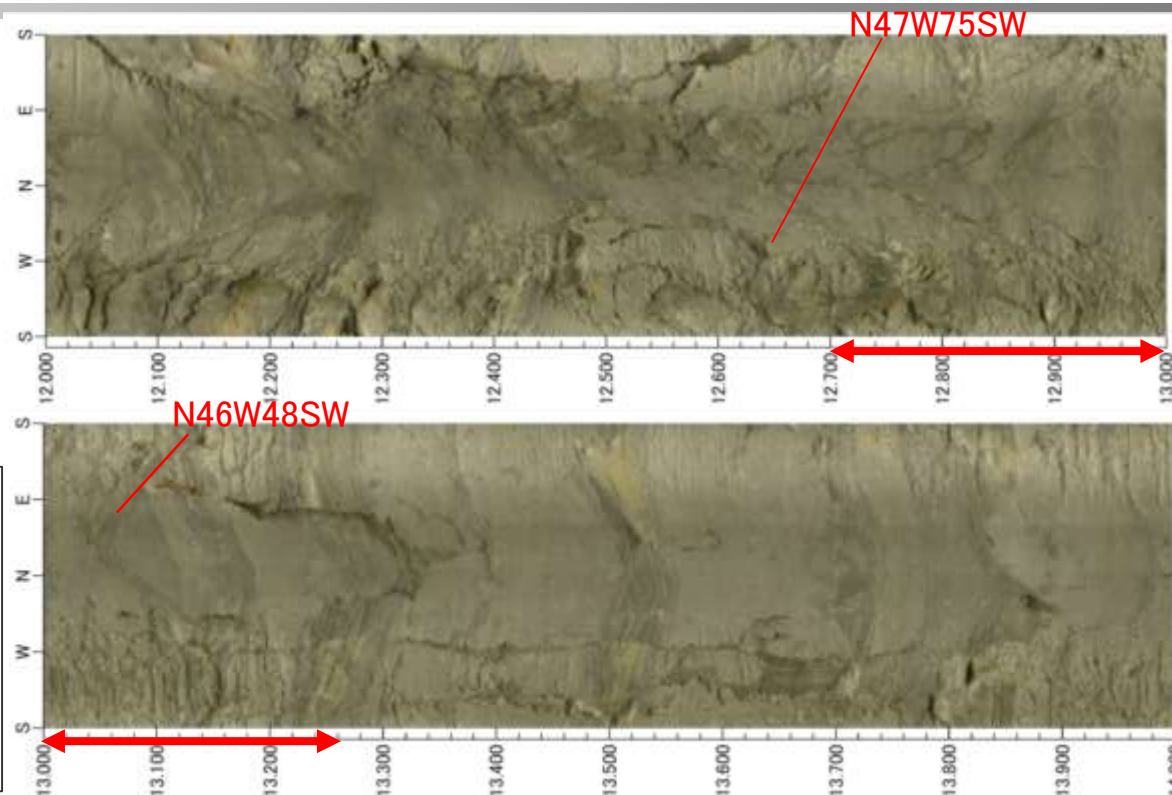
• 12.10ゆ着型断層 $\angle 65^\circ$
• 12.05-12.13粒状
• 12.18ゆ着型断層 $\angle 50^\circ$
• 12.27ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$
• 12.30ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$
• 12.30-12.33粒状
• 12.45ゆ着型断層 $\angle 70^\circ$
• 12.33-12.50岩片状
• 12.70ゆ着型断層 $\angle 70^\circ$
• 12.70-13.00岩片状
• 13.00-13.26コア欠

コア長：0.56m（断層幅：0.29m）

【解釈】

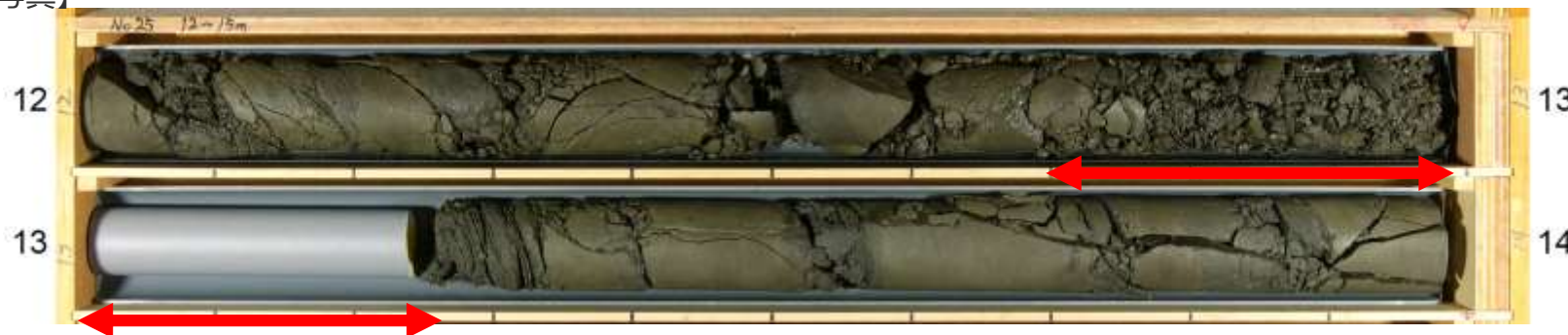
- コアでは、ゆ着型断層と、岩片状～コア欠けとなっている。
- BHTVでは、EW走向、南傾斜の断層面が複数認められ、断層間の層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから、本断層は、EW走向・南傾斜の、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.3断層（深度15.00～15.19m）

【柱状図】

15.00-15.19コア欠

コア長：-

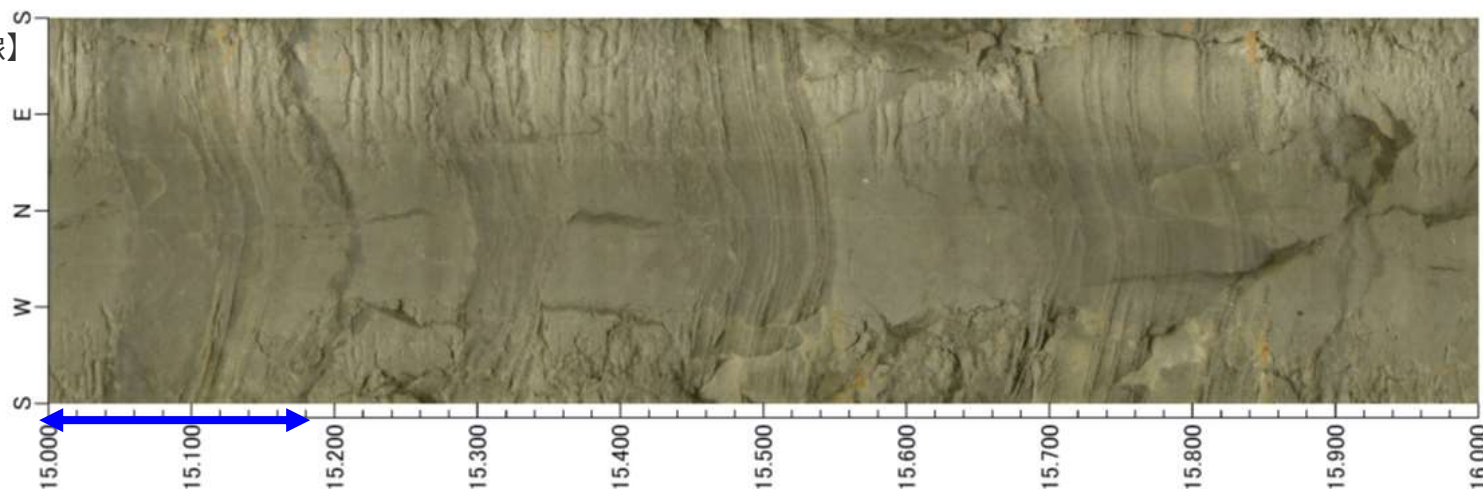
【解釈】

- コアは欠損している。
 - BHTVでは、断層面も認められず、層理面に変形は認められない。
 - これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れと解釈する。
- ⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



【BHTV画像】



W25孔（孔口標高6.02m）No.4断層（深度91.50～91.80m）

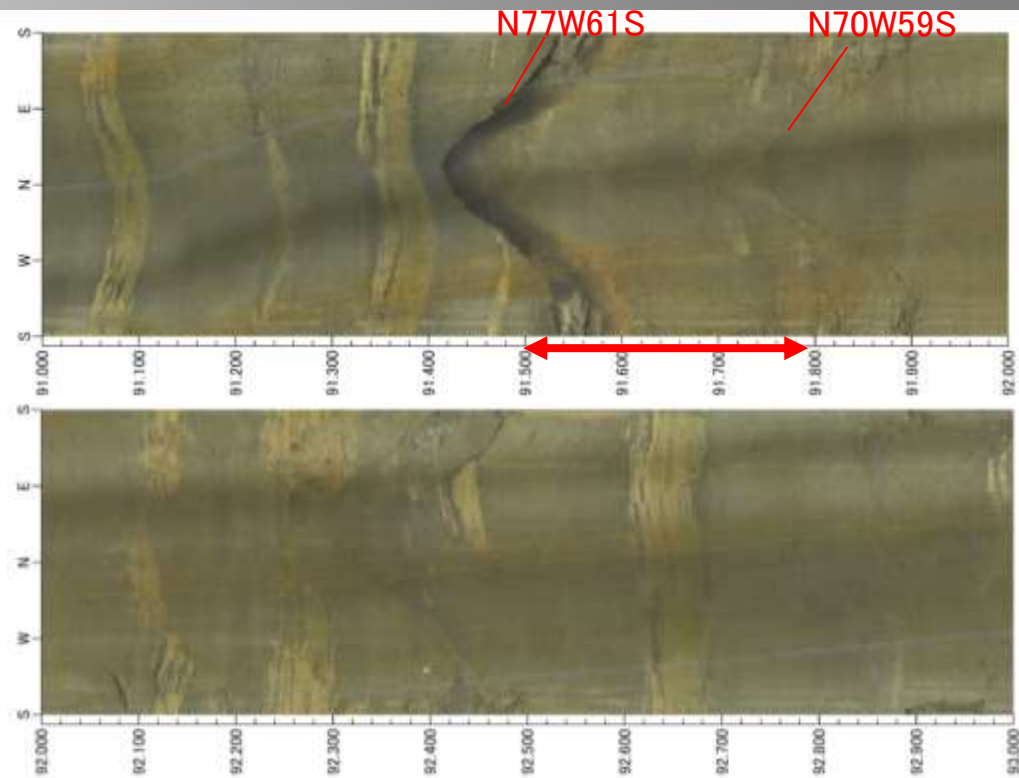
【柱状図】

91.20	ゆ着型断層 $\angle 20^\circ$
91.50	開離型断層 $\angle 50^\circ$
91.50-91.80	細粒物質 10～15mm
91.50-91.80	破碎帯
91.45-91.80	岩片状
91.80	開離型断層 $\angle 55^\circ$
91.80	細粒物質 3～4mm
92.05	断層 $\angle 35^\circ$
92.05	細粒物質なし
92.07	断層 $\angle 75^\circ$
92.07	細粒物質なし
92.32	開離型断層 $\angle 75^\circ$
92.32	細粒物質 1mm
92.35	開離型断層 $\angle 50^\circ$
92.35	細粒物質 1mm
92.45	ゆ着型断層 $\angle 50^\circ$
92.45	Rd=5～6cm

コア長：0.30m
 (断層幅：0.18m)

【解釈】

- コアでは、開離型断層が2条と、その間が破碎帯・岩片状となっている。
 - BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層面が2条と、その間の層理面が不明瞭となっている。
 - これらのことから、本断層は、EW走向・南傾斜の、幅を持つ断層と解釈する。
- ⇒H断層系と同性状の断層に該当する。**



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m）No.5断層（深度94.65～95.10m）

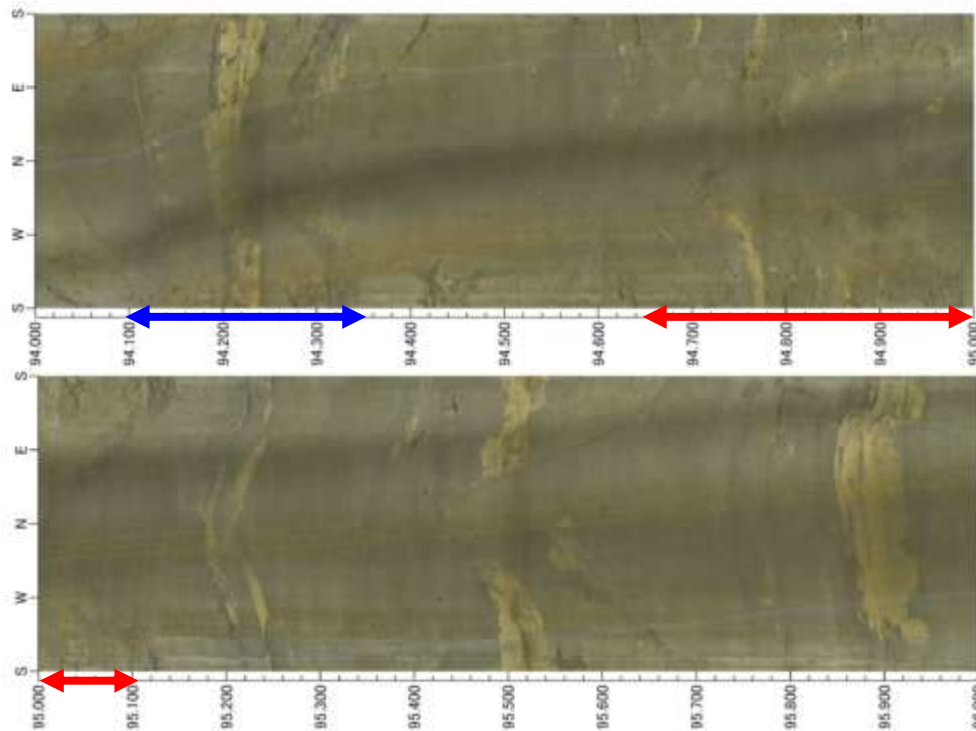
【柱状図】

94.10	開離型断層 $\angle 35^\circ$	細粒物質0~1mm
93.45-94.25	岩片状	
94.30	開離型断層 $\angle 60^\circ$	細粒物質1mm
94.33	開離型断層 $\angle 35^\circ$	細粒物質0~1mm
94.35	開離型断層 $\angle 55^\circ$	細粒物質1~2mm
94.25-94.40	粒状	
94.65	開離型断層 $\angle 65^\circ$	細粒物質0~1mm
94.65-95.10	岩片状~粒状	

コア長：0.45m
 (断層幅：0.19m)

- コアでは、開離型断層が複数条と、一部が岩片状~粒状となっている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層面が複数条認められる。また、94.65mの断層と95.05mの断層の間の層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから、この区間のみを、EW走向・南傾斜の、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。
 (それ以外の断層は幅を持たない小断層と解釈する
 ⇒候補断層から除外する)



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.6断層（深度147.43～148.80m）

【柱状図】

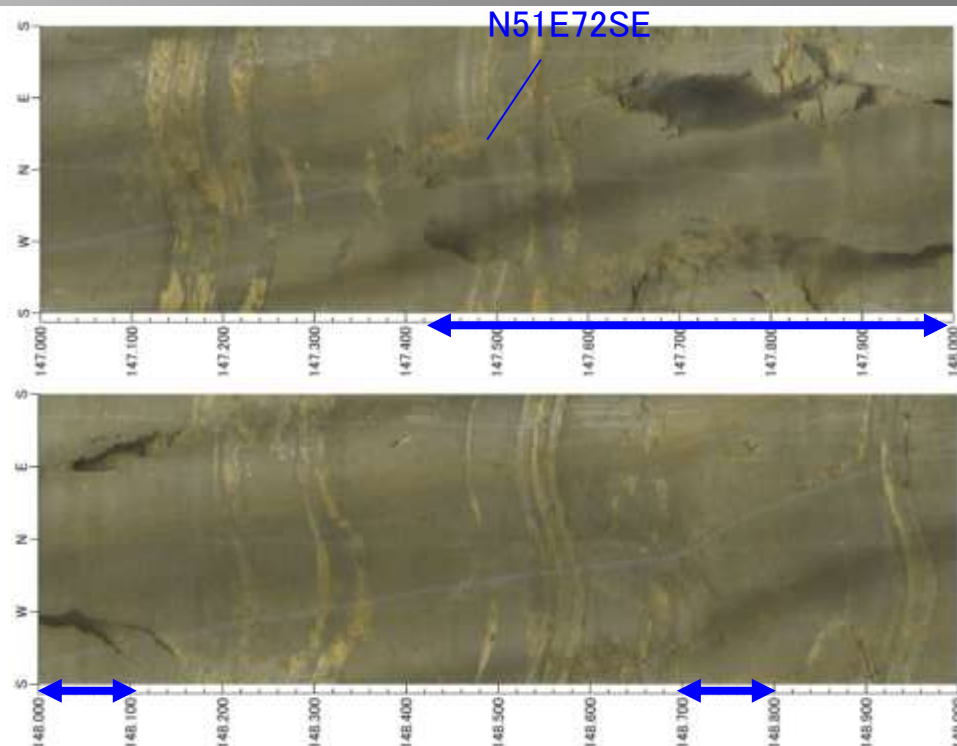
• 147.43 ゆ着型断層 $\angle 40^\circ$
• 148.30 ゆ着型断層 $\angle 70^\circ$ Nd=5cm
• 148.39 ゆ着型断層 $\angle 70^\circ$
• 148.70-148.80 岩片状

コア長：-

【解釈】

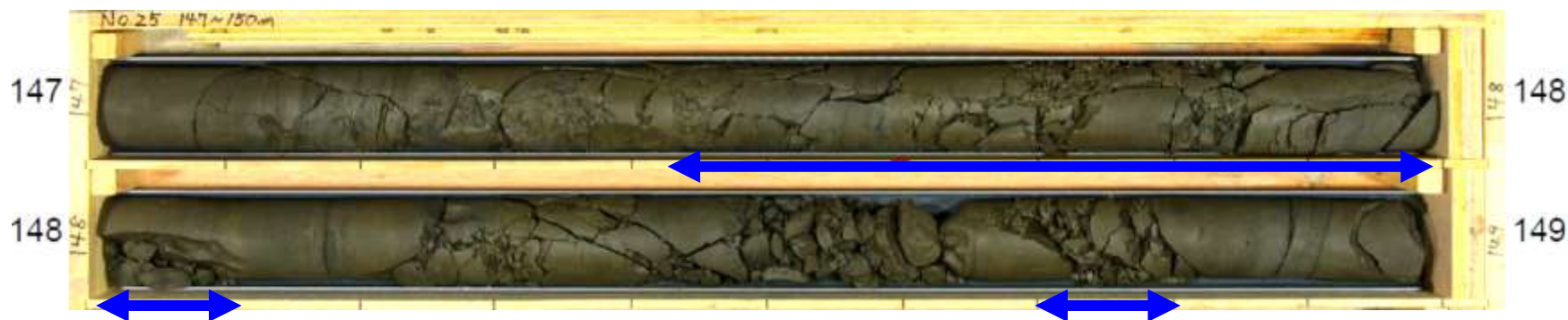
- コアでは、ゆ着型断層が数条と、岩片状の記事となっており、全体的に亀裂が多く認められる。
- BHTVでは、南傾斜～ほぼ垂直な断層面が認められ、断層沿いの一部孔壁に乱れが認められるが、層理面に变形は認められない。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.7断層（深度209.13～209.44m）

【柱状図】

• 209.13開離型断層 $\angle 60^\circ$ 細粒物質2mm
• 209.13-209.18粒状
• 209.18ゆ着型断層 $\angle 50^\circ$
• 209.31-209.44岩片状～粒状
• 209.44断層 細粒物質なし
• 210.60ゆ着型断層 $\angle 50^\circ$

コア長：0.31m

【解釈】

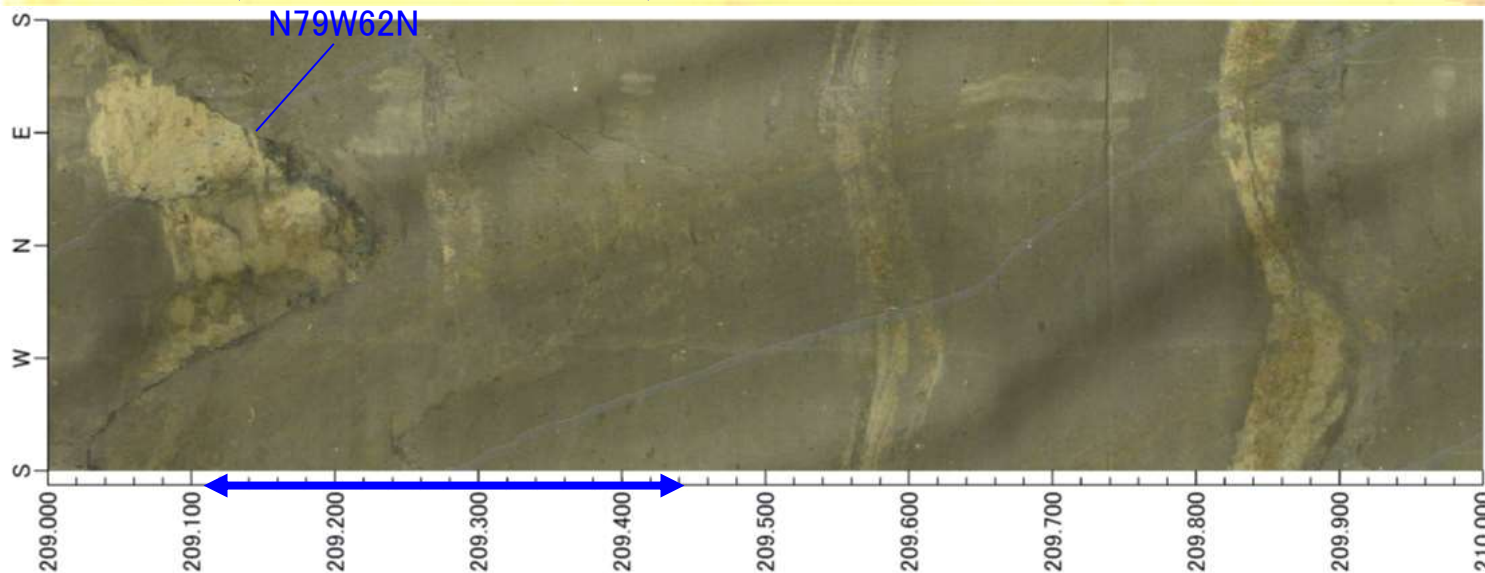
- コアでは、開離型断層，ゆ着型断層と，その間が粒状となっている。
- BHTVでは，北落ちの断層面が2条と，その間の層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから，本断層は，幅を持つ断層と解釈され，EW走向であるが，北傾斜である。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



【BHTV画像】



W25孔（孔口標高6.02m）No.8断層（深度224.60～225.17m）

【柱状図】

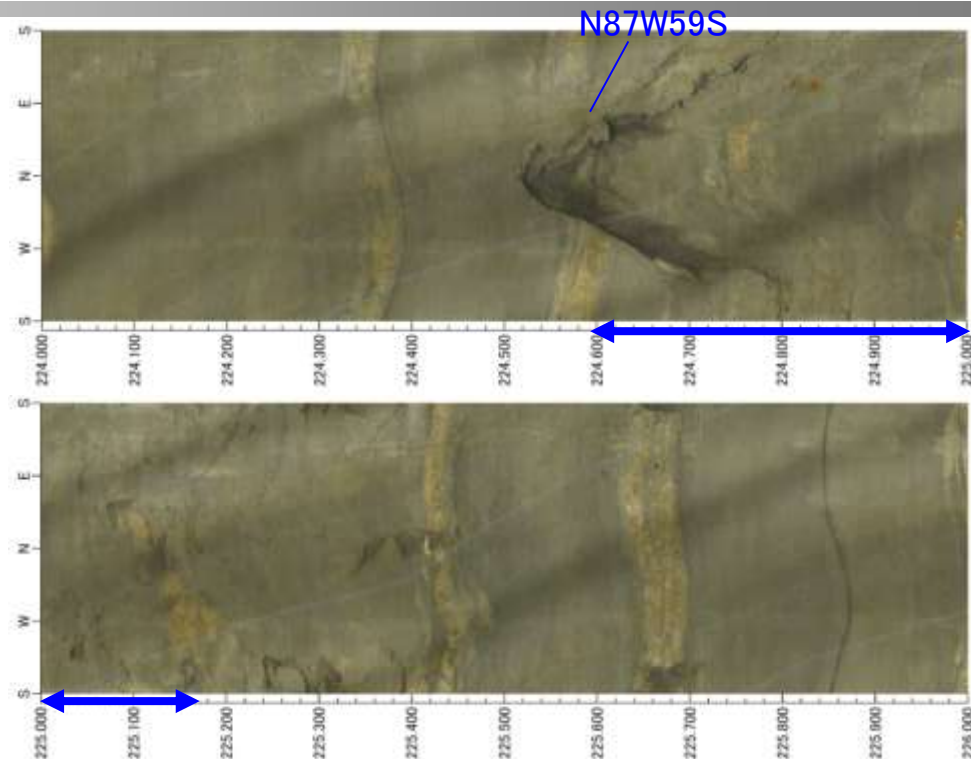
• 224.60-224.65 コア欠
• 224.73 ゆ着型断層 $\angle 70^\circ$
• 224.92 ゆ着型断層 $\angle 80^\circ$ Nd=4cm
• 224.60-225.00 岩片状
• 225.10 ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$
• 225.17 ゆ着型断層 $\angle 75^\circ, \angle 50^\circ, \angle 50^\circ$
• 225.30 ゆ着型断層 Nd=3cm

コア長：-

【解釈】

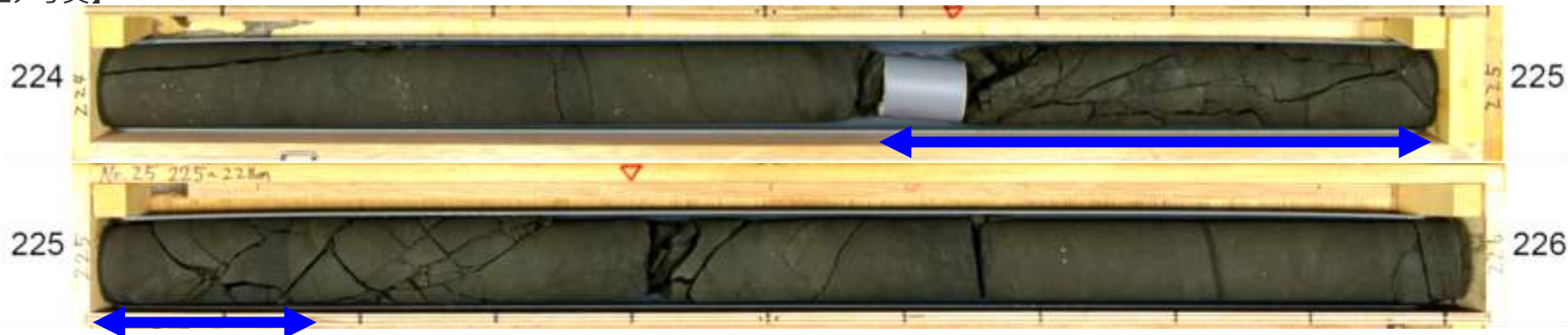
- コアでは、コア昇降部（▽）のコア欠と複数の高角なゆ着型断層、岩片状の組み合わせとなっているが、コアは不均質に割れているように見える。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層面が複数条認められ、断層沿いに一部孔壁が乱れているが、層理面に変形は認められない。
- これらのことから、これら断層は幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.9断層（深度230.63～230.75m）

【柱状図】

- 230.63 開離型断層 $\angle 75^\circ$
細粒物質 1mm
- 230.63-230.75 粒状
- 230.75 開離型断層 $\angle 80^\circ$
細粒物質 1mm

コア長：-

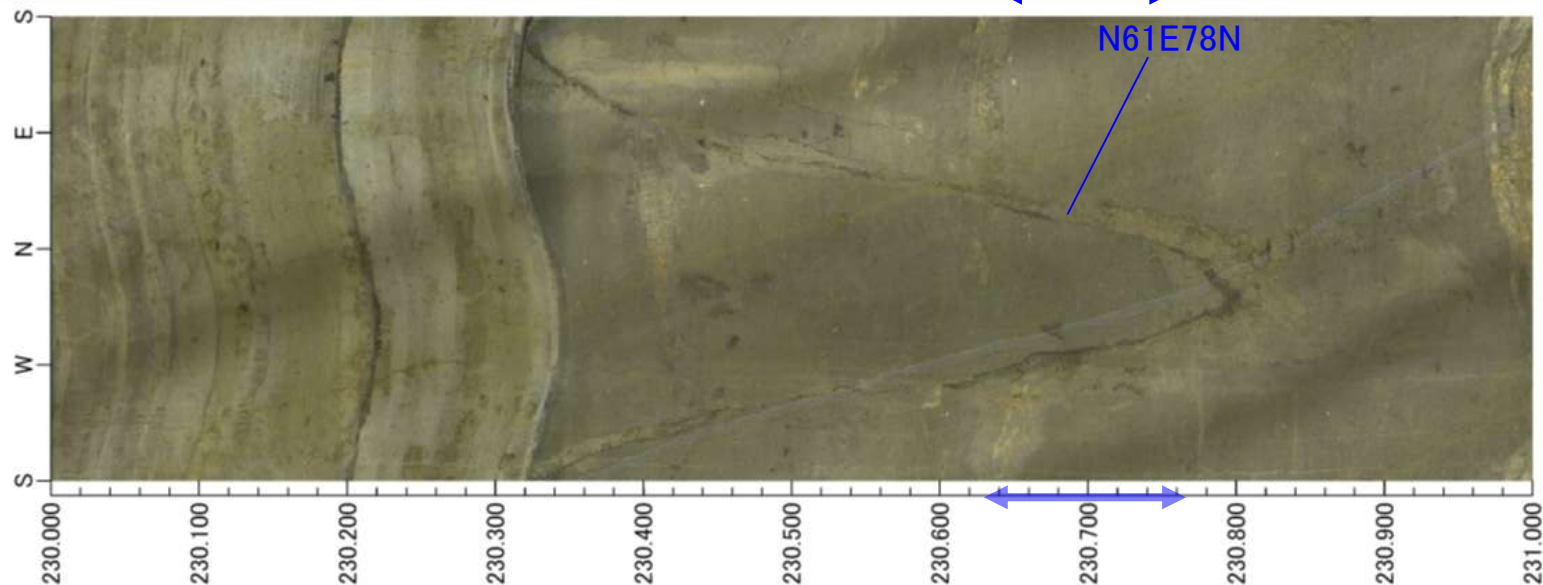
【解釈】

- コアでは、2条の開離型断層と、その間が粒状となっている。
- BHTVでは、EW走向で北傾斜の断層面が認められるが、層理面に変形は認められない。
- これらのことから、本断層は幅を持たない北傾斜の小断層と解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



【BHTV画像】



W25孔（孔口標高6.02m） No.10断層（深度246.07~246.50m）

【柱状図】

• 245.59-245.63岩片状
• 245.63-245.65粒状
• 245.65ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$
• 245.83ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$ Nd=1cm
• 246.07開離型断層 $\angle 75^\circ$ 細粒物質5mm
• 246.50開離型断層 $\angle 75^\circ$ 細粒物質2mm
• 246.00-246.55粒状
• 246.74-247.10岩片状
• 247.20ゆ着型断層 $\angle 85^\circ$
• 247.40ゆ着型断層 $\angle 80^\circ$
• 247.38-247.50岩片状~粒状
• 247.56ゆ着型断層 $\angle 80^\circ$
• 247.72ゆ着型断層 $\angle 50^\circ$

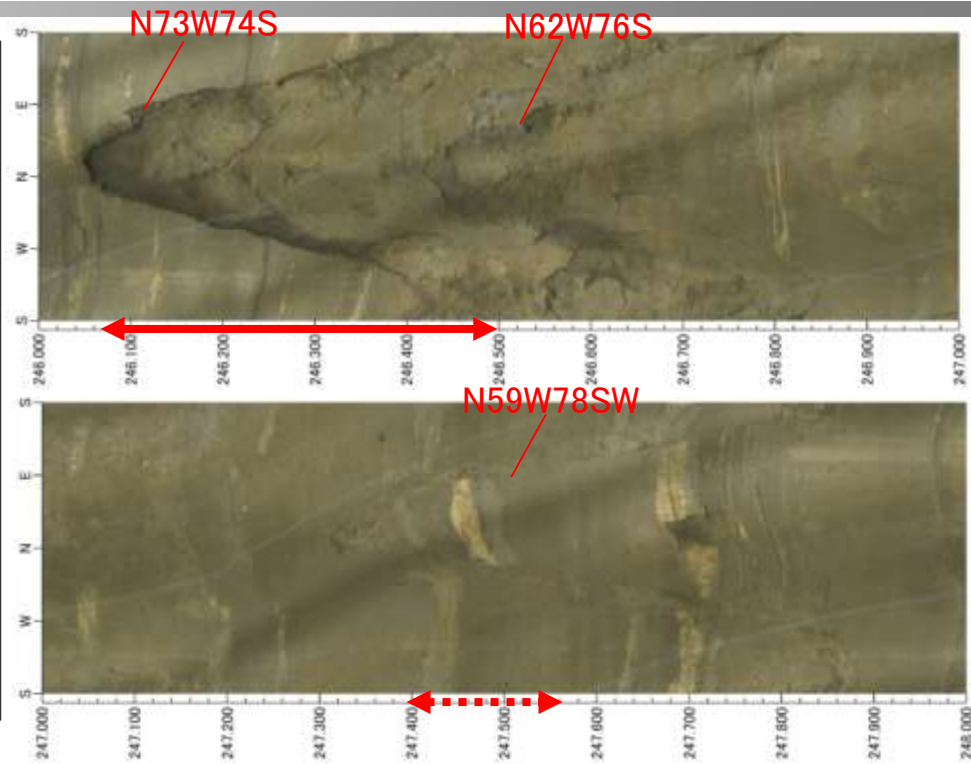
コア長：0.43m
 (断層幅：0.11m)

【解釈】

- コアでは、開離型断層が2条と、その間が粒状となっている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層面が2条と、その間の層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから、本断層は、EW走向・南傾斜の、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

(なお、本断層下部の247.40~247.56mにも、南落ちの幅を持つ断層が認められるが、幅が小さいため、上部の断層を代表とする)



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.11断層（深度300.65～301.50m）

【柱状図】

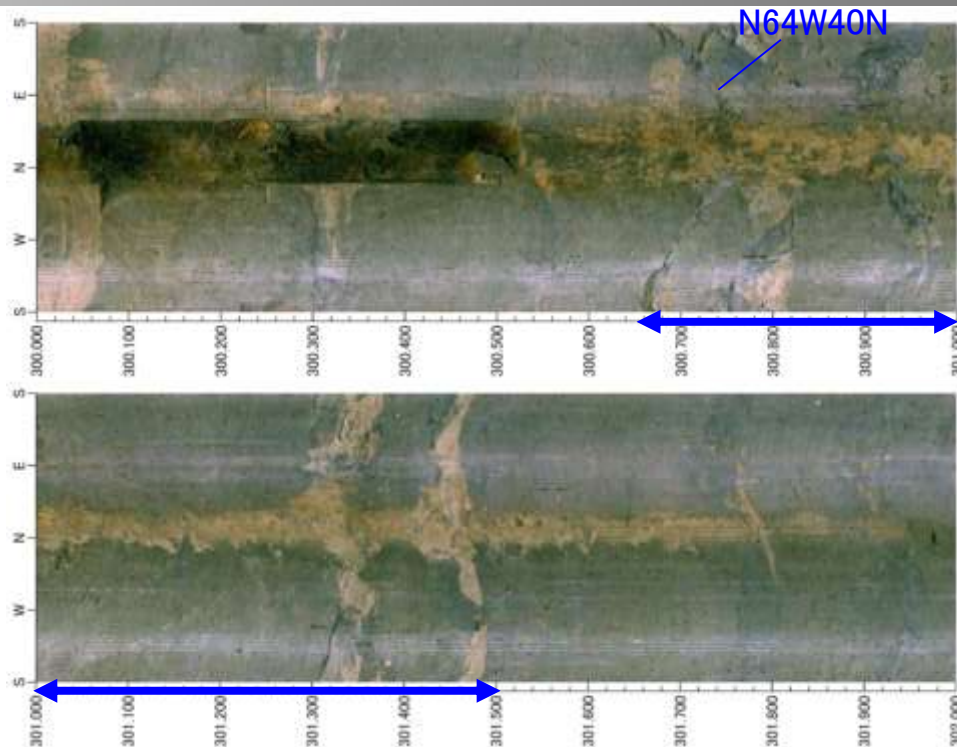
- 300.27ゆ着型断層 $\angle 50^\circ$
- 300.65開離型断層 $\angle 45^\circ$
細粒物質0～1mm
- 300.65-301.50岩片状～粒状

コア長：-

【解釈】

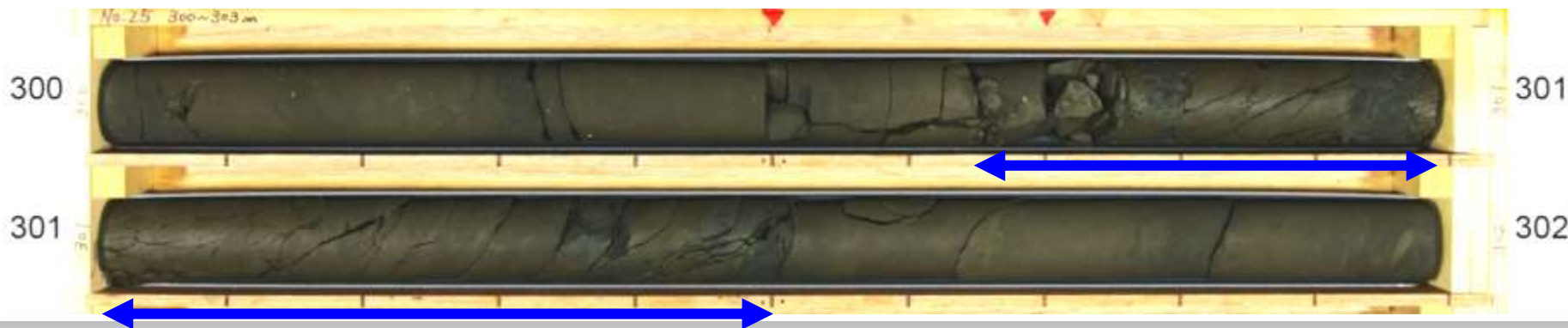
- コアでは、開離型断層と、岩片状～粒状の記事となっているが、全体的に高角な亀裂が平行して複数認められる。
- BHTVでは、EW走向で北傾斜の断層が10cm程度の間隔で平行して2条認められ、断層間の層理面は不鮮明であるものの、それより下部では、断層や層理面の变形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない北傾斜の小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.12断層（深度326.03～327.80m）

【柱状図】

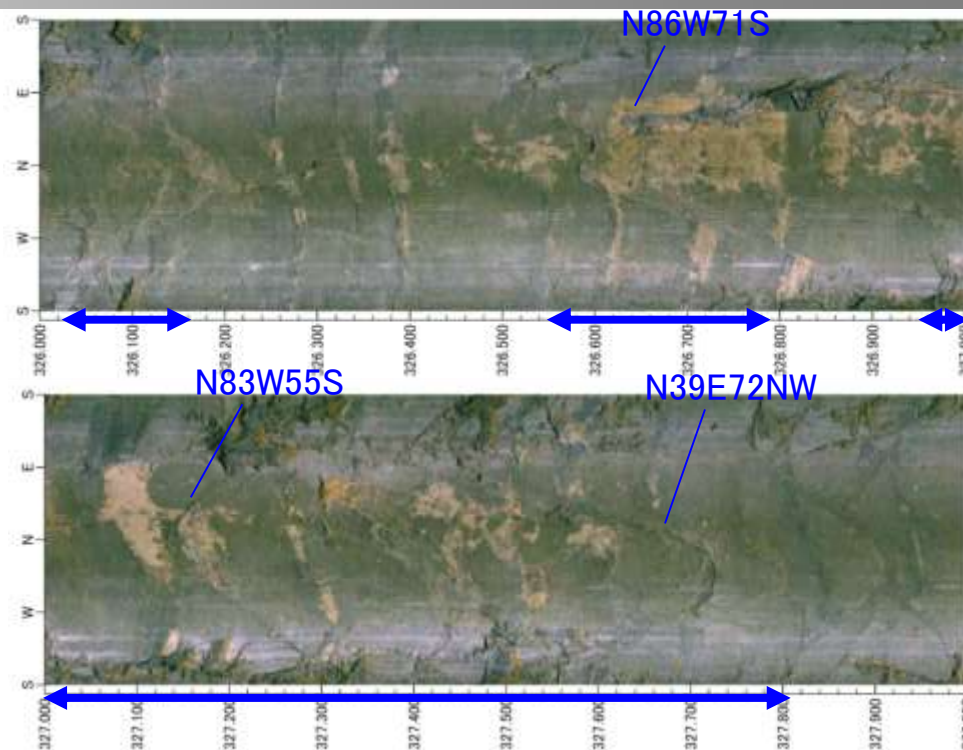
• 326.03-326.17岩片状～粒状
• 326.66-326.68 レンズ状白色凝灰岩
• 326.55-326.78岩片状～粒状
• 327.63開離型断層 $\angle 45^\circ$ 細粒物質0～1mm
• 326.97-327.80岩片状～粒状

コア長：-

【解釈】

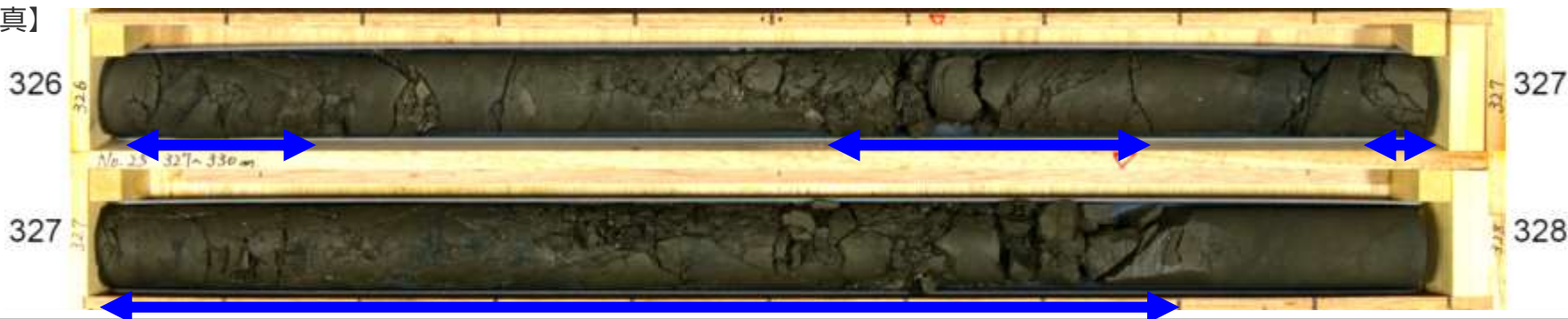
- コアでは、327.63mの開離型断層と、その周囲が幅広く岩片状～粒状の記事となっているが、開離型断層より下部のコアは不均質に割れている。
- BHTVでは、327.20付近にEW走向で南落ちの断層が、327.63mにNS走向で北西傾斜の断層が認められ、層理面はやや不鮮明であるが、変形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.13断層（深度330.70~331.45m）

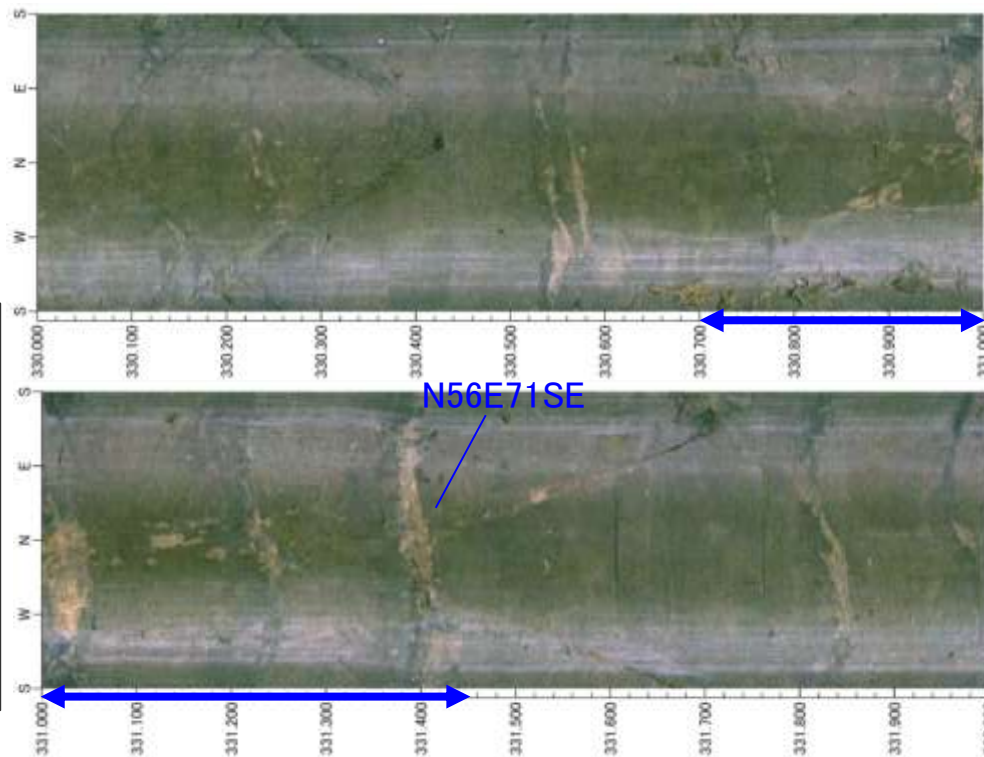
【柱状図】

<ul style="list-style-type: none"> 330.15断層 $\angle 60^\circ$ 細粒物質なし
<ul style="list-style-type: none"> 331.00開離型断層 $\angle 85^\circ$ 細粒物質0~1mm
<ul style="list-style-type: none"> 330.70-331.45岩片状~粒状

コア長： -

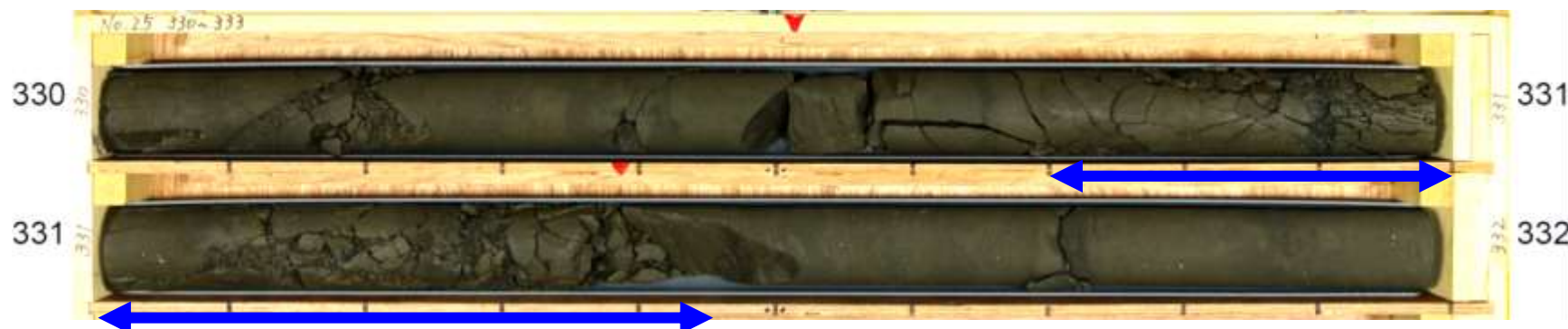
【解釈】

- コアでは、高角な開離型断層と、岩片状~粒状の記事となっており、全体的に高角な亀裂に沿ってコアが岩片状~粒状に割れている。
- BHTVでは、上記範囲の上部に北傾斜の断層、下部にNS走向で南西傾斜の断層が認められるが、その間は断層、地層の変形は認められない。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.14断層（深度334.65~335.79m）

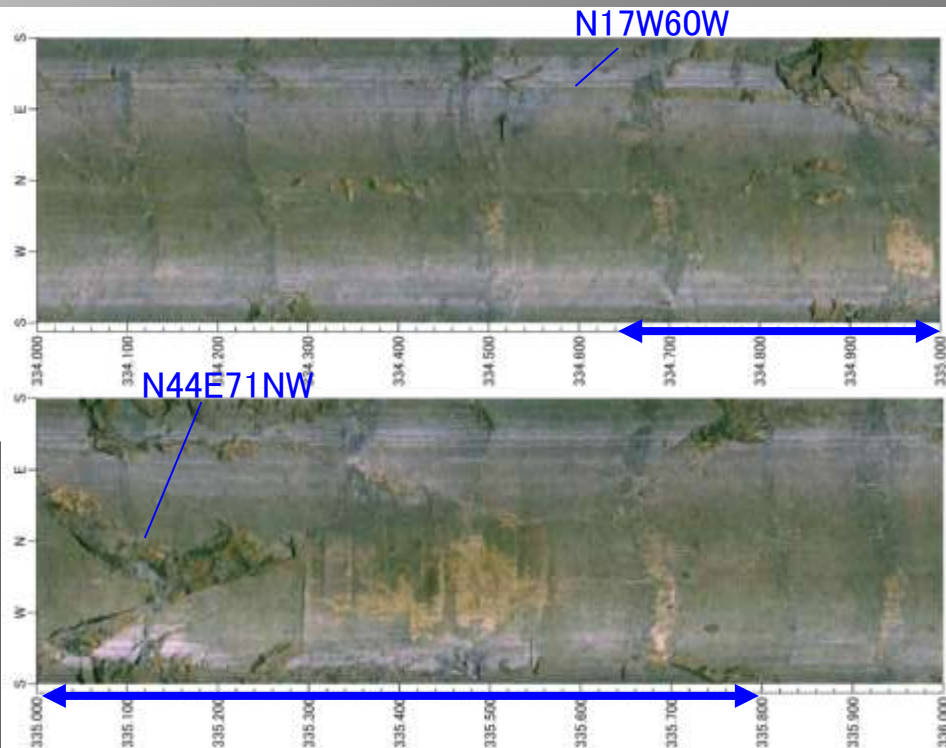
【柱状図】

• 334.07開離型断層 $\angle 45^\circ$ 細粒物質0~1mm
• 334.17断層 $\angle 60^\circ$ 細粒物質なし
• 334.52ゆ着型断層 $\angle 40^\circ$
• 334.65開離型断層$\angle 75^\circ$ 細粒物質0~1mm
• 334.90開離型断層 $\angle 65^\circ$ 細粒物質1~3mm
• 335.20~335.31粒状
• 335.31~ 335.79 コア欠

コア長：-

【解釈】

- コアでは、開離型断層が2条と、その下部のコア昇降部（▽）で粒状およびコア欠となっている。
- BHTVでは、334.65m付近にEW走向で南傾斜の断層、335.10m付近にNS走向で北西傾斜の断層が認められるが、その下部は、明瞭な断層面、層理面の乱れは認められない。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.15断層（深度347.00~347.32m）

【柱状図】

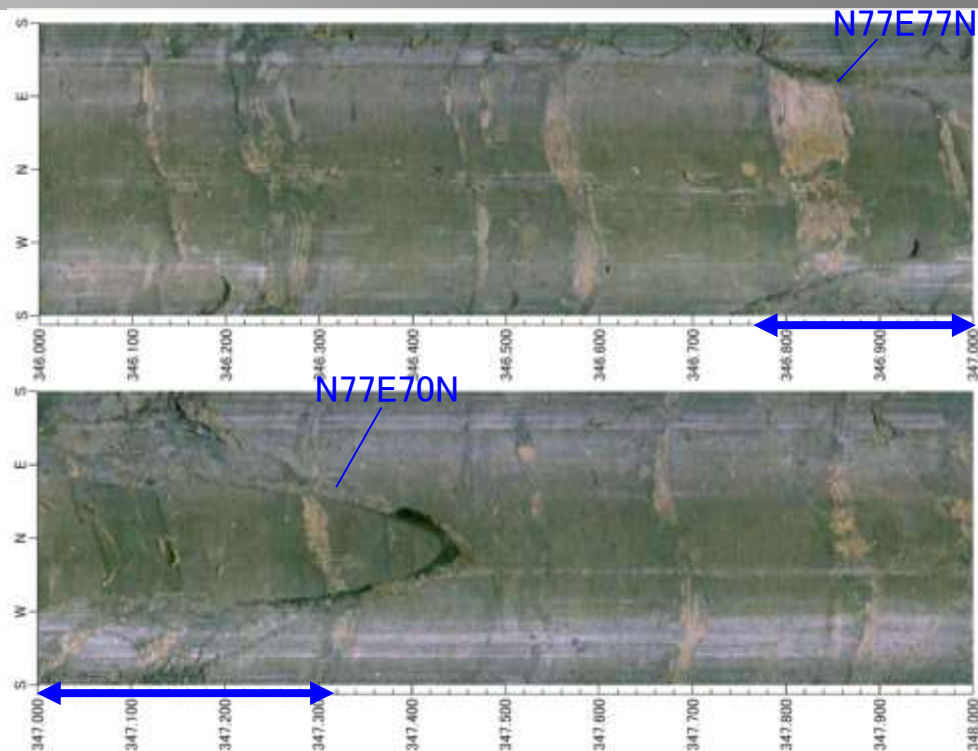
<ul style="list-style-type: none"> 346.25 ゆ着型断層 $\angle 80^\circ$
<ul style="list-style-type: none"> 347.00 開離型断層 $\angle 80^\circ$ 細粒物質2mm
<ul style="list-style-type: none"> 346.77-347.32 粒状
<ul style="list-style-type: none"> 347.80-348.10 岩片状

コア長：-

【解釈】

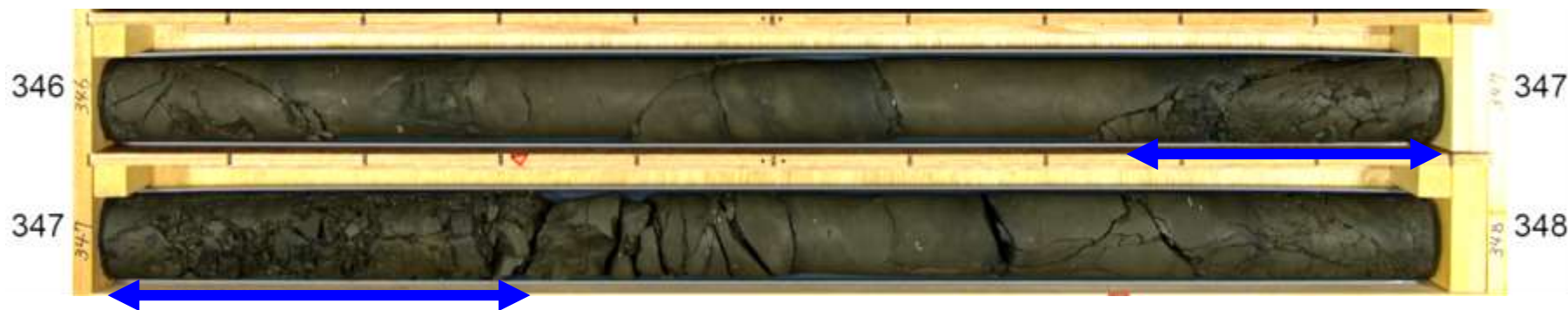
- コアでは、開離型断層と、その上下が粒状となっている。
- BHTVでは、EW走向で北傾斜の断層が2条認められ（1条をより高角な断層が切っている）、層理面に変形は認められない。
- これらのことから、本断層は幅を持たない北傾斜の小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.16断層（深度366.19～366.35m）

【柱状図】

• 366.19-366.35粒状～岩片状
• 366.35開離型断層 $\angle 75^\circ$ 細粒物質1～5mm
• 366.48ゆ着型断層 $\angle 55^\circ$
• 366.48-366.61岩片状

コア長：-

【解釈】

- コアでは、開離型断層と、その上部が粒状～岩片状となっている。
 - BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層が1条認められるが、層理面に变形は認められない。
 - これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。
- ⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



【BHTV画像】



W25孔（孔口標高6.02m） No.17断層（深度372.00~372.60m）

【柱状図】

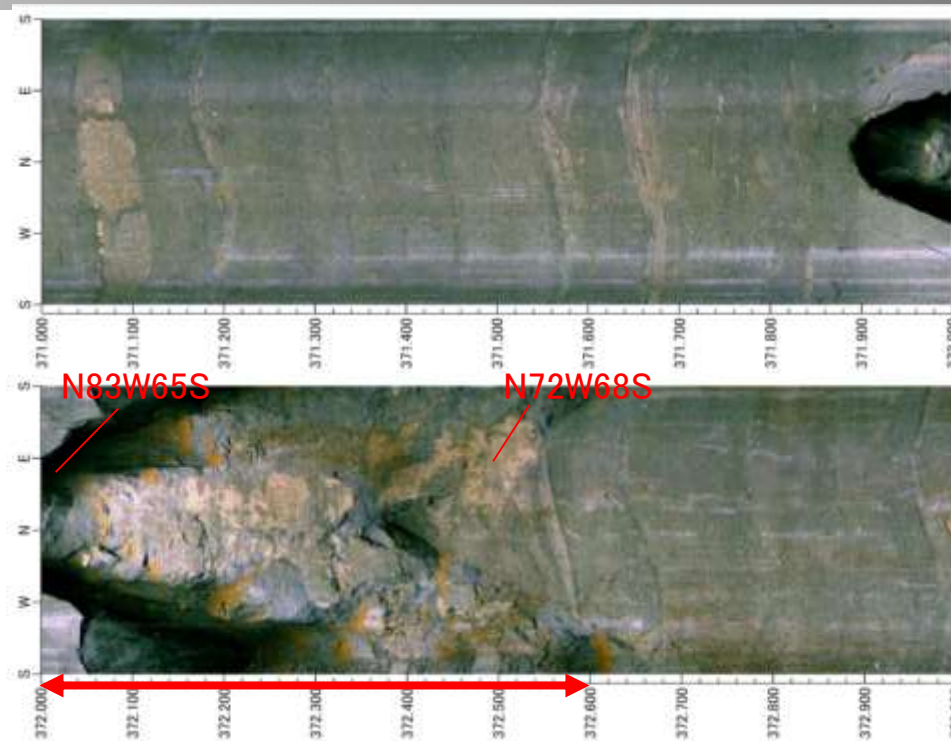
- 372.00ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$
- 372.14-372.40粒状
- 372.40-372.60コア欠

コア長：0.60m
(断層幅：0.26m)

【解釈】

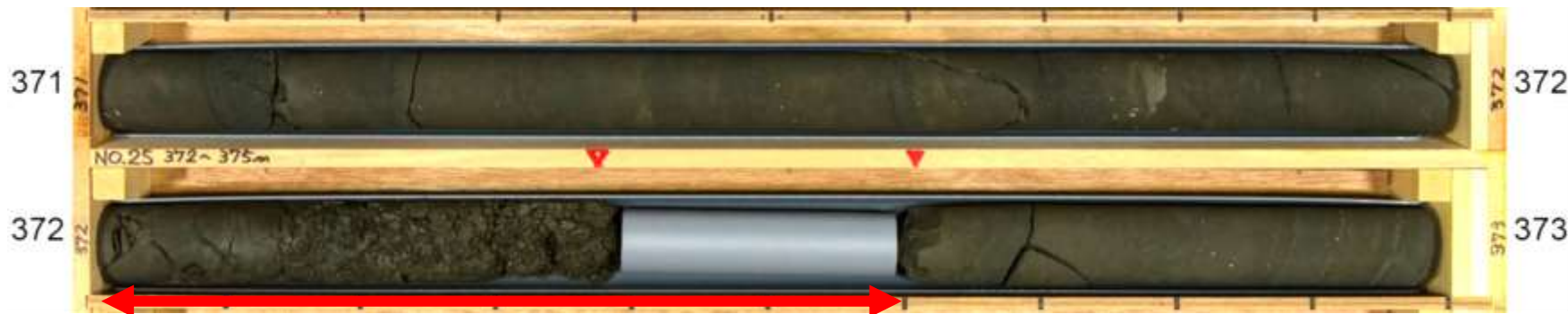
- コアでは、ゆ着型断層と、粒状、コア欠けとなっている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層面が2条と、その間の層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから、本断層は、EW走向・南傾斜の、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.18断層（深度373.11~374.50m）

【柱状図】

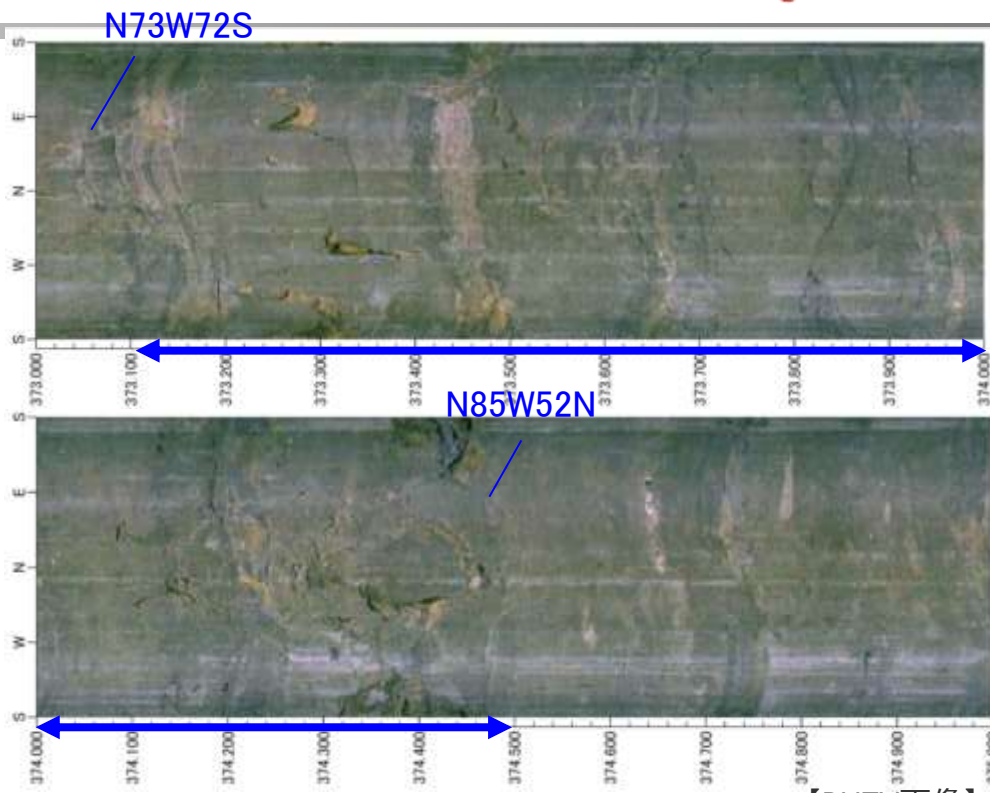
- 373.11 ゆ着型断層 $\angle 65^\circ$
- 373.20 ゆ着型断層 $\angle 50^\circ$
- 373.26 ゆ着型断層 $\angle 70^\circ$
- 373.37 ゆ着型断層 $\angle 65^\circ$
- 373.56 ゆ着型断層
- 373.56-373.60 岩片状
- 373.60 ゆ着型断層 $\angle 55^\circ$
- 373.83 ゆ着型断層 $\angle 30^\circ$
- 373.93 ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$
Rd=1cm
- 373.85-374.26 岩片状
- 374.45 ゆ着型断層 $\angle 40^\circ$
- 374.50 ゆ着型断層 $\angle 55^\circ$

コア長：-

【解釈】

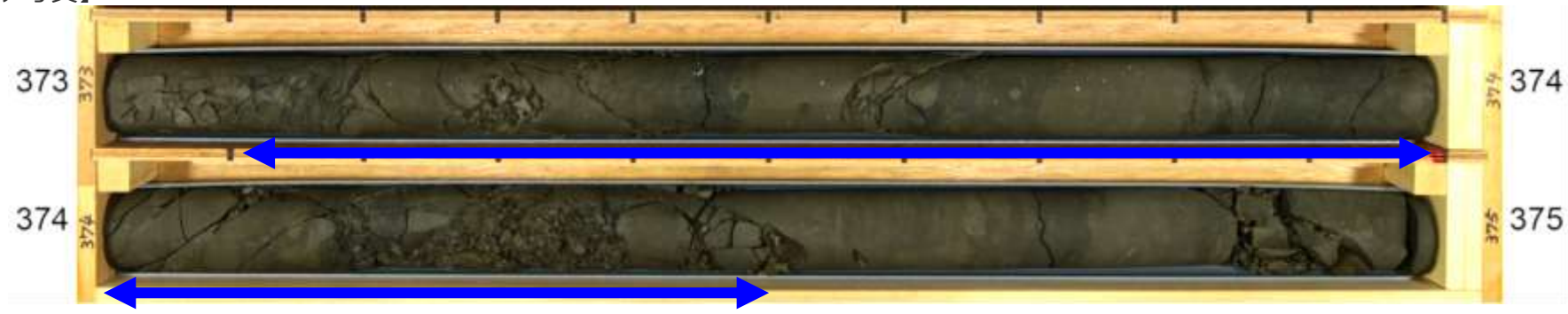
- コアでは、ゆ着型断層が密集して見られ、一部のコアが岩片状となっている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層が複数条認められるが、層理面に変形は認められない。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m）No.19断層（深度414.93~415.22m）

【柱状図】

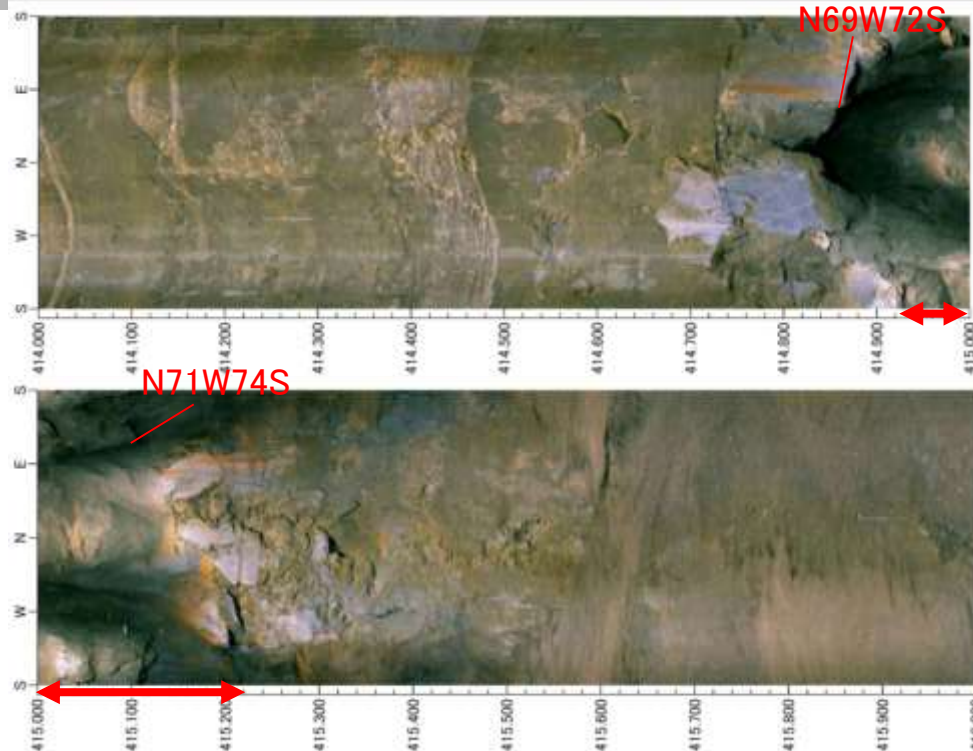
• 414.15 ゆ着型断層 $\angle 65^\circ$ $\angle 40^\circ$
• 414.15-414.18 凝灰岩 414.15のゆ着型断層で K-6が繰り返す
• 414.20 ゆ着型断層 $\angle 50^\circ$
• 414.30 ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$
• 414.63 ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$
• 414.84 ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$
• 415.00 ゆ着型断層 $\angle 70^\circ$
• 415.11 開離型断層 $\angle 70^\circ$ 細粒物質2mm
• 414.93-415.11 岩片状~粒状
• 415.22 ゆ着型断層 $\angle 35^\circ$
• 415.46 ゆ着型断層 $\angle 70^\circ$

コア長：0.29m
(断層幅：0.09m)

【解釈】

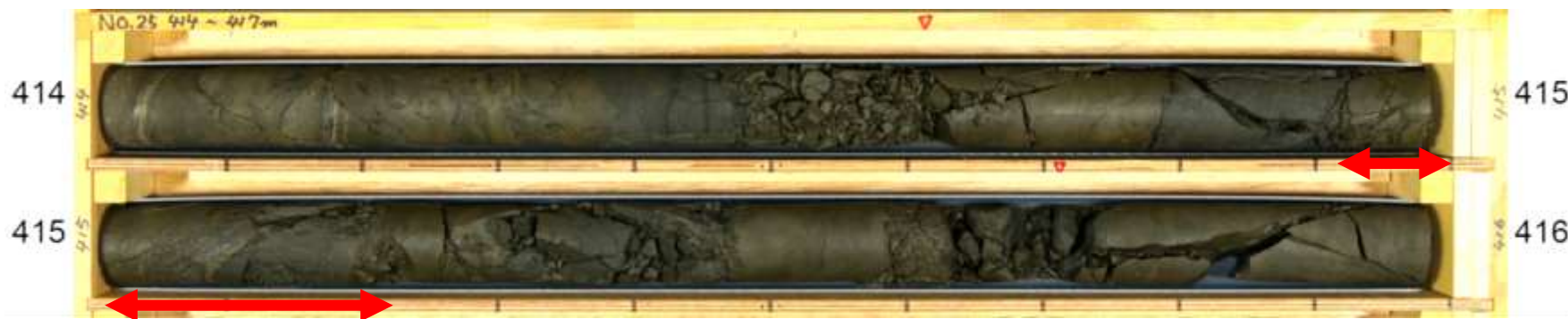
- コアでは、開離型断層と、その上部が岩片状~粒状となっている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層面が2条認められ、その間の層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから、本断層は、EW走向・南傾斜の、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.20断層（深度432.00~435.00m）

【柱状図】

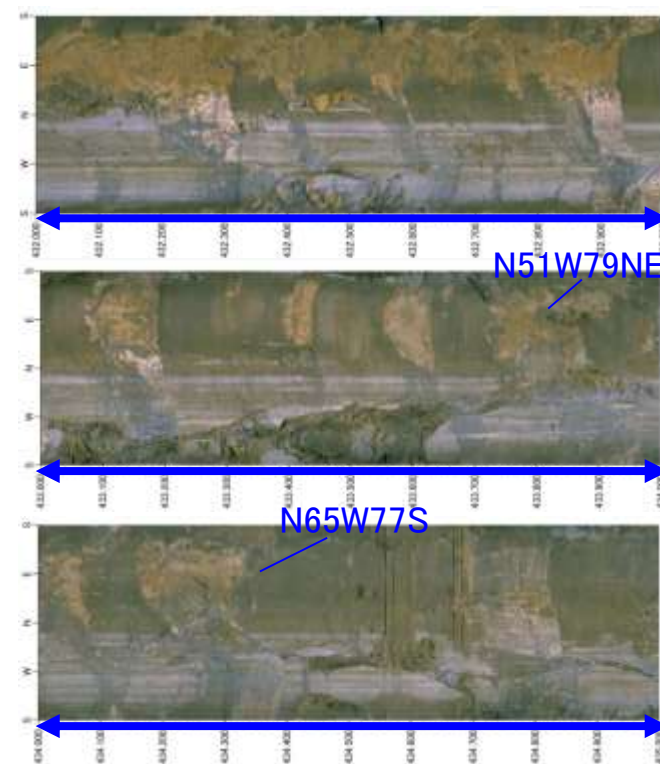
- 432.17ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$
- 432.17-432.26岩片状
- 432.44ゆ着型断層 $\angle 70^\circ$
- 432.96ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$
- 433.52ゆ着型断層 $\angle 70^\circ$
- 434.12ゆ着型断層 $\angle 70^\circ$
- 434.40ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$
- 434.50ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$
- 434.89ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$

コア長：-

【解釈】

- コアでは、ゆ着型断層が密集し、一部が岩片状となっている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜、北傾斜、南傾斜の断層が認められるが、層理面に変形は認められない。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.21断層（深度446.55~447.07m）

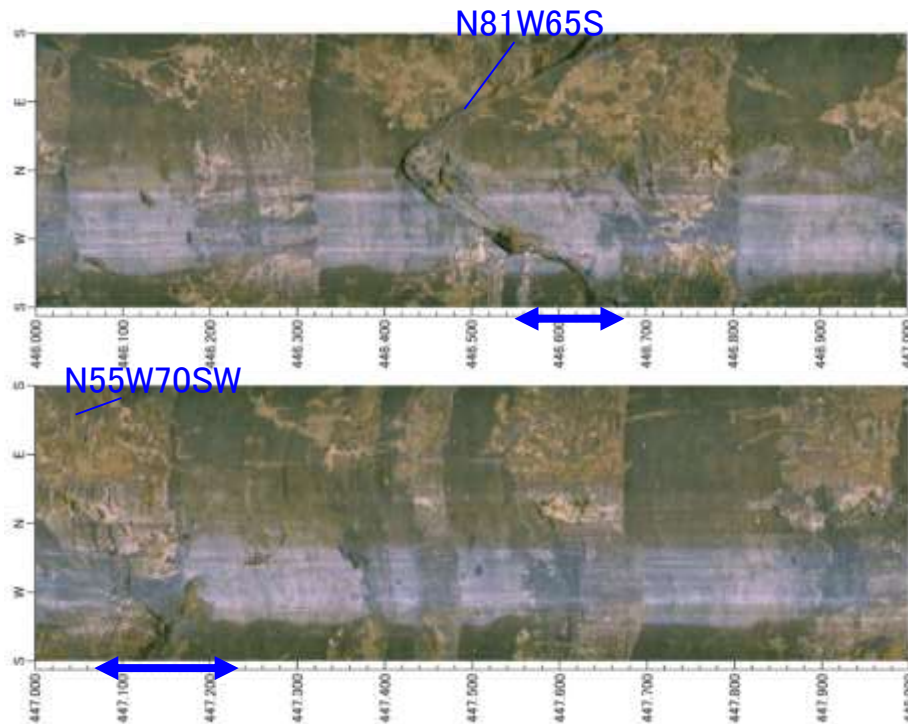
【柱状図】

• 446.25ゆ着型断層 $\angle 80^\circ$ Nd=2cm
• 446.67開離型断層 $\angle 70^\circ$ 細粒物質1~2mm
• 446.55-446.71岩片状
• 446.80ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$
• 446.90ゆ着型断層 $\angle 65^\circ$
• 447.07ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$

コア長：-

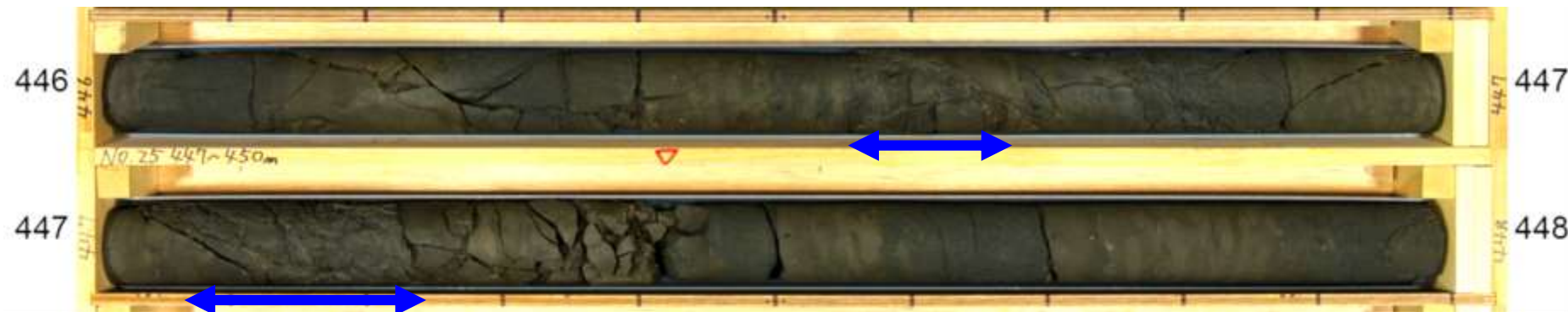
【解釈】

- コアでは、446.67mの開離型断層とその前後の幅16cm程度が岩片状となっている。また、447.07mのゆ着型断層は、断層下部の幅15cm程度の層理面が不明瞭になっている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層面が2条認められるが、層理面に变形は認められない。
- これらのことから、本断層は、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m）No.22断層（深度460.80~461.30m）

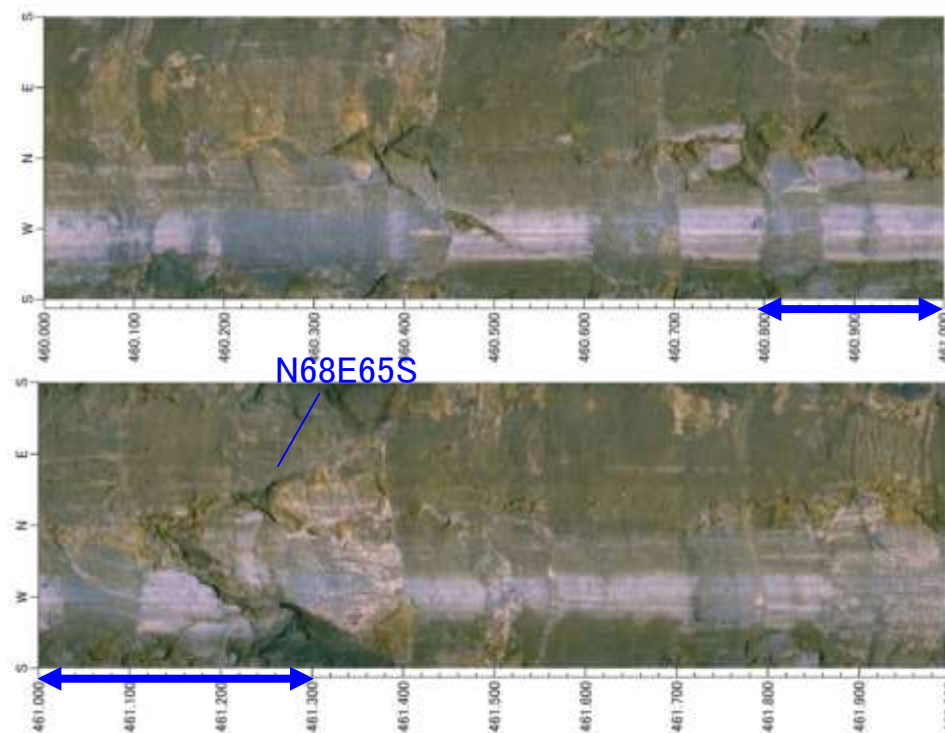
【柱状図】

- 460.80ゆ着型断層 $\angle 80^\circ$
Nd=1cm
- 461.12-461.23岩片状
- 461.30ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$

コア長：-

【解釈】

- コアでは、ゆ着型断層が2条と、その間の一部が岩片状になっている。
- BHTVでは、460.50m付近と、461.30m付近に、EW走向で南傾斜の断層が認められるが、層理面に変形は認められない。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m）No.23断層（深度463.84~464.00m）

【柱状図】

• 463.70ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$

• 463.84開離型断層 $\angle 55^\circ$
細粒物質1mm

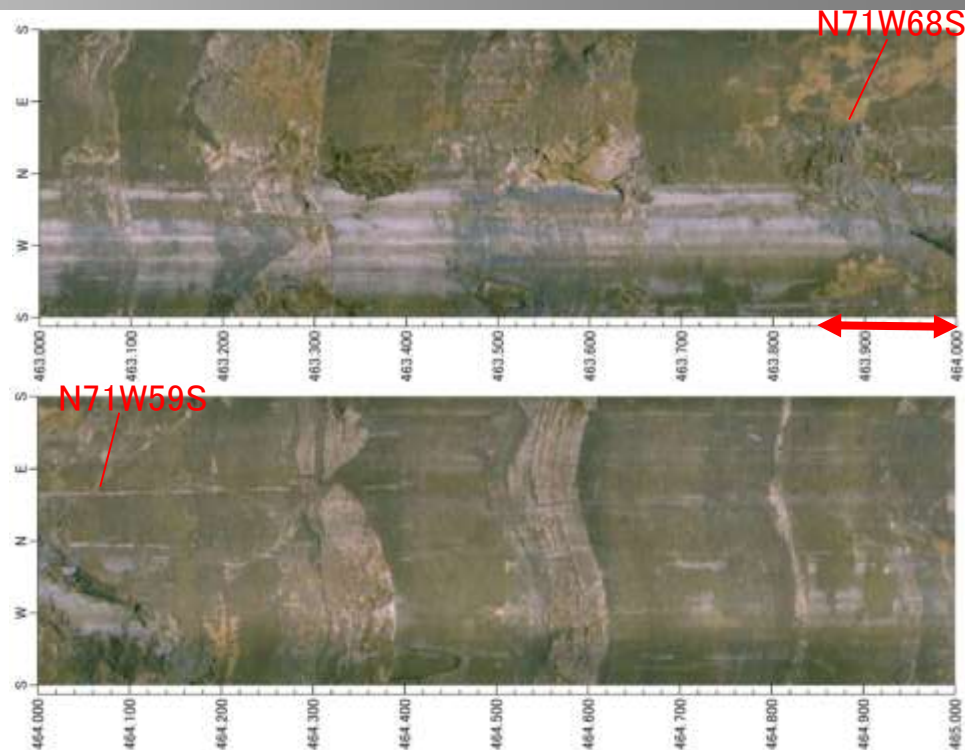
• 463.84-464.00粒状

コア長：0.16m
(断層幅：0.07m)

【解釈】

- コアでは、463.84mに開離型断層が認められ、その下部は、464.00mまで粒状になっている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層が2条認められ、その間は、層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから、本断層は、EW走向・南傾斜の、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.24断層（深度537.25～539.45m）

【柱状図】

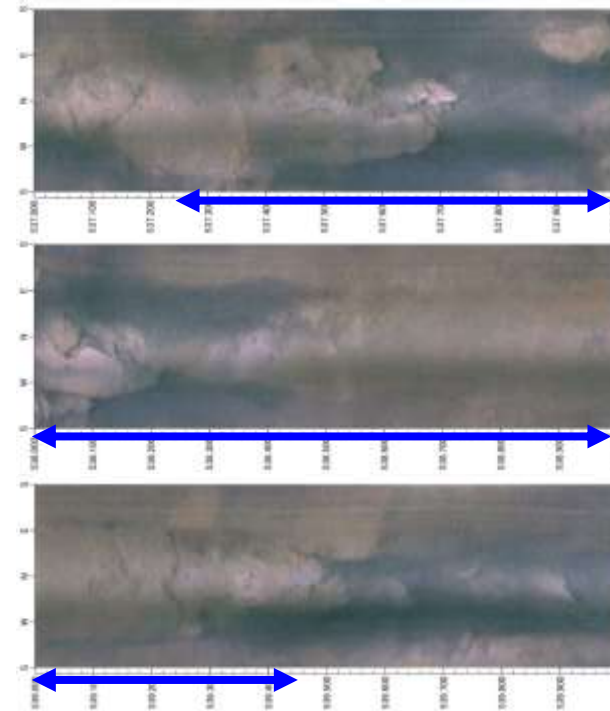
- 537.25 開離型断層 $\angle 75^\circ$
細粒物質1～3mm
- 537.15-537.30 岩片状～粒状
- 538.50 開離型断層 $\angle 85^\circ$
細粒物質1～3mm
- 539.45 開離型断層 $\angle 70^\circ$
細粒物質1mm
- 537.60-539.48 岩片状～粒状

コア長：-

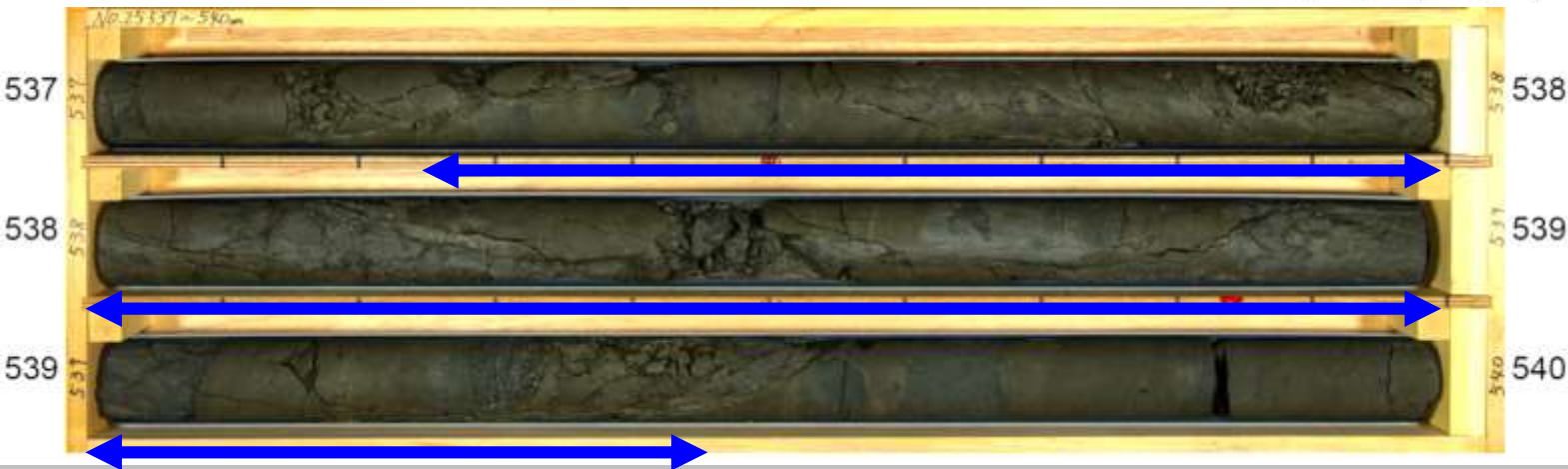
【解釈】

- コアでは、高角な開離型断層が3条と、その周囲の一部が岩片状～粒状の記事となっており、ほぼ垂直な断層沿いに不均質にコアが割れているように見える。
- BHTVでは、画像が不鮮明であるが、ほぼ垂直な断層が連続して認められ、一部孔壁が崩落しているが、層理面に変形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【コア写真】



【BHTV画像】

W25孔（孔口標高6.02m） No.25断層（深度543.25～543.35m）

【柱状図】

• 543.30開離型断層 $\angle 75^\circ$
細粒物質0～1mm

• 543.25-543.45粒状

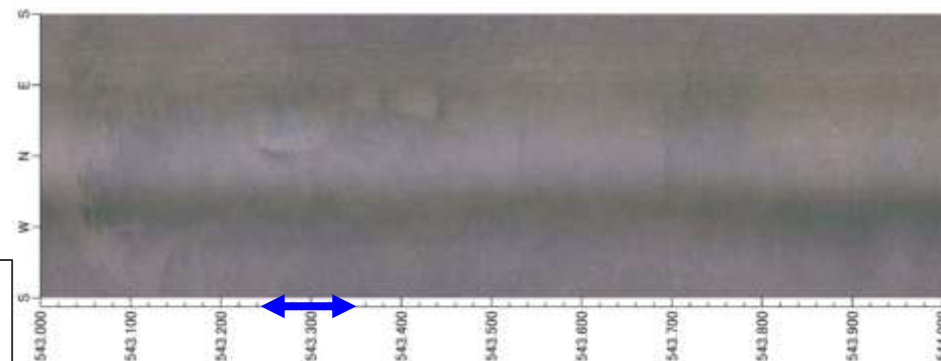
コア長：0.10m（断層幅：0.03m）

【解釈】

- コアでは、開離型断層が1条と、同断層に沿って、幅20cm程度が粒状との記事となっている。詳細に見ると、高角な断層面に沿って、幅10cm程度の幅が粒状となっており、その周囲は層理面に变形は認められない。
- BHTVでは、画像が不鮮明であり、断層の走向・傾斜は読み取れない。
- これらのことから、本断層は、幅を持つ断層と解釈される。ただし、断層幅は3cmであり、5cmに満たない。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【BHTV画像】



【コア写真】



【断層部拡大】



W25孔（孔口標高6.02m） No.26断層（全長，深度549.50～550.90m）

【柱状図】

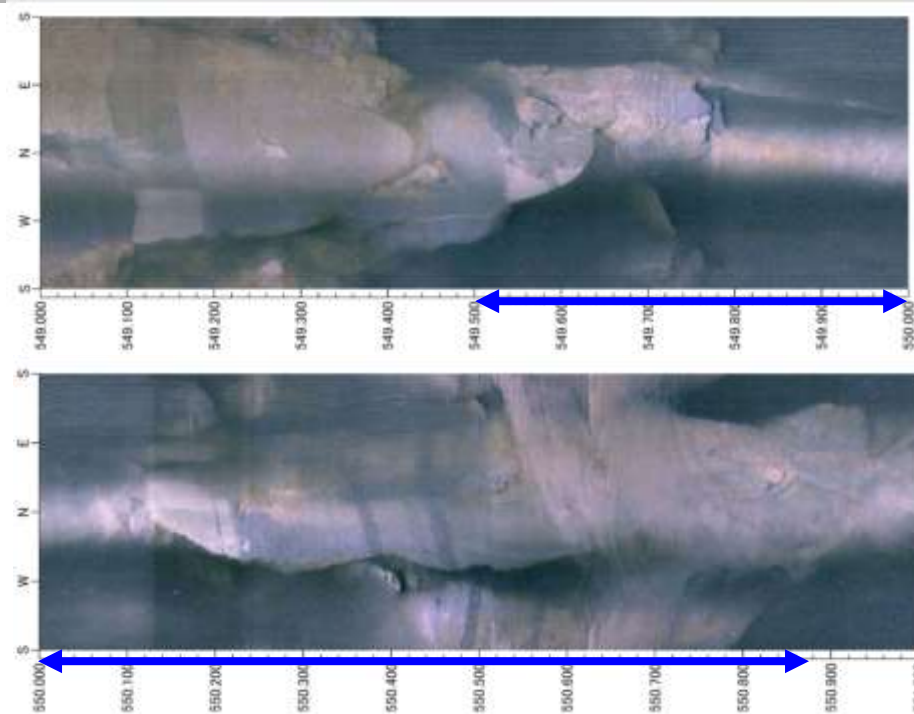
• 549.50開離型断層 $\angle 80^\circ$ 細粒物質1mm
• 549.58開離型断層 $\angle 80^\circ$ 細粒物質0～1mm
• 549.55-549.80岩片状～粒状
• 549.80-550.38コア欠
• 550.60開離型断層 $\angle 80^\circ$ 細粒物質1mm
• 550.38-550.90粒状
• 550.90開離型断層 $\angle 65^\circ$ 細粒物質1mm
• 551.05開離型断層 $\angle 85^\circ$ 細粒物質1～2mm
• 551.55開離型断層 $\angle 90^\circ$ 細粒物質0～1mm
• 551.33-551.98岩片状

コア長：-

【解釈】

- コアでは，開離型断層が複数条と，その間が岩片状～粒状およびコア欠となっているが，ほぼ垂直な断層に沿った，掘削時のコアの乱れと解釈される（詳細は次頁参照）。
- BHTVでは，549.20m，549.50m付近にEW走向で北傾斜の断層が認められ，それより下部はほぼ垂直な断層が551.00m以深まで連続し，一部孔壁が崩落しているものの，層理面に変形は認められない。
- これらのことから，本断層は幅を持たない小断層および，掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m）No.26断層（一部拡大，深度550.38～550.90m）

【柱状図】

• 549.50開離型断層 $\angle 80^\circ$ 細粒物質1mm
• 549.58開離型断層 $\angle 80^\circ$ 細粒物質0～1mm
• 549.55-549.80岩片状～粒状
• 549.80-550.38コア欠
• 550.60開離型断層 $\angle 80^\circ$ 細粒物質1mm
• 550.38-550.90粒状
• 550.90開離型断層 $\angle 65^\circ$ 細粒物質1mm
• 551.05開離型断層 $\angle 85^\circ$ 細粒物質1～2mm
• 551.55開離型断層 $\angle 90^\circ$ 細粒物質0～1mm
• 551.33-551.98岩片状

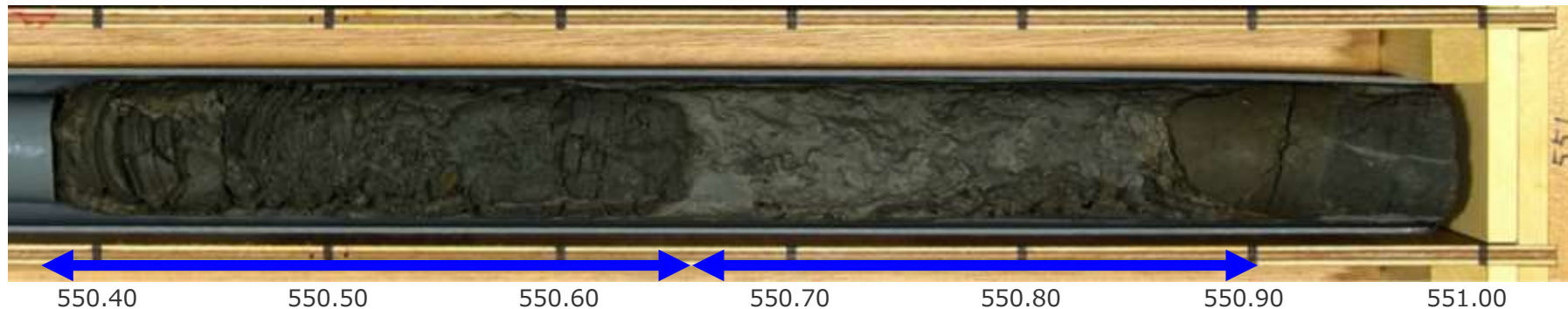
【解釈】

- コアでは，ほぼ垂直な断層面が連続しており，同断層に沿って，550.38～550.65の範囲では水平な亀裂が発達している。また，550.65～550.90の範囲は表面に軟質物が付着しており，掘削時にスライムが混入したと解釈される。
⇒これらのことから，粒状のコアは，掘削時のコアの乱れと解釈される。

【コア写真】



【断層部拡大】



W25孔（孔口標高6.02m） No.27断層（深度551.33～551.98m）

【柱状図】

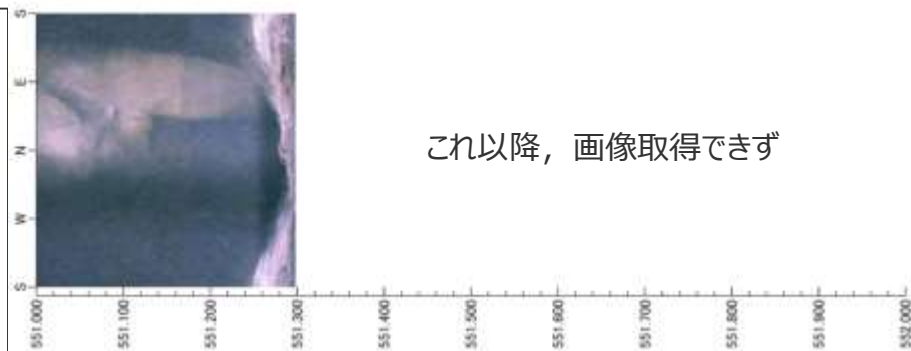
<ul style="list-style-type: none"> 549.50開離型断層$\angle 80^\circ$ 細粒物質1mm
<ul style="list-style-type: none"> 549.58開離型断層$\angle 80^\circ$ 細粒物質0～1mm
<ul style="list-style-type: none"> 549.55-549.80岩片状～粒状
<ul style="list-style-type: none"> 549.80-550.38コア欠
<ul style="list-style-type: none"> 550.60開離型断層$\angle 80^\circ$ 細粒物質1mm
<ul style="list-style-type: none"> 550.38-550.90粒状
<ul style="list-style-type: none"> 550.90開離型断層$\angle 65^\circ$ 細粒物質1mm
<ul style="list-style-type: none"> 551.05開離型断層$\angle 85^\circ$ 細粒物質1～2mm
<ul style="list-style-type: none"> 551.55開離型断層$\angle 90^\circ$ 細粒物質0～1mm
<ul style="list-style-type: none"> 551.33-551.98岩片状

コア長：-

【解釈】

- コアでは、開離型断層が2条と、その周囲が岩片状～粒状、コア欠けとなっている。
- 詳細に見ると、ほぼ垂直な断層面が連続し、同断層にそって網目状に変質粘土が発達しているが、層理面には変形は認められない。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



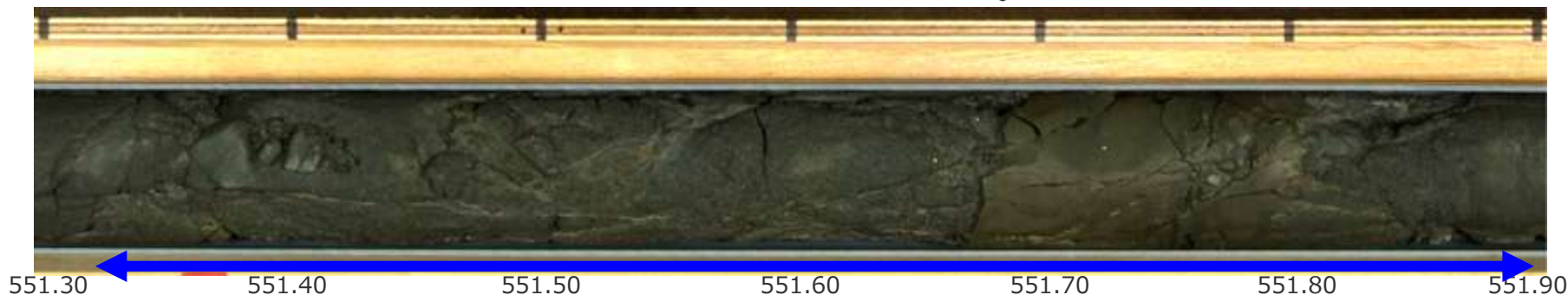
これ以降、画像取得できず

【BHTV画像】

【コア写真】



【断層部拡大】



W25孔（孔口標高6.02m）No.28断層（深度558.03～558.35m）

【柱状図】

- 558.03～558.35粒状～岩片状
- 558.35開離型断層 $\angle 70^\circ$
細粒物質1～2mm

コア長：—

【解釈】

- コアでは、開離型断層が1条と、上部が粒状～岩片状となっている。
- 高角な断層面の上部は、558.00～558.10mまでは不均質に割れているが、558.10～558.20mは健岩、境界はコア昇降部の水平割れ目であり、558.20～558.35mも不均質に割れている。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



【断層部拡大】



W25孔（孔口標高6.02m） No.29断層（全長：深度559.20～563.14m）

【柱状図】

- 559.20-561.28岩片状～粒状
- 561.28-561.73コア欠
- 562.25-562.70コア欠
- 562.70-563.14岩片状

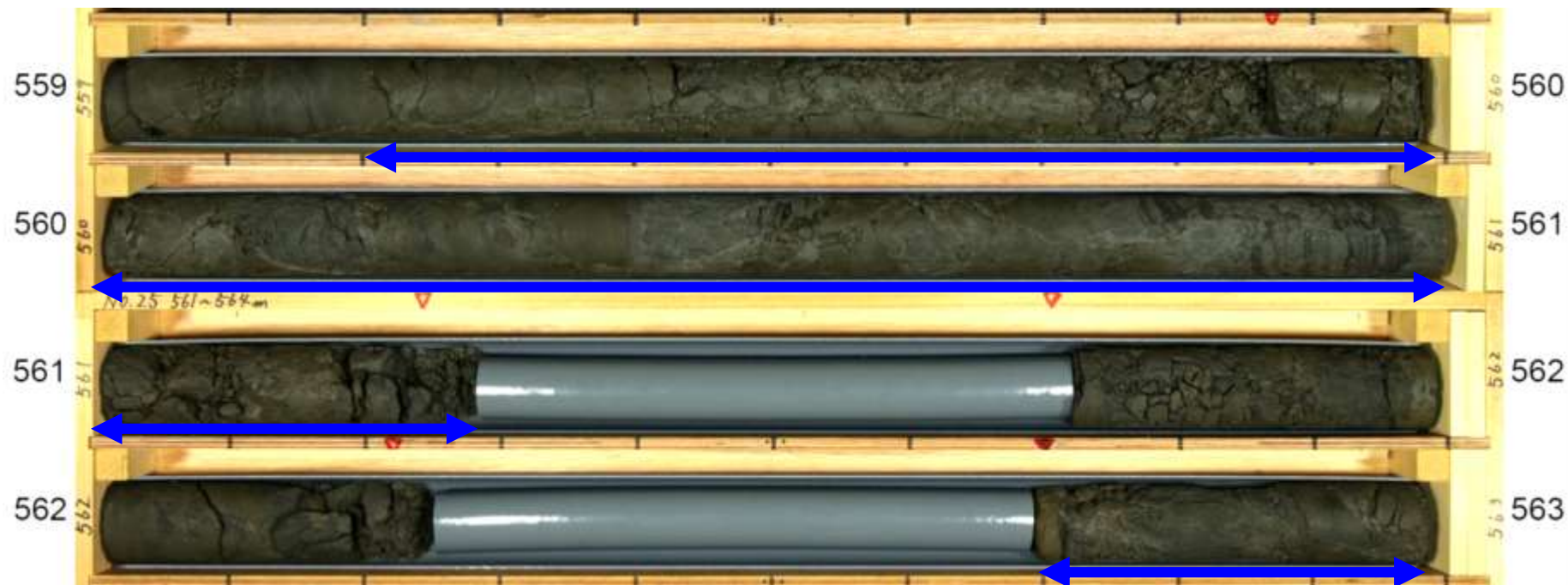
コア長：-

【解釈】

- コアでは、幅広い範囲に亘って、岩片状～粒状と、コア欠の区間が2箇所認められる。
- この範囲では、ほぼ垂直な断層面と、同断層に沿ってコアが不均質に割れているか、網目状に変質粘土が発達しているが、高角な断層面は認められない。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈し、コア欠は掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する（一部コアの拡大写真を次頁に示す。）

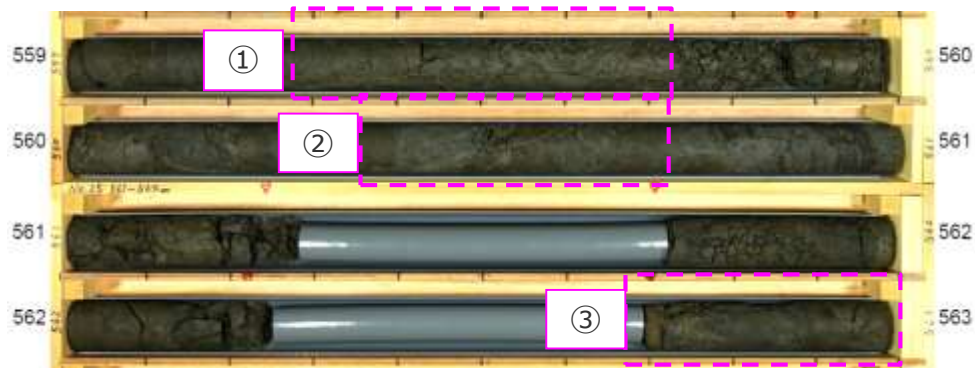
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.29断層（コア写真一部拡大）

【コア写真】



【拡大写真】①



【拡大写真】②



【拡大写真】③



W25孔（孔口標高6.02m）No.30断層（全長：深度572.30～574.60m）

【柱状図】

• 572.30ゆ着型断層 $\angle 80^\circ$
• 572.55ゆ着型断層 $\angle 85^\circ$
• 572.65ゆ着型断層 $\angle 90^\circ$
• 572.85ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$
• 572.92ゆ着型断層 $\angle 65^\circ$
• 572.35-573.28岩片状～柱状
• 573.80-574.31コア欠
• 574.31-574.60粒状

コア長：-

【解釈】

（区間①：572.80～573.30m）

- コアでは、高角からほぼ垂直なゆ着型断層が密集し、一部岩片状となっている。
- 572.80～573.30mの範囲では、高角な亀裂が密集し、変質粘土が脈状に発達しているが、明瞭な断層面は認められない。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。

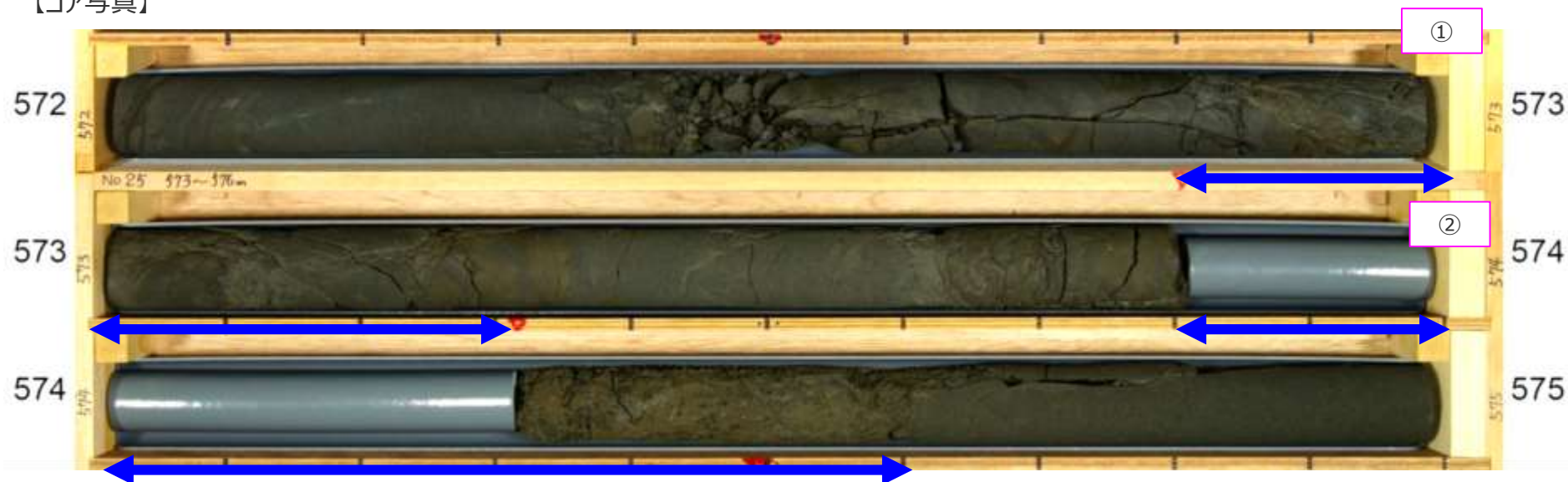
（区間②：573.80～574.60m）

- 573.80～574.31mコア欠け部は、高角な断層面は認められず、コア昇降部に当たる。また、574.31～574.60mの粒状のコアも、高角な断層面が認められず、コアが不均質に割れている。
- これらのことから、本区間は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

（なお、一部コアの拡大写真を次頁に示す。）

【コア写真】

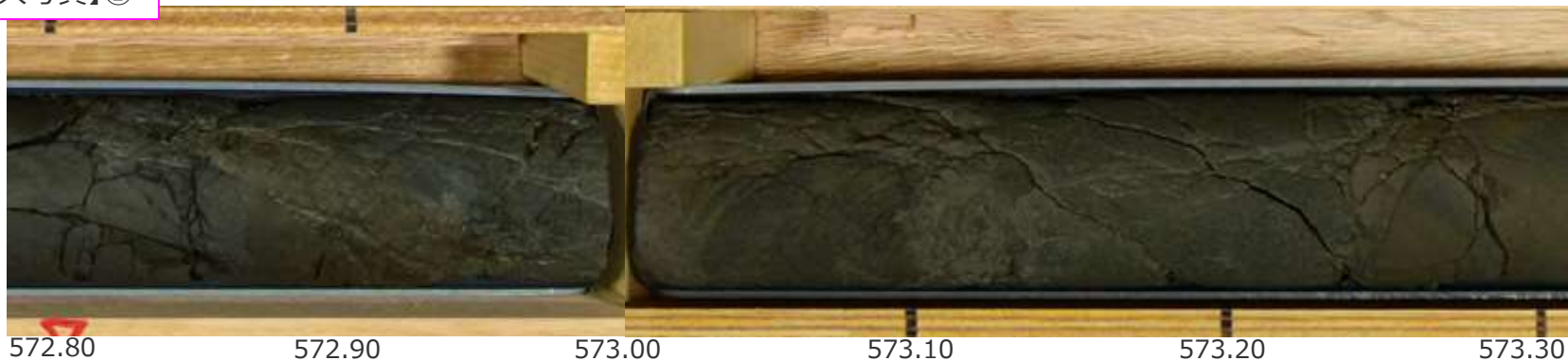


W25孔（孔口標高6.02m）No.30断層（コア写真一部拡大）

【コア写真】



【拡大写真】①



【拡大写真】②

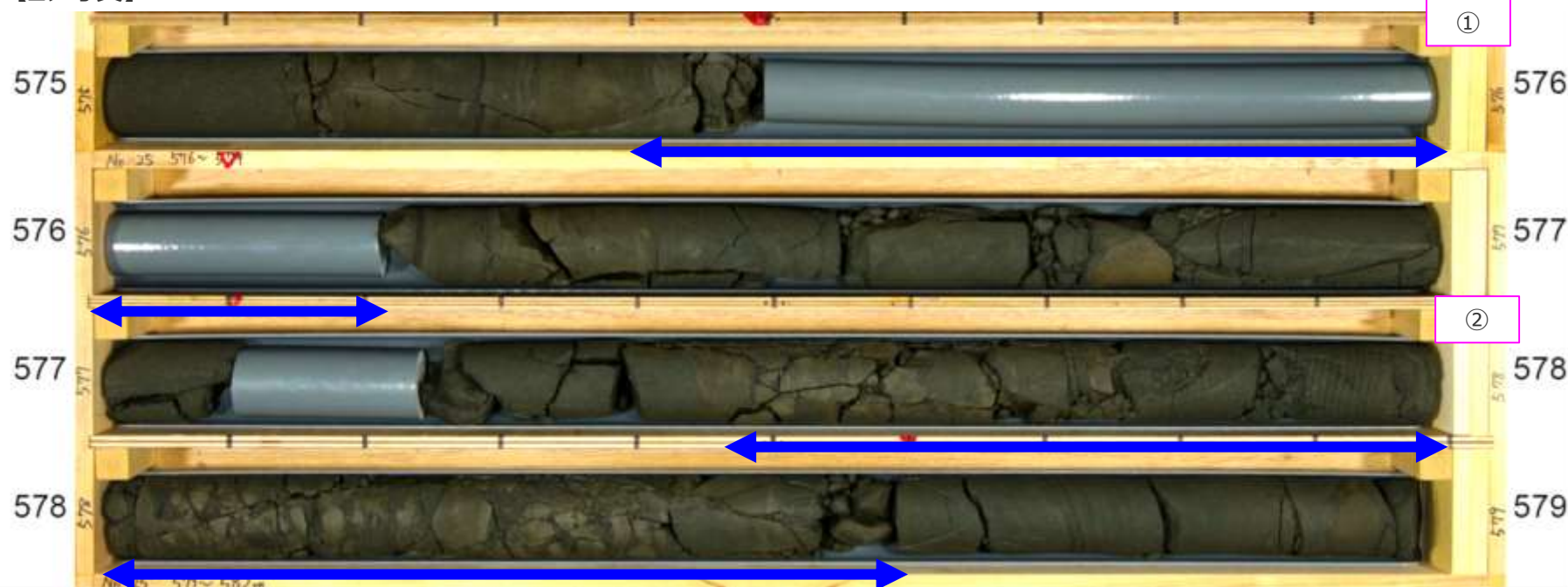


W25孔（孔口標高6.02m）No.31断層（深度575.40～578.60m）

【柱状図】

- 575.40ゆ着型断層 $\angle 65^\circ$
- 575.50-576.20コア欠
- 577.10-577.24コア欠
- 578.05ゆ着型断層 $\angle 70^\circ$
- 578.52ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$
- 577.46-578.60岩片状

【コア写真】



コア長：-

【解釈】

- (区間①：575.40～576.20m)
- コア欠け部は、高角な断層面は認められず、コア昇降部に当たる。
 - これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
- (区間②：577.46～578.60m)
- 577.46～578.00mの区間は、コアは不均質に割れており、高角な断層面は認められない。
 - 578.00～578.60mの区間は、岩片状に見えるが、もともと泥岩の偽礫が多く含まれる層相と解釈される。
 - これらのことから、本断層は、掘削・採取時のコアの乱れおよび初生的構造と解釈する。
- ⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

W25孔（孔口標高6.02m） No.32断層（深度586.03～587.80m）

【柱状図】

- 586.03-586.28岩片状～粒状
- 587.40開離型断層 $\angle 85^\circ$
細粒物質0～1mm
- 587.55断層 $\angle 75^\circ$
細粒物質なし
- 587.80断層 $\angle 85^\circ$
細粒物質なし
- 588.55断層 $\angle 75^\circ$
細粒物質なし

コア長：-

【解釈】

- (区間①：586.03～586.28m)
- 粒状のコアは、上部が水平な割れ目、下部が高角な断層を境界としており、コアも不均質に割れている。
- (区間②：587.40～587.80m)
- ほぼ垂直な開離型断層沿いに、脈状に変質粘土が発達しているものと解釈される。
 - これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】①



【拡大写真】②



【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.33断層（深度593.85～595.85m）

【柱状図】

- 593.45ゆ着型断層 $\angle 25^\circ$
- 593.27-593.60岩片状
- 593.85ゆ着型断層 $\angle 65^\circ$
- 594.51断層 $\angle 65^\circ$
細粒物質なし
- 594.98ゆ着型断層 $\angle 45^\circ$
- 595.50開離型断層 $\angle 80^\circ$
細粒物質0～1mm
- 594.15-595.85岩片状～柱状

コア長：-

【解釈】

区間①（593.85～594.00m）

- 高角な断層が1条認められ、下部の砂層中に小規模な亀裂が認められる。

区間②（594.15～595.85m）

- 幅広く岩片状～柱状となっているが、コア昇降部による水平割れ目を含み多くは水平な割れ目であり、コアも不均質に割れている
- 595.00～595.85mの範囲では、ほぼ垂直な断層沿いに変質粘土が発達しているが、コアに変形は認められない。

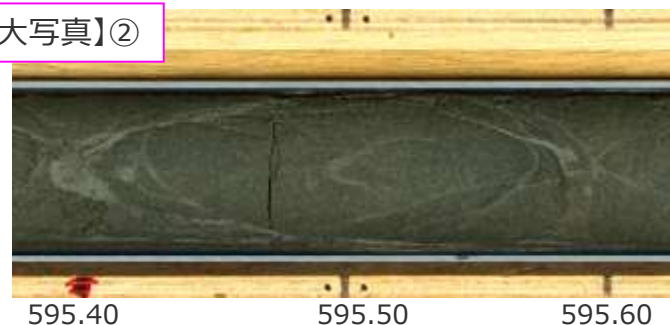
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】①



【拡大写真】②



【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.34断層（深度598.85～598.90m）

【柱状図】

- 598.35ゆ着型断層 $\angle 55^\circ$
- 598.85開離型断層 $\angle 45^\circ$
細粒物質0～1mm
- 598.90開離型断層 $\angle 45^\circ$
細粒物質0～1mm

コア長：－

【解釈】

- 2条の断層面が近接して認められるが、断層間のコアは不均質に割れている（泥岩礫を取り込み）。
- これらのことから、断層間のコアは掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈し、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】

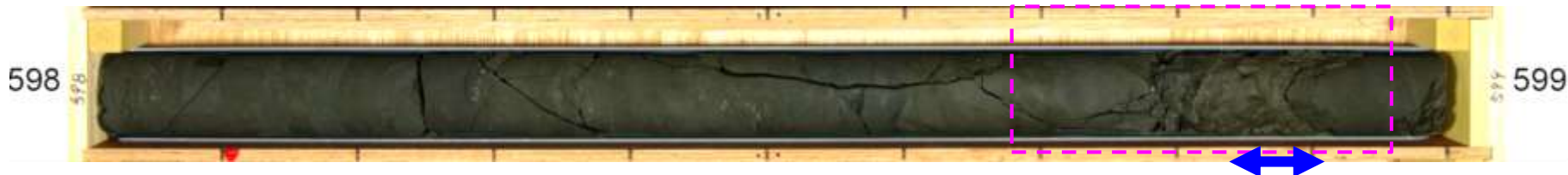


598.70

598.80

598.90

【コア写真】



598

599

W25孔（孔口標高6.02m） No.35断層（深度606.18～609.30m）

【柱状図】

・ 606.18-606.40コア欠

・ 607.47ゆ着型断層 $\angle 45^\circ$

・ 608.60-609.30コア欠

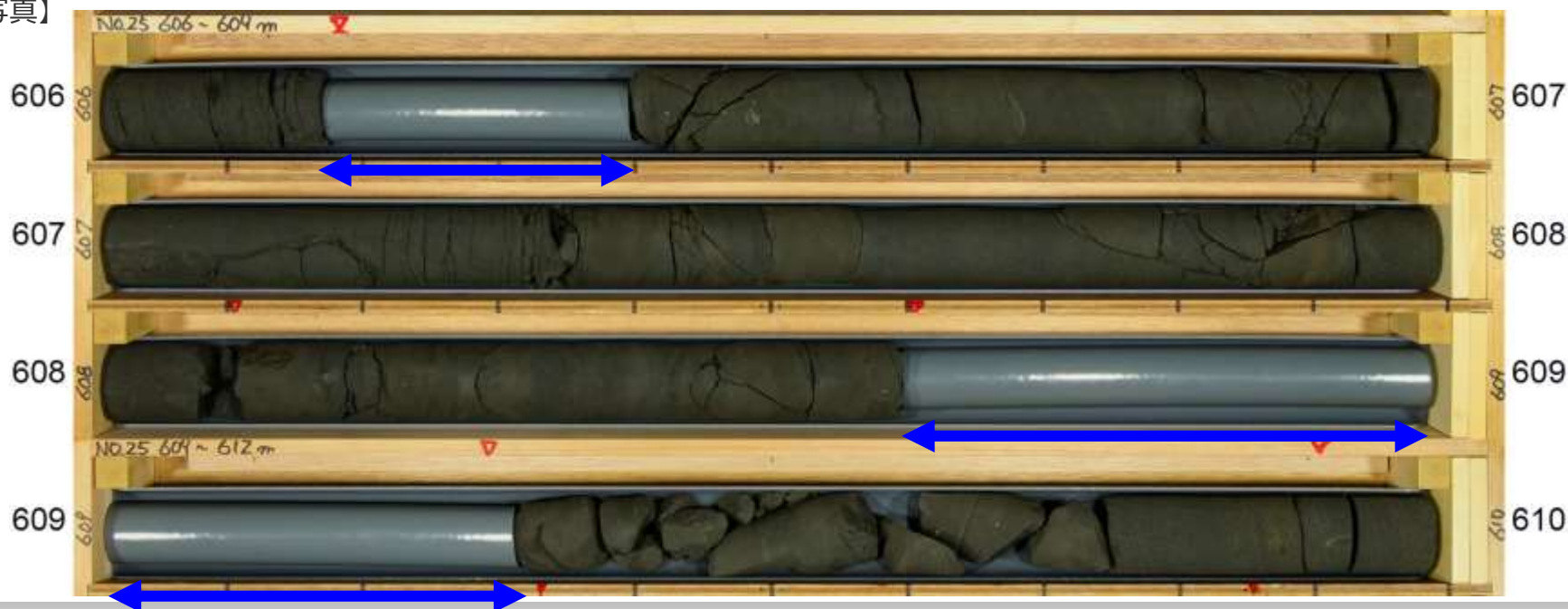
コア長：-

【解釈】

- ・ コア欠け部が2箇所認められるが、高角な断層面は認められず、水平な割れ目（コア昇降部）で流出している。
- ・ これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.36断層（深度622.75～622.83m）

【柱状図】

・ 621. 87-622. 23コア欠

・ 622. 75開離型断層 $\angle 75^\circ$
細粒物質1～3mm

・ 622. 83開離型断層 $\angle 65^\circ$
細粒物質0～1mm

・ 622. 60-622. 84粒状

・ 623. 57開離型断層 $\angle 75^\circ$
細粒物質1mm

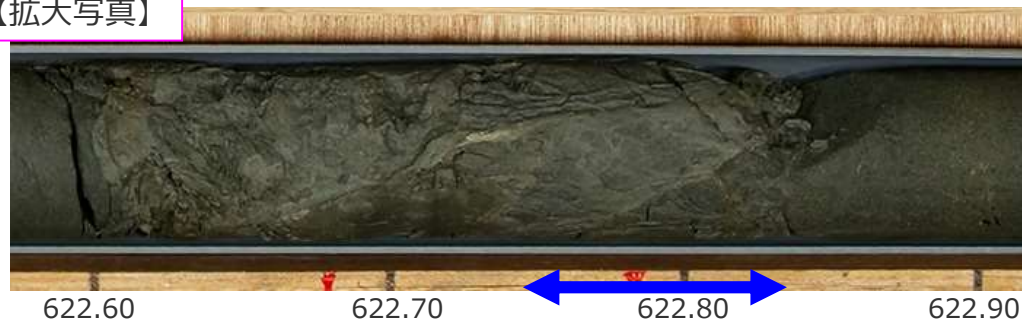
コア長： -

【解釈】

- ・ 2条の高角な断層面が認められ、断層上部及び断層間のコアが粒状となっている。
- ・ 断層上部は、水平割れ目と断層に挟まれ、泥岩礫を取り込んで不均質に割れており、スライムの混入と解釈される。同様に、断層間のコアもスライムの混入と解釈される。
- ・ これらのことから、粒状に見えるコアは、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈し、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.37断層（深度625.43～626.40m）

【柱状図】

- 625.00断層 $\angle 80^\circ$
細粒物質なし
- 625.65開離型断層 $\angle 85^\circ$
細粒物質1～2mm
- 625.43-625.92岩片状～粒状
- 626.20-626.40岩片状～粒状
- 626.40-627.40コア欠

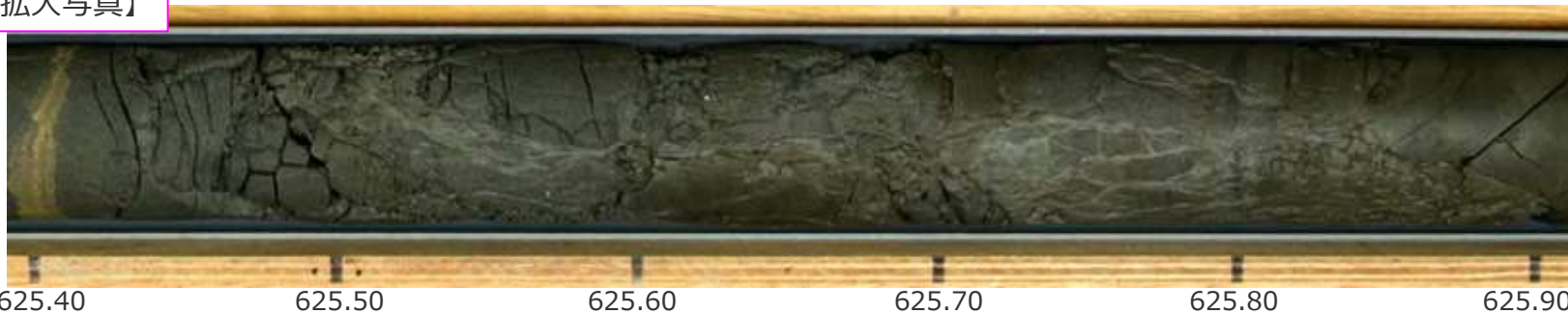
コア長：-

【解釈】

- コアでは、ほぼ垂直な開離型断層と、同断層沿いに岩片状～粒状となっている。
- ほぼ垂直な開離型断層に沿って、脈状に変質粘土が発達しているが、層理面に変形は認められない。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.38断層（深度654.63～654.90m）

【柱状図】

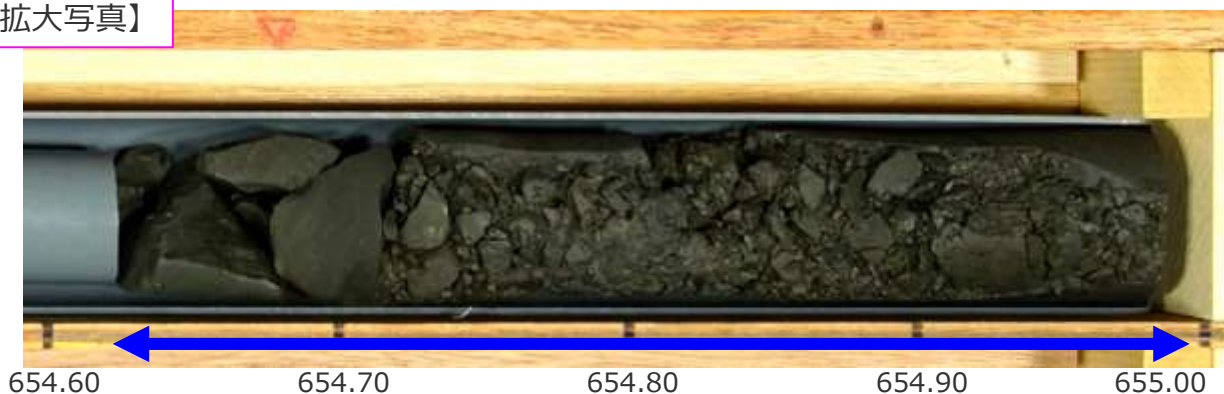
・ 654.10-654.63コア欠

・ 654.63-654.90粒状～岩片状

コア長： -

- ・ コアでは、コア欠け部の下部が岩片状～粒状となっている。
- ・ コア昇降部を上端部として、水平割れ目とほぼ垂直な亀裂（断層）の間のコアが不均質に割れている。
- ・ これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m）No.39断層（深度662.00～662.75m）

【柱状図】

• 661.80-662.000粒状
• 662.25開離型断層 $\angle 55^\circ$ 細粒物質0~1mm
• 662.00-662.28岩片状~粒状
• 662.63-663.30岩片状

コア長：-

【解釈】

（区間①；662.00～662.28m）

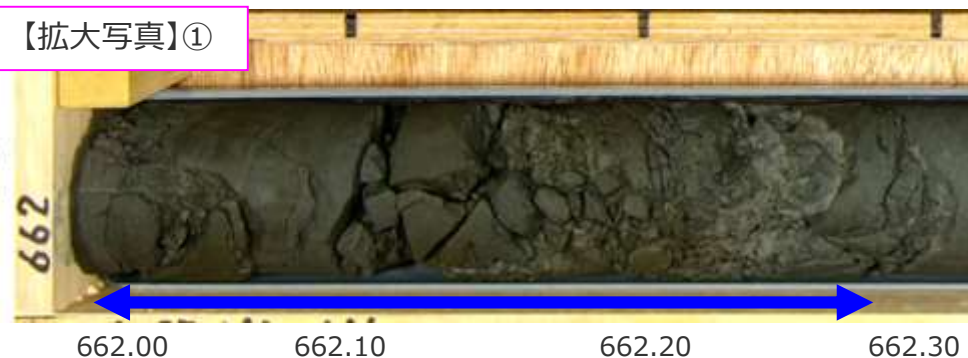
- は、開離型断層と、同断層の上盤が岩片状~粒状となっているが、詳細に見ると、水平割れ目と高角な断層の間のコアが不均質に割れており、断層部では変質粘土が脈状に発達している。

（区間②；662.63～662.75m）

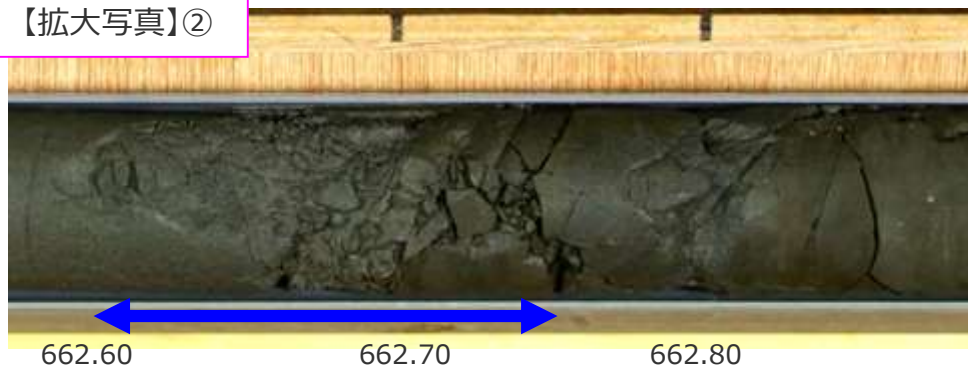
- コアは岩片状となっているが、上部に高角な割れ目と下部の水平な割れ目の間のコアが不均質に割れている。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

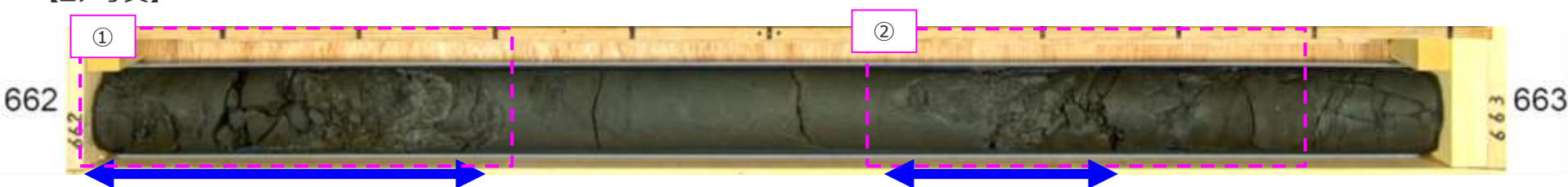
【拡大写真】①



【拡大写真】②



【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.40断層（深度663.00～663.65m）

【柱状図】

・ 663.30～663.65コア欠

コア長：-

【解釈】

- ・ 663.30～663.65mのコア欠けは、高角な断層面は認められず、水平な割れ目（コア昇降部）で流出している。
- ・ また、同区間前後の小規模な岩片状のコアは、明瞭な断層面が認められず、コアが不均質に割れている。
- ・ これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

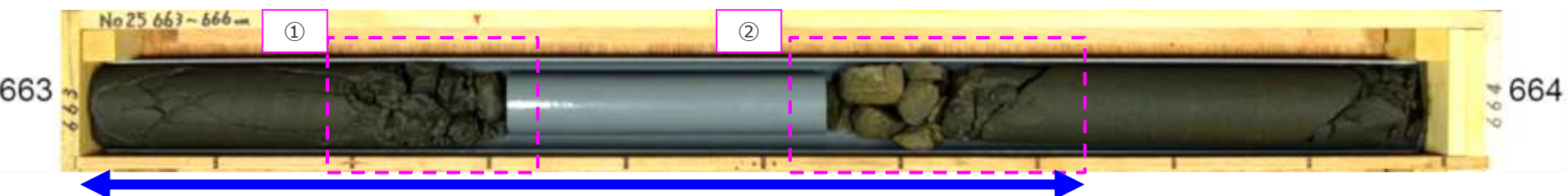
【拡大写真】①



【拡大写真】②

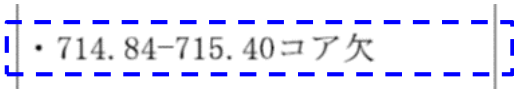


【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.41断層（深度714.84～715.40m）

【柱状図】



コア長：-

【解釈】

- 714.84～715.40mのコア欠けは、明瞭な断層面は認められず、水平な割れ目（コア昇降部）で流出している。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



714.70

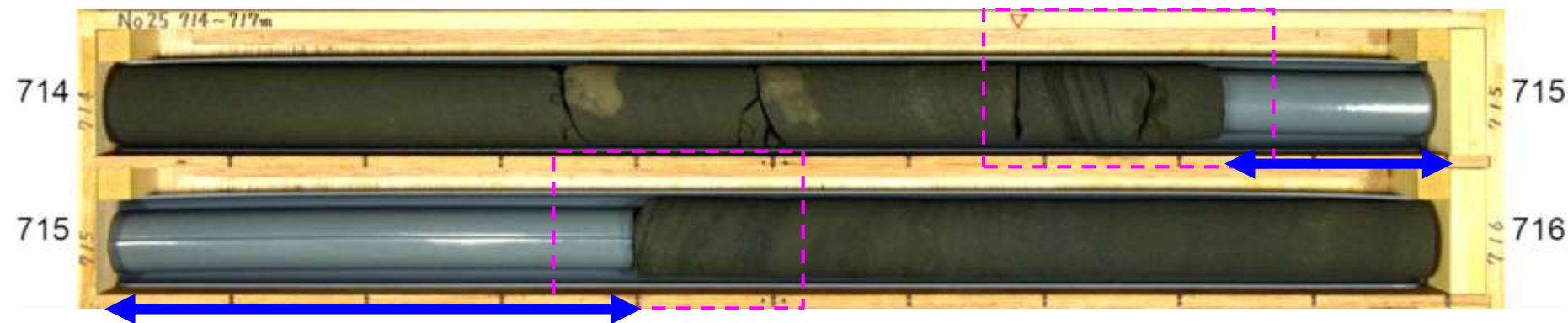
714.80



715.40

715.50

【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.42断層（深度716.50～717.65m）

【柱状図】

- 716.60開離型断層 $\angle 80^\circ$
細粒物質1～3mm
- 716.50-716.72岩片状～粒状
- 717.25断層 $\angle 80^\circ$
細粒物質なし
- 717.58ゆ着型断層 $\angle 45^\circ$
- 717.20-717.65岩片状～柱状

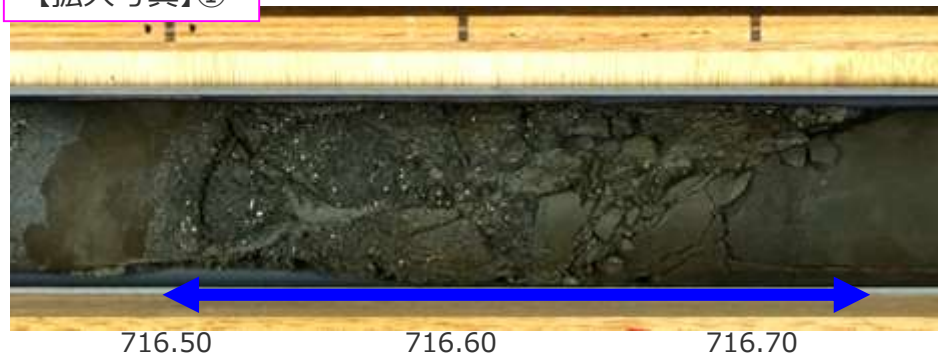
コア長：-

【解釈】

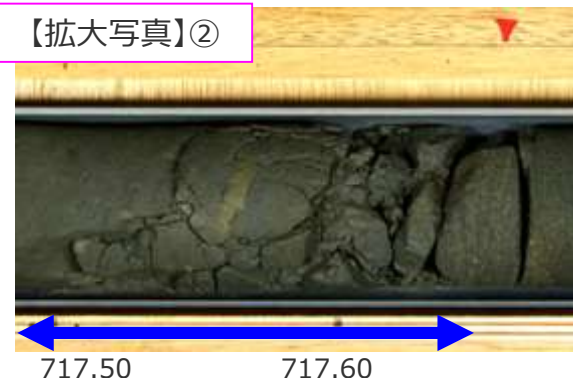
- (①, ②) 716.50～716.72mの岩片状～粒状のコアは、716.60mの高角な断層に沿って、コアが不均質に割れている。また、717.50～717.65mの岩片状～粒状のコアも、高角な断層および水平割れ目（コア昇降部）の影響で不均質に割れている。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

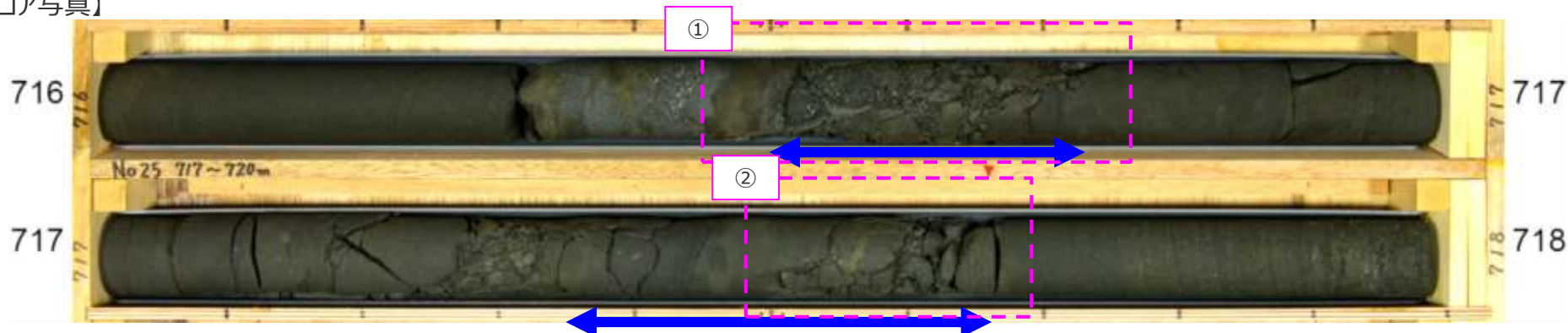
【拡大写真】①



【拡大写真】②



【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m）No.43断層（深度717.20～717.35m）

【柱状図】

・ 716.60開離型断層 $\angle 80^\circ$
細粒物質1～3mm

・ 716.50-716.72岩片状～粒状

・ 717.25断層 $\angle 80^\circ$
細粒物質なし

・ 717.58ゆ着型断層 $\angle 45^\circ$

・ 717.20-717.65岩片状～柱状

コア長：-

【解釈】

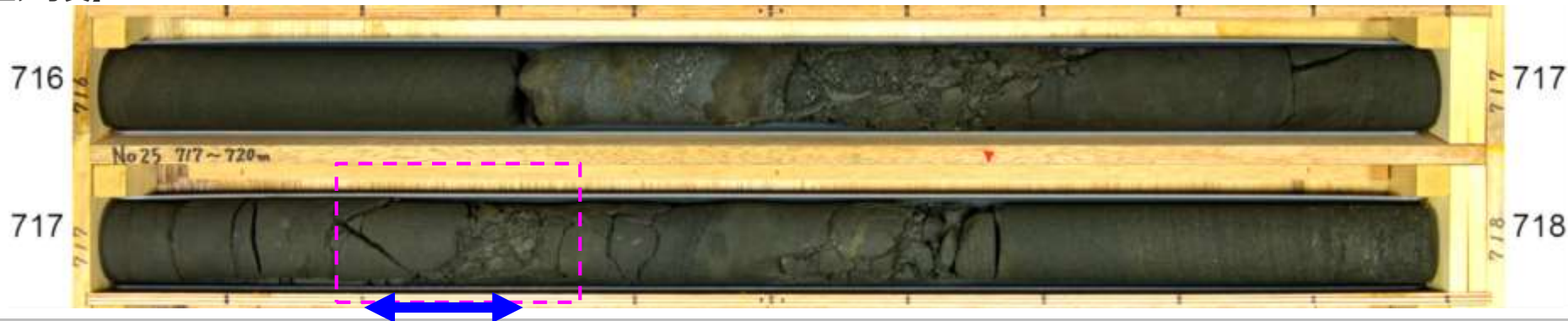
- ・ 717.20～717.35mは、明瞭な断層面は認められず、高角な断層に沿って、コアが不均質に割れている。（泥岩礫が砂層中に取り込まれている）
- ・ これらのことから、本断層は幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.44断層（深度756.55～759.90m）

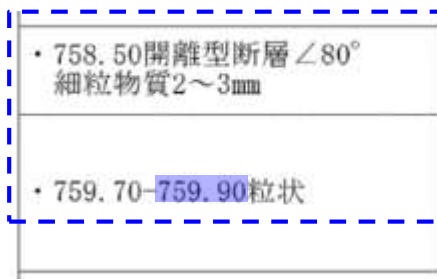
コア長：－

【解釈】

- (①, ③) 粒状のコア (①は記事無し) は、明瞭な断層面が認められず、水平割れ目が卓越し、不均質に割れている。
- (②) 758.50mの開離型断層と、上部の水平割れ目との間のコアが不均質に割れており、断層部では変質粘土が脈状に発達している。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【柱状図】



【拡大写真】①



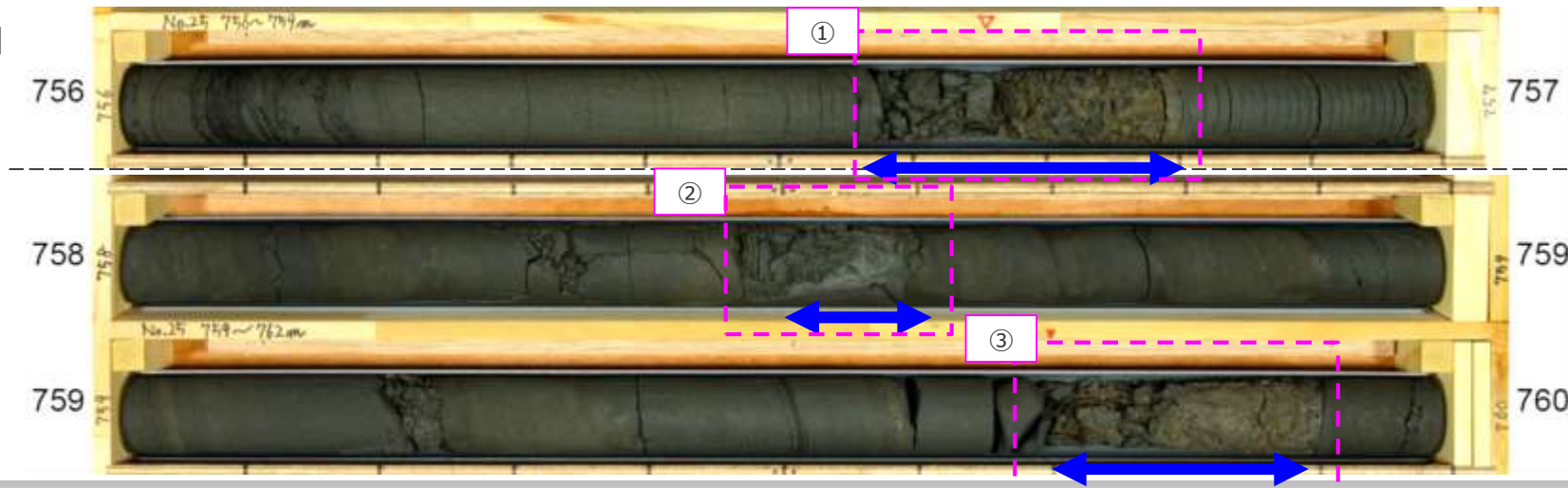
【拡大写真】②



【拡大写真】③



【コア写真】



W25孔（孔口標高6.02m） No.45断層（深度795.85～796.00m）

【柱状図】

・ 795.85開離型断層 $\angle 60^\circ$
細粒物質1mm

・ 795.85-796.00粒状

コア長：-

【解釈】

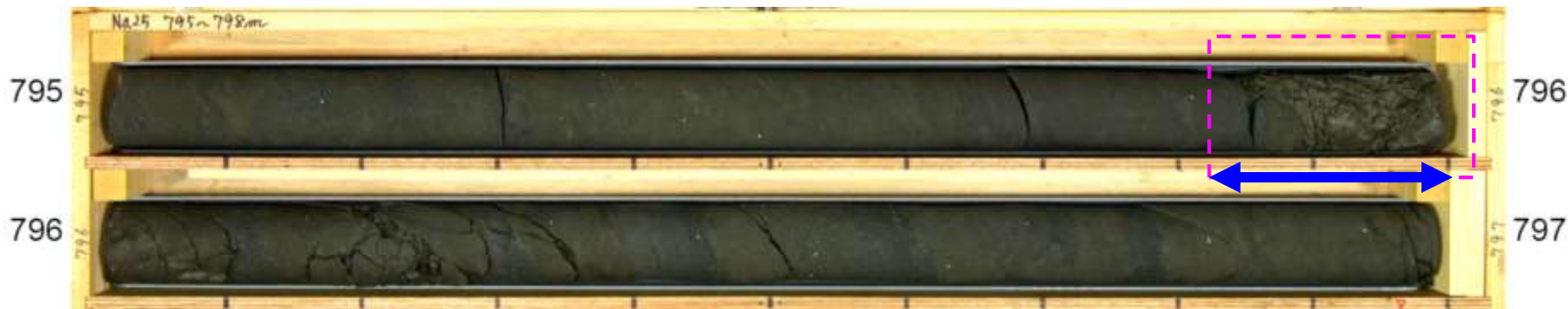
- ・ 795.85mに高角な開離型断層が認められ、断層の下部が粒状となっている。
- ・ 粒状のコアは、水平割れ目となっており、高角な断層と水平割れ目の間で、コアが不均質に割れている。
- ・ これらのことから、本断層は幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



【コア写真】



(2)

断層カード集 (No.8孔)

No.8孔 (孔口標高6.35m) No.1断層 (深度14.37~15.98m)

【柱状図】

- 14.37~14.91m ゆ着型断層発達
- 15.04m ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$
- 15.00~15.10m 岩片状
- 15.17m ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$
- 15.39m ゆ着型断層 $\angle 30^\circ$
- 15.69m ゆ着型断層 $\angle 70^\circ$
- 15.54~15.70m 岩片状
- 15.88m ゆ着型断層 $\angle 30^\circ$
- 15.91m ゆ着型断層 $\angle 30^\circ$
- 15.98m ゆ着型断層 $\angle 20^\circ$

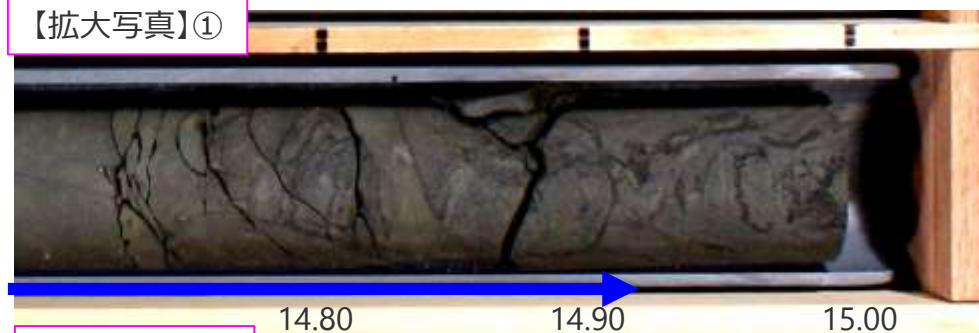
コア長：-

【解釈】

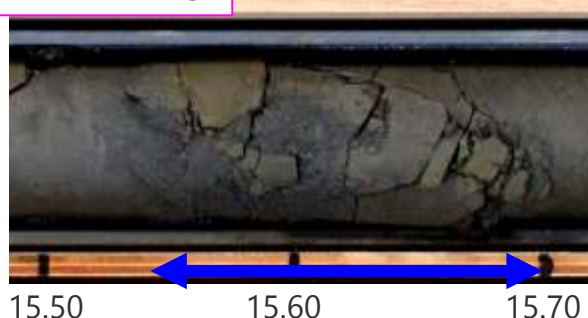
- 14.37~14.91mでは、ゆ着型断層が密集しており、コアに亀裂が多く見られる。層理面は不鮮明であるが、明瞭な高角の断層面、コアの細片化は認められない。
- 15.54~15.70mの岩片状のコアも、明瞭な高角の断層面は認められず、コアの一部が不均質に割れている。
- これらのことから、本断層は幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】①



【拡大写真】②



【コア写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.2断層（深度43.05～43.17m）

【柱状図】

41.05～41.60m	岩片状～粒状
41.70～41.85m	粒状
42.73m	ゆ着型断層 $\angle 90^\circ$
43.00m	ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$
43.05m	$\angle 60^\circ$ 開離型断層 細粒物質の幅は1mm
43.05～43.17m	は砂と泥が混在
43.17m	$\angle 60^\circ$ 開離型断層 細粒物質の幅1mm
43.62m	ゆ着型断層 $\angle 20^\circ$ $\angle 80^\circ$
43.75m	ゆ着型断層 $\angle 75^\circ$

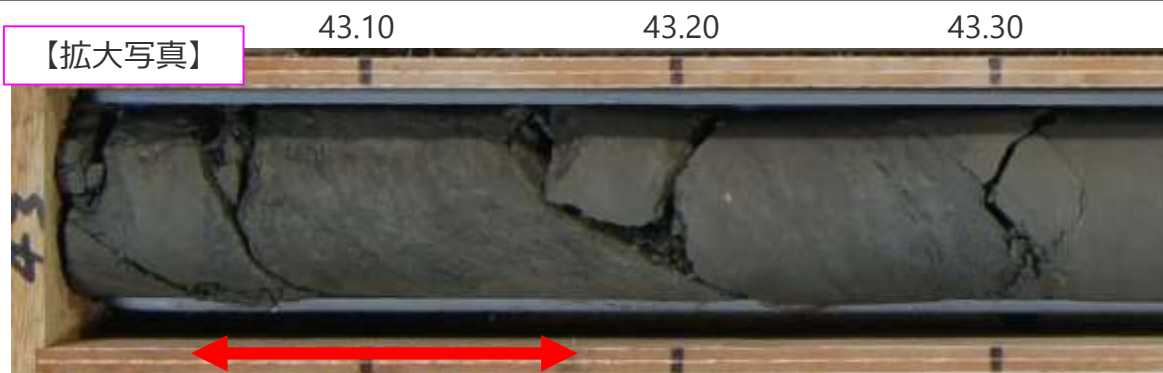
コア長：0.12m（断層幅：0.06m）

【解釈】

- コアでは、高角な開離型断層が2条と、その間の地層が、砂と泥が混在している。
- また、43.20～43.30mの層理面も若干急傾斜となっており、上部断層のひきずりと解釈できる。
- これらのことから、本断層は、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

【拡大写真】



【コア写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.3断層（深度45.00～45.40m）

【柱状図】

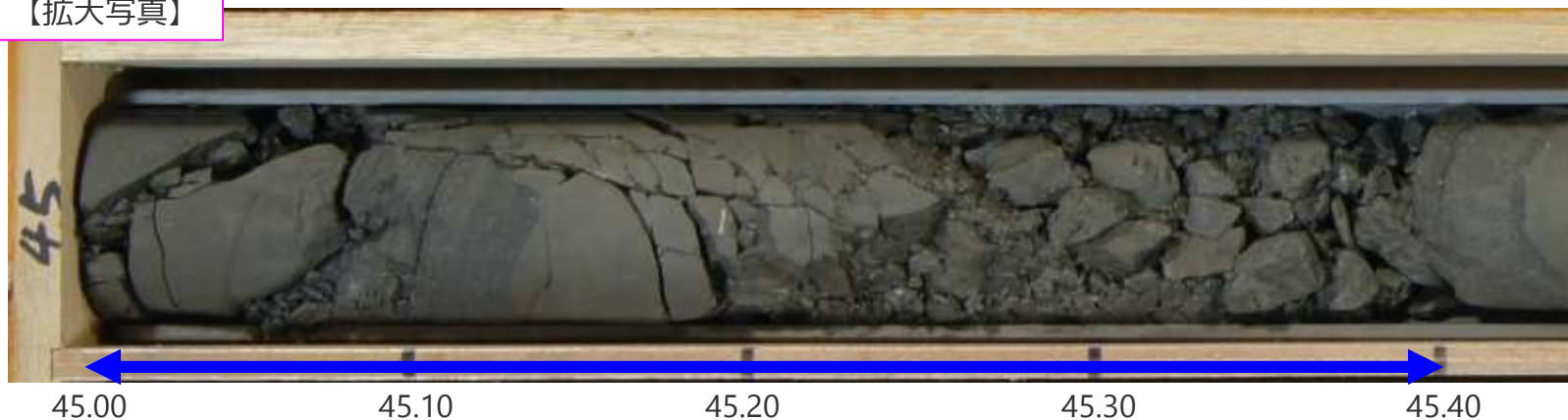
45.00～45.40m 岩片状
45.81m ゆ着型断層 $\angle 30^\circ$
 $\angle 45^\circ$

コア長：-

【解釈】

- コアは岩片状になっているが、高角な断層に沿って不均質に割れており、下部は水平割れ目を境界としている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



【コア写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.4断層（深度91.73～91.97m）

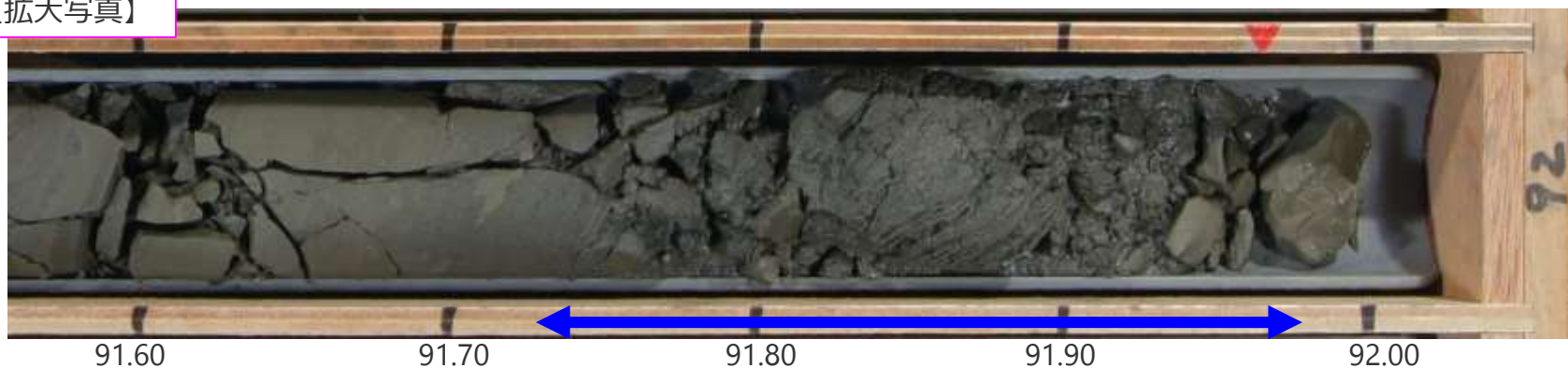
【柱状図】

91.05～91.37m ゆ着型断層発達
91.55～91.63m 岩片状
91.73～91.97m 岩片状～粒状

コア長：－

- コアは岩片状～粒状になっているが、明瞭な断層面は認められず、コアが不均質に割れていること、下部は水平な割れ目（コア昇降部）を境界としている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



【コア写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.5断層（深度96.47～96.67m）

【柱状図】

96.47～96.67m 岩片状

コア長：-

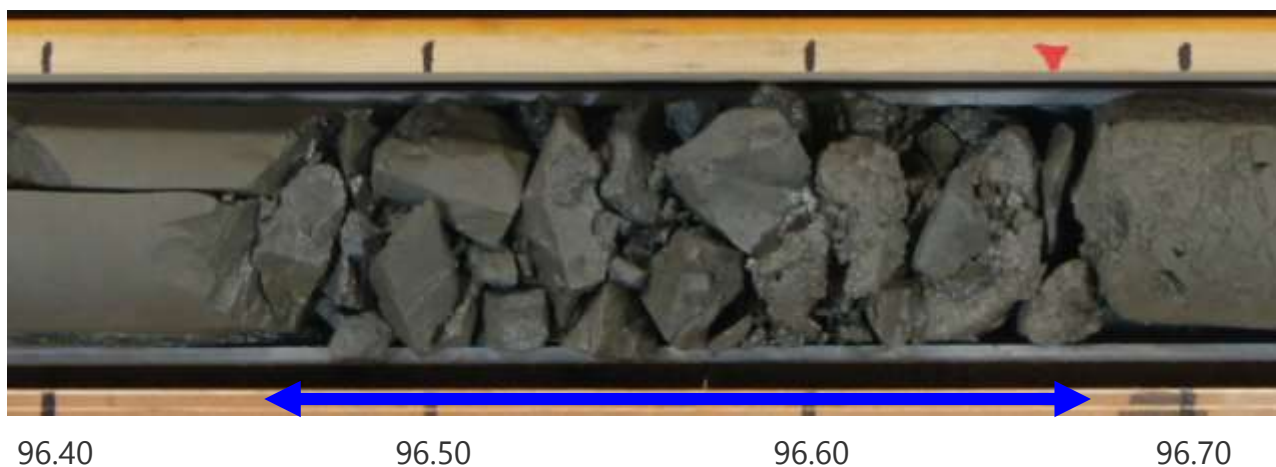
【解釈】

- 岩片状だが、水平割れ目（下部はコア昇降部）を境界とし、不均質に割れており、高角な断層面も認められない。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



【拡大写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.6断層（深度97.10～97.38m）

【柱状図】

97.10m_∠50° 開離型断層。細粒物質の幅1mm。
97.10～97.38m 粒状。砂岩と泥岩が入り混じる。
97.30m_∠50° 開離型断層。細粒物質の幅1mm。
97.83～97.92m 岩片状

コア長：0.28m（断層幅：0.18m）

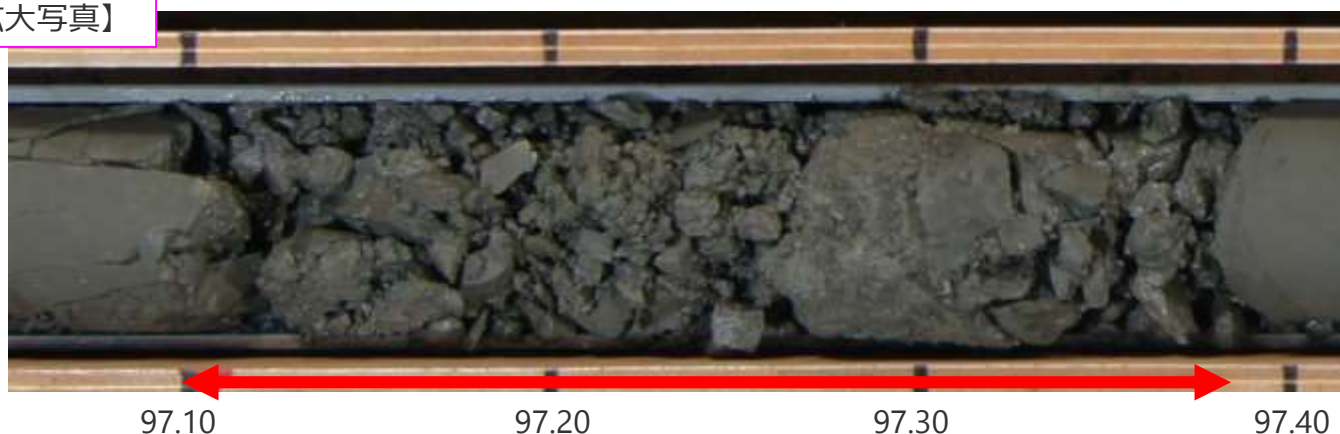
【解釈】

- 開離型断層が1条と、同断層の周囲が粒状となっている。
- 上下の水平割れ目を境界とするが、高角な断層面と、同断層沿いに砂岩と泥岩が入り混じっている。
- これらのことから、本断層は、幅を持つ断層と解釈する
⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

【コア写真】



【拡大写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.7断層（深度100.65～101.35m）

【柱状図】

100.55～100.65m岩片状。
100.65m、 $\angle 55^\circ$ 開離型断層。
細粒物質の幅1mm。
100.65～101.35m砂岩がレンズ状を呈し、泥岩と砂岩が混在している。
100.78m、 $\angle 60^\circ$ 開離型断層。
細粒物質の幅1mm
100.65～101.50m粒状～岩片状
101.35m、 $\angle 70^\circ$ 開離型断層。
細粒物質の幅1mm。
101.50m、 $\angle 60^\circ$ 開離型断層。
細粒物質の幅1mm。
102.10～102.25m岩片状
102.20m、 $\angle 70^\circ$ 開離型断層。
細粒物質の幅5mm。
102.30～102.65m粒状～岩片状。砂岩と泥岩が入り混じる。
102.60m、 $\angle 70^\circ$ 開離型断層。
細粒物質の幅5mm。

コア長：0.70m（断層幅:0.35m）

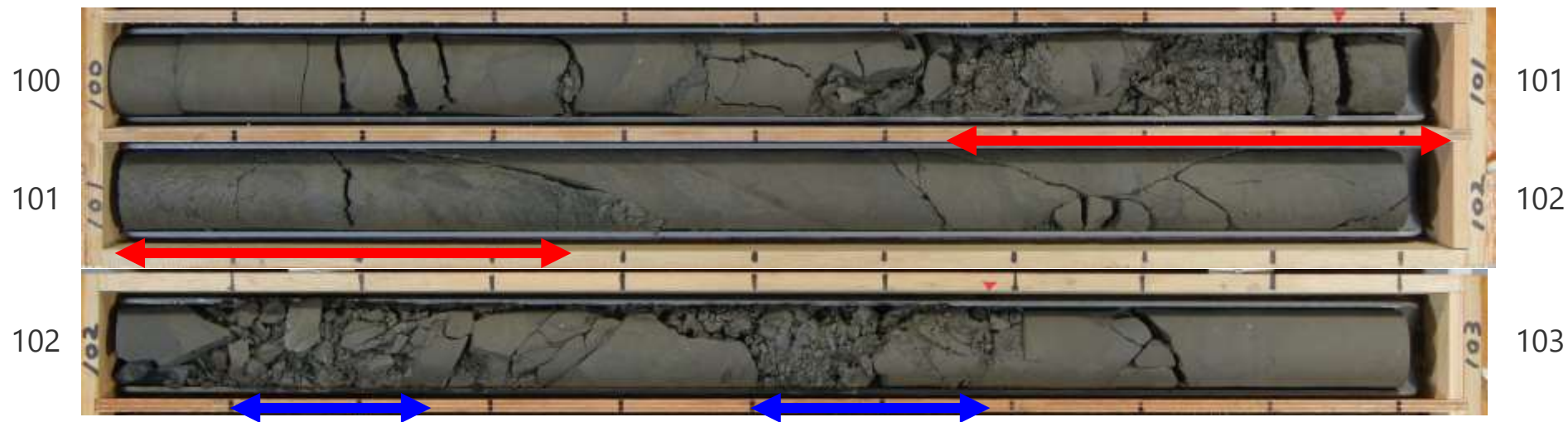
【解釈】

- 複数の開離型断層と、その間の区間が、砂岩がレンズ状を呈し、泥岩と砂岩が混在し、粒状～岩片状となっている。
- ただし、100.65～100.78mの間のコアは健岩と解釈される。
- これらのことから、本断層は、100.78～101.50mの区間について、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

（なお、上記断層の下部、102.20m、102.60mには、それぞれ高角な断層と、断層周囲のコアが粒状～岩片状、砂岩と泥岩が入り混じっているが、これらは明瞭な断層面が1条のみで、コアが不均質に割れていることから、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。）

【コア写真】



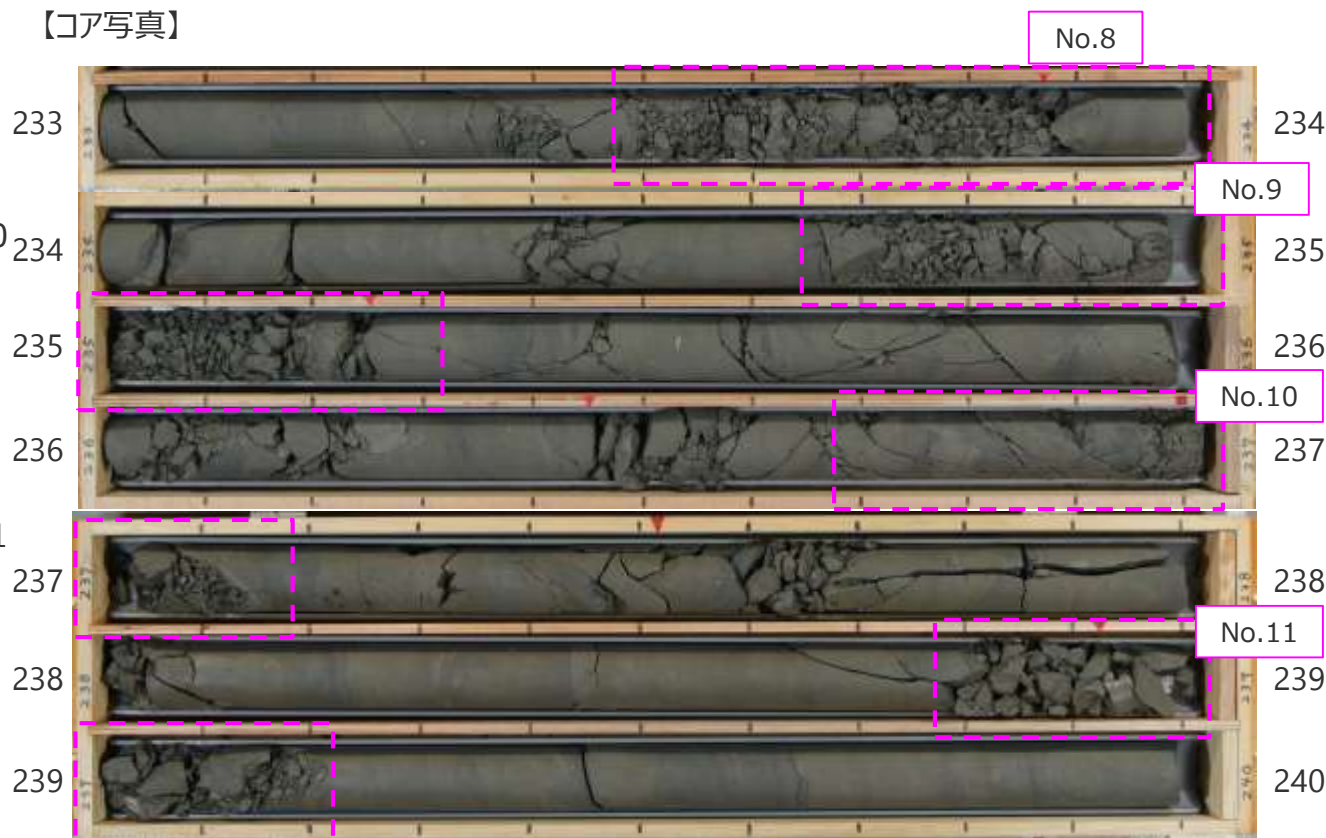
No.8孔 (孔口標高6.35m) No.8,9,10,11断層 (深度233.00~240.00m)

【柱状図】

233.50~233.88m 岩片状~粒状	No.8
234.87m ∠60° 開離型断層 細粒物質の幅は1mm 砂岩はレンズ状を呈する。	No.9
235.23m ∠70° 開離型断層 細粒物質の幅は1mm	
234.71~235.25m 岩片状~粒状	
235.30~235.82m ゆ着型断層発達	
236.04~236.12m 岩片状	
236.85m ∠55° 開離型断層 細粒物質の幅は1~2mm	No.10
236.90m ∠55° 開離型断層 細粒物質の幅は1~2mm	
237.12m ∠60° 開離型断層 細粒物質の幅は2~5mm	
236.83~237.16m 岩片状~粒状	
238.80~239.20m 岩片状	No.11
239.20m ∠70° 開離型断層 細粒物質の幅は1mm	

• この区間は、開離型断層および同断層に関連すると考えられる岩片状~粒状のコアが散見されるため、以下、4つ (No.8,9,10,11断層)に分けて、それぞれ個別に解釈を行う。

【コア写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.8断層（深度233.50～233.88m）

【柱状図】

233.50～233.88m 岩片状～粒状

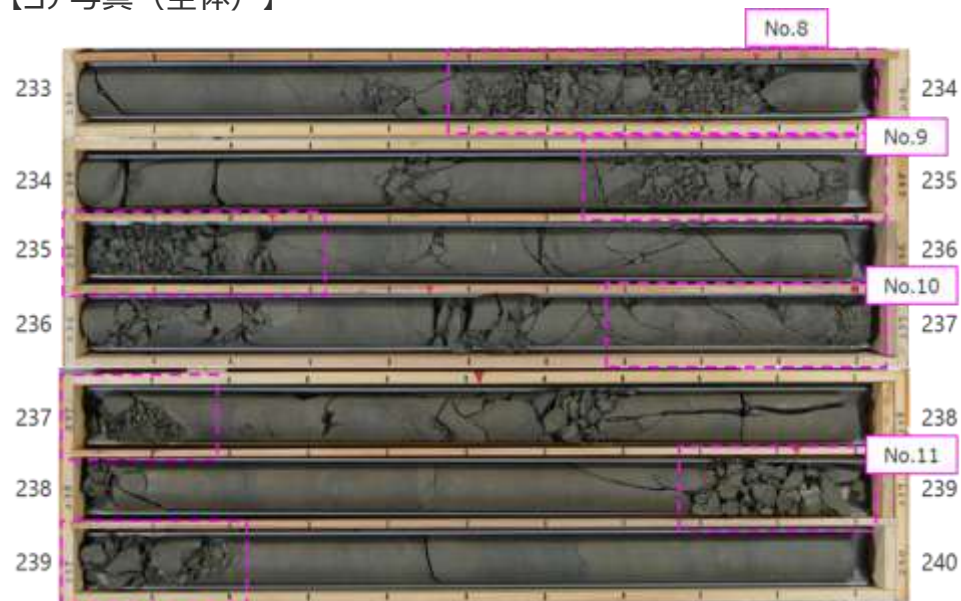
コア長：－

【解釈】

- コアは不均質に割れており、明瞭な高角の断層面が認められない。また、下部は水平割れ目（コア昇降部）を境界としている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真（全体）】



【拡大写真】

233.50

233.60

233.70

233.80

233.90

234.00



No.8孔（孔口標高6.35m） No.9断層（深度234.71~235.23m）

【柱状図】

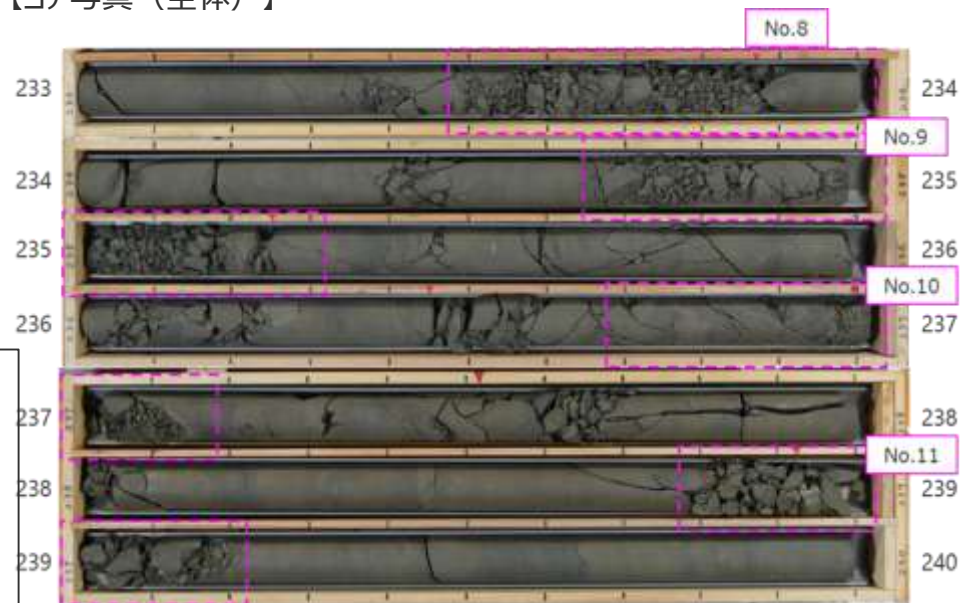
234.87m ∠60° 開離型断層
細粒物質の幅は1mm
砂岩はレンズ状を呈する。
235.23m ∠70° 開離型断層
細粒物質の幅は1mm
234.71~235.25m 岩片状~粒状

コア長：-

- 高角な開離型断層が2条，その間が岩片状~粒状となっている。
- コアは不均質に割れており，断層間には健岩部も確認される。また，下部は水平割れ目（コア昇降部）を境界としている。
- これらのことから，本構造は，掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真（全体）】



【拡大写真】

234.70 234.80 234.90 235.00 235.10 235.20 235.30



No.8孔（孔口標高6.35m） No.10断層（深度236.85～237.12m）

【柱状図】

236.85m ∠55° 開離型断層
 細粒物質の幅は1～2mm
 236.90m ∠55° 開離型断層
 細粒物質の幅は1～2mm
 237.12m ∠60° 開離型断層
 細粒物質の幅は2～5mm
 236.83～237.16m 岩片状～粒状

コア長：0.27m（断層幅：0.15m）

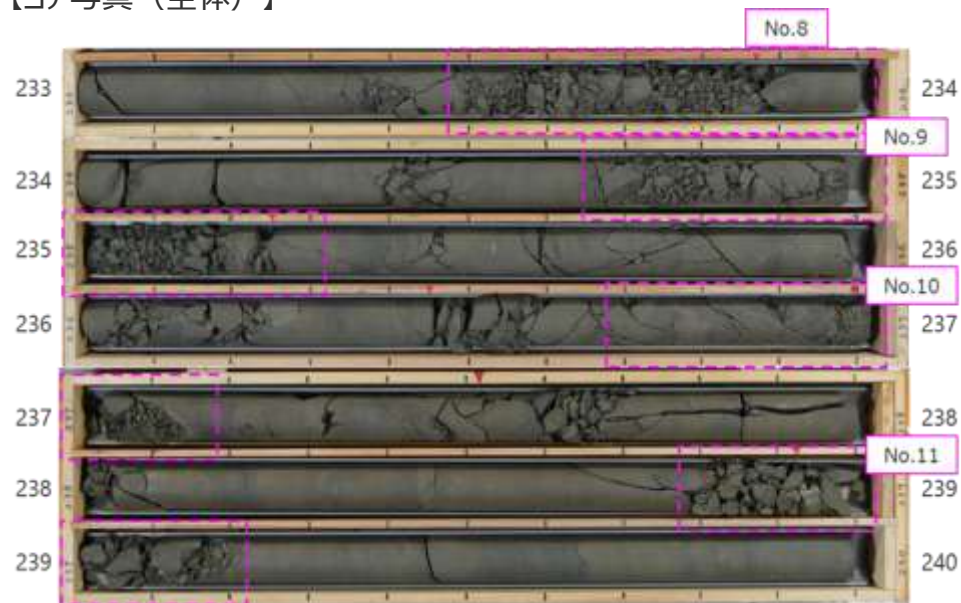
【解釈】

- 高角な開離型断層が3条と、その間が岩片状～粒状となっている。
- 一部はコア昇降部による破碎も含まれるが、断層間の層理面が不明瞭となっており、さらに上盤側の断層（236.85m）の上部に引きずり構造も確認される。

• これらのことから、本断層は、幅を持つ断層と解釈する。

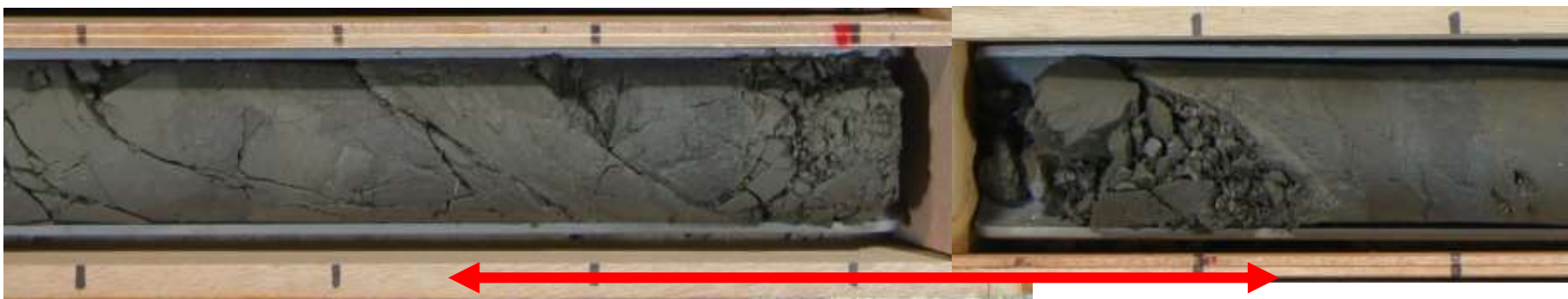
⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

【コア写真（全体）】



【拡大写真】

236.70 236.80 236.90 237.00 237.10 237.20



No.8孔（孔口標高6.35m） No.11断層（深度238.80~239.20m）

【柱状図】

236.83~237.16m 岩片状~粒状

238.80~239.20m 岩片状

239.20m $\angle 70^\circ$ 開離型断層

細粒物質の幅は1mm

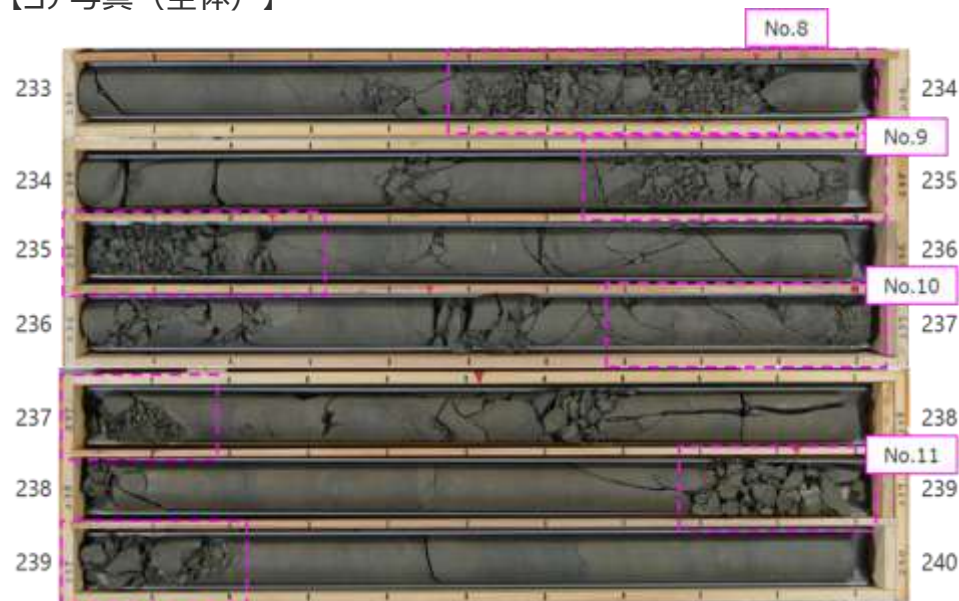
コア長：-

【解釈】

- 下盤側に開離型断層が認められるが、上部には高角な断層面は認められず、コアも不均質に破碎している。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層と、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真（全体）】



【拡大写真】

238.80

238.90

239.00

239.10

239.20



No.8孔（孔口標高6.35m） No.12断層（深度252.90～253.40m）

【柱状図】

252.84m ∠60° 開離型断層
細粒物質の幅は1mm

252.90m ∠60° 開離型断層
細粒物質の幅は1mm

252.90～253.20m 岩片状～粒状

253.32～253.40m 岩片状

253.40m ∠75° 開離型断層
細粒物質の幅は2～10mm

コア長：0.50m（断層幅：0.25m）

【解釈】

- 開離型断層が上盤側に2条，その下部が岩片状から粒状となっている。
- これらのことから，本断層は，幅を持つ断層と解釈する。

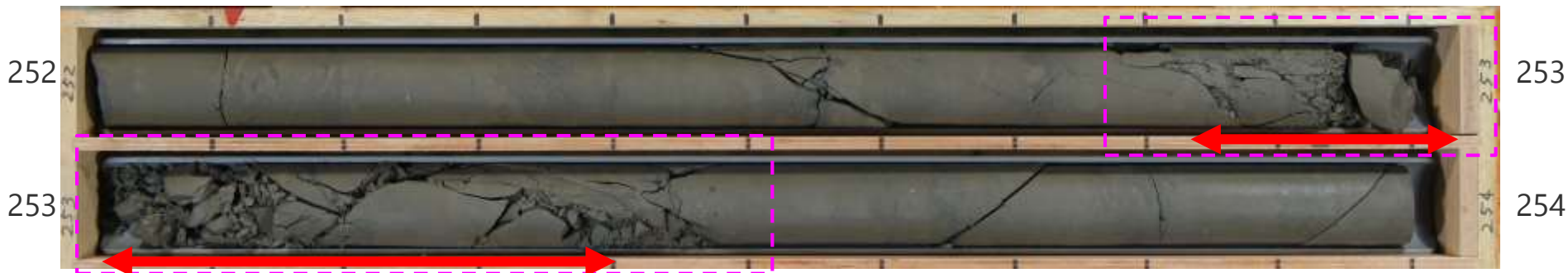
⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

（なお，下部の253.40mの開離型断層は，断層間に健岩部を挟むことから，別の断層と解釈した。）

【拡大写真】



【コア写真】



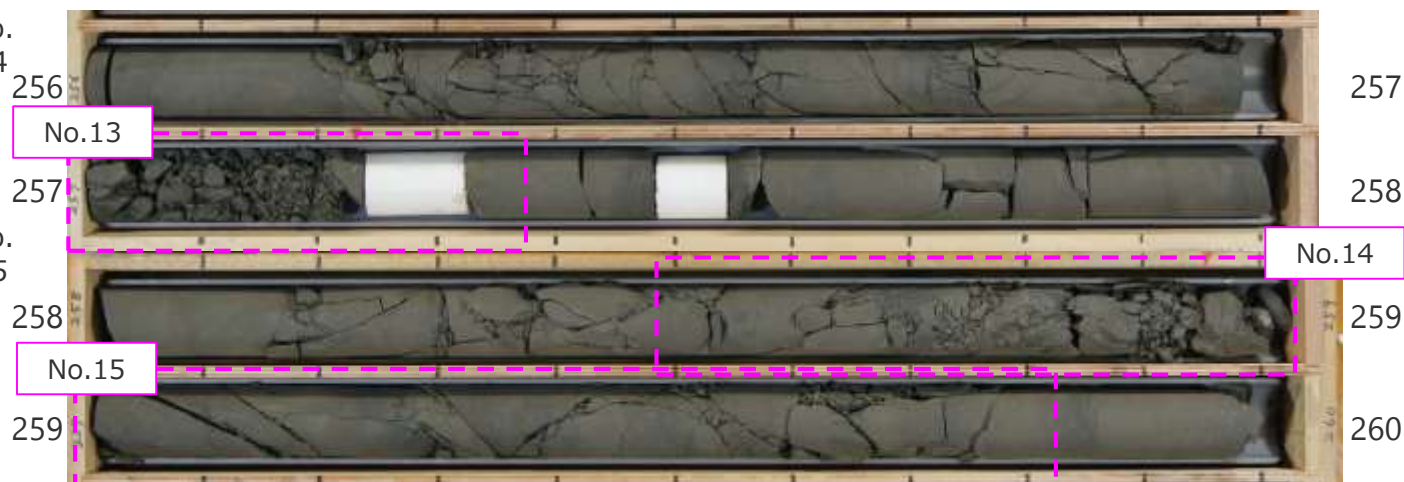
No.8孔（孔口標高6.35m） No.13,14,15断層（深度256.00～260.00m）

【柱状図】

256.22m	ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$	No. 13
256.22～256.42m	岩片状	
257.04～257.22m	岩片状～粒状	No. 14
257.22m	$\angle 60^\circ$ 開離型断層 細粒物質の幅は1mm	
257.24～257.32m	コア流出	No. 15
257.48～257.55m	コア流出	
258.76m	$\angle 70^\circ$ 開離型断層 細粒物質の幅は1～2mm	No. 14
258.83m	$\angle 70^\circ$ 開離型断層 細粒物質の幅は1～2mm	
258.70～258.95m	岩片状～粒状	No. 15
258.83～259.32m	は砂岩がレンズ状を呈する	
259.32m	$\angle 60^\circ$ 開離型断層 細粒物質の幅は1～5mm	No. 14
259.56m	$\angle 60^\circ$ 開離型断層 細粒物質の幅は1mm	

- この区間は、開離型断層および同断層に関連すると考えられる岩片状～粒状のコアが散見されるため、以下、3つ（No.13,14,15断層）に分けて、それぞれ個別に解釈を行う。

【コア写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.13断層（深度257.04～257.22m）

【柱状図】

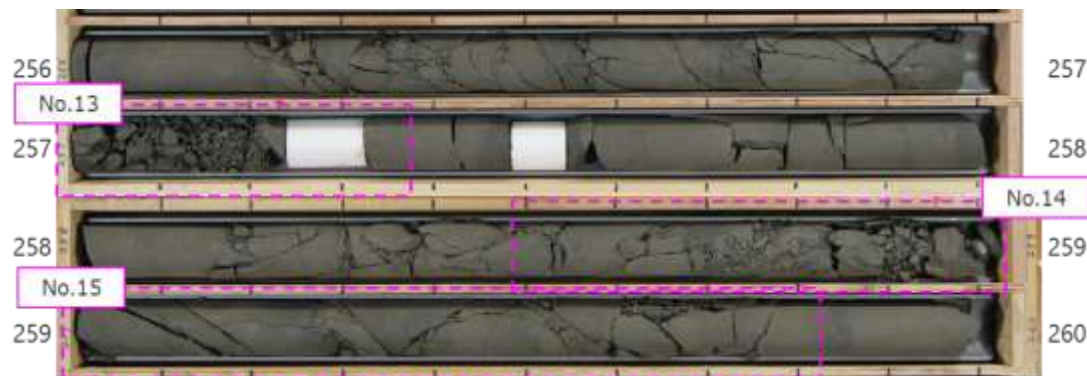
256.22m ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$
256.22～256.42m 岩片状
257.04～257.22m 岩片状～粒状
257.22m $\angle 60^\circ$ 開離型断層
細粒物質の幅は1mm
257.24～257.32m コア流出
257.48～257.55m コア流出

コア長：-

- 高角な開離型断層が1条と、その上部が岩片状～粒状となっている。
- コアは不均質に割れており、上部に高角な断層面は認められず、下部は水平割れ目（コア昇降部）を境としている。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真（全体）】



【拡大写真】

257.00 257.10 257.20 257.30

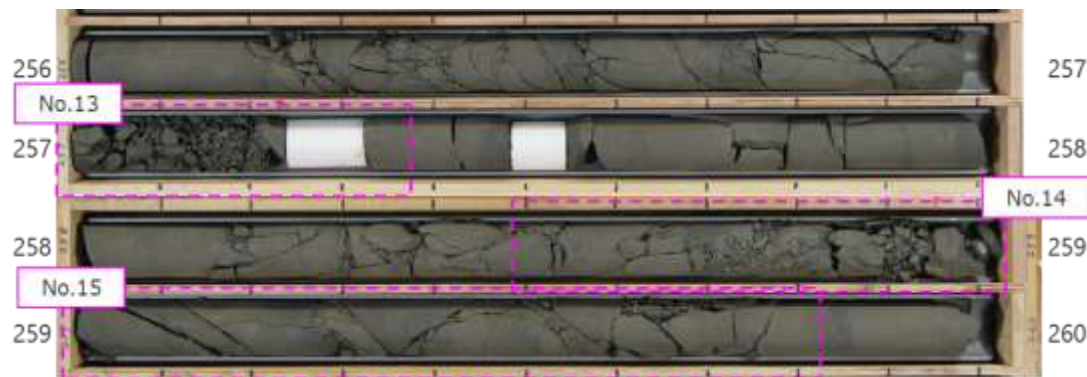


No.8孔（孔口標高6.35m） No.14断層（深度258.76～258.83m）

【柱状図】

258.76m $\angle 70^\circ$ 開離型断層
細粒物質の幅は1～2mm
258.83m $\angle 70^\circ$ 開離型断層
細粒物質の幅は1～2mm
258.70～258.95m 岩片状～粒状
258.83～259.32mは砂岩がレンズ状を呈する

【コア写真（全体）】



コア長：0.07m（断層幅：0.02m）

【解釈】

- 高角な開離型断層が上部に2条認められ、その下部が岩片状～粒状となっており、砂岩がレンズ状を呈している。
- 258.95mの水平割れ目はコア昇降部にあたる。
- これらのことから、本断層は、258.76m～258.83mの範囲について、幅を持つ断層と解釈される。ただし、断層幅は2cmであり、5cmに満たない。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】

258.50 258.60 258.70 258.80 258.90 259.00

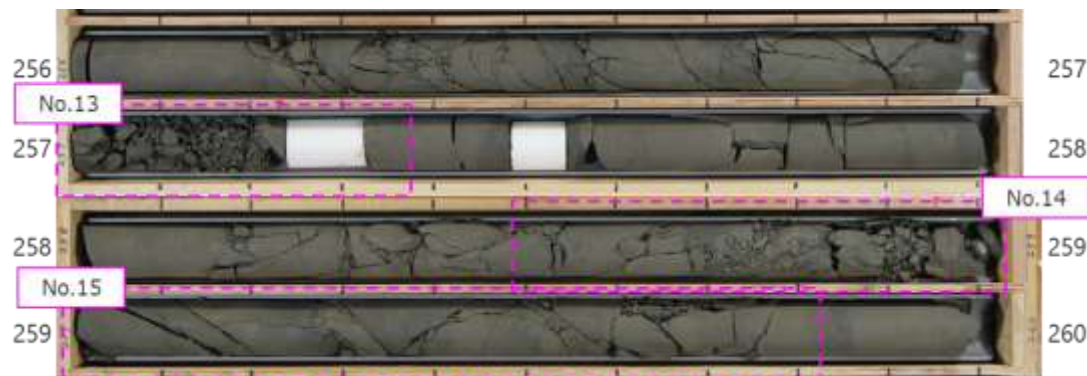


No.8孔（孔口標高6.35m） No.15断層（深度259.32～259.56m）

【柱状図】

258.83～259.32mは砂岩がレンズ状を呈する
259.32m $\angle 60^\circ$ 開離型断層
細粒物質の幅は1～5mm
259.56m $\angle 60^\circ$ 開離型断層
細粒物質の幅は1mm

【コア写真（全体）】



コア長：－

【解釈】

- ・ 高角な開離型断層が2条あるが、コアは健岩であり、層理面に变形は認められない。
- ・ これらのことから、本構造は、幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】

259.00 259.10 259.20 259.30 259.40 259.50 259.60 259.70 259.80



No.8孔（孔口標高6.35m） No.16断層（深度274.66～275.02m）

【柱状図】

274.23m ゆ着型断層 $\angle 30^\circ$
274.32m ゆ着型断層 $\angle 15^\circ$
274.47m ゆ着型断層 $\angle 50^\circ$
274.66～275.02m 岩片状
275.58m ゆ着型断層 $\angle 50^\circ$
275.77m ゆ着型断層 $\angle 35^\circ$
275.87m ゆ着型断層 $\angle 55^\circ$

コア長：-

【解釈】

- コアは岩片状であるが、網目状のき裂はあるものの、明瞭な高角の断層面は認められず、上部、下部ともに水平割れ目（下部はコア昇降部）を境界としている。
- これらのことから、本構造は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



【コア写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.17断層（深度282.60～282.91m）

【柱状図】

282.53m ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$
282.60m ゆ着型断層 $\angle 50^\circ$
282.60～282.91m 岩片状
282.95～283.00m コア流出

コア長：-

【解釈】

- コアでは、282.60～282.91mの範囲が岩片状となっているが、明瞭な高角の断層面は認められず、コアも不均質に割れている。
- コア欠け部との境界も含め、ほぼ水平な割れ目が卓越している。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



【コア写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.18断層（深度288.84~289.10m）

【柱状図】

288.84m $\angle 70^\circ$ 開離型断層
細粒物質は幅が5mm
288.82~289.00m 岩片状
289.10m ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$

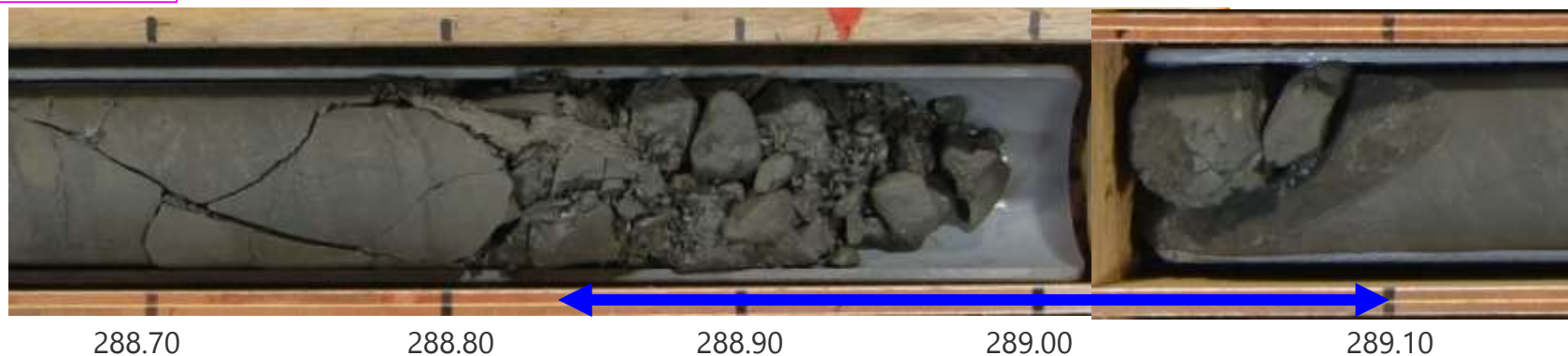
コア長：-

【解釈】

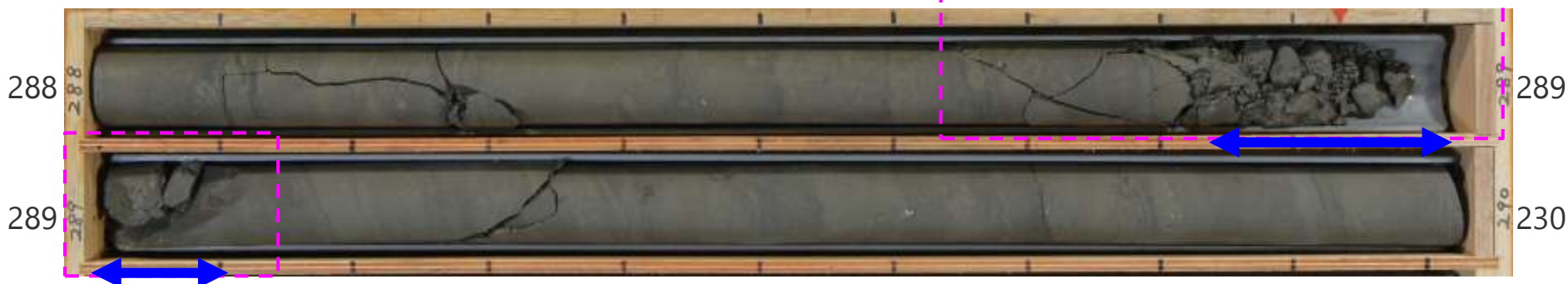
- 上盤側に高角な開離型断層，下盤に高角なゆ着型断層があり，間が岩片状となっている。
- コアは，コア昇降部も含め，不均質に割れている。
- これらのことから，本構造は，幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



【コア写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.19断層（深度298.27～298.40m）

【柱状図】

298.40m ゆ着型断層 $\angle 65^\circ$
298.27～298.47m 岩片状～粒状

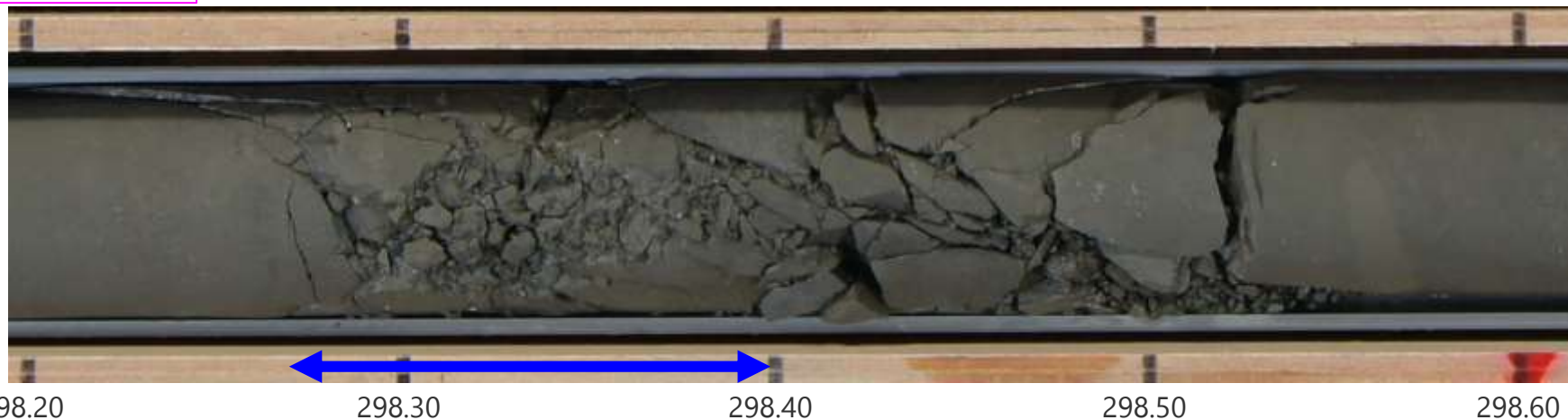
コア長：－

【解釈】

- コアは高角なゆ着型断層と、その上部が岩片状～粒状になっている。
- コアは、ゆ着型断層沿いに、ごく部分的に不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



【コア写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.20断層（深度304.27～304.51m）

【柱状図】

304.13m ゆ着型断層 $\angle 40^\circ$
304.21m ゆ着型断層 $\angle 30^\circ$
304.27～304.34m コア流出
304.34～304.51m 岩片状
304.51m $\angle 40^\circ$ 開離型断層
細粒物質の幅は1mm
304.71～304.81m
白色凝灰岩 K-5u。
305.11m ゆ着型断層 $\angle 35^\circ$
305.29m レンズ状凝灰岩

コア長：－

【解釈】

- 開離型断層と、その上部がコア流出、岩片状となっている。
- 下部は高角な断層面が認められるが、上部はコア昇降部に当たり、コアも不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

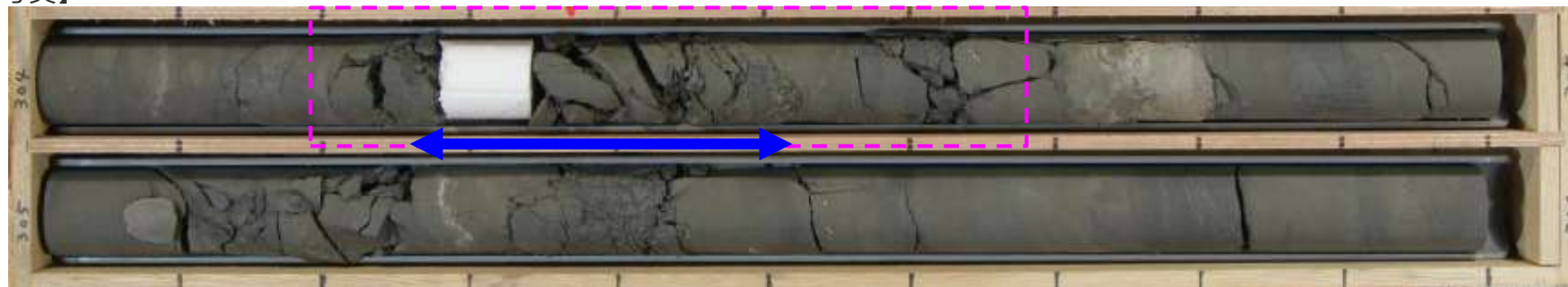
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



304.20 304.30 304.40 304.50 304.60

【コア写真】



No.8孔 (孔口標高6.35m) No.21断層 (深度367.90~368.13m)

【柱状図】

367.70m ゆ着型断層 $\angle 60^\circ$
 $\angle 75^\circ$
 367.90m $\angle 55^\circ$ 開離型断層
 細粒物質の幅は1mm
 367.90~368.13m 岩片状
 368.13m $\angle 65^\circ$ 開離型断層
 細粒物質の幅は1mm

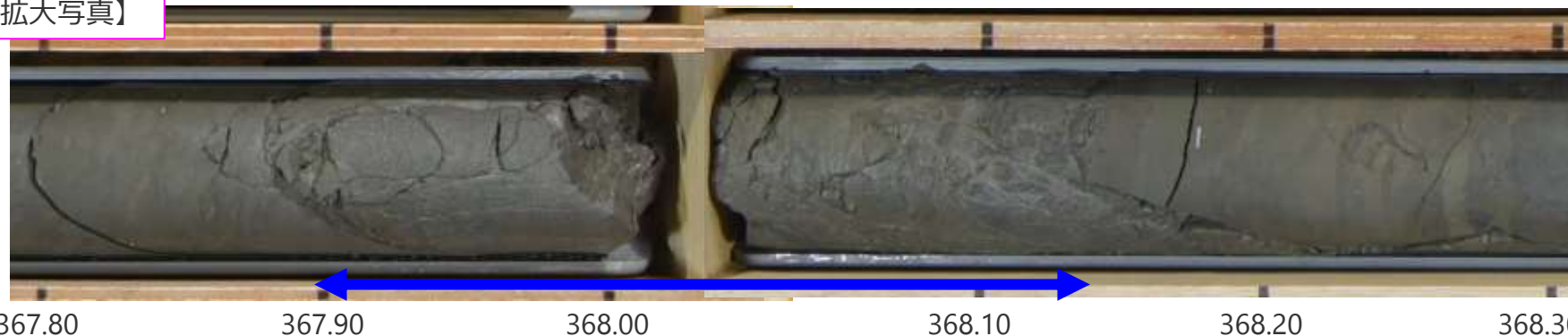
コア長：-

【解釈】

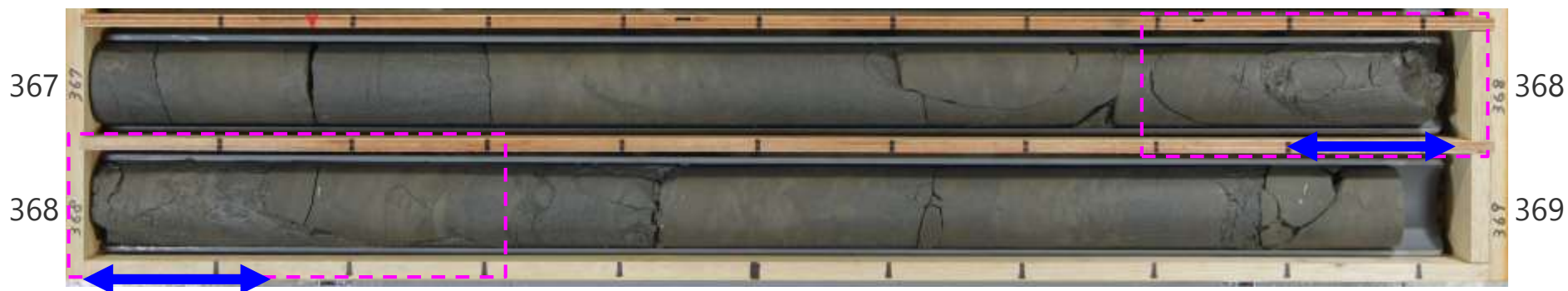
- コアは、高角な2条の開離型断層と、その間が岩片状となっている。
- 岩片状コアを詳細に見ると、脈状の変質粘土が発達しているが、コアはほぼ健岩であり、細片化は認められない。
- これらのことから、本構造は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



【コア写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.22断層（深度399.19～399.32m）

【柱状図】

399.19～399.32m 粒状
399.32m $\angle 75^\circ$ 開離型断層
細粒物質の幅は1mm

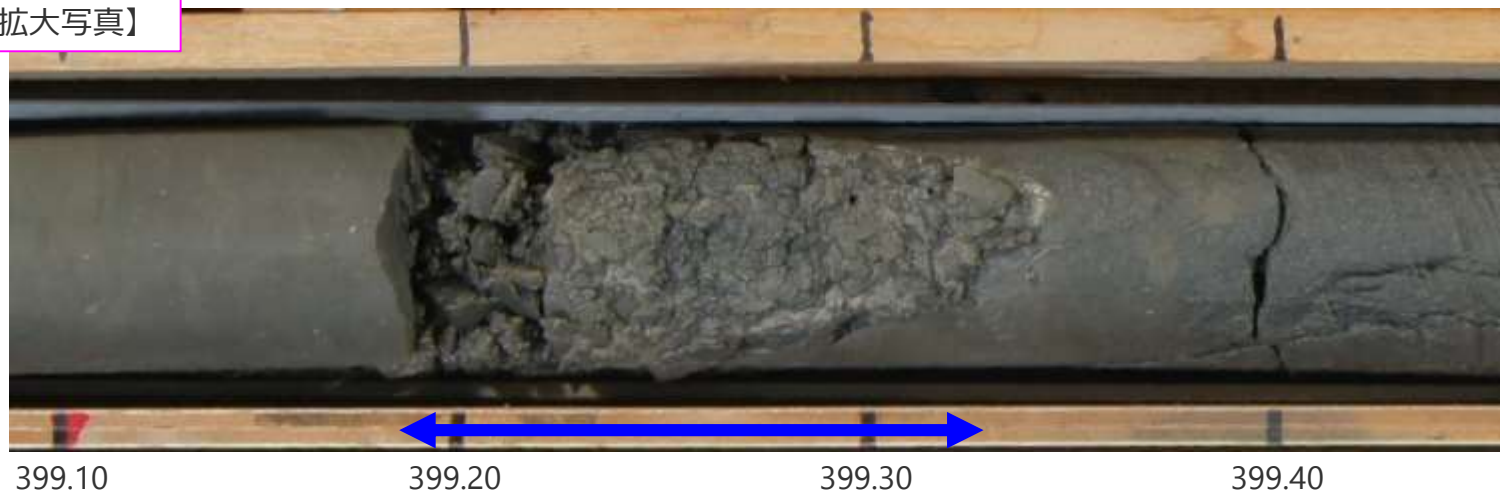
コア長：-

【解釈】

- 開離型断層と、その上部が粒状となっている。
- 粒状のコアは、上部を水平割れ目を境界とし、断層と孔壁、水平割れ目の間のみが不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



【コア写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.23断層（深度487.81~488.24m）

【柱状図】

487.81m ∠50° 開離型断層
 細粒物質の幅は2mm
 488.08m ∠80° 開離型断層
 細粒物質の幅は1~5mm
 488.24m ∠70° 開離型断層
 細粒物質の幅は5~10mm

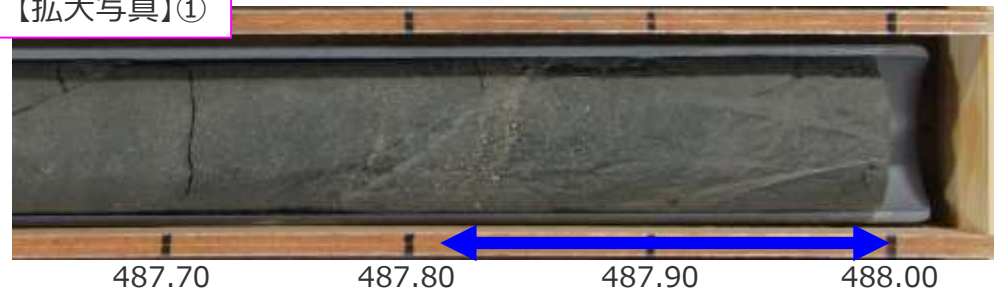
コア長：-

【解釈】

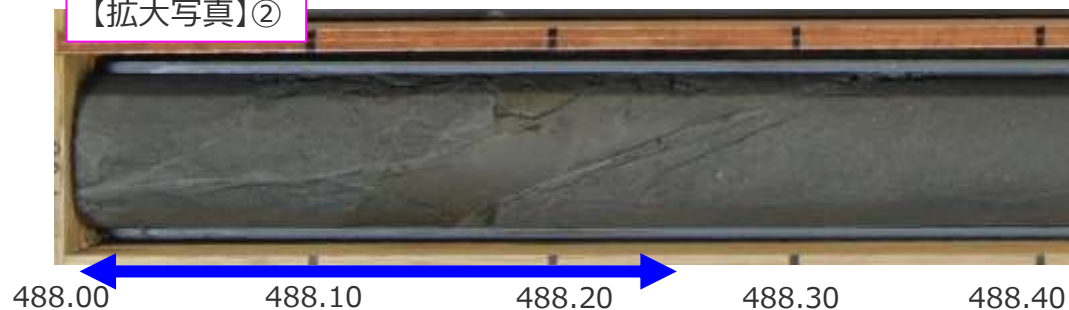
- 高角な開離型断層が散見され、487.81m, 488.08m, 488.24mに高角な開離型断層が認められ、断層面に沿って、脈状に変質粘土が発達している。
- ただし、コアに細片化は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】①



【拡大写真】②



【コア写真】



No.8孔（孔口標高6.35m） No.24断層（深度588.63～589.17m）

【柱状図】

588.91m ゆ着型断層 $\angle 45^\circ$
588.63～589.17m 岩片状
589.91m ゆ着型断層 $\angle 55^\circ$

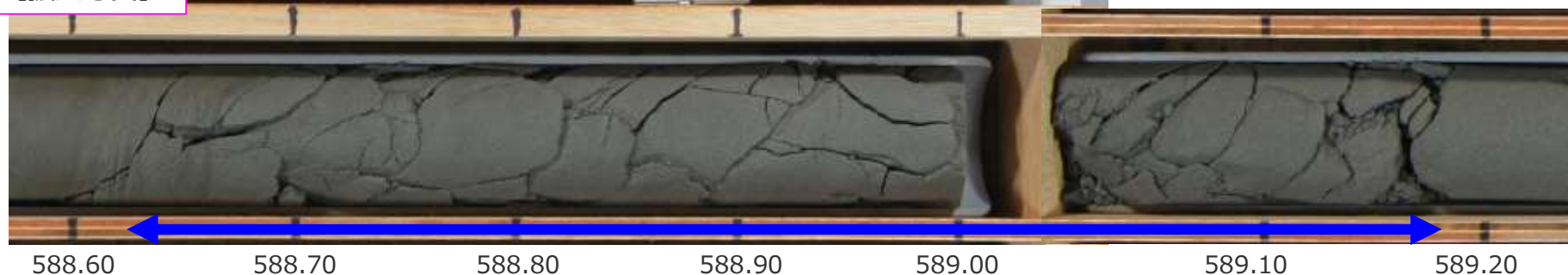
コア長：－

【解釈】

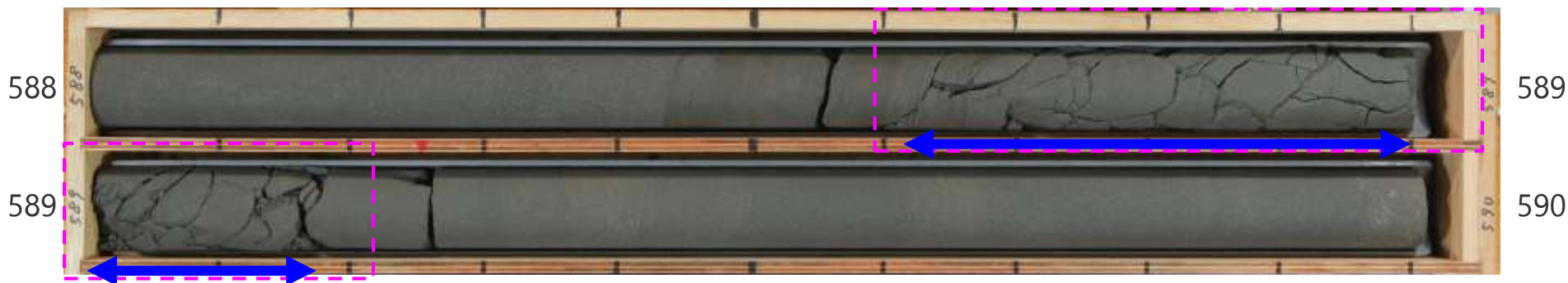
- コアは記事では岩片状となっているが，細かい亀裂が発達するものの，明瞭な断層面は認められず，流動的な変形構造（コアの細片化や急傾斜構造）は認められない。
- これらのことから，本構造は，掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【拡大写真】



【コア写真】



(3)

断層カード集 (W15孔)

W15孔（孔口標高40.27m）No.1断層（深度34.20～34.80m）

【柱状図】

• 34.20 ∠75° 開離型断層 細粒物質1mm
• 34.20-34.38 粒状
• 34.38 ゆ着型断層
• 34.53-34.68 粒状
• 34.68-34.80 岩片状
• 34.95 ゆ着型断層

コア長：-

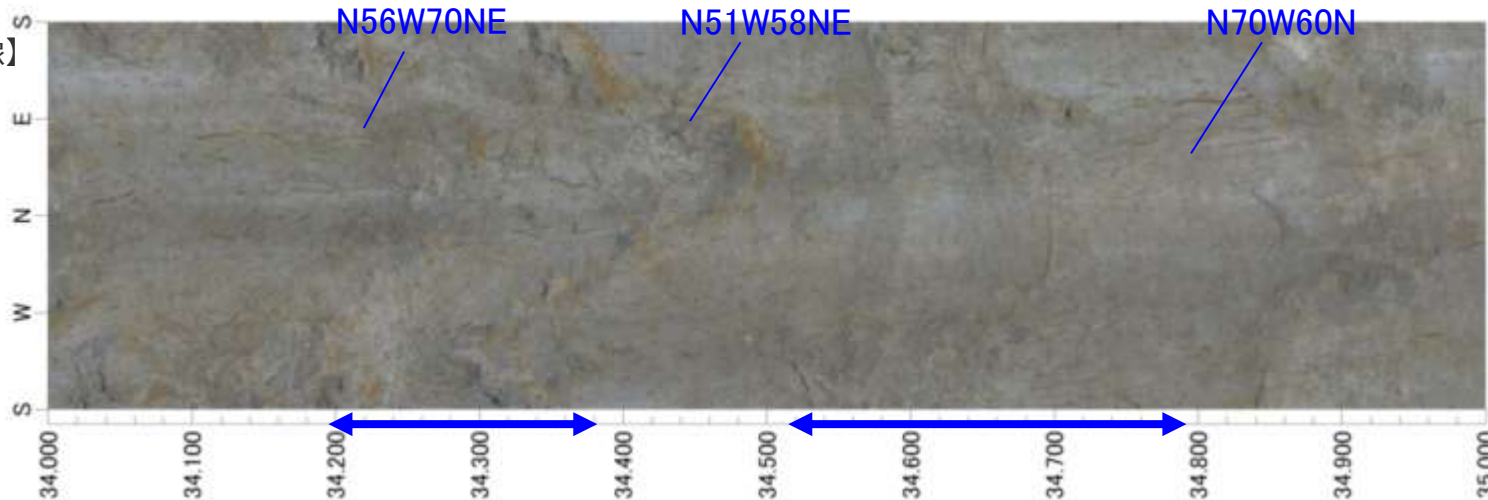
【解釈】

- コアでは、深度34.20～34.38mの区間で2条の断層面と、その間が粒状となっている。
- また、深度34.53～34.80mの区間で、コアが粒状～岩片状となっている。
- BHTVでも、上部については、2条の断層と、その間の層理面が不明瞭となっている。また下部についても、不明瞭であるが断層面が認められ、層理面が一部不明瞭となっている。
- ただし、いずれの断層も、EW走向であるが、北傾斜である。
- これらのことから、本断層は、EW走向の幅を持つ断層であるが、北傾斜の断層と解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



【BHTV画像】



W15孔（孔口標高40.27m） No.2断層（深度47.00~47.95m）

【柱状図】

• 46.40	ゆ着型断層
• 46.95	ゆ着型断層
• 47.00-47.12	岩片状
• 47.95	ゆ着型断層 $\angle 85^\circ$
• 48.12-48.20	コア欠

コア長：-

【解釈】

- コアでは、ほぼ垂直な断層が連続し、一部コアが岩片状となっており、コアに沿って亀裂が認められるものの、層理面に変形は認められない。
- BHTVでは、EW走向で北傾斜の、ほぼ垂直な断層が複数認められるが、層理面に変形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層（かつEW走向で北傾斜の断層）と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



【BHTV画像】



W15孔（孔口標高40.27m） No.3断層（深度56.28～56.48m）

【柱状図】



コア長：0.20m（断層幅：0.12m）

【解釈】

- コアでは、断層が2条認められ、断層間のコアが粒状となっている。
- BHTVでも、EW走向で南傾斜の2条の断層が認められ、断層間の層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから、本断層は、EW走向・南傾斜の、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

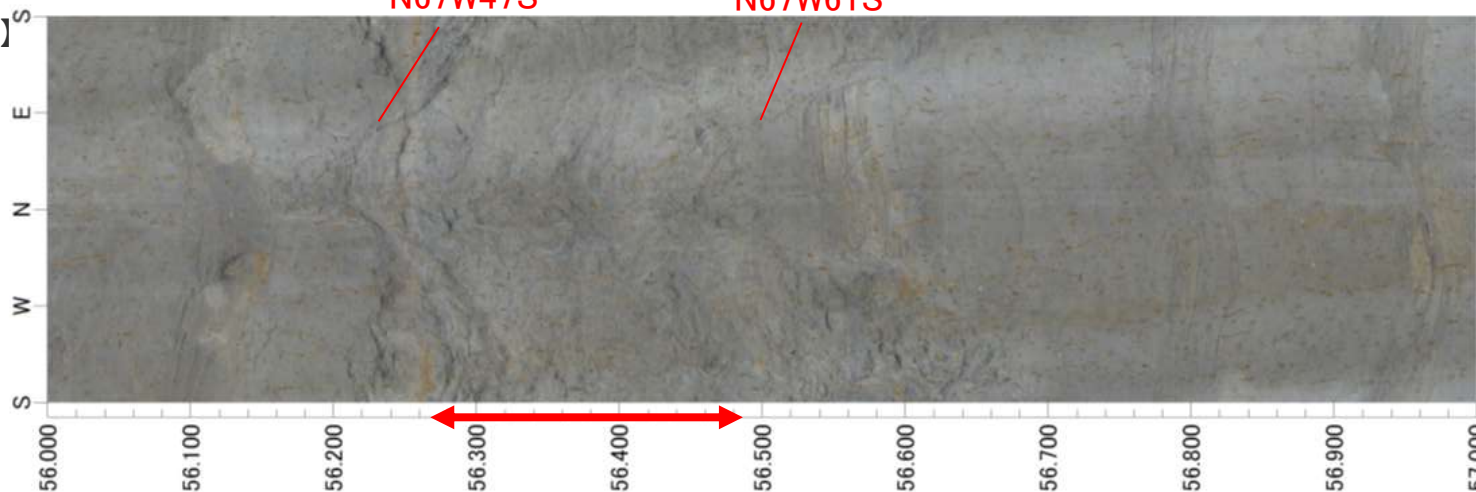
【コア写真】



N67W47S

N67W61S

【BHTV画像】



W15孔（孔口標高40.27m） No.4断層（深度110.65～111.00m）

【柱状図】

• 109.50	ゆ着型断層
• 109.93-109.94	白色凝灰岩
• 110.60-110.71	岩片状
• 110.65	∠80° 開離型断層 細粒物質4mm
• 110.71-111.00	粒状

コア長：-

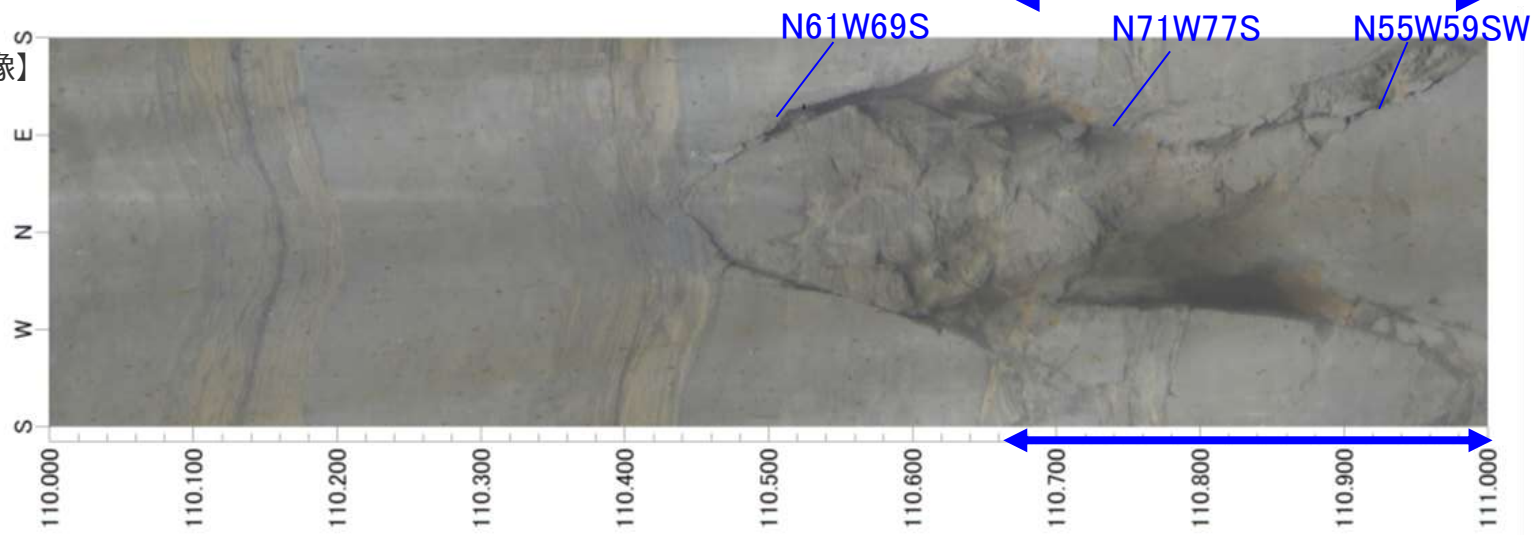
- コアでは、高角な断層が1条と、その下部が粒状となっているが、コアは不均質に割れている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層と、その下部には上部の断層に切られるほぼ垂直な断層が認められ、両断層に挟まれた間の層理面が不明瞭となっているが、その周囲の層理面に变形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

→H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



【BHTV画像】



W15孔（孔口標高40.27m）No.5断層（深度139.00～140.53m）

【柱状図】

- 138.36-138.49 粒状
- 138.67-139.00 岩片状
- 139.00-139.20 コア欠
- 139.00-140.53 砂岩と泥岩が混在。砂岩はレンズ状を呈する。
- 140.23-140.38 岩片状
- 140.53 開離型断層
細粒物質1mm

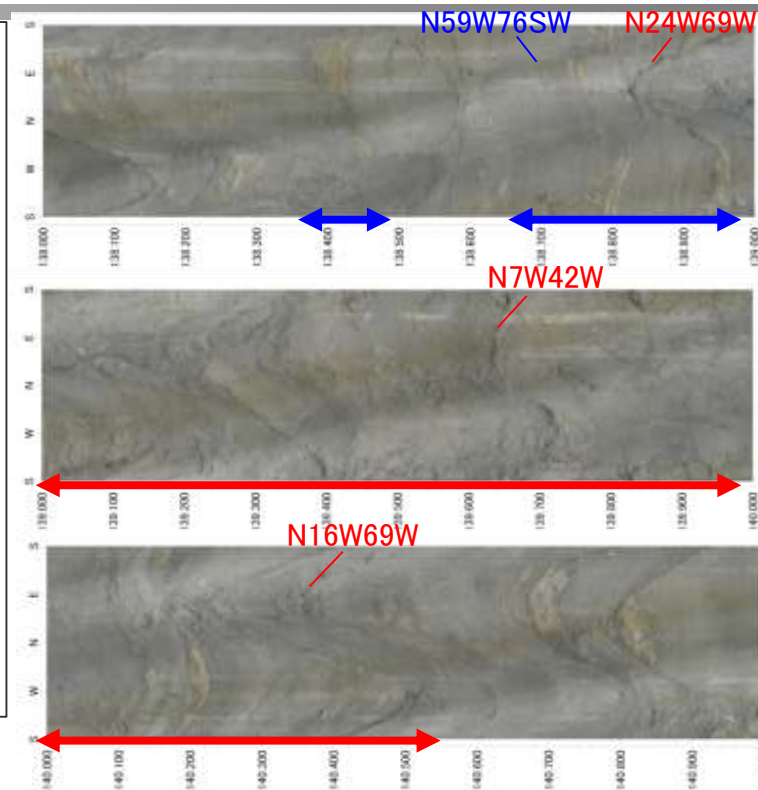
コア長：1.53m（断層幅：0.55m）

【解釈】

- コアでは、139.00～139.20mがコア欠け、それより下部は幅広く砂岩と泥岩が混在、砂岩はレンズ状を呈し、下盤側の140.53mに明瞭な断層面が認められる。
- BHTVでも、コア欠けの部分およびその下部に、EW走向で南傾斜の断層が複数認められ、その間の層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから、139.00～140.53mの区間を、EW走向・南傾斜の、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

（なお、同断層の上部、138.36～138.90mに認められる粒状及び岩片状のコアは、BHTVでは層理面に变形は認められないため、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。）



【BHTV画像】

【コア写真】



W15孔（孔口標高40.27m） No.6断層（深度143.10~144.62m）

【柱状図】

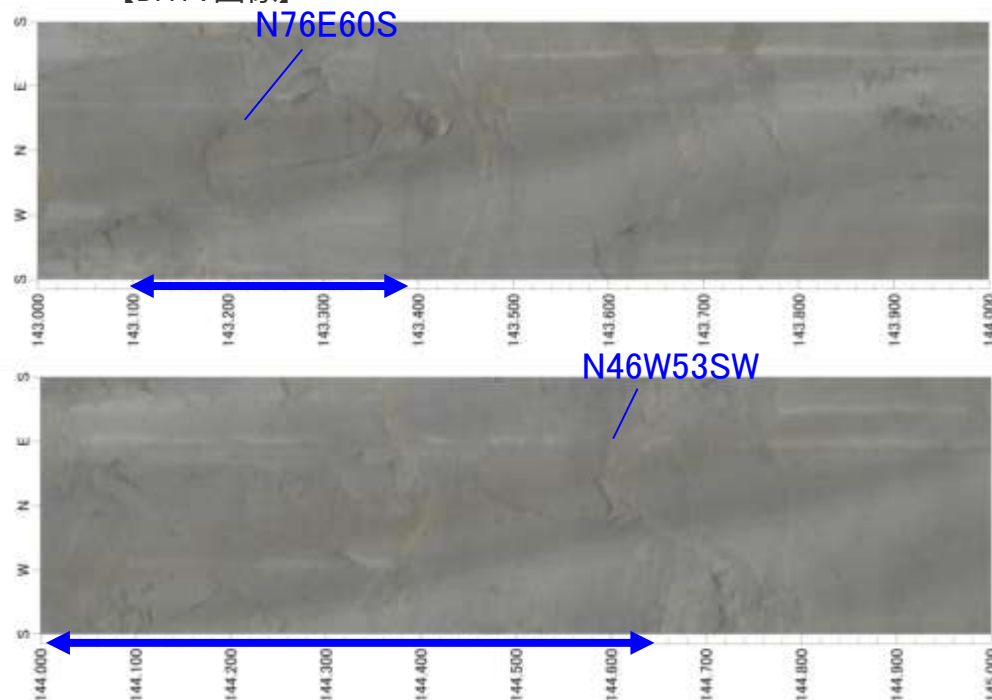
• 142.33 ゆ着型断層
• 142.46 ゆ着型断層
• 143.10-143.22 粒状
• 143.33-143.38 粒状
• 143.68 ゆ着型断層
• 144.00-144.62 粒状～岩片状

コア長：-

【解釈】

- コアでは、明瞭な断層面は認められないが、粒状～岩片状となっており、コアは不均質に割れている。
 - BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層が認められるが、層理面に变形は認められない。
 - これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
- ⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【BHTV画像】



【コア写真】



W15孔（孔口標高40.27m） No.7断層（深度148.48~148.98m）

【柱状図】

• 148.48 ∠55° 開離型断層 細粒物質5mm
• 148.55-148.86 コア欠
• 148.98 ∠60° 開離型断層 細粒物質5mm
• 149.15-152.40 ゆ着型断層発達
• 149.38-149.50 粒状
• 149.70-149.87 岩片状

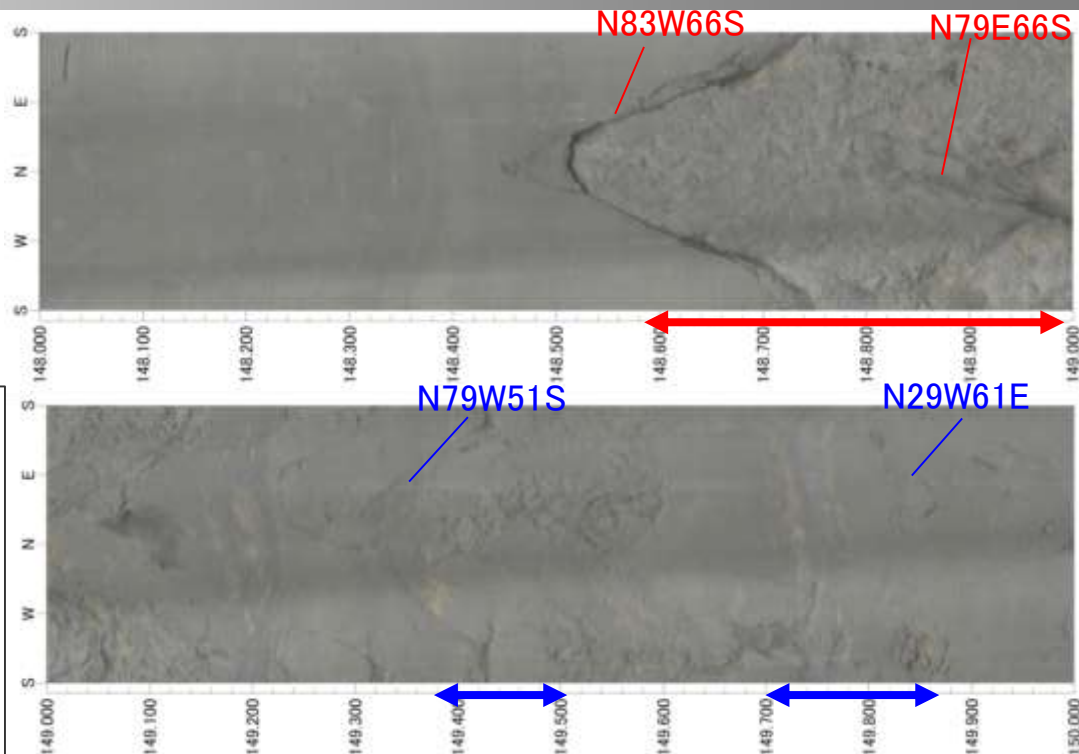
コア長：0.50m（断層幅：0.27m）

【解釈】

- コアでは、2条の高角な断層面が認められ、断層間はコア欠となっている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の2条の断層面が認められ、間の層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから、本断層は、EW走向・南傾斜の、幅を持つ断層と解釈する。

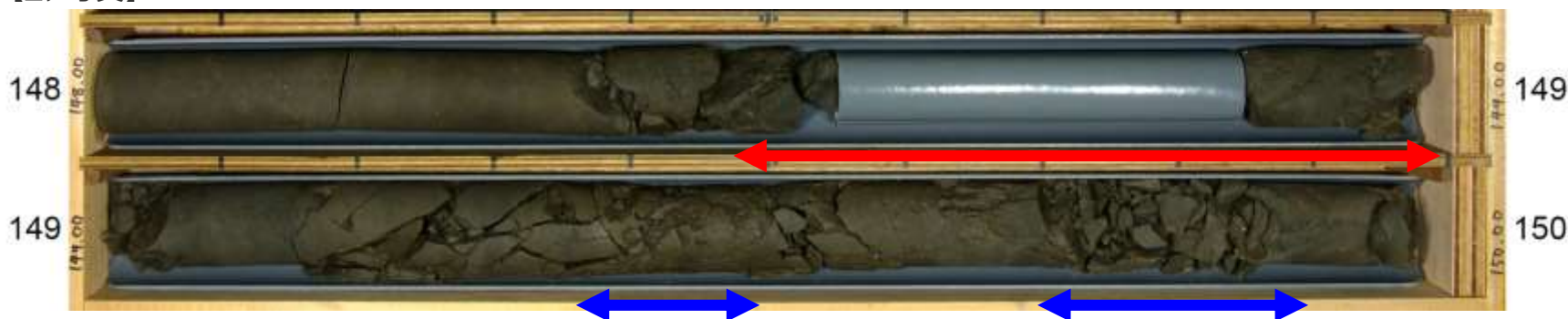
⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

（なお、同断層下部149~150m間に認められる断層および粒状~岩片状コアは、BHTVでは層理面に變形は認められないため、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。）



【BHTV画像】

【コア写真】



W15孔（孔口標高40.27m） No.8断層（深度150.00～151.87m）

【柱状図】

• 149.15-152.40	ゆ着型断層発達
• 149.38-149.50	粒状
• 149.70-149.87	岩片状
• 150.00-150.18	岩片状
• 150.54-151.05	岩片状～粒状
• 151.15-151.31	岩片状
• 151.70-151.87	岩片状

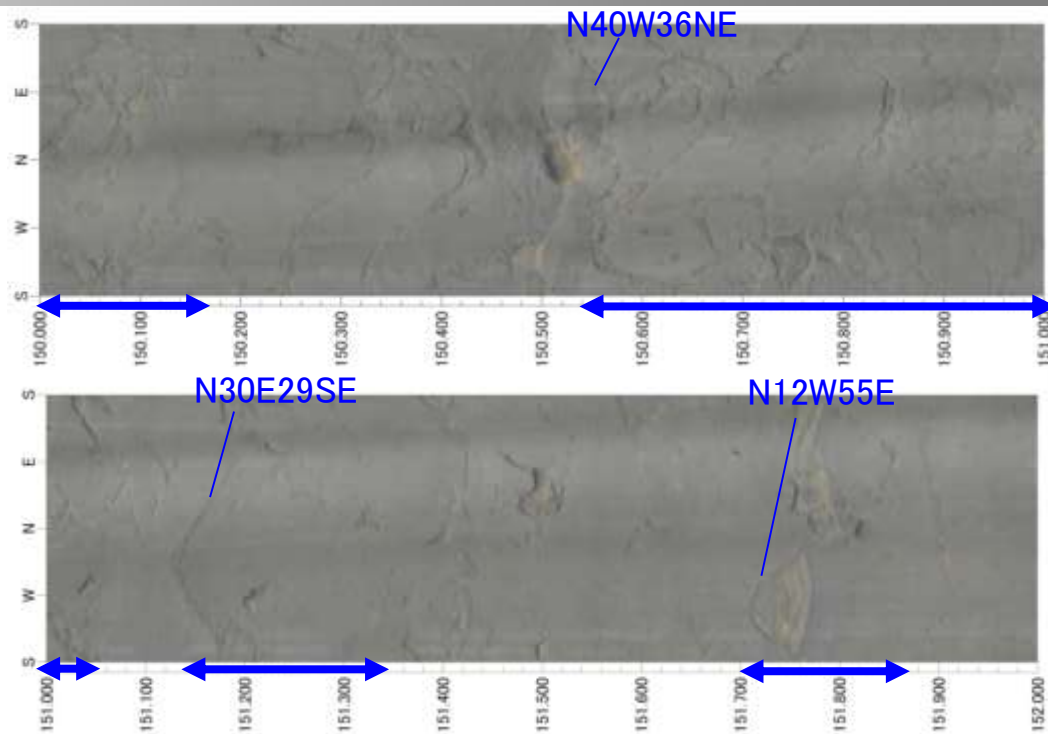
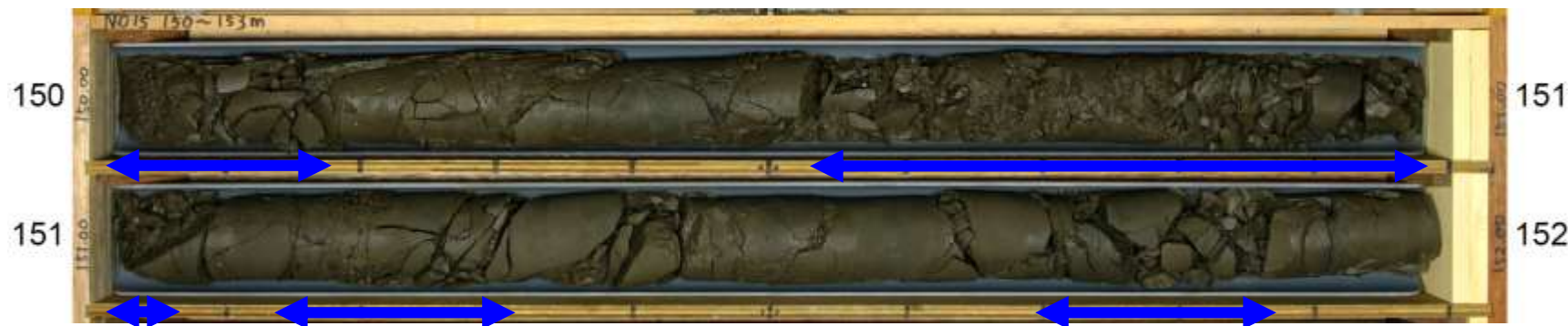
コア長： -

【解釈】

- コアでは明瞭な高角の断層面は認められず、岩片状～粒状のコアが散見される。
- BHTVでは、EW走向で北傾斜、NS走向で東傾斜の小規模な断層が複数認められ、画像では層理面は不鮮明であるが、孔壁に乱れは認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



【BHTV画像】

W15孔（孔口標高40.27m） No.9断層（深度161.59～162.58m）

【柱状図】

・ 161.00 ゆ着型断層

・ 161.59-161.80 粒状～岩片状

・ 161.89-162.58 コア欠

・ 162.91 ゆ着型断層

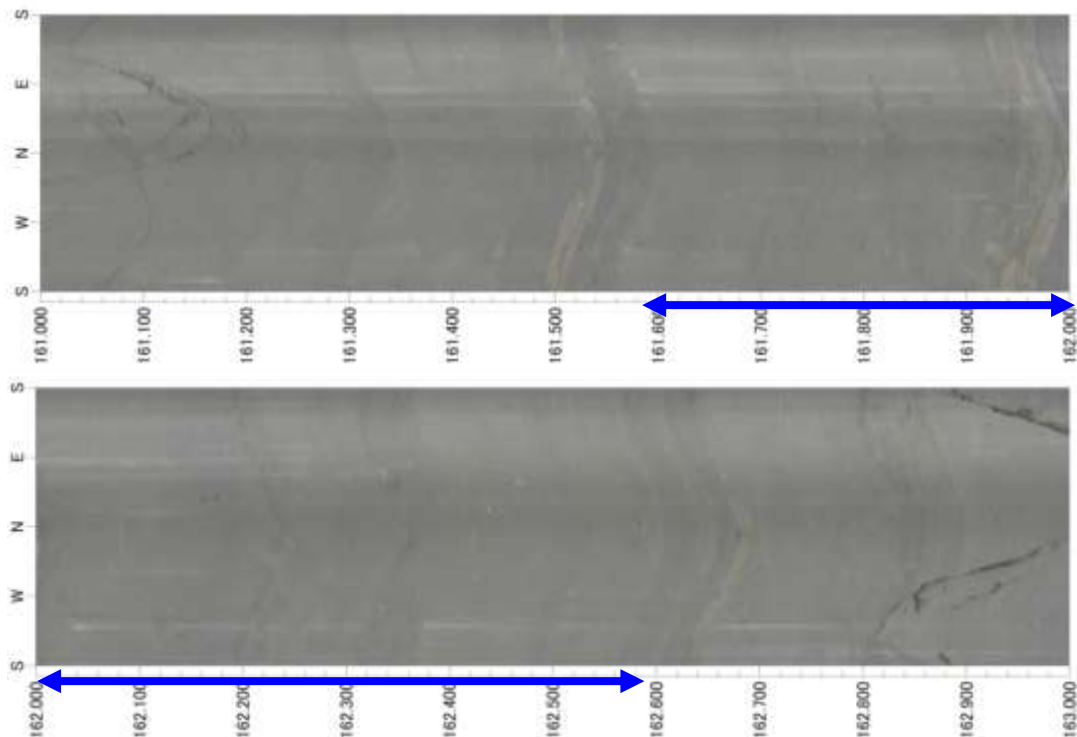
・ 163.12 ゆ着型断層

コア長： -

【解釈】

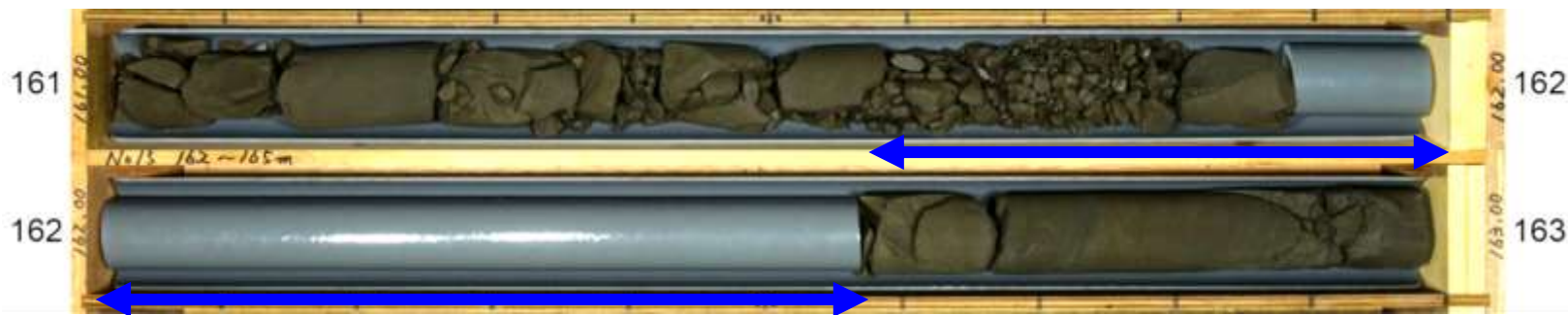
- ・ コアでは、高角な断層は確認されないが、粒状～岩片状とコア欠が認められる。
- ・ BHTVでは、高角な断層面も、層理面の变形も確認されない。
- ・ これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W15孔（孔口標高40.27m） No.10断層（深度165.32～165.83m）

【柱状図】

• 165.32 ゆ着型断層
• 165.32-165.37 粒状
• 165.57-165.72 ゆ着型断層発達
• 165.61-165.83 岩片状

コア長：-

【解釈】

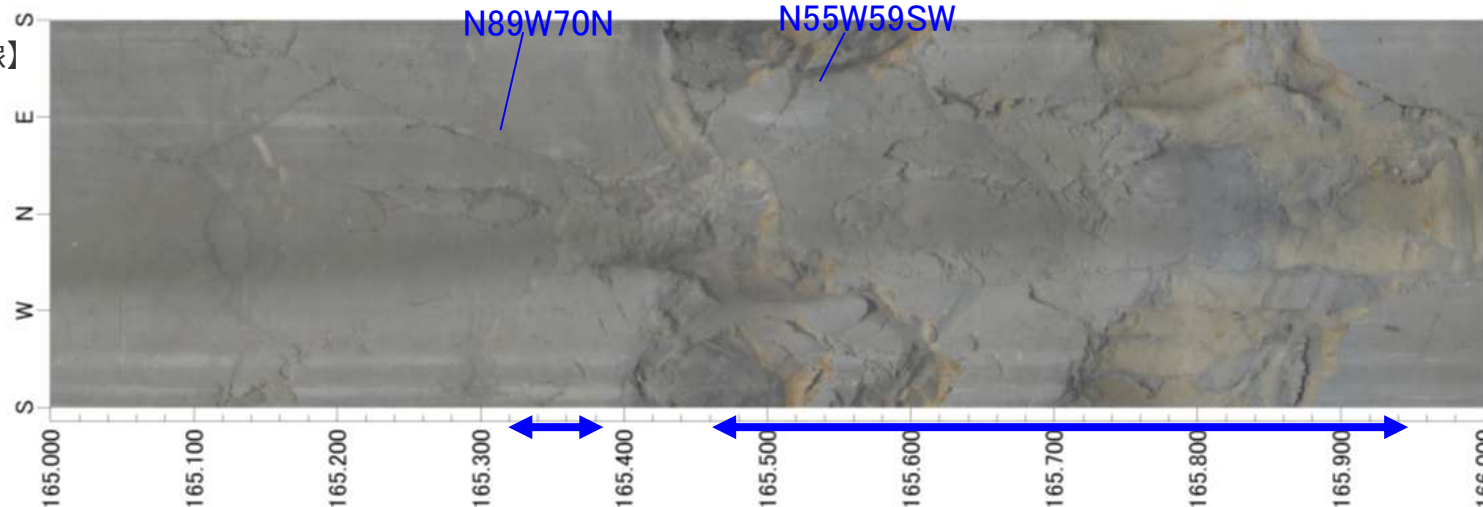
- コアでは、ゆ着型断層および粒状～岩片状コアが認められ、コアは不均質に割れている。
- BHTVでは、上部にEW走向で北傾斜の断層が主体であり、断層面が複数あり層理面は不鮮明であるものの、変形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】

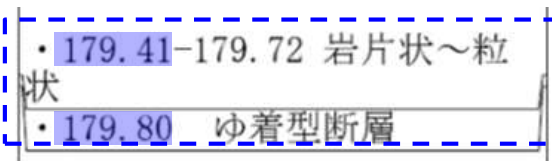


【BHTV画像】



W15孔（孔口標高40.27m） No.11断層（深度179.41~179.80m）

【柱状図】



コア長：-m

【解釈】

- ・ コアでは、明瞭な高角の断層面は認められず、ゆ着型断層と岩片状~粒状のコアが認められ、コアは不均質に割れている。
- ・ BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層面が2条と、ほぼ垂直な断層面が認められるが、層理面に変形は認められない。
- ・ これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

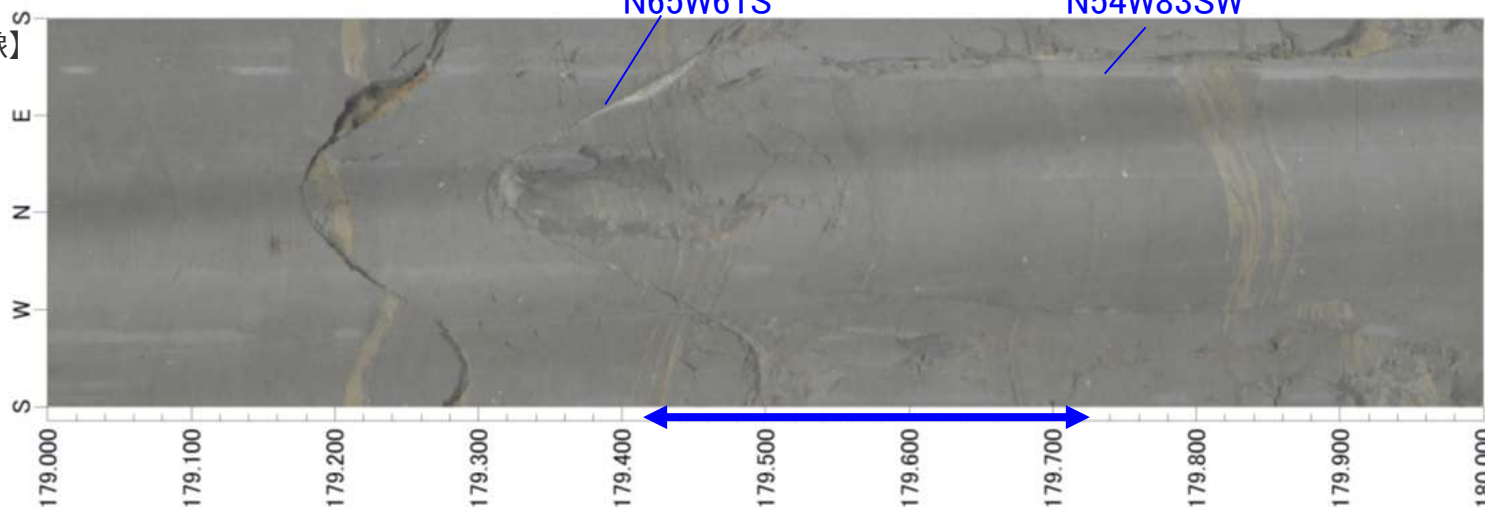
【コア写真】



N65W61S

N54W83SW

【BHTV画像】



W15孔 (孔口標高40.27m) No.12断層 (深度186.10~186.49m)

【柱状図】

- 185.20-185.60 ゆ着型断層密集
- 186.10-186.45 岩片状
- 186.45-186.49 粒状
- 186.86 ゆ着型断層
- 186.86-187.00 岩片状

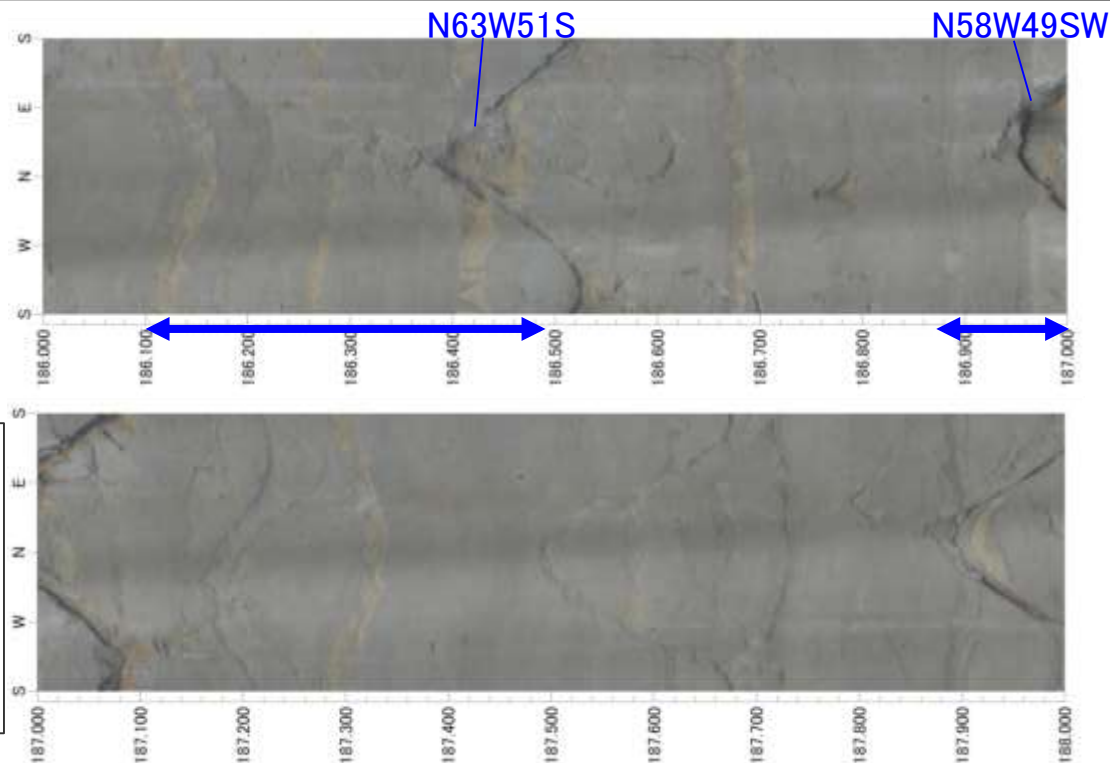
コア長：-

【解釈】

- コアでは、明瞭な高角の断層面は認められず、ゆ着型断層と岩片状～粒状のコアが認められ、コアは不均質に割れている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層面が2条見られるが、断層間の層理面に变形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



【BHTV画像】

W15孔（孔口標高40.27m） No.13断層（深度190.25～190.42m）

【柱状図】

• 190.25-190.42 岩片状
• 190.10-190.60 ゆ着型断層密集
• 190.50-190.60 岩片状
• 190.83-191.29 凝灰岩 K-3

コア長：-

【解釈】

- コアでは、ゆ着型断層が密集し、一部のコアが岩片状となっている。
- BHTVでは、EW走向で北傾斜の断層面が2条認められ、その間の層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから、本断層は、幅を持つ断層であり、EW走向であるが、北傾斜の断層と解釈される。

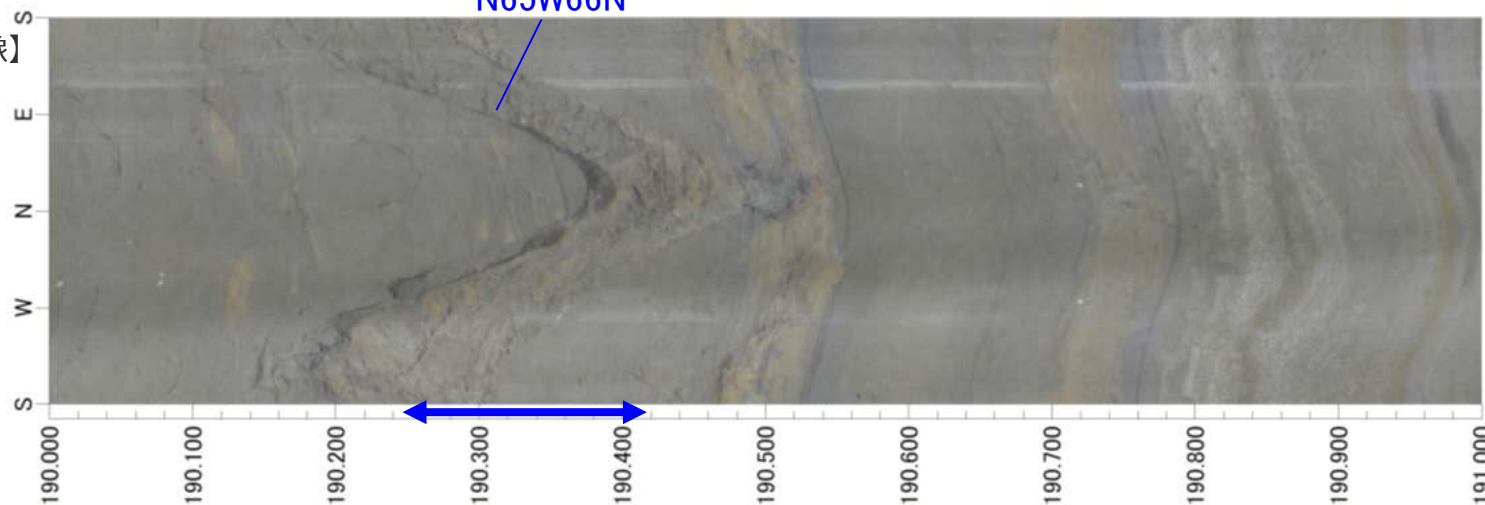
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



N65W66N

【BHTV画像】



W15孔（孔口標高40.27m） No.14断層（深度225.07～225.30m）

【柱状図】

- | |
|----------------------------|
| • 225.07 開離型断層
細粒物質7mm |
| • 225.00-225.14 粒状 |
| • 225.25-225.30 粒状 |
| • 225.71 開離型断層
細粒物質4mm |
| • 225.30-226.10
ゆ着型断層密集 |

コア長：-

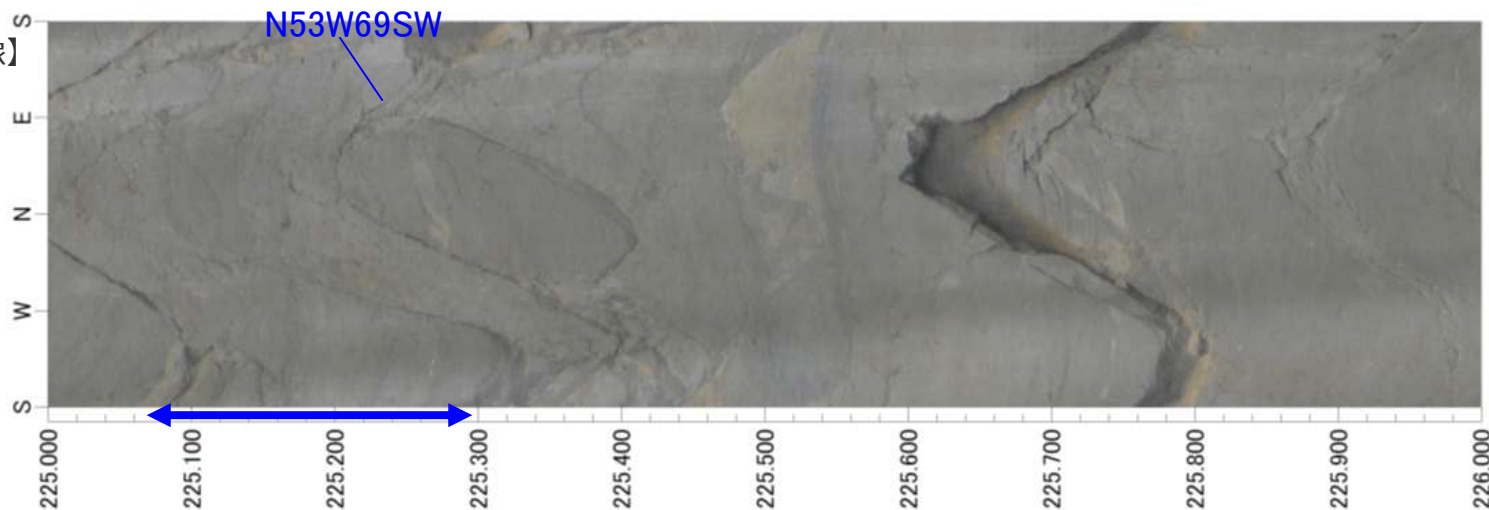
【解釈】

- コアでは、開離型断層が1条と、その周りのコアが一部粒状となっている。
 - BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層面が複数認められ、同断層に切られる北傾斜の断層面が認められるが、層理面に変形は認められない。
 - これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層と解釈する。
- ⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】

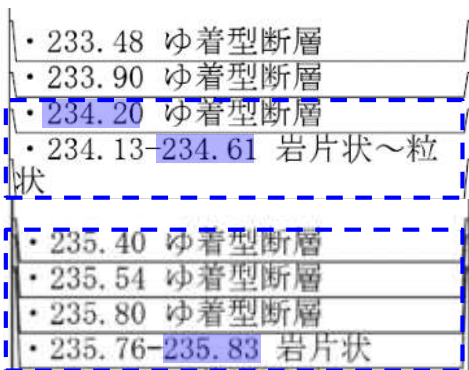


【BHTV画像】



W15孔 (孔口標高40.27m) No.15断層 (深度234.20~235.83m)

【柱状図】



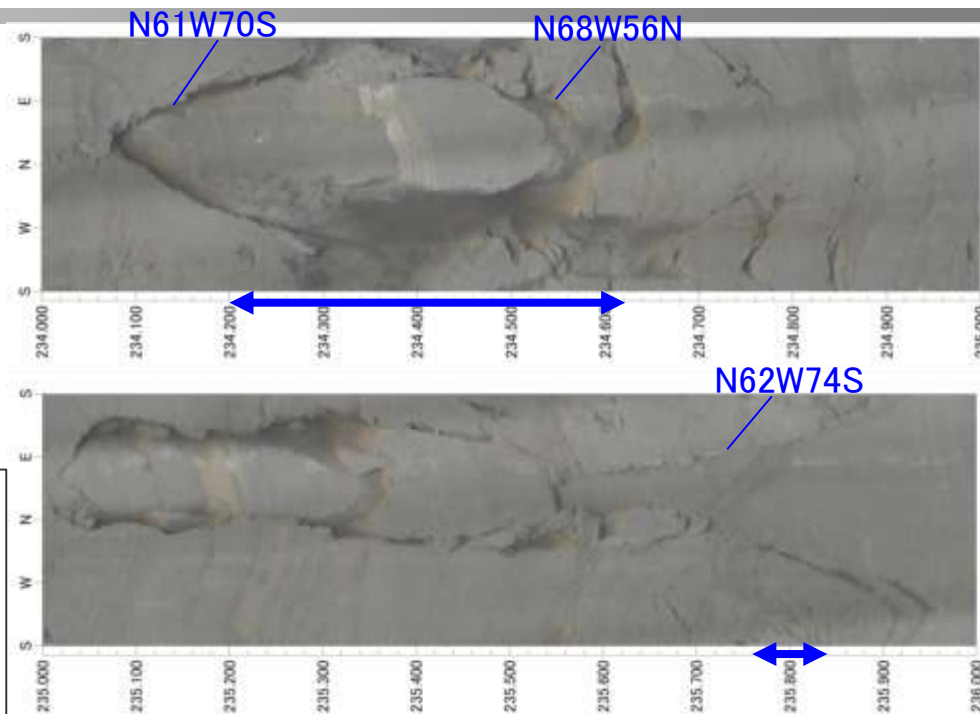
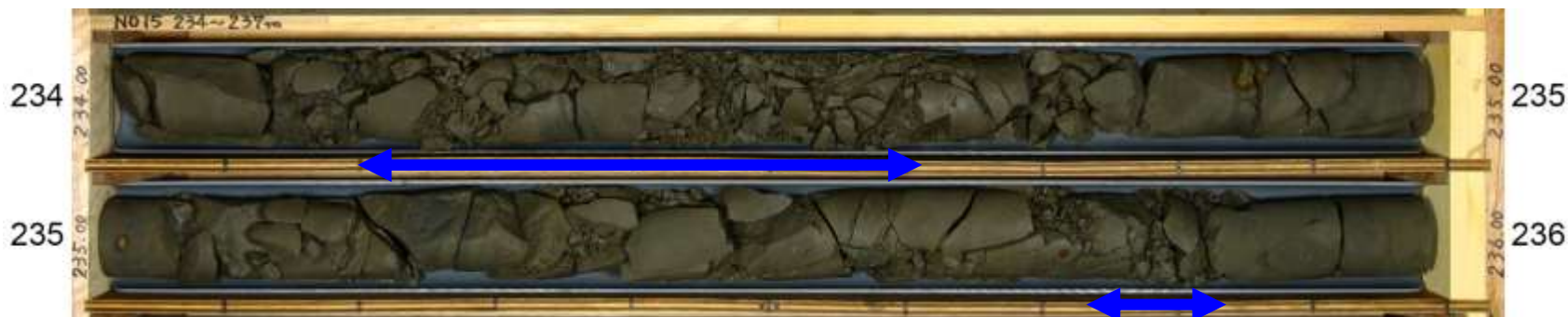
コア長：-

【解釈】

- コアでは、ゆ着型断層が1条と、岩片状~粒状のコアが認められ、コアは不均質に割れている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜、北傾斜の断層と、その下部にはほぼ垂直な断層が認められるが、層理面に変形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

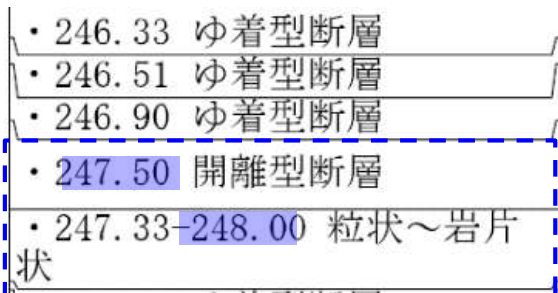
【コア写真】



【BHTV画像】

W15孔（孔口標高40.27m） No.16断層（深度247.50～248.00m）

【柱状図】



• コア長：-

【解釈】

- コアでは、開離型断層が1条と、断層の上下で粒状～岩片状のコアが認められる。
- BHTVでは、EW走向で北傾斜の断層面が認められ、層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから、本断層は、幅を持つ断層であり、EW走向であるが、北傾斜の断層と解釈される。

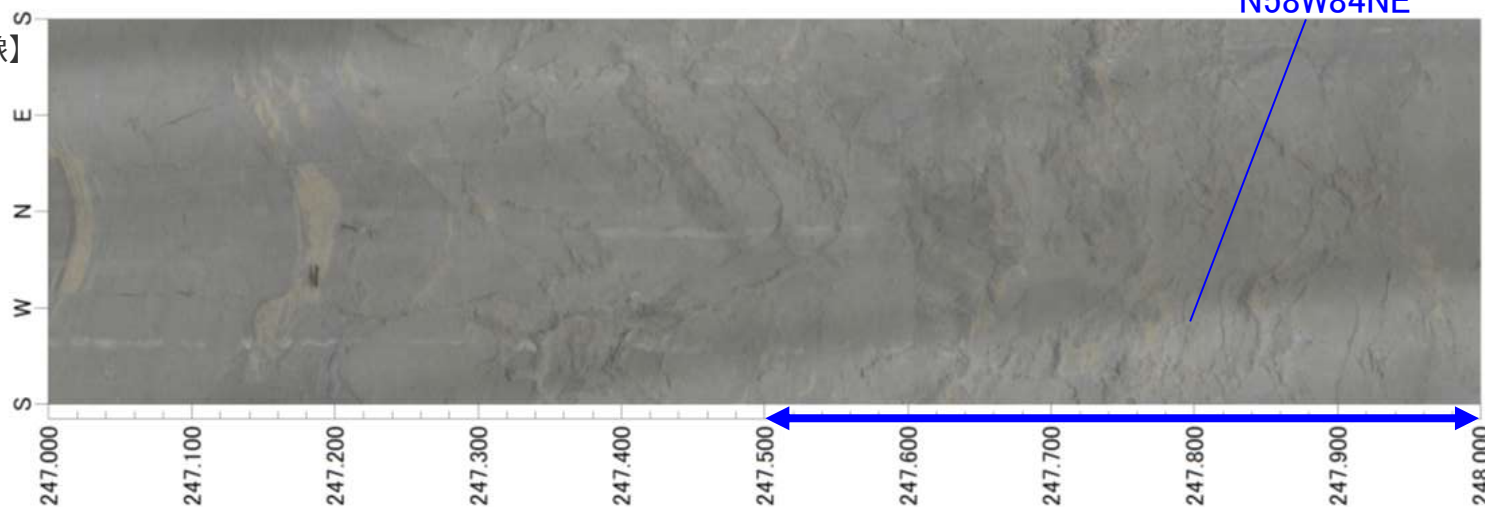
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



N58W84NE

【BHTV画像】



W15孔 (孔口標高40.27m) No.17断層 (深度298.72~299.36m)

【柱状図】

- 298.05 ゆ着型断層
- 298.72-298.79 岩片状
- 298.79-298.85 粒状
- 298.91 ゆ着型断層
- 299.26 ゆ着型断層
- 299.18-299.36 岩片状

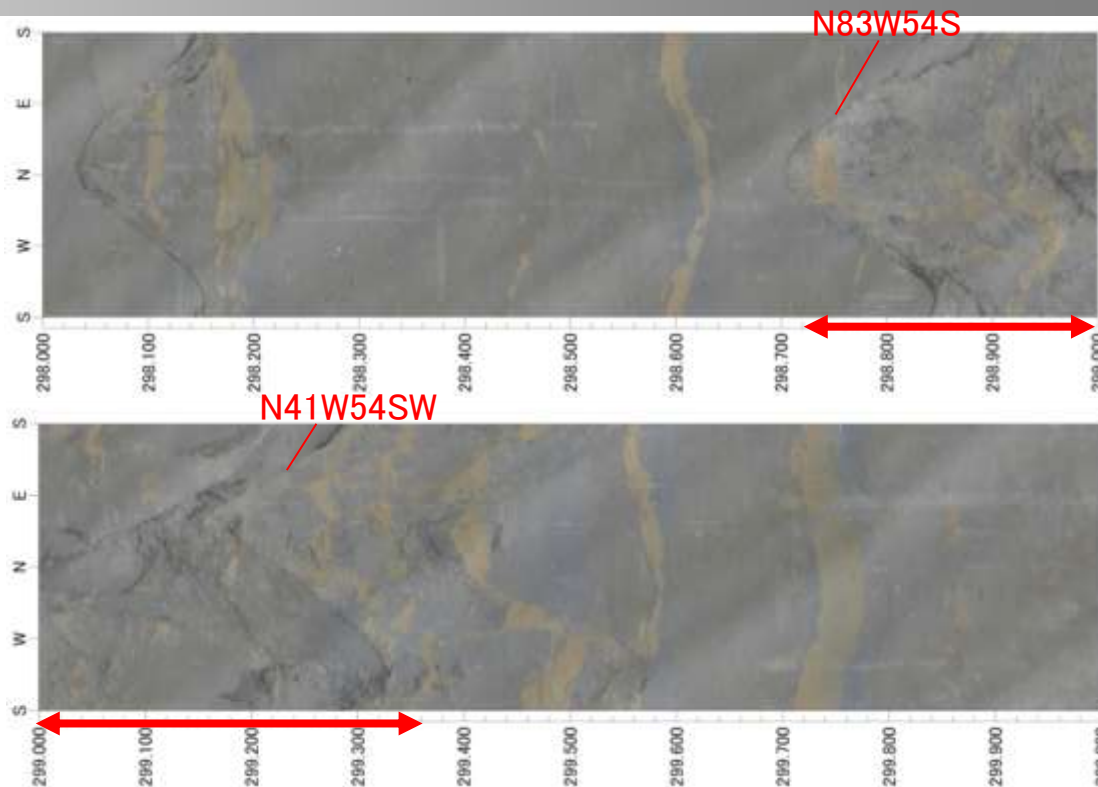
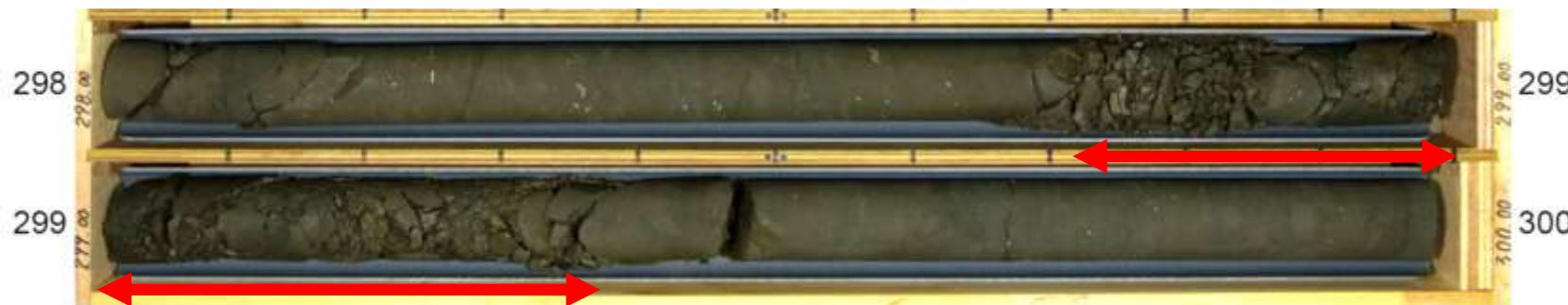
コア長 : 0.64m (断層幅 : 0.38m)

【解釈】

- コアでは、2条のゆ着型断層と、岩片状~粒状のコアが認められる。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層面が2条認められ、断層の層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから、本断層は、EW走向・南傾斜の、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

【コア写真】



【BHTV画像】

W15孔（孔口標高40.27m） No.18断層（深度317.71~318.20m）

【柱状図】

• 317.41	レンズ状凝灰岩
• 317.71	開離型断層 細粒物質10mm
• 317.61-318.20	岩片状
• 318.46	ゆ着型断層
• 318.46-318.49	岩片状～粒状
• 318.78	ゆ着型断層

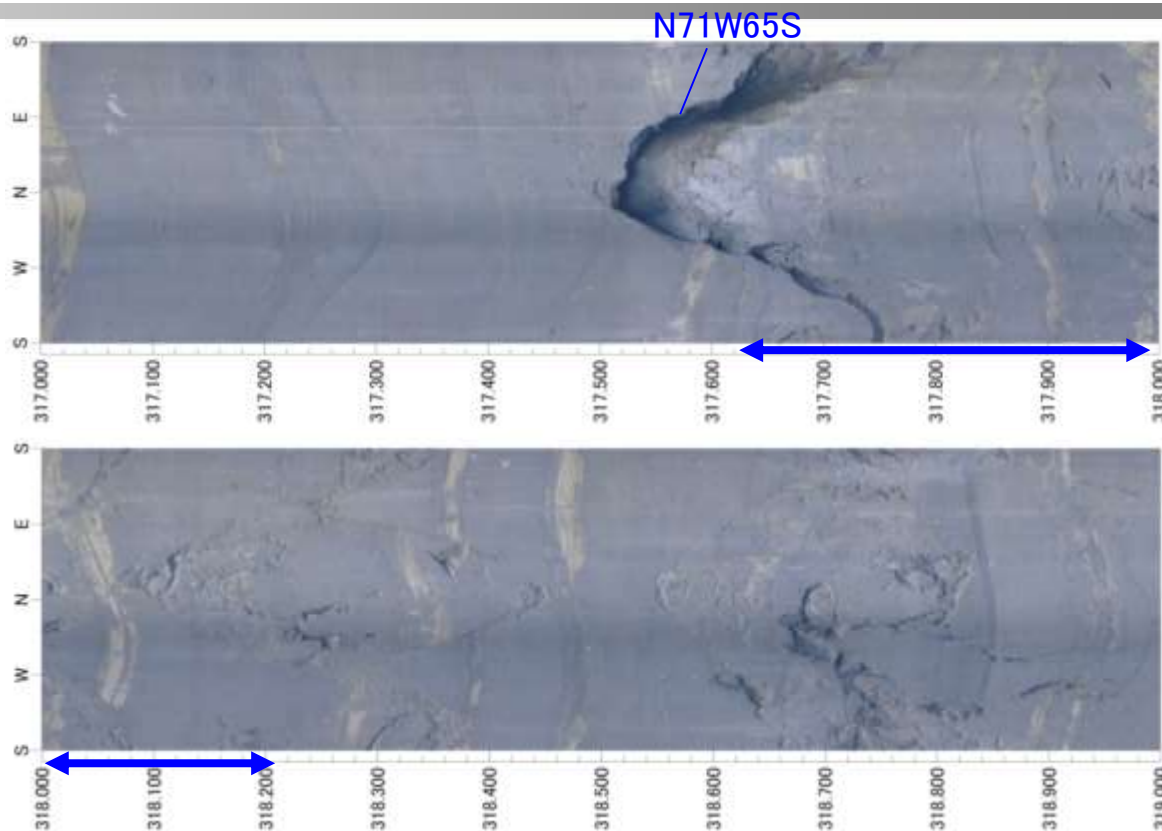
コア長：-

【解釈】

- コアでは、開離型断層が1条と、岩片状のコアが認められ、コアは不均質に割れている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層面が1条認められるが、層理面に変形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



【BHTV画像】

W15孔（孔口標高40.27m） No.19断層（深度337.08~337.20m）

【柱状図】

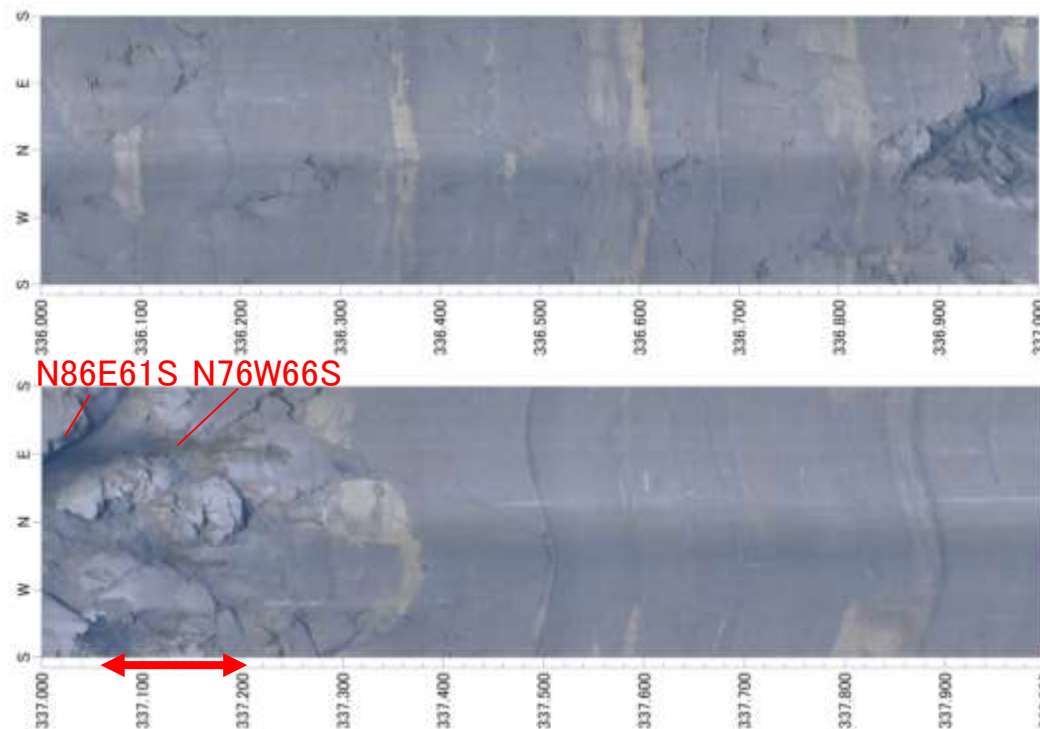
• 336.06	ゆ着型断層
• 336.40	ゆ着型断層
• 336.76	ゆ着型断層
• 337.08	ゆ着型断層
• 337.08-337.20	岩片状
• 337.35-337.41	岩片状
• 337.41	ゆ着型断層

コア長：0.12m（断層幅：0.05m）

【解釈】

- コアでは、ゆ着型断層が1条と、岩片状のコアが認められる。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層が2条認められ、断層間の層理面および下盤側の断層面付近が不明瞭となっている。
- これらのことから、本断層は、EW走向・南傾斜の、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。



【BHTV画像】

【コア写真】



W15孔 (孔口標高40.27m) No.20断層 (深度361.51~362.13m)

【柱状図】

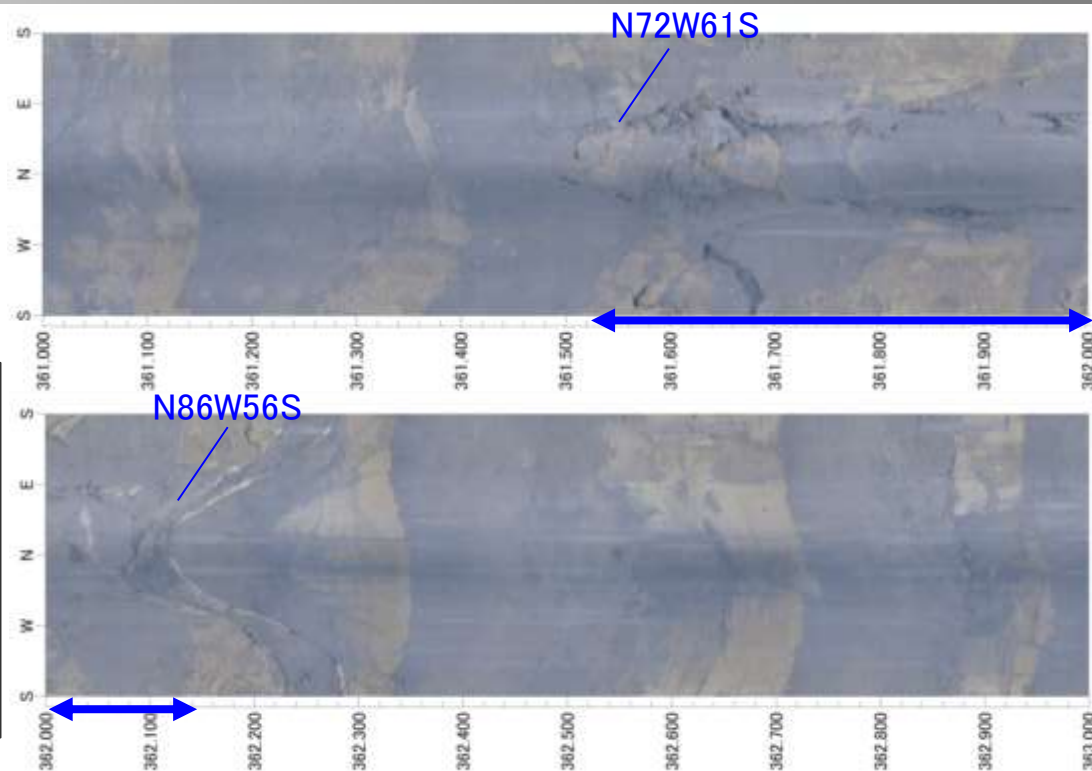
- 361.51 ゆ着型断層
- 361.51-361.63 粒状
- 361.63-362.00 岩片状
- 362.00-362.13 粒状
- 362.13 開離型断層
- 細粒物質2mm
- 363.30 ゆ着型断層

コア長： -

【解釈】

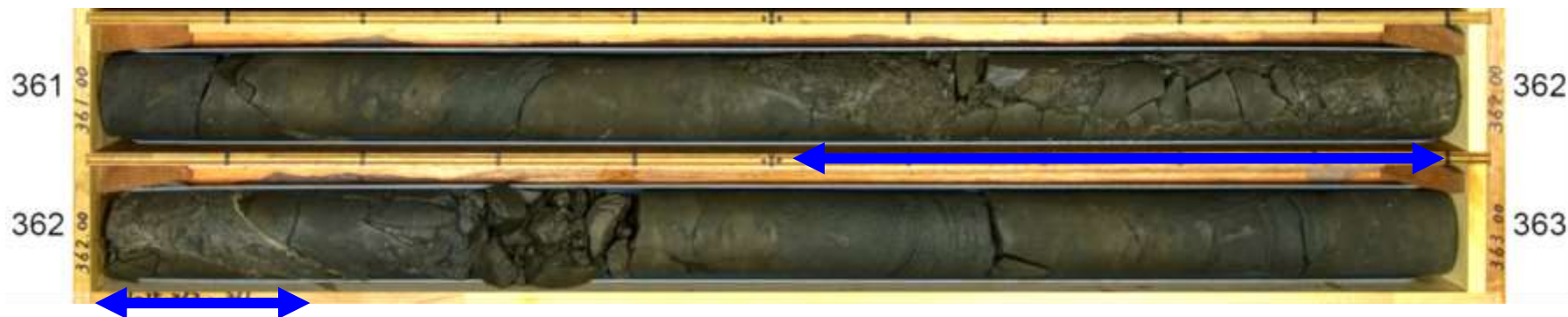
- コアでは、上部にゆ着型断層1条、下部に開離型断層が1条認められ、その間が粒状～岩片状となっている。
- BHTVでは、上部及び下部にEW走向で南傾斜の高角な断層が認められ、その間にはほぼ垂直な断層が認められるが、層理面に变形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W15孔（孔口標高40.27m） No.21断層（深度392.70~393.25m）

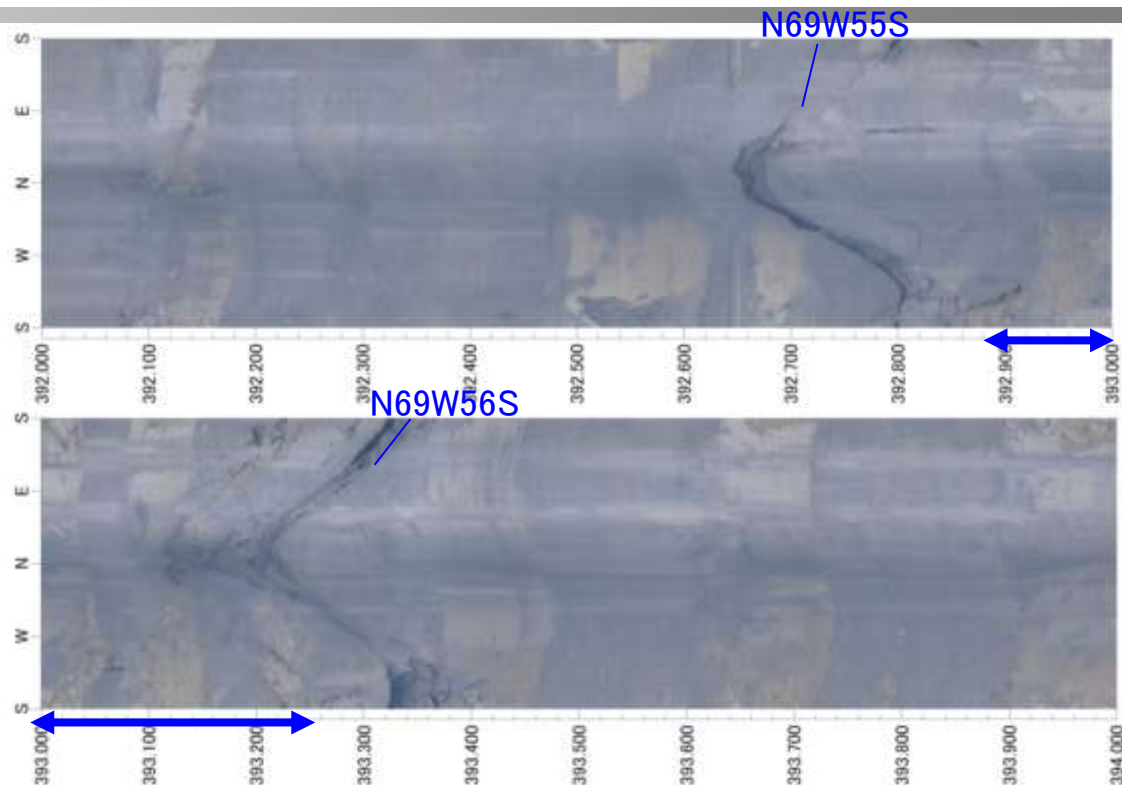
【柱状図】

- 392.70 ゆ着型断層
- 392.88 ゆ着型断層
- 392.88-393.06 岩片状
- 393.06-393.25 粒状
- 393.25 ゆ着型断層

コア長：-

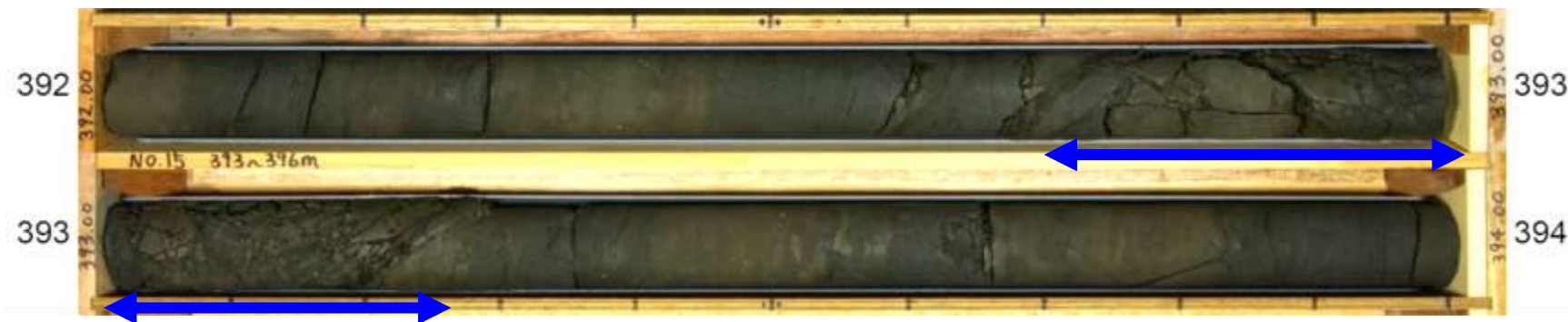
- コアでは、ゆ着型断層が3条と、その間のコアの一部が岩片状～粒状となっている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層が2条認められ、断層間の孔壁は、画像がやや不鮮明であるが、層理面に变形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W15孔 (孔口標高40.27m) No.22断層 (深度398.60~398.80m)

【柱状図】

- 398.80 ゆ着型断層
- 398.60-398.86 岩片状

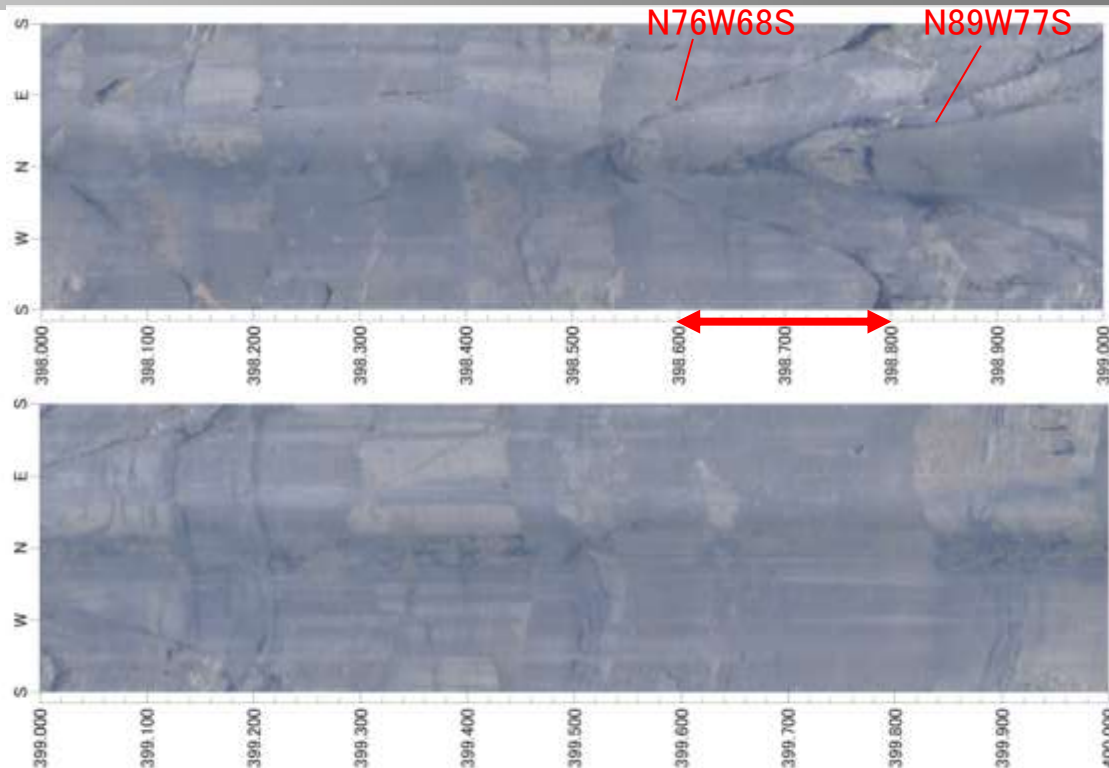
- 399.40-399.90 ゆ着型断層密集
- 399.27-400.43 岩片状~粒状
- 400.56-400.81 粒状

コア長 : 0.20m (断層幅 : 0.06m)

【解釈】

- コアでは、ゆ着型断層が1条と、その上下のコアが岩片状となっている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜の断層が2条認められ、断層間の層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから、本断層は、EW走向・南傾斜の、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。



【コア写真】



【BHTV画像】

W15孔（孔口標高40.27m） No.23断層（深度400.56～400.81m）

【柱状図】

- 398.80 ゆ着型断層
- 398.60-398.86 岩片状
- 399.40-399.90 ゆ着型断層密集
- 399.27-400.43 岩片状～粒状
- 400.56-400.81 粒状

コア長：-

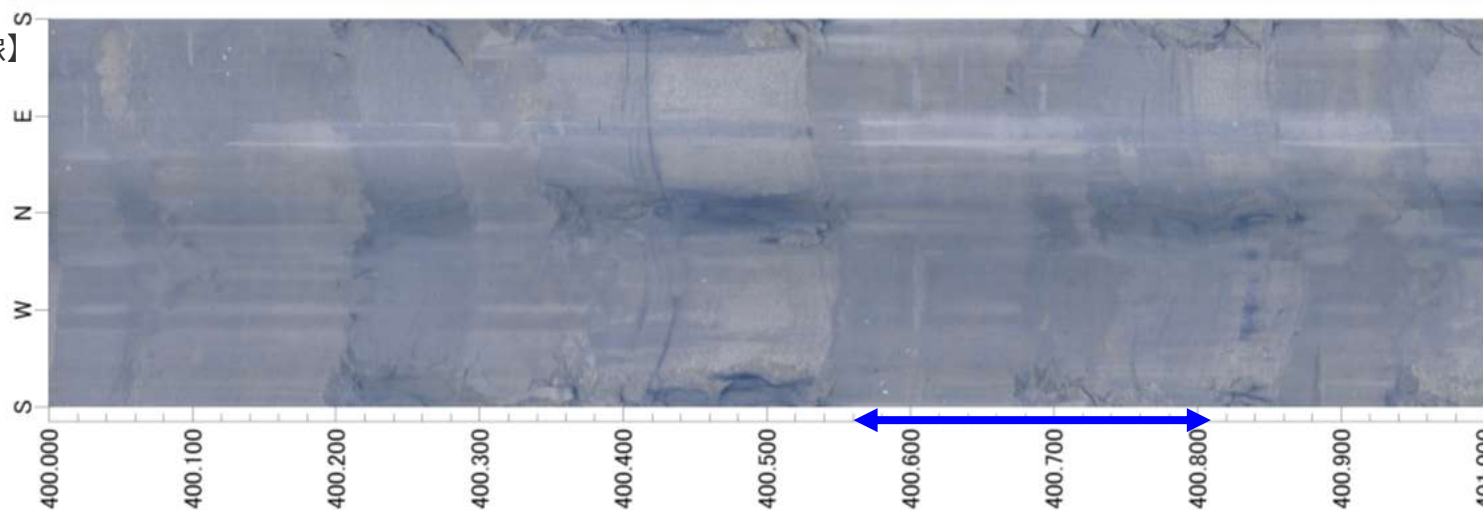
【解釈】

- コアでは、2条の亀裂（あるいは断層）が認められ、その間のコアが粒状となっている。
- BHTVでは、画像はやや不鮮明であるが、明瞭な断層面は認められず、層理面の変形も認められない。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



【BHTV画像】



W15孔 (孔口標高40.27m) No.24断層 (深度414.72~415.21m)

【柱状図】

- 414.40 ゆ着型断層
- 414.72-414.83 岩片状
- 415.00 開離型断層
- 415.11 ゆ着型断層
- 414.93-415.21 粒状
- 415.61 ゆ着型断層
- 415.73-415.77 粒状
- 415.78 ゆ着型断層

コア長：-

【解釈】

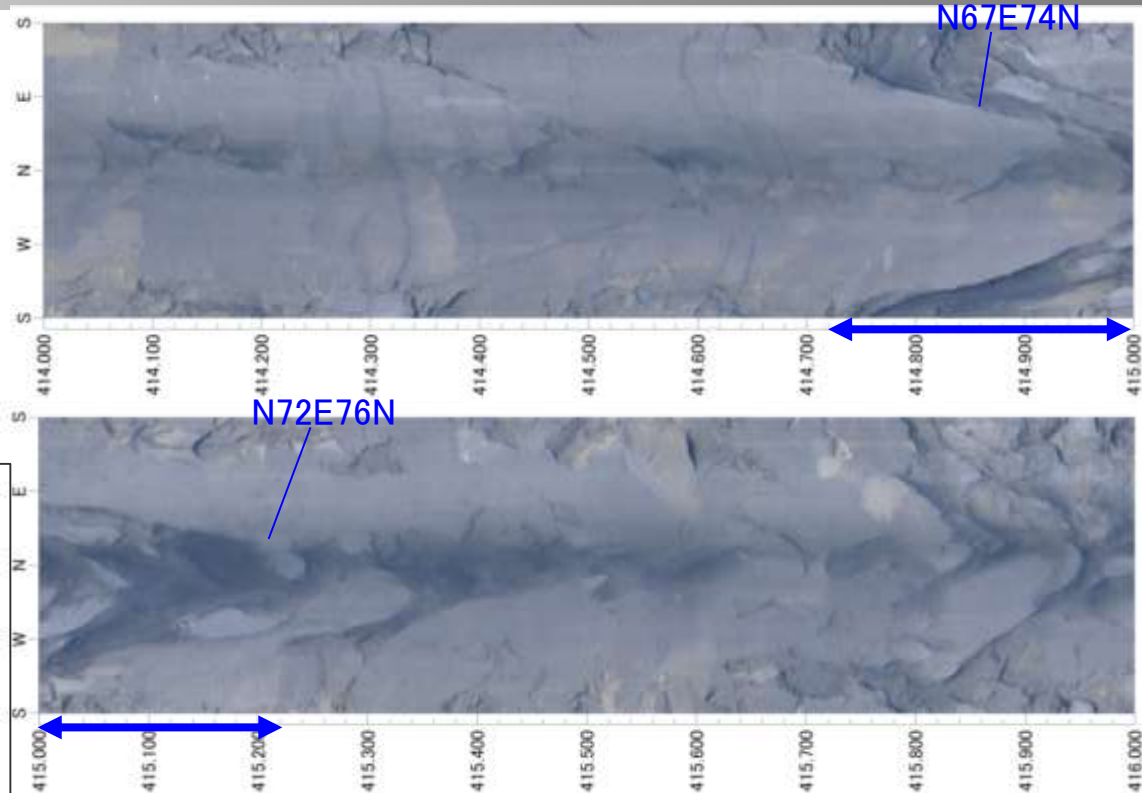
- コアでは、開離型、ゆ着型断層が複数認められ、その周囲のコアが粒状～岩片状となっている。
- BHTVでは、EW走向で北傾斜の断層が密集して認められ、層理面には変形があるように見える。
- これらのことから、本断層は、幅を持つ断層であり、EW走向であるが、北傾斜の断層と解釈される。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】

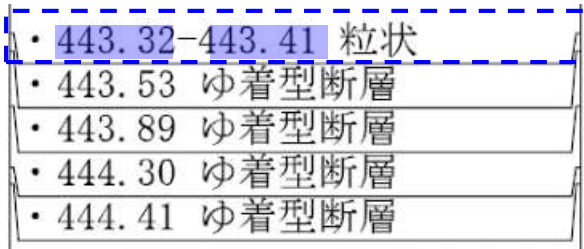


【BHTV画像】



W15孔（孔口標高40.27m） No.25断層（深度443.32~443.41m）

【柱状図】

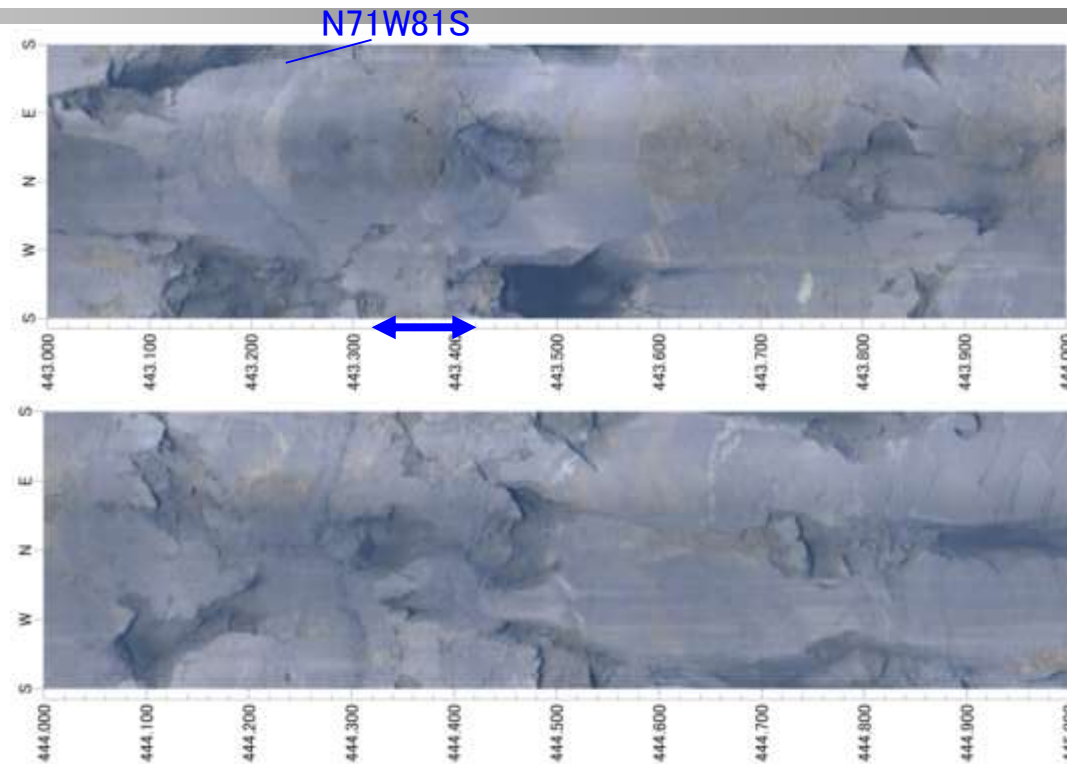


コア長：-

【解釈】

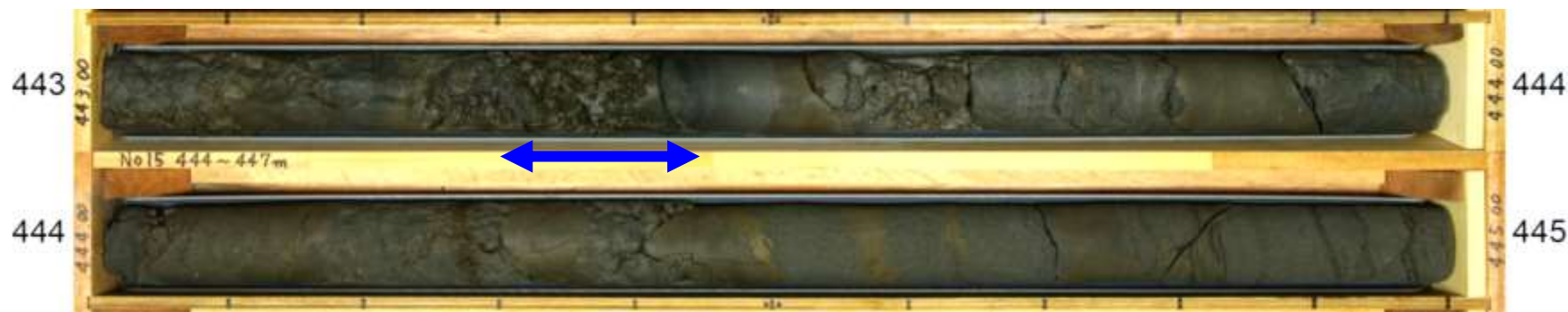
- コアでは、明瞭な断層面は認められず、コアが粒状となっている。
- BHTVでは、EW走向で南傾斜からほぼ垂直な断層面が連続して認められるが、層理面に変形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【BHTV画像】

【コア写真】



W15孔（孔口標高40.27m） No.26断層（深度480.80～482.70m）（コア写真）

【柱状図】

- 480.80 開離型断層
細粒物質4.5mm
- 481.22 開離型断層
細粒物質2mm
- 481.30 ゆ着型断層
- 481.73 開離型断層
細粒物質4～10mm
- 482.61-482.70 粒状
- 482.70 開離型断層
細粒物質10mm

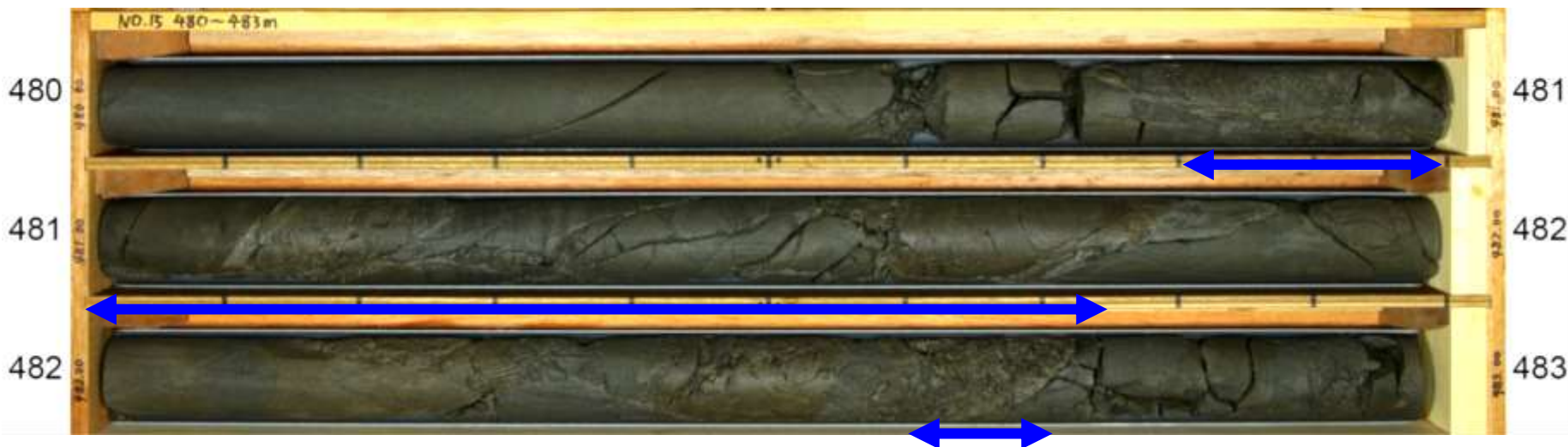
コア長：－

【解釈】

- コアでは、開離型断層、ゆ着型断層が複数条認められ、その間のコアの一部が粒状となっている。
- 高角～ほぼ垂直な断層が連続して認められ、断層面に沿って、脈状に粘土鉱物が発達しているが、層理面に変形は認められない。
- BHTV（次頁参照）では、EW走向で南傾斜の断層が数条認められ、一部孔壁が崩落しており、画像もやや不鮮明であるが、層理面に変形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】

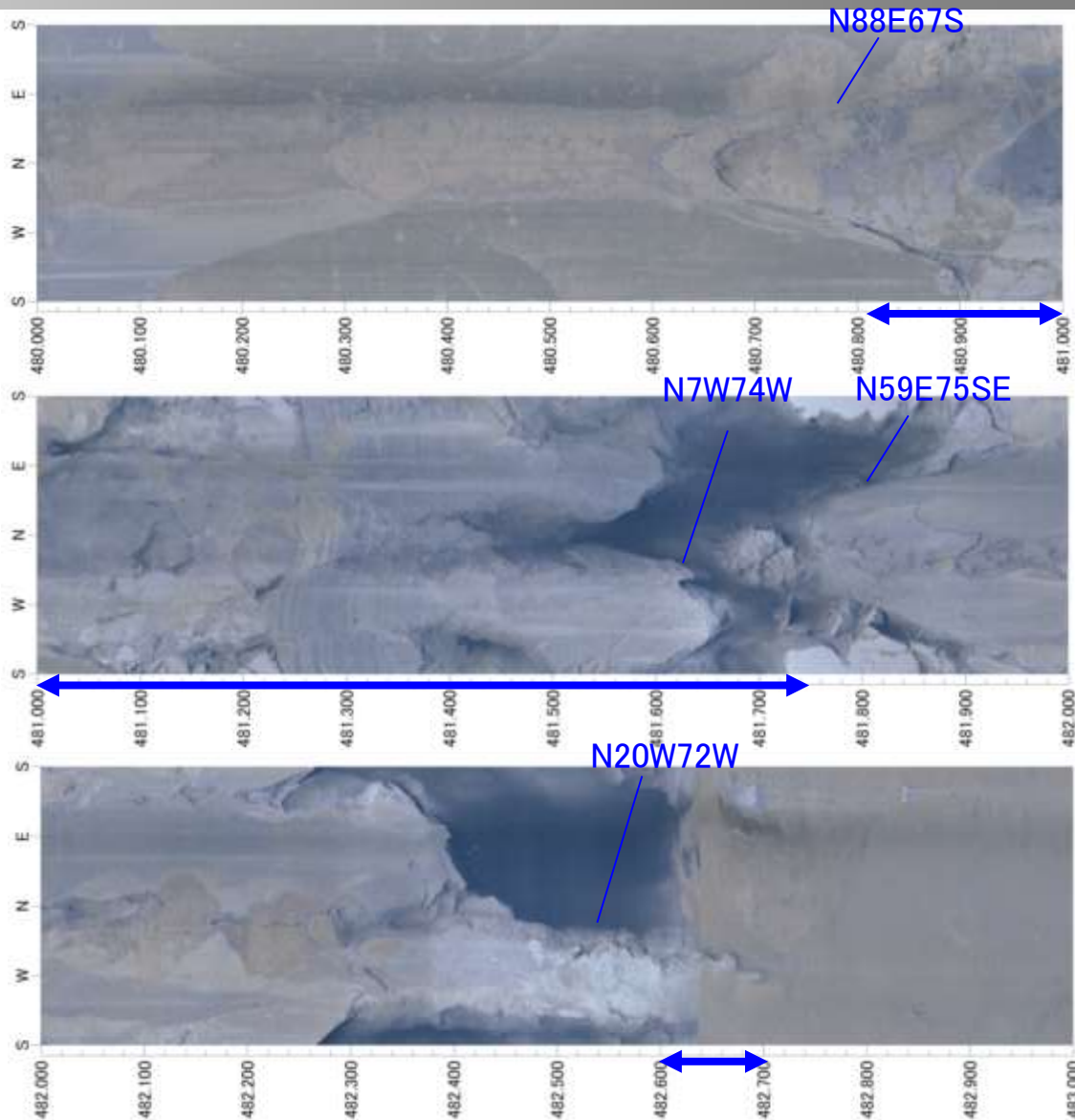


W15孔 (孔口標高40.27m) No.26断層 (深度480.80~482.70m) (BHTV)

【柱状図】

- 480.80 開離型断層
細粒物質4.5mm
- 481.22 開離型断層
細粒物質2mm
- 481.30 ゆ着型断層
- 481.73 開離型断層
細粒物質4~10mm
- 482.61-482.70 粒状
- 482.70 開離型断層
細粒物質10mm

【BHTV画像】



W15孔（孔口標高40.27m） No.27断層（深度549.75～549.94m）

【柱状図】

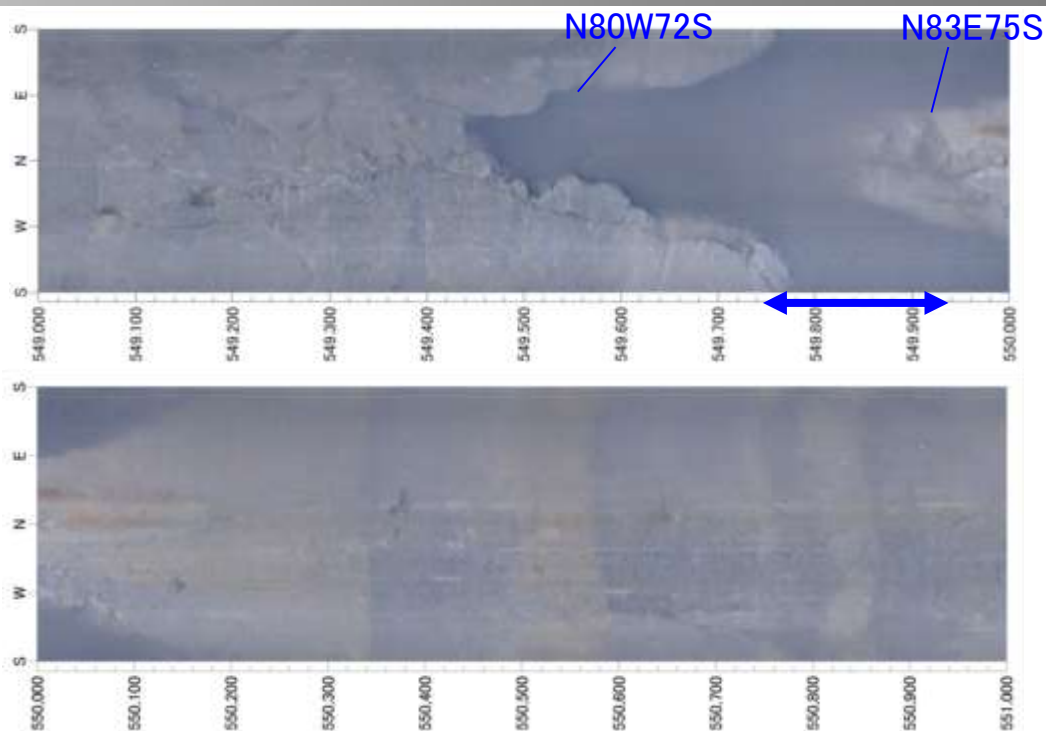
・ 549.75-549.94 粒状

コア長：-

【解釈】

- ・ コアでは、コアは粒状となっているが、不均質に割れている。また、明瞭な断層面は認められず、層理面に変形は認められない。
- ・ BHTVでは、EW走向で南傾斜の2条の面が認められ、面間の孔壁が崩落しており、層理面は確認できない。
- ・ BHTVによる2つの面の距離（40cm程度）から、上盤の断層は、粒状コアの上部の高角な亀裂（地層にずれが認められない）に対応し、下側の断層は、550.50m付近の亀裂に対応すると考えられる。
- ・ これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

→H断層系と同性状の断層に該当しない。



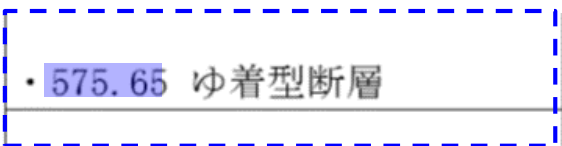
【BHTV画像】

【コア写真】



W15孔（孔口標高40.27m） No.28断層（深度575.55～575.65m）

【柱状図】



コア長： -

【解釈】

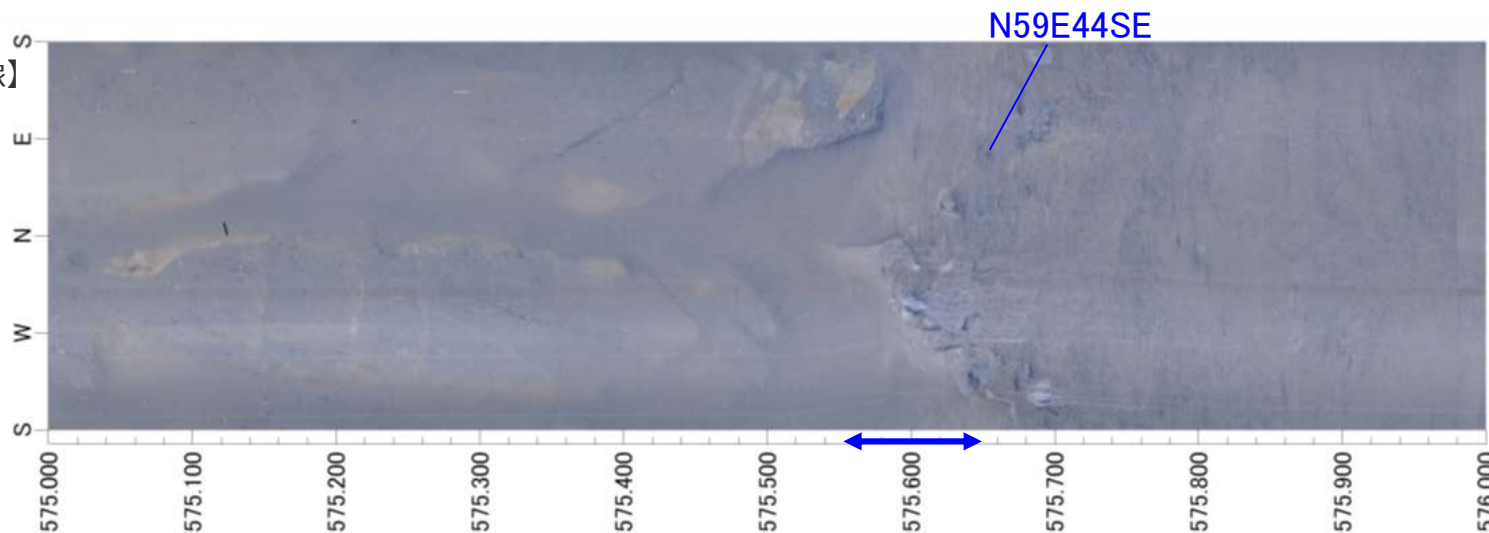
- コアでは、ゆ着型断層が1条見られる。また、断層の上部、幅10cm程度のコアがスライム状となっている。
- BHTVでは、断層面の上部、幅10cm程度で孔壁が崩落しており、層理面が確認できないが、上部の境界は面としては認識されない。
- また、下部の境界はNS走向で東傾斜の断層である。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】

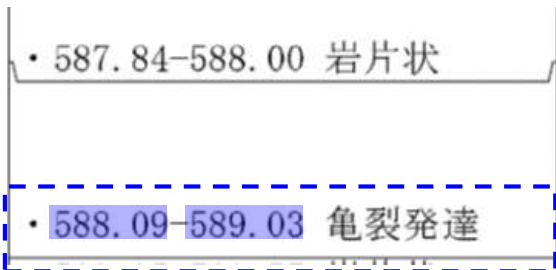


【BHTV画像】



W15孔（孔口標高40.27m）No.29断層（深度588.09～589.03m）

【柱状図】



コア長：-

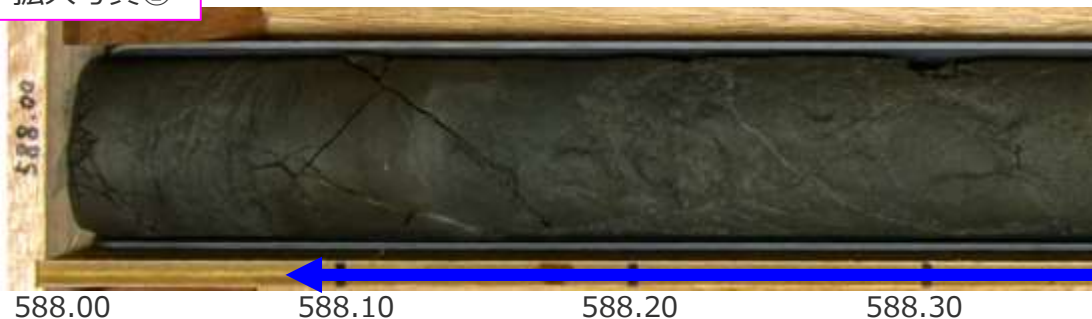
【解釈】

- コアでは、高角な亀裂（断層の可能性あり）が平行に複数条認められる。
- 高角な亀裂断層面に沿って、脈状に粘土鉱物が発達しており、層理面は不鮮明であるが、コアは細片化しておらず、一部不均質に割れている。
- これらのことから、本断層は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

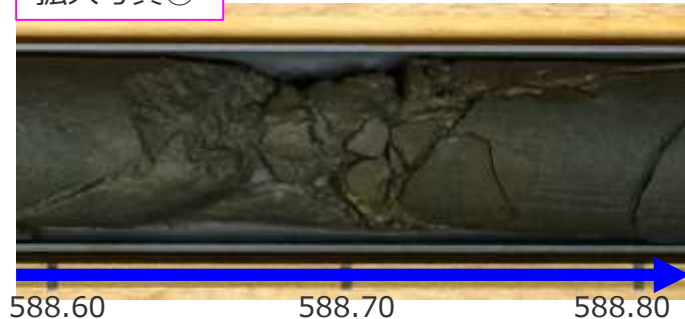
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

（なお、BHTV画像は不鮮明なため、解釈には使用しない）

拡大写真①



拡大写真②



【コア写真】



W15孔（孔口標高40.27m）No.30断層（深度609.60～610.00m）

【柱状図】

・ 609.60-610.00
亀裂沿いに変質

・ 610.07 ゆ着型断層
・ 609.58-610.13 岩片状
・ 610.41-610.58 岩片状

コア長：-

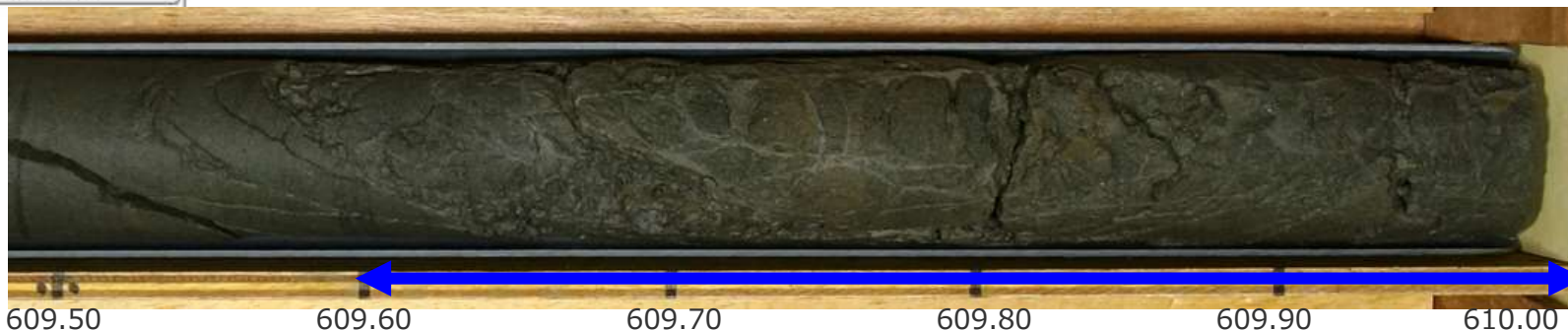
【解釈】

- ・ コアでは、高角な亀裂が複数認められる。
- ・ 高角な亀裂断層面に沿って、脈状に粘土鉱物が発達しており、層理面は不鮮明であるが、コアに細片化は認められない。
- ・ これらのことから、本断層は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

（なお、BHTV画像は不鮮明なため、解釈には使用しない）

拡大写真



【コア写真】



W15孔（孔口標高40.27m）No.31断層（深度614.65～615.22m）

【柱状図】

- ・ 614.65 開離型断層
細粒物質10mm
- ・ 614.54-614.73 岩片状～粒状
- ・ 614.91-615.22 岩片状

コア長：-

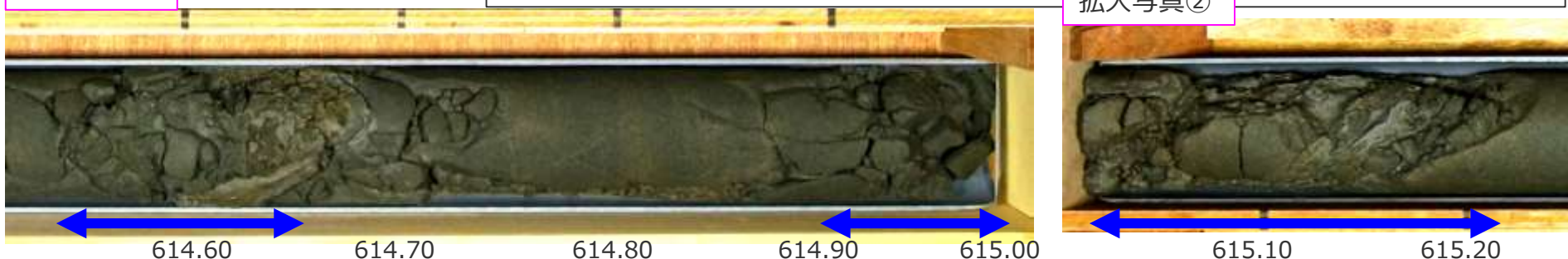
【解釈】

- ・ コアでは、開離型断層が1条認められ、その周囲のコアが岩片状～粒状となっている。また、その下部でも一部岩片状のコアが認められる。
- ・ 上部の断層は、上盤側には高角な断層面は認められず、コアは不均質に割れている。
- ・ 下部の岩片状のコアも、下盤側は断層とも解釈されるが、上盤側には高角な断層面は認められず、コアは不均質に割れている。
- ・ これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

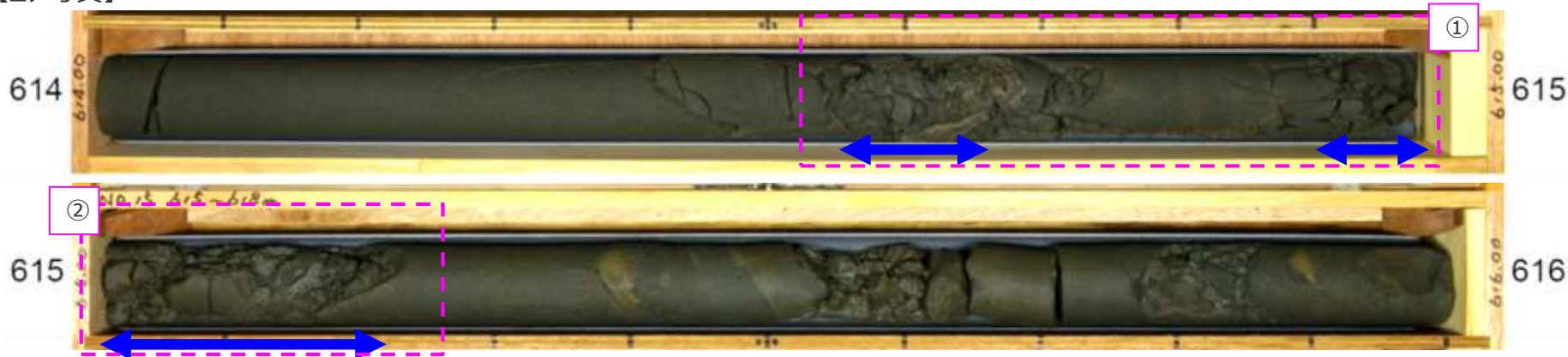
（なお、BHTV画像は不鮮明なため、解釈には使用しない）

拡大写真①

拡大写真②



【コア写真】



(4)

断層カード集 (No.0孔)

No.0孔（孔口標高52.65m） No.1断層（深度31.20～31.40m）

【柱状図】

- 30.80-31.20 岩片状(400mm)
- 31.20-31.25 断層(45° 傾斜, 同方向). 幅50mm, 粒状.
- 31.25-31.32 岩片状(70mm)
- 31.32-31.40 断層(50° 傾斜, 斜交). 幅80mm, 粒状.
- 31.40-31.72 岩片状(320mm)

コア長：0.20m（断層幅：0.14m）

【解釈】

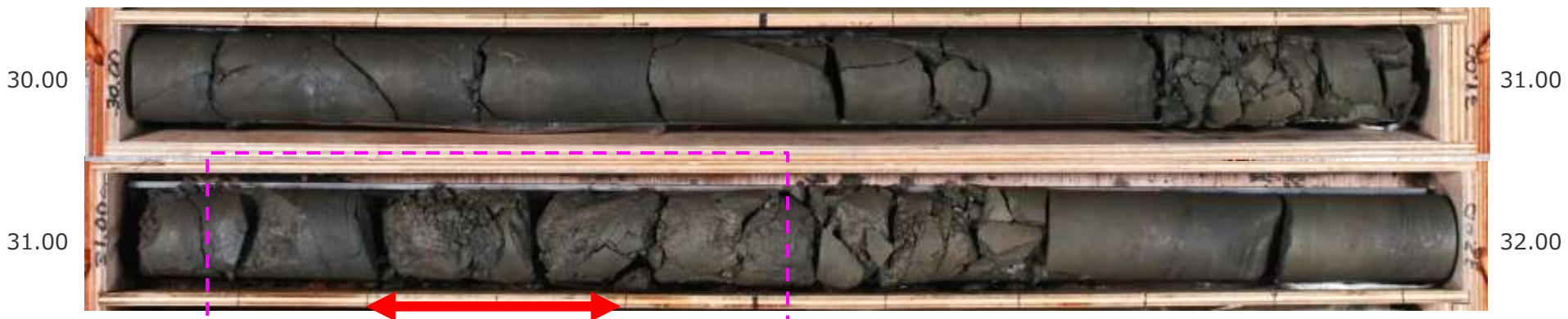
- 31.20m, 31.40mに断層が認められ, その間は, 水平割れ目が卓越するものの, 岩片状～粒状のコアが認められる。
- これらのことから, 本断層は, 幅を持つ断層と解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

拡大写真



【コア写真】

30.10 30.20 30.30 30.40 30.50



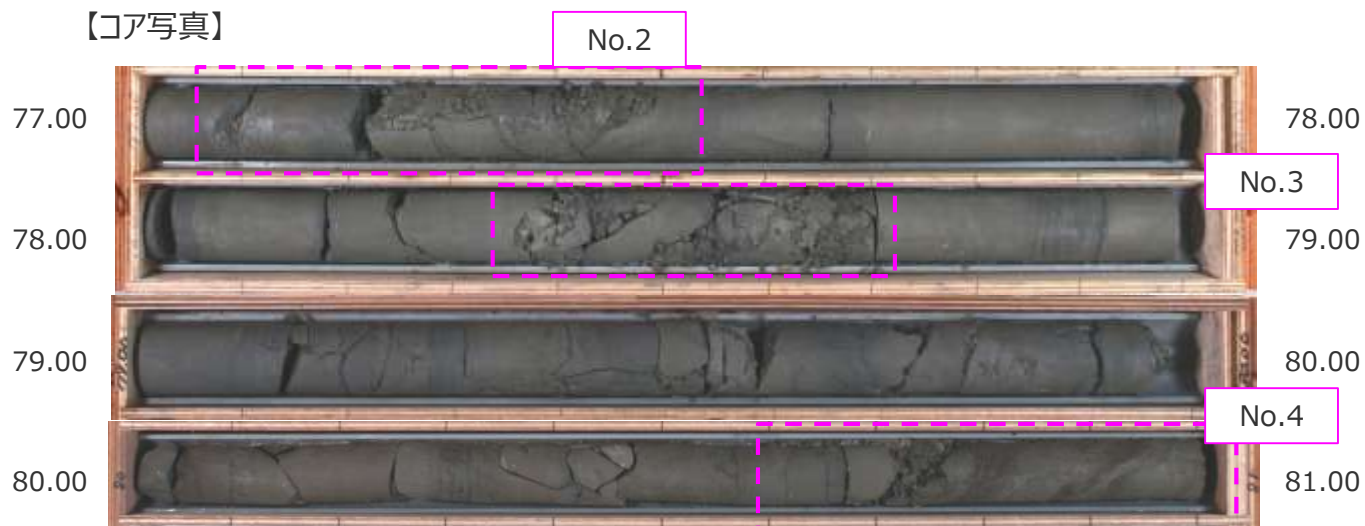
No.0孔（孔口標高52.65m） No.2,3,4断層（深度77.09～80.92m）

【柱状図】

- 77.20-77.27 粒状(70mm)
- 77.27-77.40 岩片状(130mm)
- 77.40-77.45 粒状(50mm)
- 77.09-77.11 断層(70° 傾斜, 同方向). 幅20mm. 粒状. f.
- 77.35 断層(70° 傾斜, 同方向). 細粒物質はなし. j.
- 78.40-78.70 岩片状(300mm)
- 78.45, 78.55 断層(70° 傾斜, 同方向). 細粒物質はなし. j.
- 79.95-80.00 岩片状(50mm)
- 79.95 断層(45° 傾斜, 同方向). 細粒物質はなし. j.
- 80.75 断層(50° 傾斜, 斜交). 幅5mm. 粒状. f.
- 80.92 断層(70° 傾斜, 斜交). 幅5mm. 粒状. f.

• この区間は、開離型断層および同断層に関連すると考えられる岩片状～粒状のコアが散見されるため、以下、3つ（No.2,3,4断層）に分けて、それぞれ個別に解釈を行う。

【コア写真】



No.0孔 (孔口標高52.65m) No.2断層 (深度77.09~77.45m)

【柱状図】

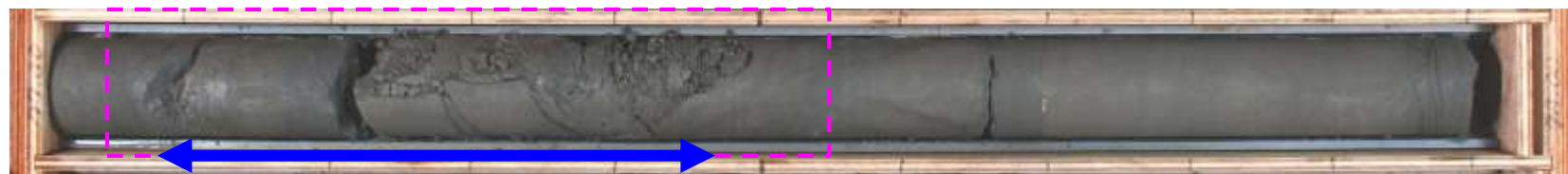
- 77.20-77.27 粒状(70mm)
- 77.27-77.40 岩片状(130mm)
- 77.40-77.45 粒状(50mm)
- 77.09-77.11 断層(70° 傾斜, 同方向). 幅20mm. 粒状. f.
- 77.35 断層(70° 傾斜, 同方向). 細粒物質はなし. j.
- 78.40-78.70 岩片状(300mm)
- 78.45, 78.55 断層(70° 傾斜, 同方向). 細粒物質はなし. j.
- 79.95-80.00 岩片状(50mm)
- 79.95 断層(45° 傾斜, 同方向). 細粒物質はなし. j.
- 80.75 断層(50° 傾斜, 斜交). 幅5mm. 粒状. f.
- 80.92 断層(70° 傾斜, 斜交). 幅5mm. 粒状. f.

拡大写真



【コア写真】

77.10 77.20 77.30 77.40 77.50



77.00

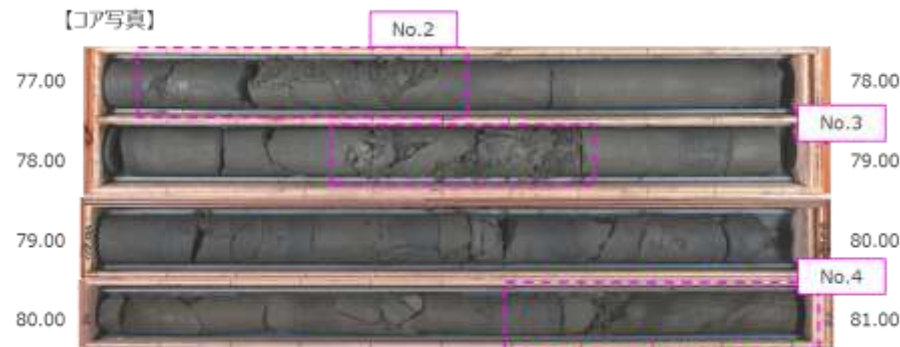
78.00

コア長： -

【解釈】

- 2条の断層面が認められ、一部区間が粒状となっているが、水平な割れ目が目立ち、コアも一部のみが不均質に割れている。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.3断層（深度78.45～78.70m）

【柱状図】

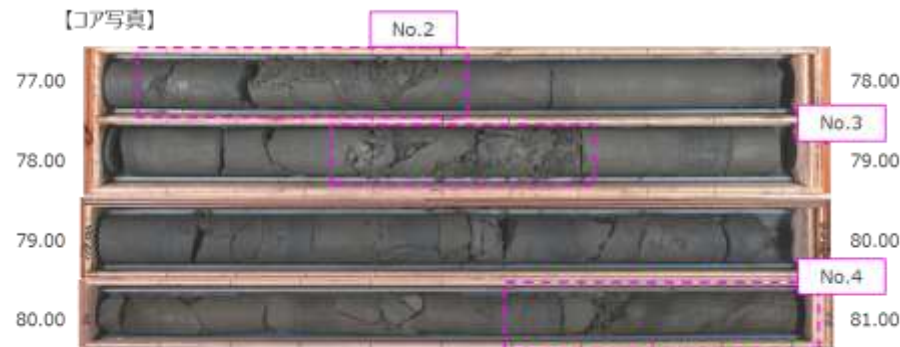
- 77.20-77.27 粒状(70mm)
- 77.27-77.40 岩片状(130mm)
- 77.40-77.45 粒状(50mm)
- 77.09-77.11 断層(70° 傾斜, 同方向). 幅20mm. 粒状. f.
- 77.35 断層(70° 傾斜, 同方向). 細粒物質はなし. j.
- 78.40-78.70 岩片状(300mm)
- 78.45, 78.55 断層(70° 傾斜, 同方向). 細粒物質はなし. j.
- 79.95-80.00 岩片状(50mm)
- 79.95 断層(45° 傾斜, 同方向). 細粒物質はなし. j.
- 80.75 断層(50° 傾斜, 斜交). 幅5mm. 粒状. f.
- 80.92 断層(70° 傾斜, 斜交). 幅5mm. 粒状. f.

コア長：-

【解釈】

- ゆ着型断層が2条認められ, その下部が岩片状となっているが, 岩片状の下部は水平割れ目（コア昇降部）が境界となっており, コアは不均質に割れている。
- これらのことから, 本断層は, 幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.4断層（深度80.75~80.92m）

【柱状図】

- 77.20-77.27 粒状(70mm)
- 77.27-77.40 岩片状(130mm)
- 77.40-77.45 粒状(50mm)
- 77.09-77.11 断層(70° 傾斜, 同方向). 幅20mm. 粒状. f.
- 77.35 断層(70° 傾斜, 同方向). 細粒物質はなし. j.
- 78.40-78.70 岩片状(300mm)
- 78.45, 78.55 断層(70° 傾斜, 同方向). 細粒物質はなし. j.
- 79.95-80.00 岩片状(50mm)
- 79.95 断層(45° 傾斜, 同方向). 細粒物質はなし. j.
- 80.75 断層(50° 傾斜, 斜交). 幅5mm. 粒状. f.**
- 80.92 断層(70° 傾斜, 斜交). 幅5mm. 粒状. f.**

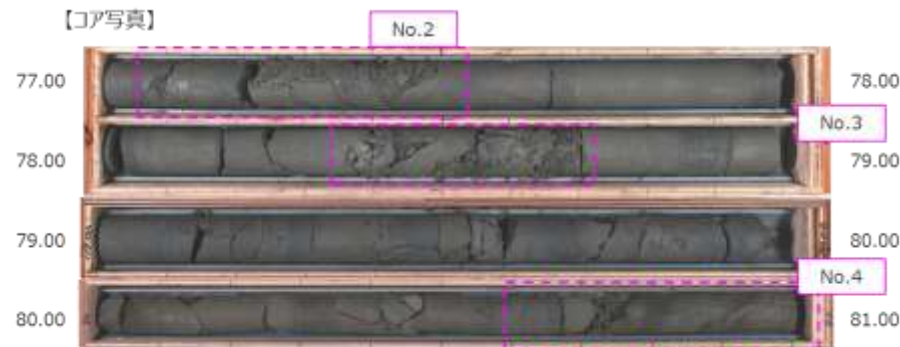
コア長：0.17m（断層幅：0.09m）

【解釈】

- 2条の開離型断層が認められ、その間の層理面が急傾斜化している。
- これらのことから、本断層は、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

【コア写真】



拡大写真



【コア写真】

80.60 80.70 80.80 80.90 81.00



80.00

81.00

No.0孔（孔口標高52.65m） No.5断層（深度82.27～84.85m）

【柱状図】

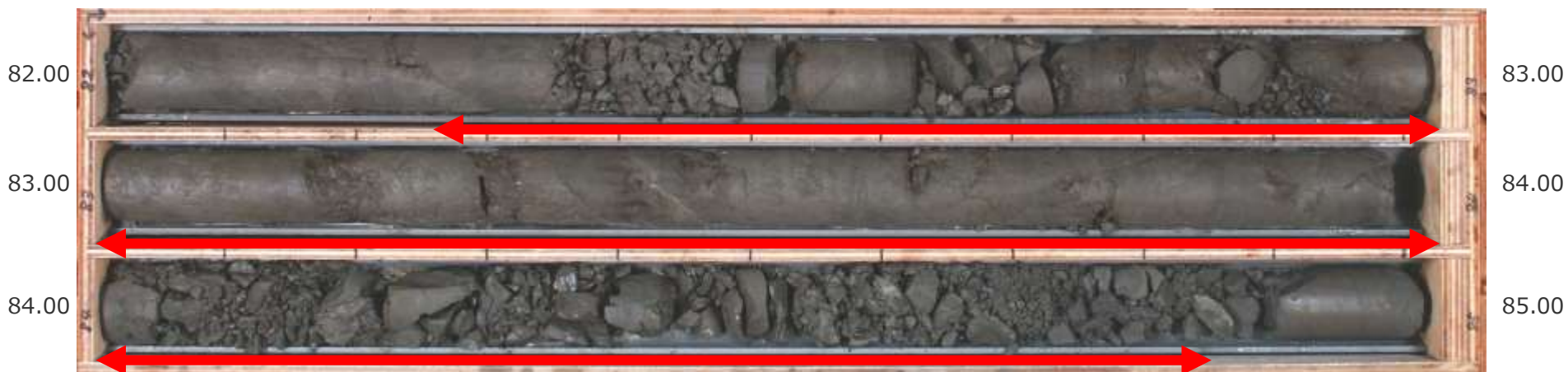
- 82.20 断層(70° 傾斜, 同方向). 幅10mm. 粒状. f.
- 82.27-84.85 地層混交帯
- 82.90-82.91 断層(60° 傾斜, 同方向). 幅10mm. 粒状. f.
- 83.20, 83.36 fp(45° 傾斜, 斜交)
- 83.43 断層(45° 傾斜, 斜交). 幅5mm. 粘土. f.
- 84.10-84.17 粒状(70mm)
- 84.17-84.19 岩片状(20mm)
- 84.19-84.20 粒状(10mm)
- 84.20-84.31 岩片状(110mm)
- 84.31-84.35 粒状(40mm)
- 84.35-84.55 岩片状(200mm)
- 84.55-84.60 粒状(50mm)
- 84.60-84.68 岩片状(80mm)
- 84.68-84.72 粒状(40mm)
- 84.72-84.90 岩片状(180mm)

コア長：2.58m（断層幅：0.88m）

【解釈】

- 82.27～84.85mの区間は，“地層混交帯”とされ，上盤側および下端側に高角な断層面が認められ，断層の間の区間は，高角な断層や岩片状～粒状のコアが幅広く認められる。
- これらのことから，本断層は，幅を持つ断層と解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.6断層（深度112.00～112.50m）

【柱状図】

（記事無し）

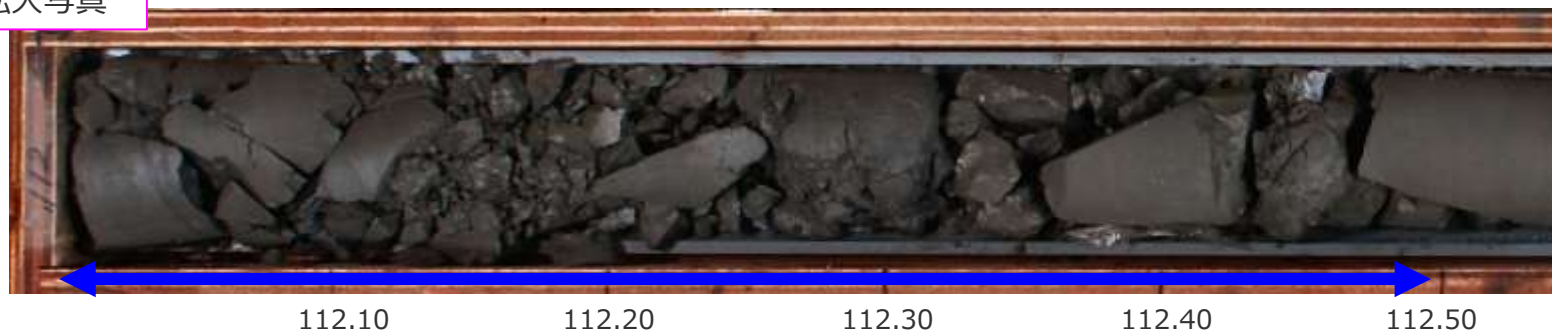
コア長：－

【解釈】

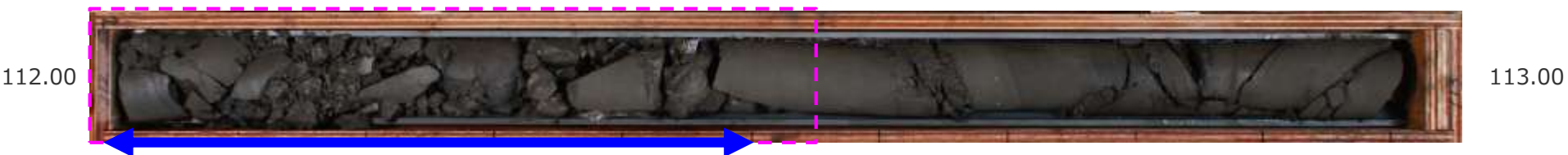
- コアでは、112.00～112.50mの区間で、岩片状に見えるが、明瞭な断層面は認められず、コアは不均質に割れている。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.7断層（深度120.75～121.30m）

【柱状図】

- 120.75-120.77 断層(70° 傾斜, 斜交). 幅20mm, 粒状, f.
- 120.95-121.15 断層(45° 傾斜, 同方向). 幅200mm, f.

コア長 : 0.55m (断層幅 : 0.30m)

【解釈】

- 2条の開離型断層が認められ, 断層の間および断層下部の121.30m付近まで, コアが粒状～岩片状になっている。
- これらのことから, 120.75～121.30mの区間を, 幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

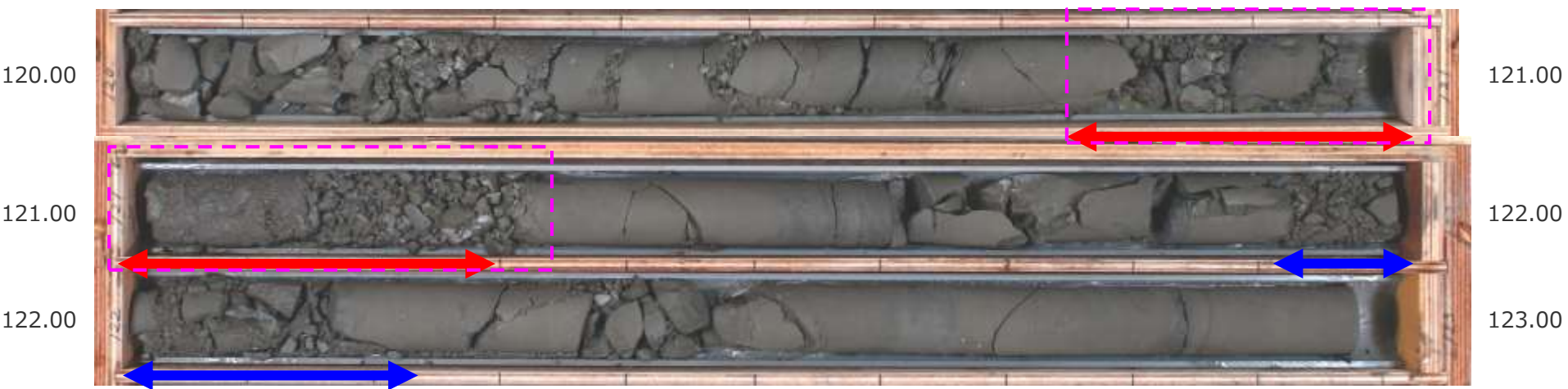
(なお, 同断層の下部, 121.90～122.25mの区間でも, コアが岩片状～粒状に見えるが, 明瞭な断層面は認められず, 水平割れ目の周辺でコアが不均質に割れていることから 掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。)

拡大写真



【コア写真】

120.80 120.90 121.00 121.10 121.20 121.30



No.0孔（孔口標高52.65m） No.8断層（深度131.75～132.05m）

【柱状図】

- 131.75 断層(70° 傾斜, 斜交). 幅1mm. 粒状. f.

コア長：-

【解釈】

- 131.75mに、高角な開離型断層が認められるが、その下部は、水平割れ目が卓越し、コアが不均質に割れている。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

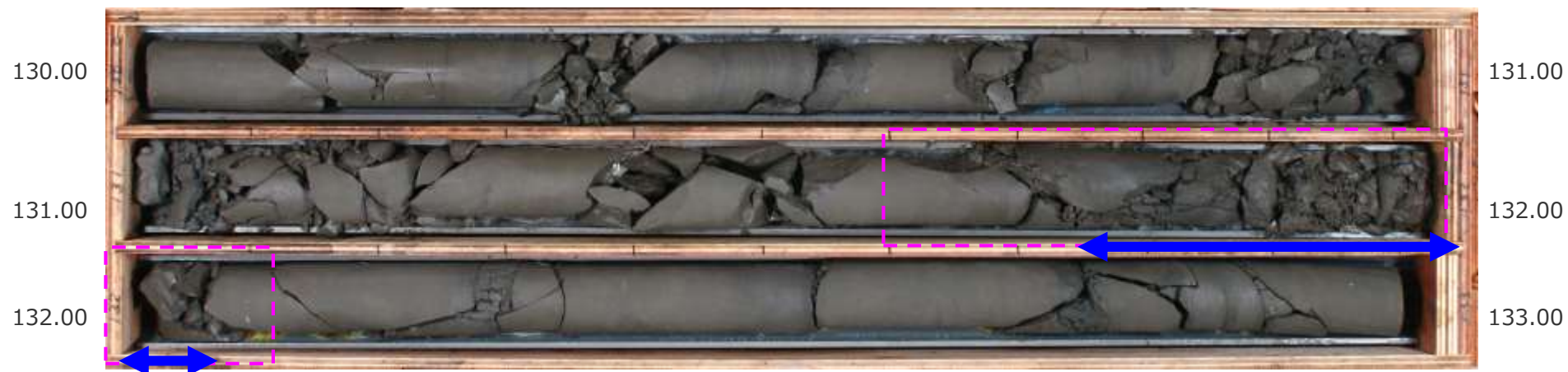
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



131.60 131.70 131.80 131.90 132.00 132.10

【コア写真】



130.00

131.00

131.00

132.00

132.00

133.00

No.0孔（孔口標高52.65m） No.9断層（深度161.35～161.50m）

【柱状図】

161.35-161.50 断層(70° 傾斜, 斜交),
幅150mm, 粒状, f.

コア長 : 0.15m (断層幅 : 0.05m)

【解釈】

- 高角な開離型断層が2条認められ, 断層の間のコアが粒状となっている。
- ただし, 161.50～161.60mの区間では, コアが不均質に割れている。
- これらのことから, 161.35～161.50mの区間を, 幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

拡大写真



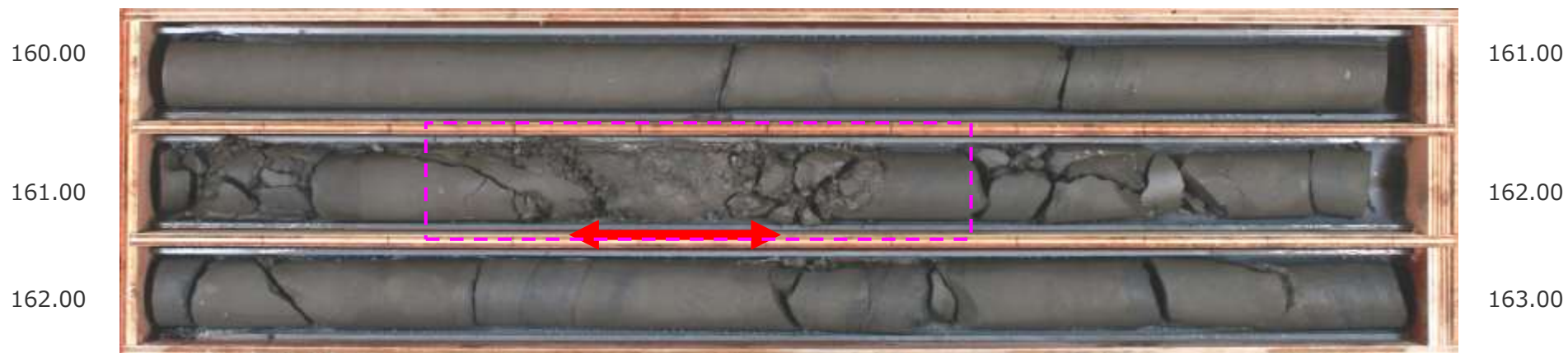
161.30

161.40

161.50

161.60

【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.10断層（深度192.58～192.70m）

【柱状図】

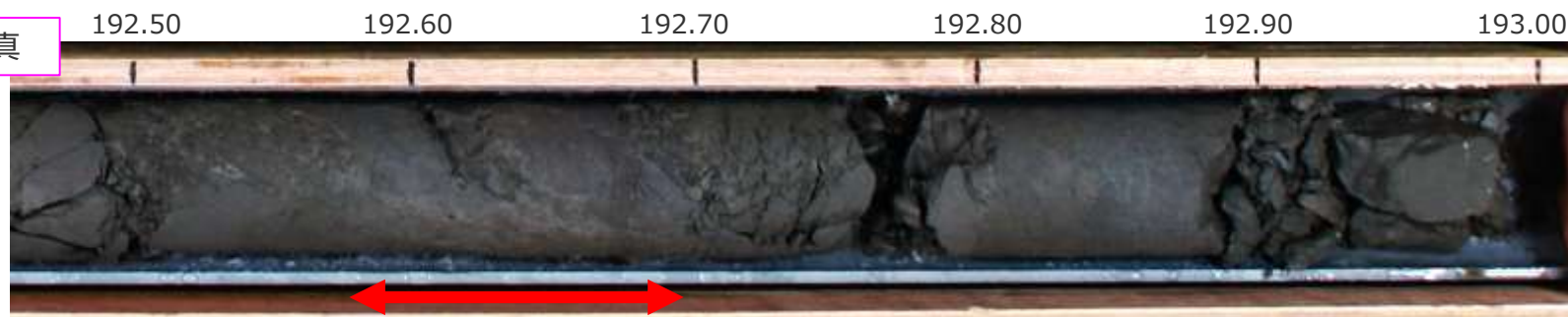
- 191.70 断層(80° 傾斜, 同方向), 幅0.1mm, 粘土, f.
- 192.58-182.59 断層(65° 傾斜, 同方向), 幅10mm, 粒状, f.
- 193.05 断層(60° 傾斜, 同方向), 幅5mm, 粒状, f.

コア長 : 0.12m (断層幅 : 0.05m)

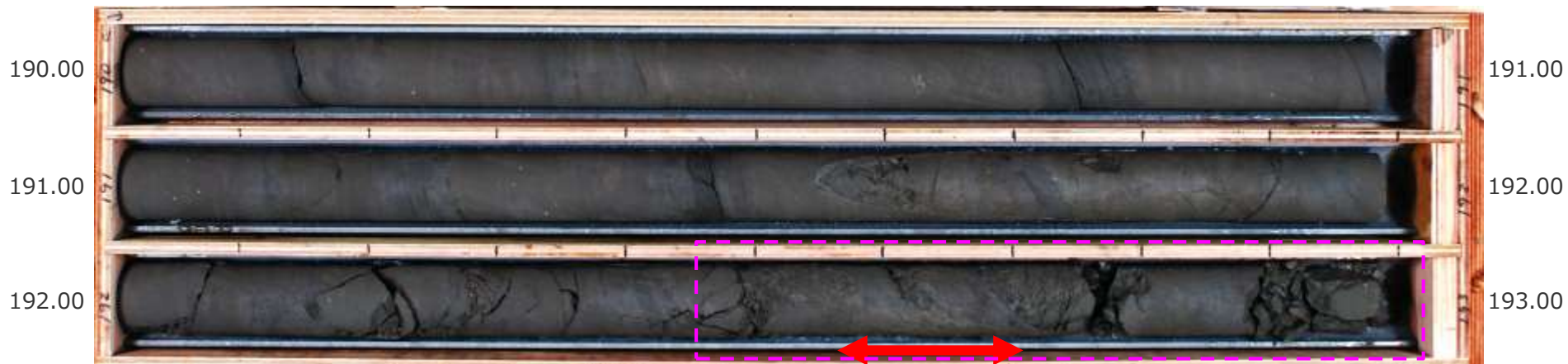
【解釈】

- 192.58mと192.70mに高角な断層が認められ, 断層間のコアの層理面の傾斜が急となる。
- これらのことから, 192.58～192.70mの区間を, 幅を持つ断層と解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.11断層（深度206.08～207.07m）

【柱状図】

205.25-205.68 灰白色凝灰岩. K-3. 15° 傾斜.
平行葉理が発達する. 断層で切られる.
205.25 断層(60° 傾斜, 斜交). 細粒物質はなし.
206.04-207.15 地層混交帯

- 206.08 断層(60° 傾斜, 同方向). 幅0.1mm. 粘土. f.
- 206.42-206.44 (50° 傾斜 同方向). 幅20mm. 粒状. f.
- 207.05-207.07 (60° 傾斜, 同方向). 幅20mm. 粒状. f.
- 207.73-203.75※(60° 傾斜, 同方向). 幅20mm. 粒状. f.

※203.75mは207.75mの誤記

コア長 : 0.99m (断層幅 : 0.49m)

【解釈】

- 206.04～207.15mの区間で, “地層混交帯”とされ, 複数の高角な断層面と, その間が地層混交帯とされ, 層理面が不明瞭となっている。
- これらのことから, 本断層を, 幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

(なお, 同断層の下部, 207.50～207.95m, 208.05～208.40mの区間でも, コアが岩片状～粒状となるが, 明瞭な断層面は1条(207.73m)のみで, コアは不均質に割れていることから, これらは幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。)

【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.12断層（深度232.65～233.00m）

【柱状図】

（記事無し）

コア長：－

【解釈】

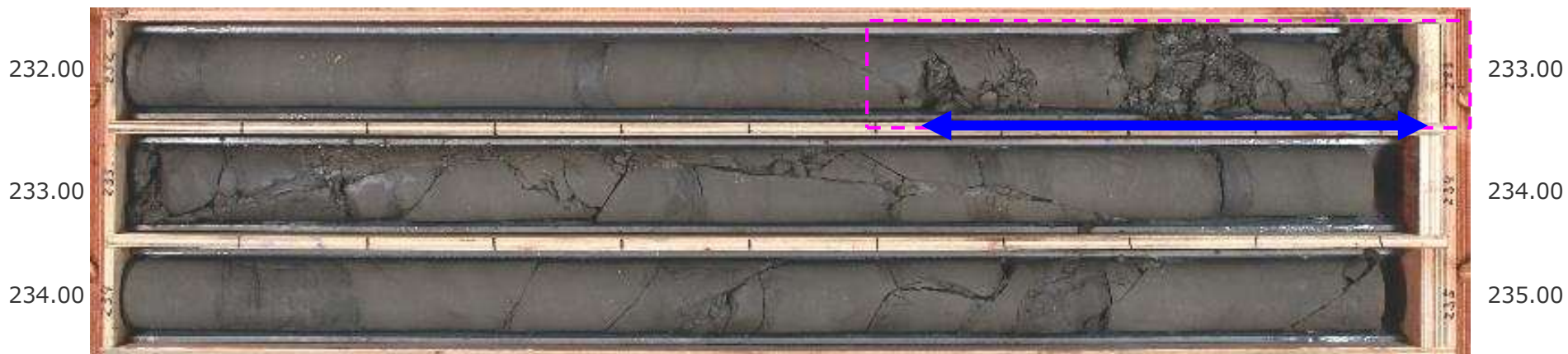
- 232.65～233.00mの間で、幅の狭い粒状のコアが散見される。
- ただし、明瞭な断層面は認められず、水平な割れ目が卓越しており、コアも不均質に割れている。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.13断層（深度236.20～236.50m）

【柱状図】

- 236.34-236.35 断層(50° 傾斜, 斜交), 幅10mm. 粒状. f.
- 236.39-236.41 白色凝灰岩
- 236.66-236.71 断層(45° 傾斜, 斜交), 幅50mm. 粒状. f.

コア長：－

【解釈】

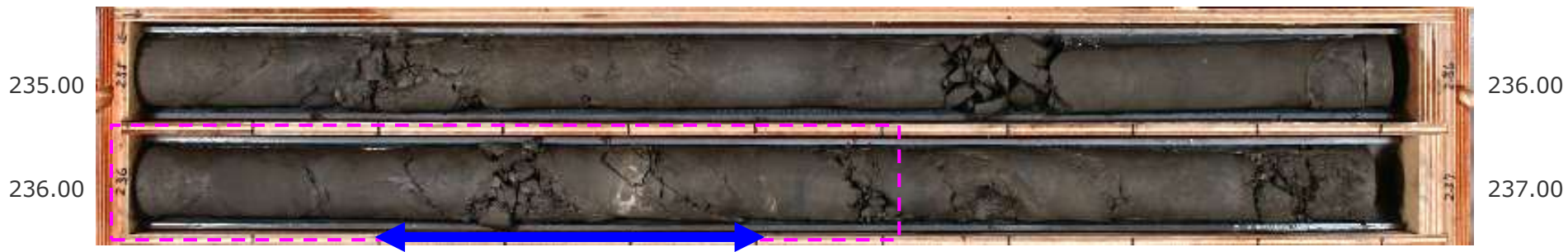
- 236.35mに開離型断層が1条認められ, その上下に同傾斜の亀裂と, 断層のごく近傍でコアの一部が不均質に割れているが, 周囲の層理面に变形は認められない。
- これらのことから, 本断層は, 幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.14断層（深度248.35～248.85m）

【柱状図】

247.06-247.10 灰白色凝灰岩. K-4b. 10° 傾斜.
247.19-247.23 灰白色凝灰岩. K-4b. 10° 傾斜.
平行葉理発達.

(記事無し)

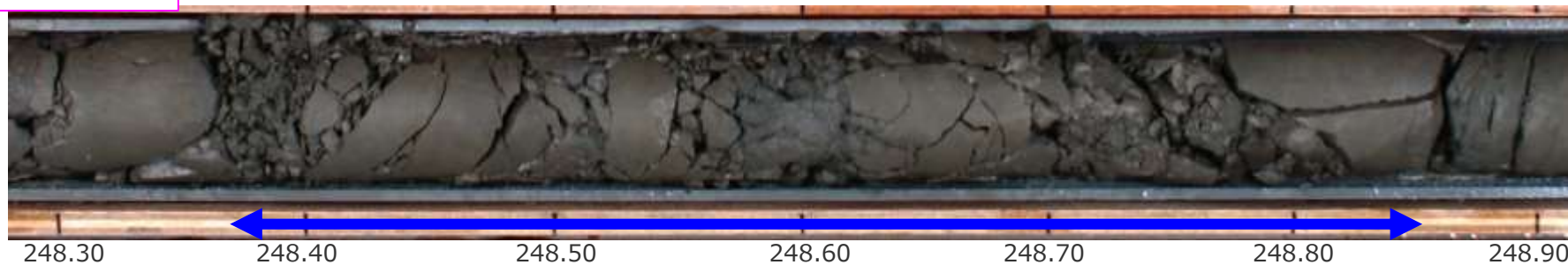
コア長：－

【解釈】

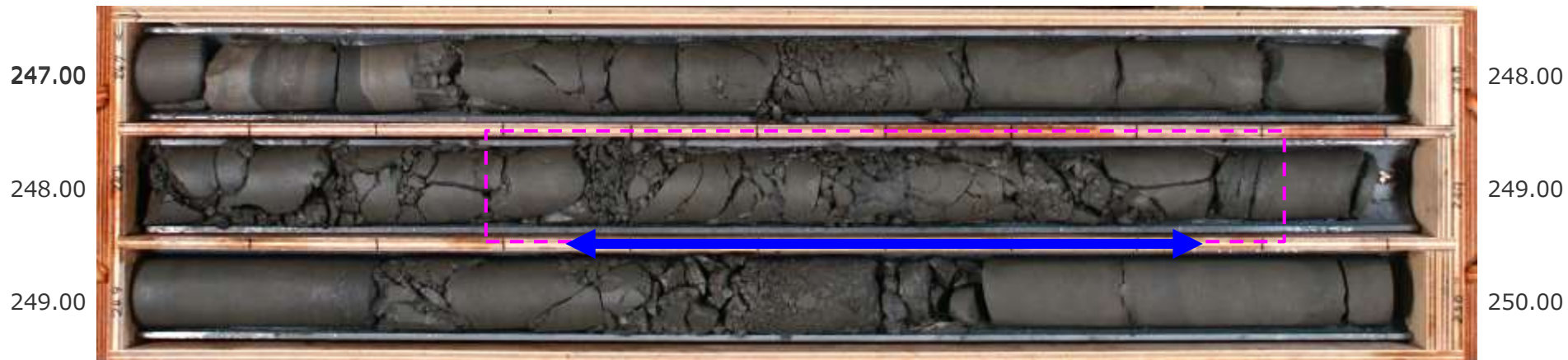
- 248.35m～248.85mの範囲で、コアが部分的に岩片状になっている。
- コアを詳細に見ると、高角な亀裂（あるいは断層）に沿ったコアの割れや、水平割れ目が多く、コアは不均質に割れている。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.15断層（深度254.55～255.35m）

【柱状図】

- 255.35 断層(80° 傾斜, 同方向), 幅0.1mm, 粘土, f.

コア長 : 0.80m (断層幅 : 0.14m)

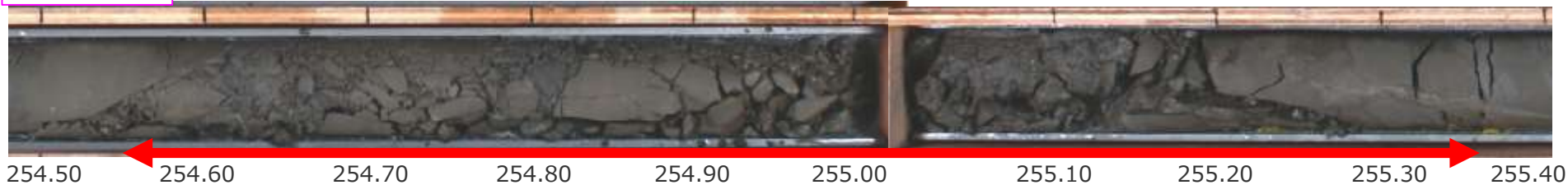
【解釈】

- 254.55m (記事無し) , 255.35mに高角な断層面が認められ, 断層の間が岩片～粒状になっている。
- コアは不均質に割れている箇所もあるが, 細片化した部分も認められる。
- これらのことから, 本断層を, 幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

(なお, 同断層の下部, 255.60～255.95m付近の区間でも, コアが岩片状～粒状になっているが, 明瞭な断層面が認められず, コアは不均質に割れていることから, これらは幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。)

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.16断層（深度278.75～279.60m）

【柱状図】

- 278.62-279.60 地層混交帯
 - 278.75-278.79 断層(60° 傾斜, 斜交). 幅40mm, 粒状, f.

- 281.48-281.51 断層(70° 傾斜, 斜交). 幅30mm, 粒状, f.

コア長 : 0.85m (断層幅 : 0.43m)

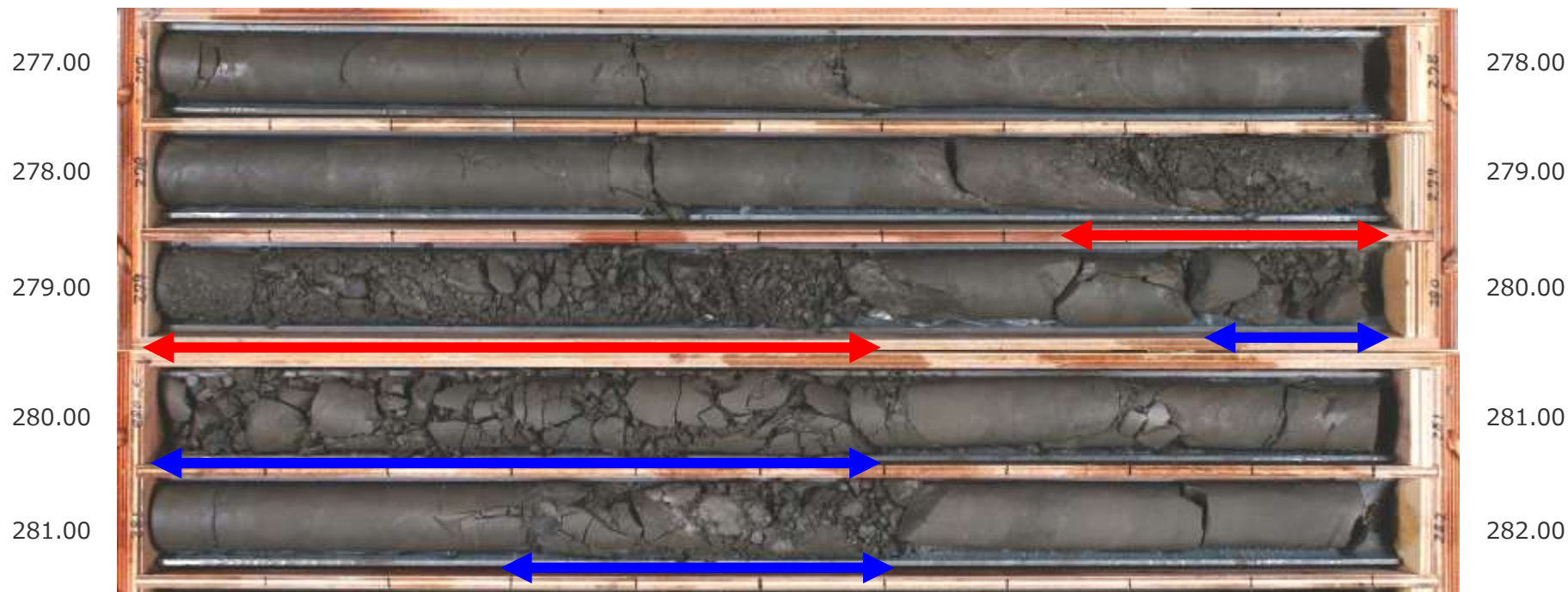
【解釈】

- 高角な2条の断層面と、その間の地層が“地層混交帯”とされ、層理面が不明瞭あるいは粒状のコアが幅広く認められる。
- これらのことから、本断層を、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。

(なお、上記断層の下部、279.90～280.60m、281.30～281.60m付近の区間でも、コアが岩片状～粒状となっているが、明瞭な断層面は認められず、コアは不均質に割れていることから、これらは幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。)

【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.17断層（深度302.55～303.00m）

【柱状図】

- 302.55-302.58 断層(70° 傾斜, 同方向).
幅30mm. 粒状. f.

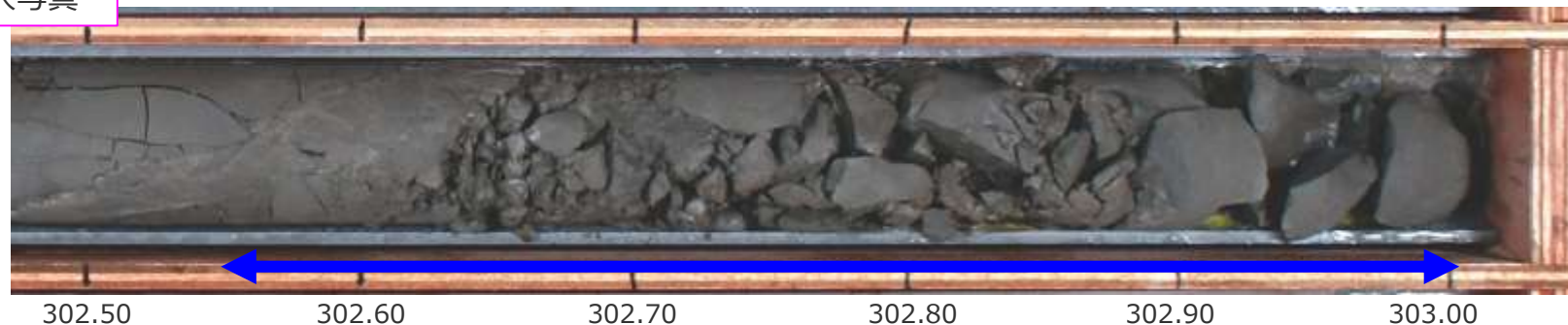
コア長： -

【解釈】

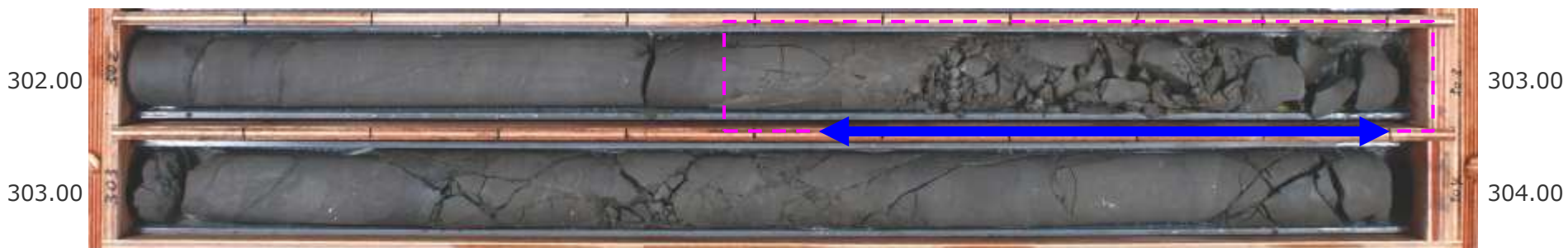
- 302.55mに高角な開離型断層があり、同断層の下部が岩片状のコアとなっているが、コアは不均質に割れており、下部は水平な割れ目を境としている。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.18断層（深度304.20～304.45m）

【柱状図】

• 304.20, 304.45 断層(60° 傾斜, 斜交),
幅0.1mm, 粘土, f.

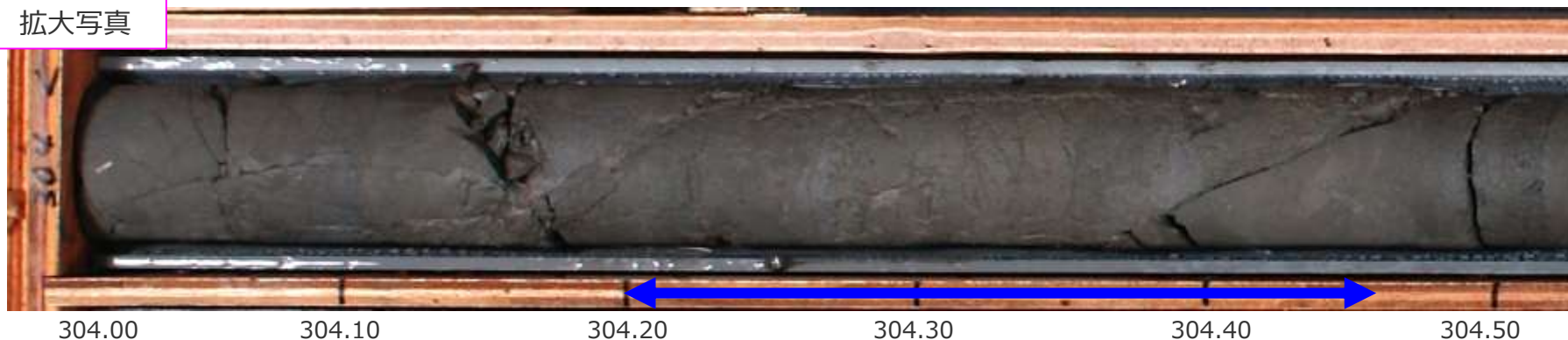
コア長：-

【解釈】

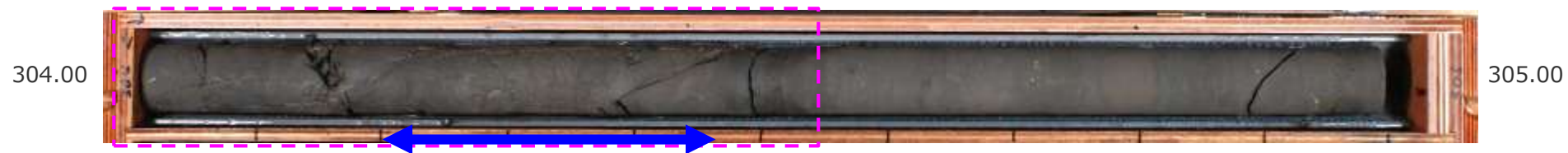
- 高角な開離型断層が2条認められるが、間の地層の層理面は保存されており、地層の急傾斜構造も認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.19断層（深度329.25～329.60m）

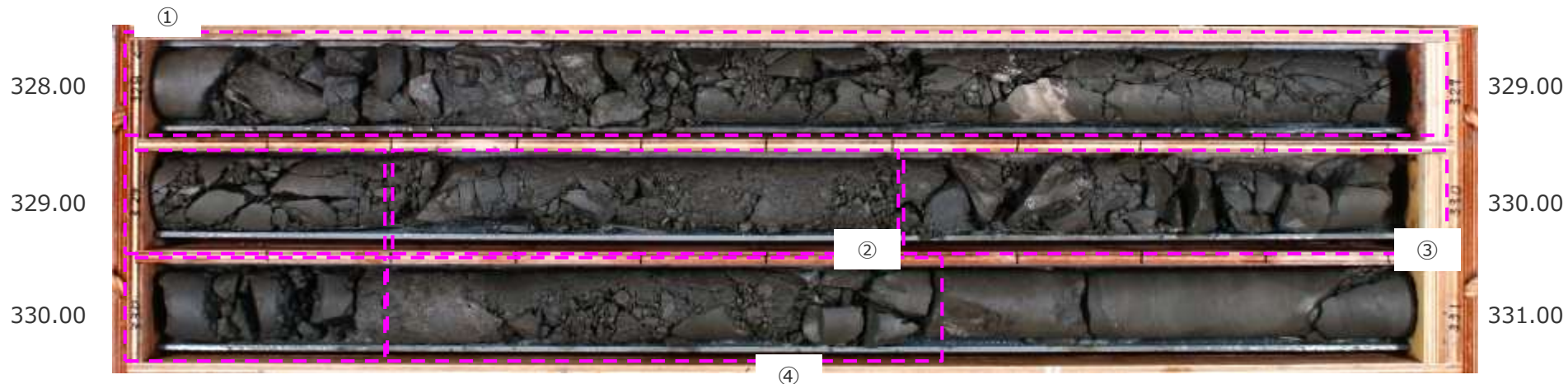
【柱状図】

329.25-330.50 地層混交帯

- 330.29 断層(60° 傾斜, 同方向), 幅0.1mm, 粘土, f.

- 柱状図では, 329.25～330.50mの範囲が地層混交帯とされており, その上部の328.05～329.25mの区間にも岩片状のコアが認められる。ただし, 範囲によってコアの性状が異なる。
- ここでは, 以下①～④の4つの区間に分けて解釈を行う。

【コア写真】



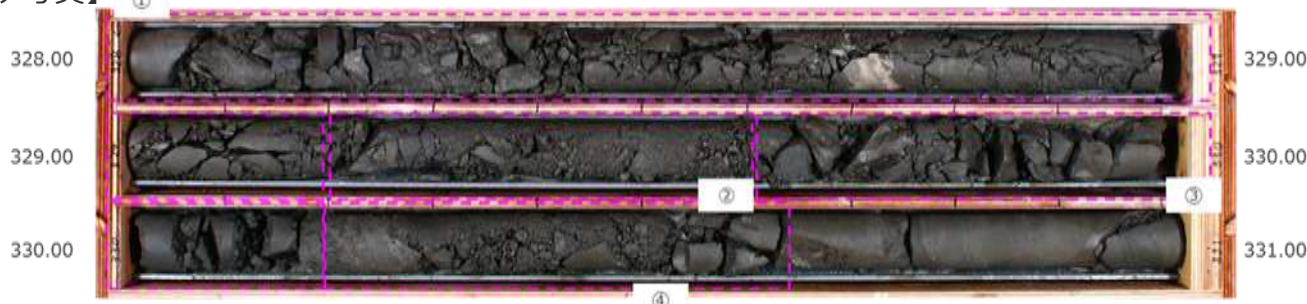
No.0孔（孔口標高52.65m） No.19断層①（深度328.05～329.20m）

【柱状図】

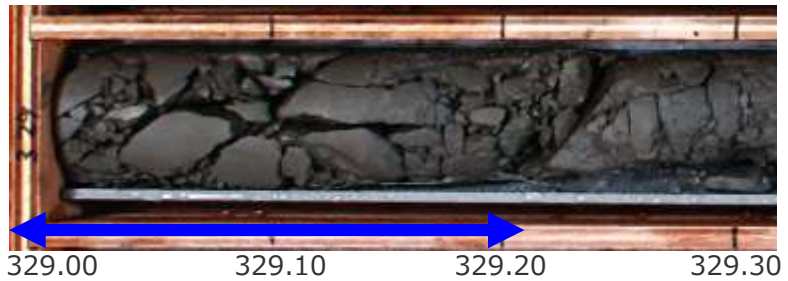
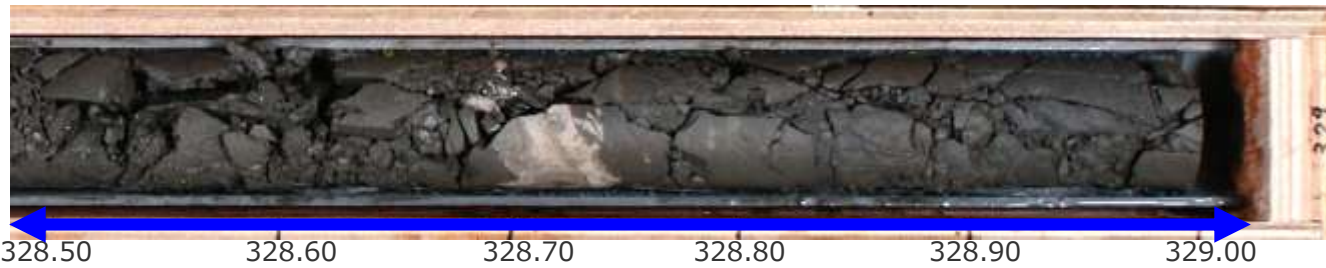
【コア写真】

329.25-330.50 地層混交帯

・ 330.29 断層(60° 傾斜, 同方向),
幅0.1mm, 粘土, f.



拡大写真



コア長：-

【解釈】

- ・ 328.05～329.20m付近まで、コアが不均質に割れているか、ほぼ垂直な断層に沿って、コアに亀裂が発達している。
 - ・ これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
- ⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

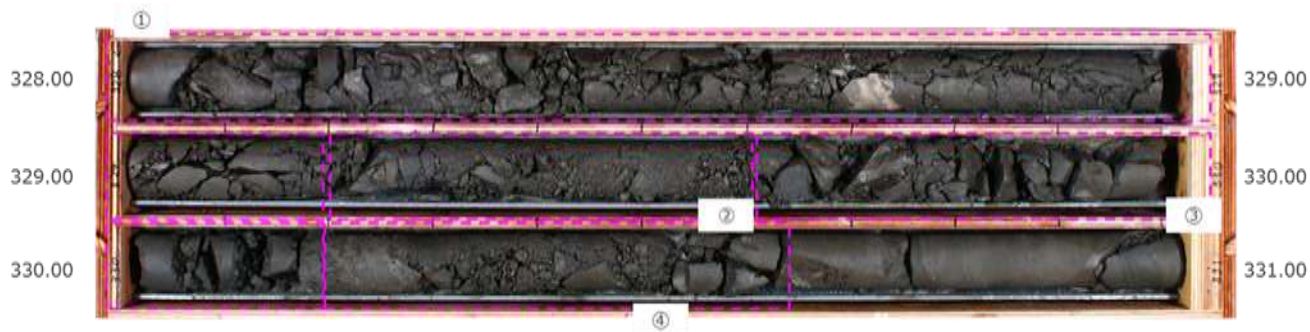
No.0孔 (孔口標高52.65m) No.19断層② (深度329.25~329.60m)

【柱状図】

329.25-330.50 地層混交帯

- 330.29 断層(60° 傾斜, 同方向), 幅0.1mm, 粘土, f.

【コア写真】



拡大写真



コア長 : 0.35m (断層幅 : 0.18m)

【解釈】

- 記事では, 329.25~330.50mまで, 地層混交帯とされている。
- コアでは, 329.25m付近に高角な開離型断層が認められ, 下位のコアは粒状となっている。
- 粒状のコアは, 329.60m付近まで認められ, それ以深は, 水平割れ目が卓越し, コアが不均質に割れている。
- これらのことから, この区間 (329.25~329.60m) を, 幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。(No.19断層では, ②, ④が, H断層系と同性状の断層となるため, より幅の大きい②の断層を代表とする)

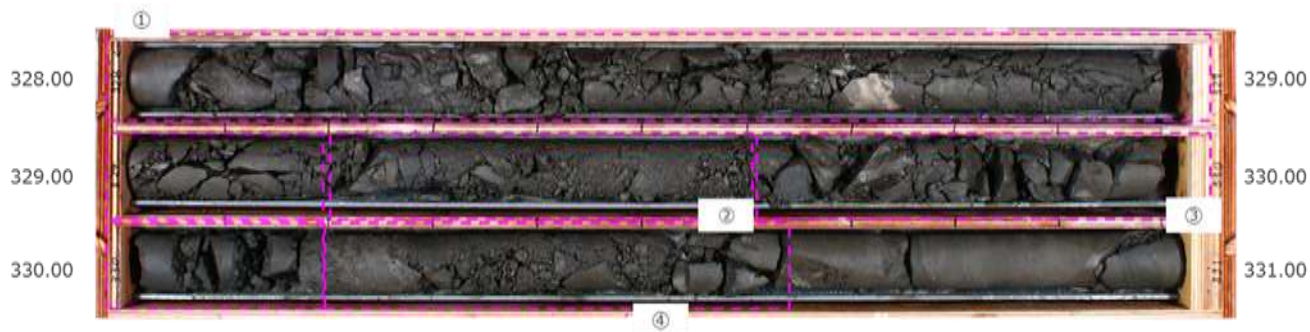
No.0孔（孔口標高52.65m） No.19断層③（深度329.60～330.20m）

【柱状図】

329.25-330.50 地層混交帯

- 330.29 断層(60° 傾斜, 同方向), 幅0.1mm, 粘土, f.

【コア写真】



拡大写真



コア長：-

【解釈】

- 記事では、329.25～330.50mまで、地層混交帯とされている。
- 明瞭な高角の断層面が認められず、水平な割れ目が卓越し、コアが不均質に破碎されている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

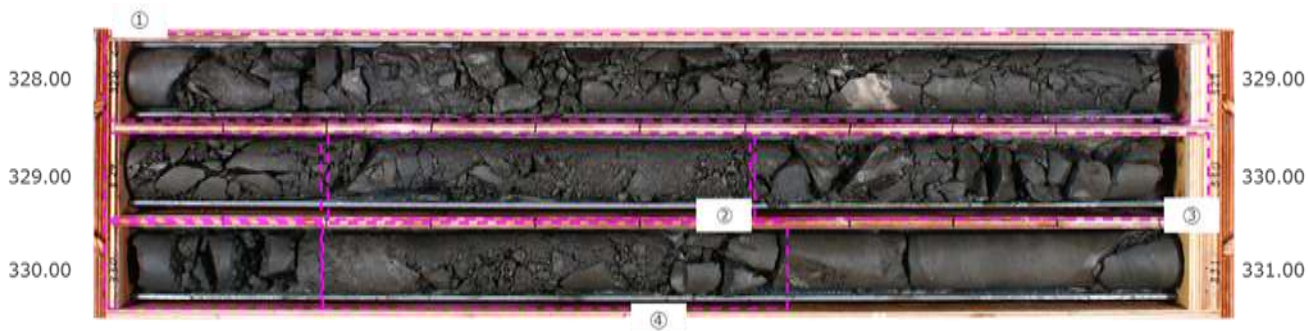
No.0孔（孔口標高52.65m） No.19断層④（深度330.29～330.50m）

【柱状図】

329.25-330.50 地層混交帯

- 330.29 断層(60° 傾斜, 同方向), 幅0.1mm, 粘土, f.

【コア写真】



拡大写真



コア長：0.21m（断層幅：0.11m）

【解釈】

- 記事では、329.25～330.50mまで、地層混交帯とされている。
- コアでは、330.29mに高角な開離型断層が認められ、下位のコアは粒状となっているが、330.50m付近からは、コアが不均質に割れており、水平割れ目を境として、それ以深は健岩となっている。
- これらのことから、この区間（330.29～330.50m）を、幅を持つ断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当する。（⇒No.19断層では、②、④が、H断層系と同性状の断層となるため、より幅の大きい②の断層を代表とする）

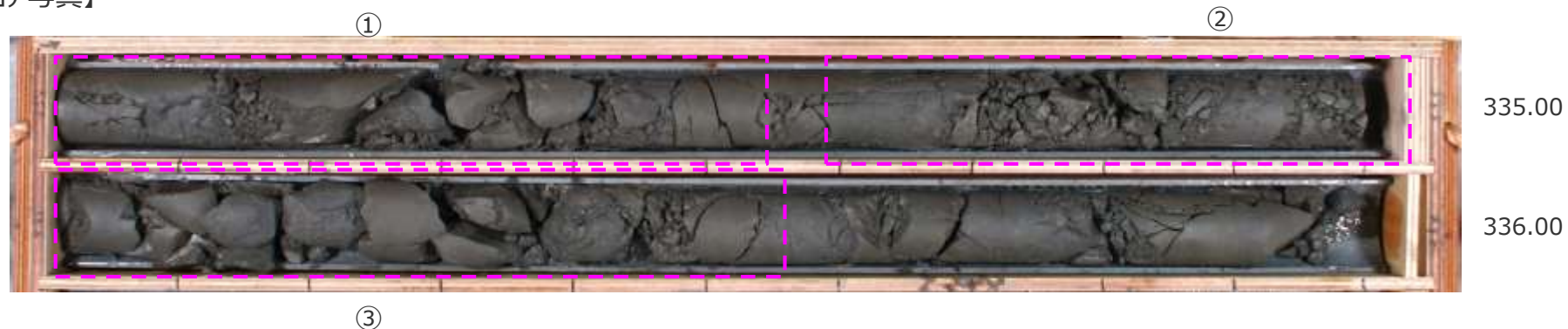
No.0孔（孔口標高52.65m） No.20断層①，②，③（深度334.00～335.55m）

【柱状図】

記事無し。

- この区間は、記事は無いが、コア写真では、断層および同断層に関連すると考えられる岩片状～粒状のコアが散見されるため、以下、3つ（①，②，③）に分けて、それぞれ個別に解釈を行う。

【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.20断層①（深度334.25～334.50m）

【柱状図】

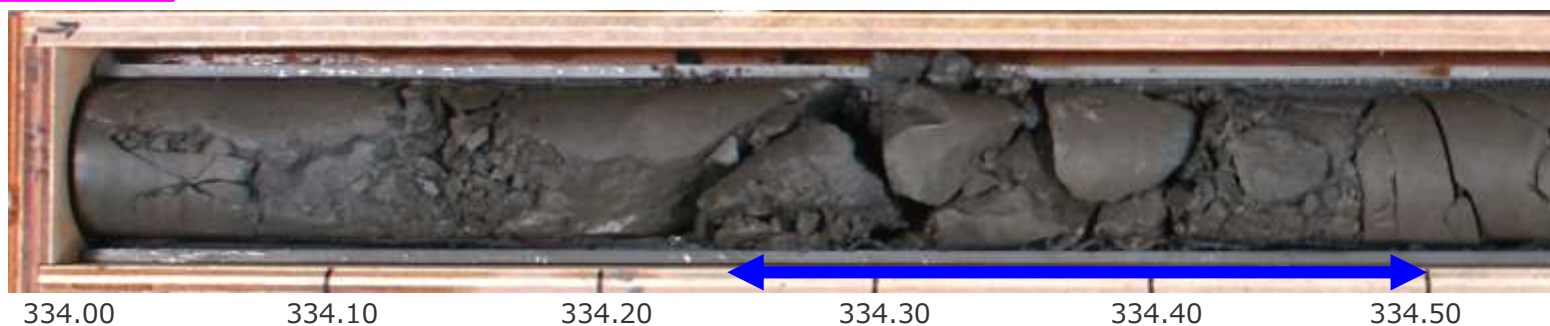
記事無し。

コア長：-

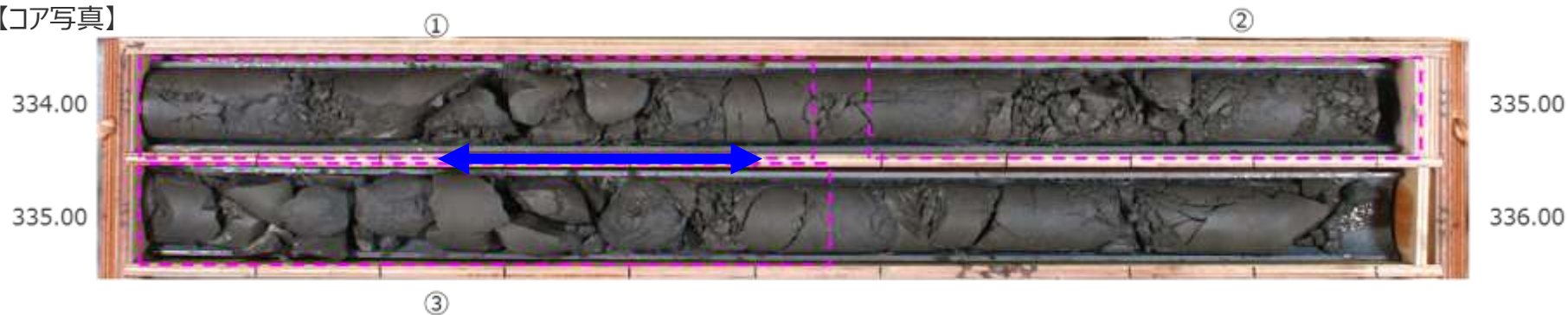
【解釈】

- 334.25m付近に高角な割れ目と、下部のコアが、334.50m付近まで岩片状になっており、下部は水平割れ目となっている。
- この区間は、明瞭な高角の断層面が認められず、水平な割れ目も多く、コアが不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
→H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.20断層②（深度334.70～334.50m）

【柱状図】

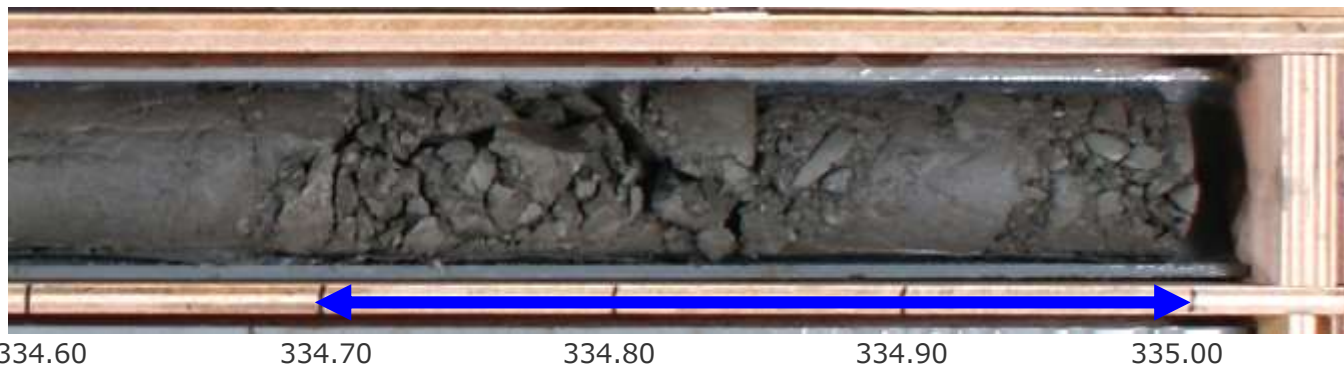
記事無し。

コア長：－

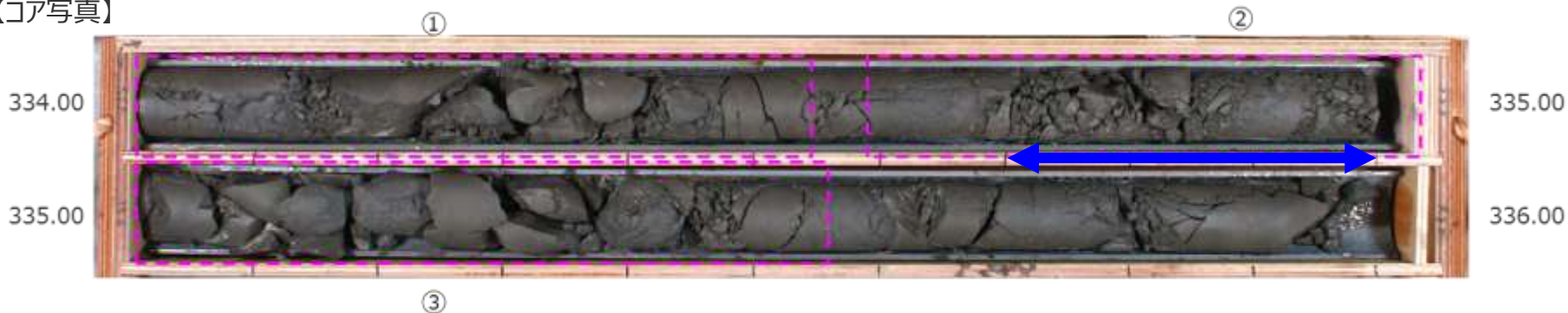
【解釈】

- 334.70～334.50mの区間が岩片状になっており、334.70～334.80m付近に、水平割れ目や、高角な割れ目が認められる。
- この区間は、明瞭な高角の断層面が認められず、コアが不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.20断層③（深度335.05～335.50m）

【柱状図】

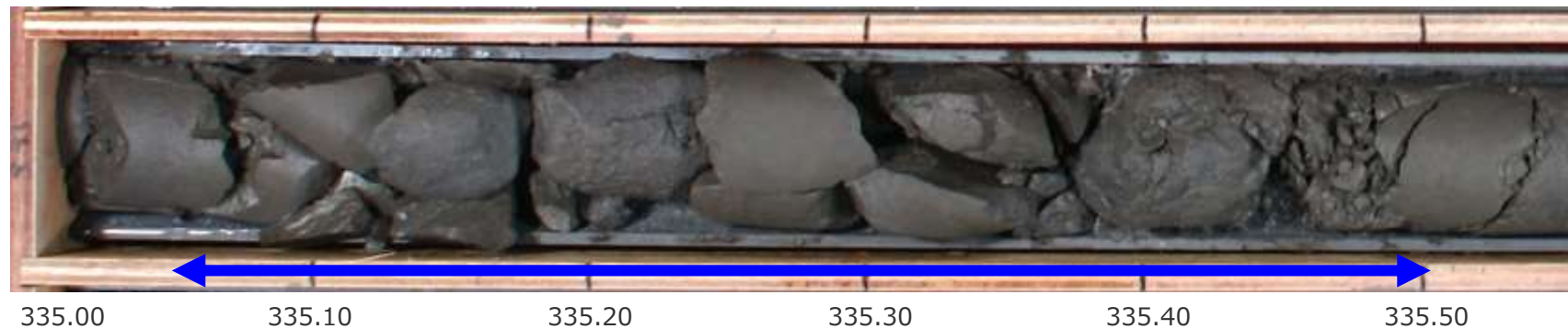
記事無し。

コア長：－

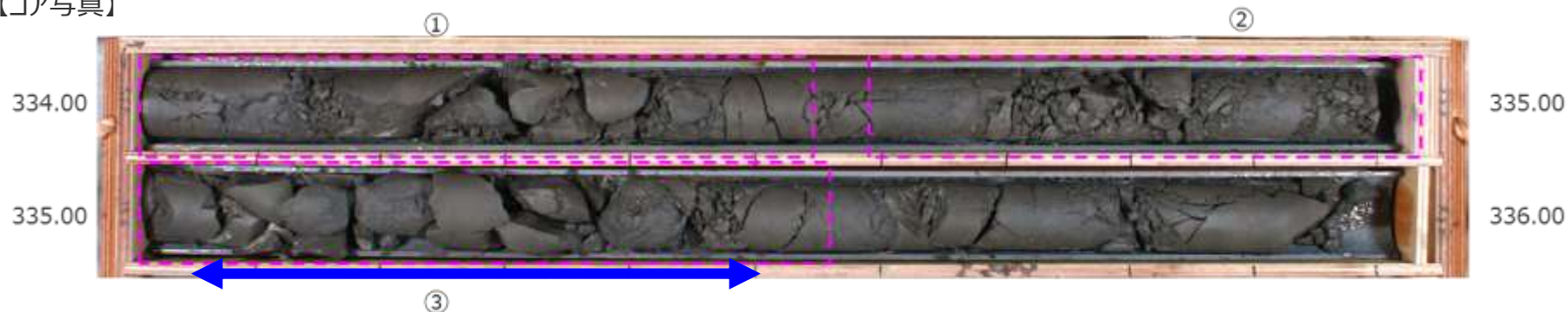
【解釈】

- 335.00～335.50mの区間で、コアが岩片状になっている。
- この区間は、明瞭な高角の断層面が認められず、水平な割れ目も多く、コアが不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.21断層（深度409.70～409.85m）

【柱状図】

記事無し

コア長：－

【解釈】

- 409.70～409.85mの区間で、コアが岩片状～粒状になっている。
 - この区間は、明瞭な高角の断層面が認められず、コアも不均質に割れている。
 - これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
- ⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



409.60

409.70

409.80

409.90

410.00

【コア写真】



409.00

410.00

No.0孔（孔口標高52.65m） No.22断層（深度415.00～417.60m）

【柱状図】

・ 414.90 断層(75° 傾斜, 同方向).
幅0.5mm. 粘土. f.
415.40-416.25 コアの流出

416.88 φ10mmの白色軽石が1つ点在する.

コア長：－

【解釈】

- ・ 415.40～416.25mまでコアが欠損しており（幅0.85m）, その前後の415.00～417.60m付近の範囲でも, 割れ目が卓越している。
- ・ この区間は, 明瞭な高角の断層面は認められず, 水平割れ目も多く, コアも不均質に割れている。
- ・ これらのことから, 本構造は, 掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.23断層（深度432.85~432.95m）

【柱状図】

- 432.85 断層(80° 傾斜, 同方向), 幅0.5mm, 粘土, f.
 - 432.95 断層(75° 傾斜, 同方向), 幅0.5mm, 粘土, f.
- 434.02-434.06 白色凝灰岩, 5° 傾斜.

コア長：-

【解釈】

- 高角な断層面が2条平行に認められるが、間の地層は健岩であり、断層の上下にも層理面の变形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.24断層（深度442.15～445.50m）

【柱状図】

442.15-445.50 地層混交帯

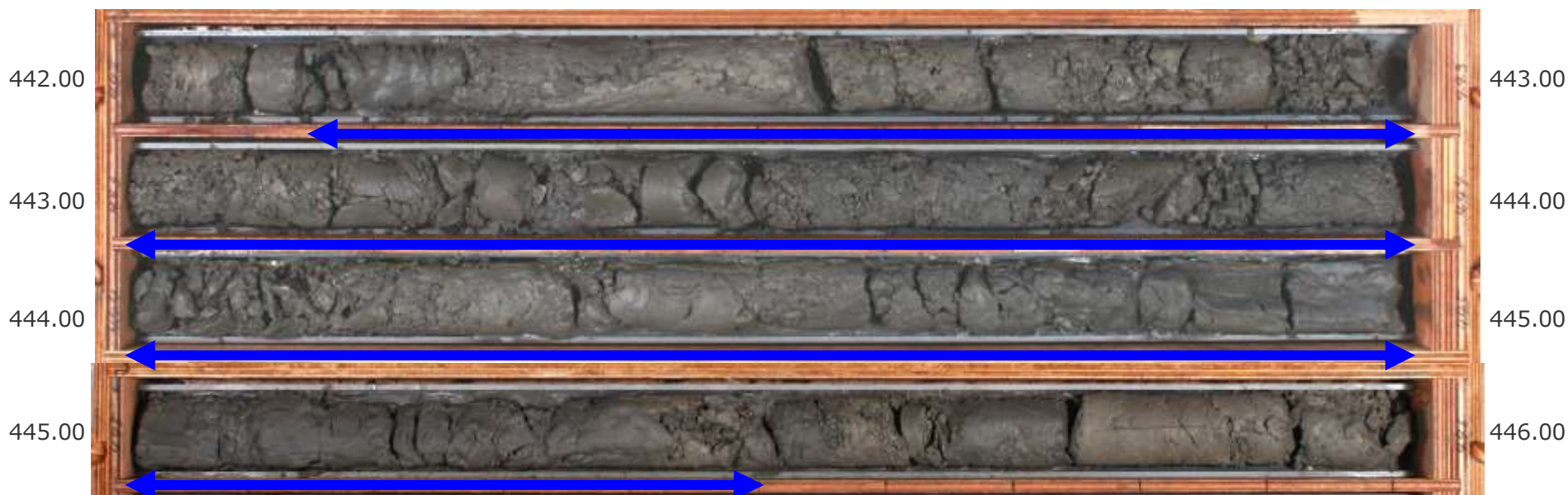
コア長：－

【解釈】

- 442.15～445.50mまで、記事では地層混交帯とされている。
- コアは、ほとんどが層理面沿いの水平割れ目であり、明瞭な高角の断層面は認められない。
- また、コア表面に削剥が認められ、スライムが付着している。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.25断層（深度460.52～460.88m）

【柱状図】

- 460.52 断層(60° 傾斜, 斜交), 幅0.2mm, 粘土, f.
- 460.88 断層(70° 傾斜, 斜交), 細粒物質はなし, j.

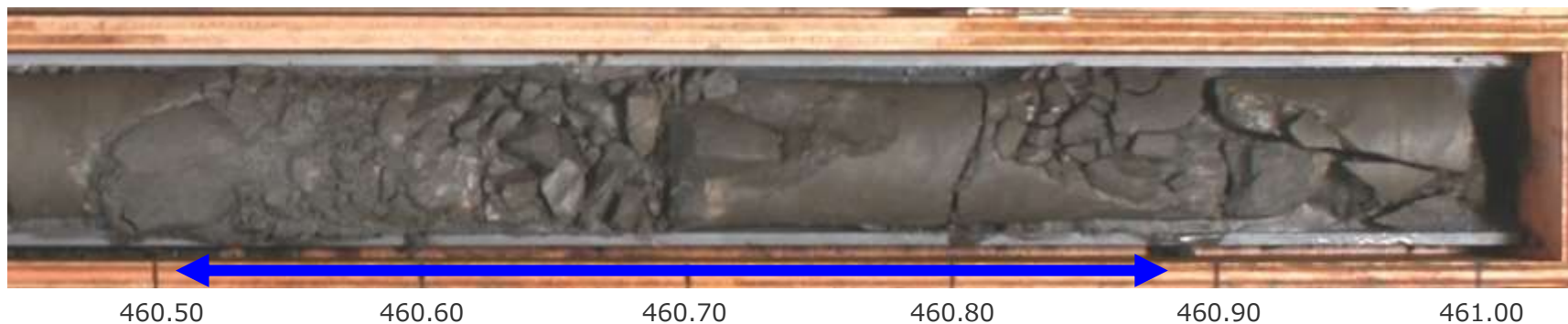
拡大写真

コア長： -

【解釈】

- 高角な断層が近接して2条認められる。
- 上部の断層（460.52m）の下部は，水平割れ目を境とし，コアが不均質に割れている。また，その下部は健岩のコアとなっている。
- 下部の断層（460.88m）も，断層の下部の幅10cm程度が不均質に割れている。
- これらのことから，本断層は，幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。



【コア写真】

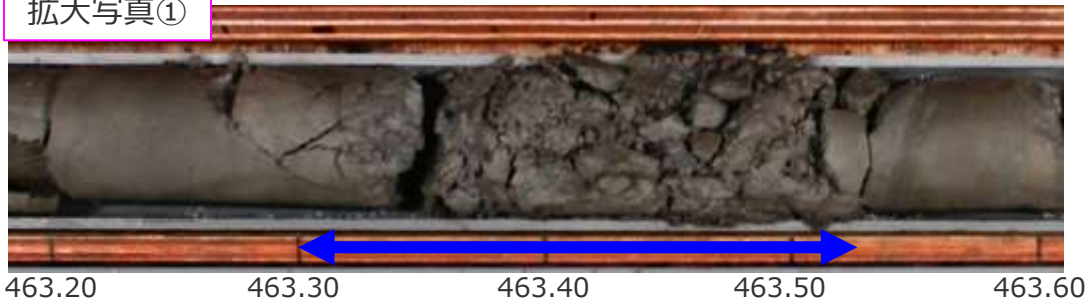


No.0孔（孔口標高52.65m） No.26断層（深度463.30～464.62m）

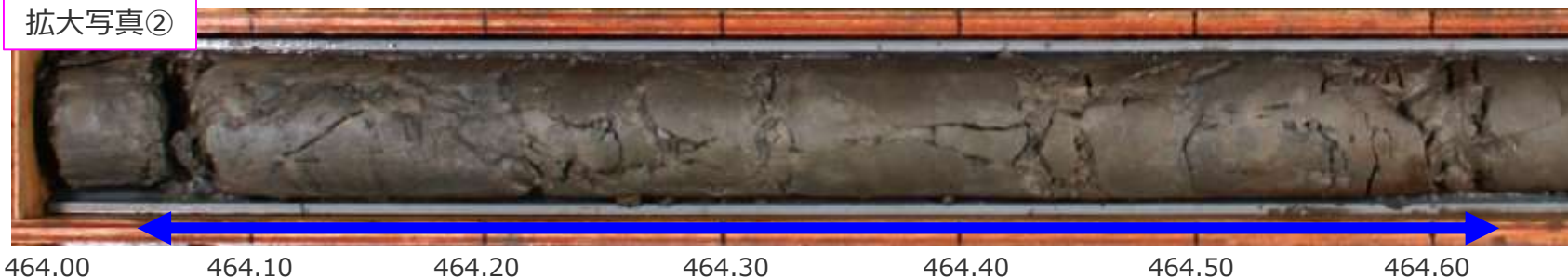
【柱状図】

記事無し

拡大写真①

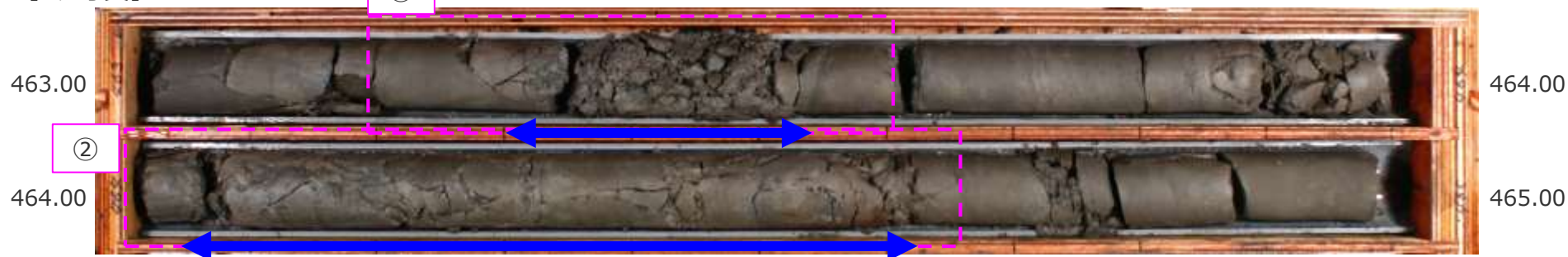


拡大写真②



【コア写真】

①



コア長：－

【解釈】

- ① 463.30～463.52mの区間で、ほぼ水平な割れ目に区切られた区間で、コアが不均質に割れているが、明瞭な高角の断層面は確認されない。
- ② 464.05～464.62mの区間で、ほぼ垂直な断層沿いに亀裂が発達しているが、層理面に変形は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.27断層（深度469.55～469.90m）

【柱状図】

記事無し

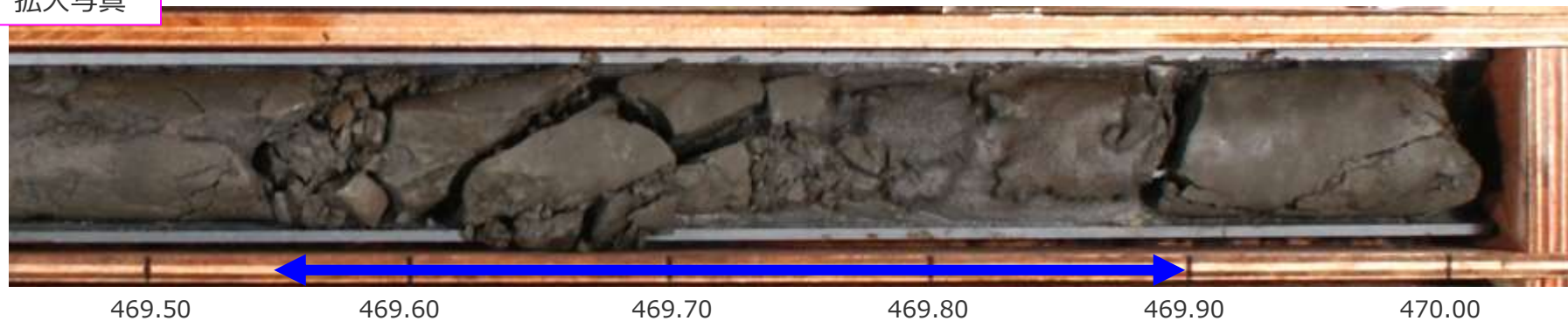
コア長：-

【解釈】

- 469.55～469.90mまで、コアが一部岩片状になっている。
- コアは不均質に割れているか、水平割れ目が多く、明瞭な高角の断層は認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.28断層（深度478.45～480.95m）

【柱状図】

- 478.68 断層(80° 傾斜, 同方向), 幅0.1mm. 粘土. f.

480.40-480.95 コアの流出

- この区間は、開離型断層およびコアの乱れが複数確認されるため、以下、3つの区間（①、②、③）に分けて、それぞれ個別に解釈を行う。

【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.28①断層（深度478.45～479.00m）

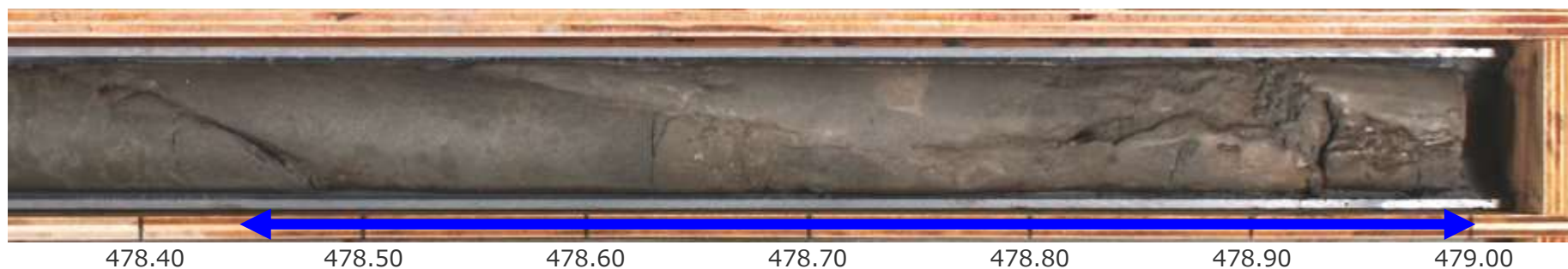
【柱状図】

- 478.68 断層(80° 傾斜, 同方向), 幅0.1mm, 粘土. f.

【コア写真】



拡大写真



コア長：－

【解釈】

- 478.68mに高角な断層が認められる。また、478.4mにも、高角な亀裂が認められる。
- コアはほぼ健岩であり、層理面の変形も認められない。
- これらのことから、本断層は、幅を持たない小断層と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.28②断層（深度479.00～480.00m）

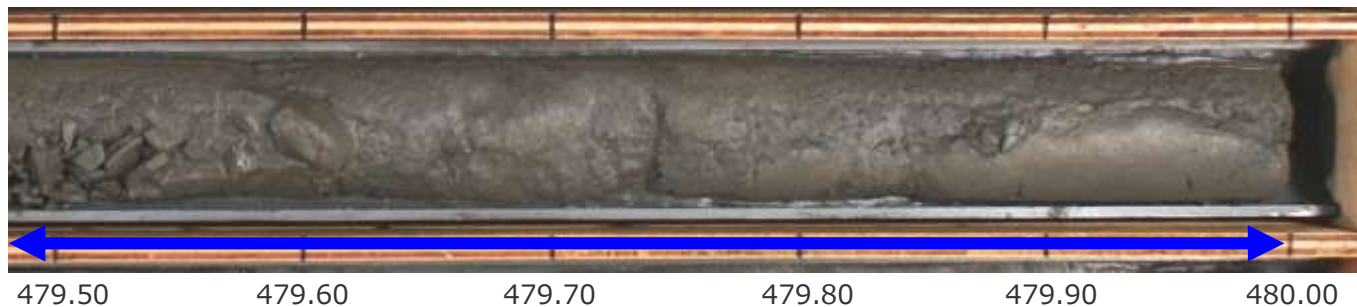
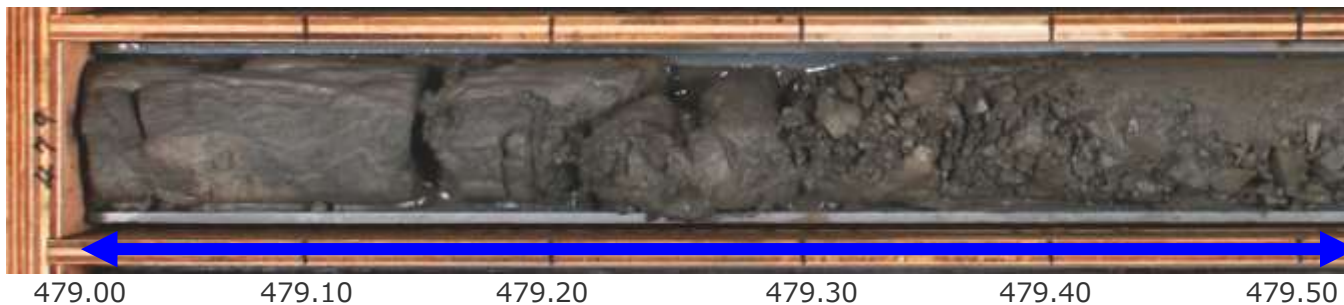
【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：-

【解釈】

- 上部は水平な割れ目，下部はほぼ垂直なき裂が認められ，き裂に沿ってコアが一部岩片状～粒状になっているが，明瞭な高角の断層面は認められない。
- コア表面に削剥が認められ，スライムが付着している。
- これらのことから，本構造は，掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.28③断層（深度480.40～480.95m）

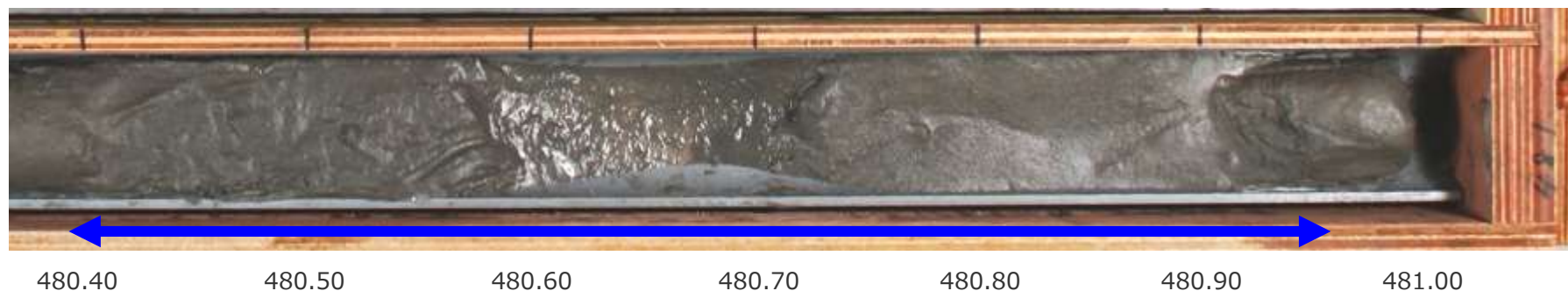
【柱状図】

480.40-480.95 コアの流出

【コア写真】



拡大写真



コア長：－

【解釈】

- 480.40～480.95mの区間で、コアが流出しているが、明瞭な高角な断層面は認められない。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

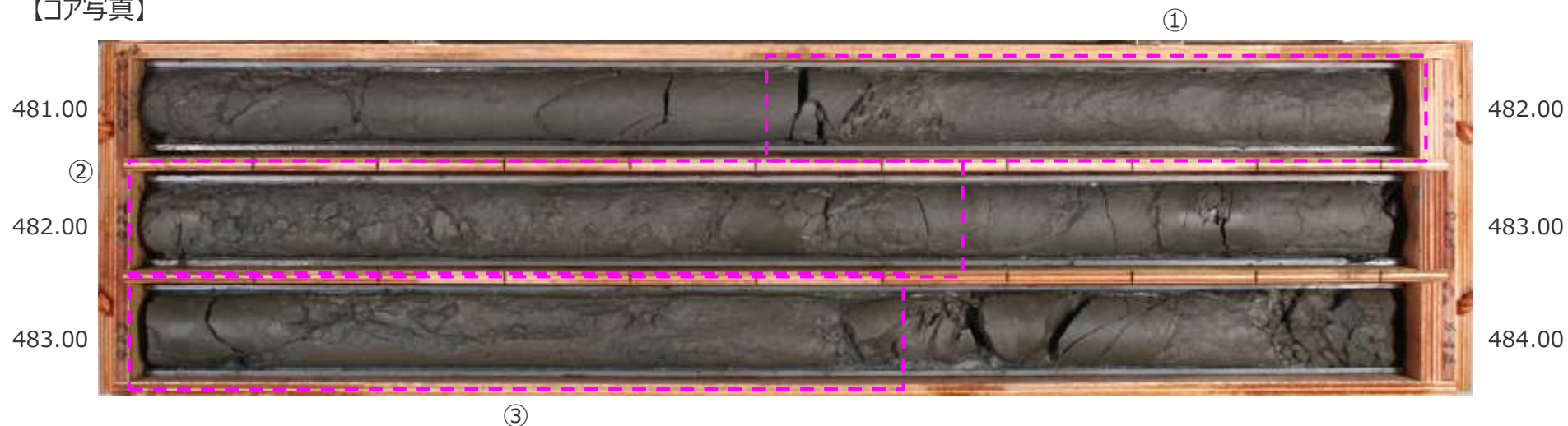
No.0孔（孔口標高52.65m） No.29断層（深度481.55～483.60m）

【柱状図】

記事無し

- この区間は、コアの乱れが複数確認されるため、以下、3つの区間（①，②，③）に分けて、それぞれ個別に解釈を行う。

【コア写真】

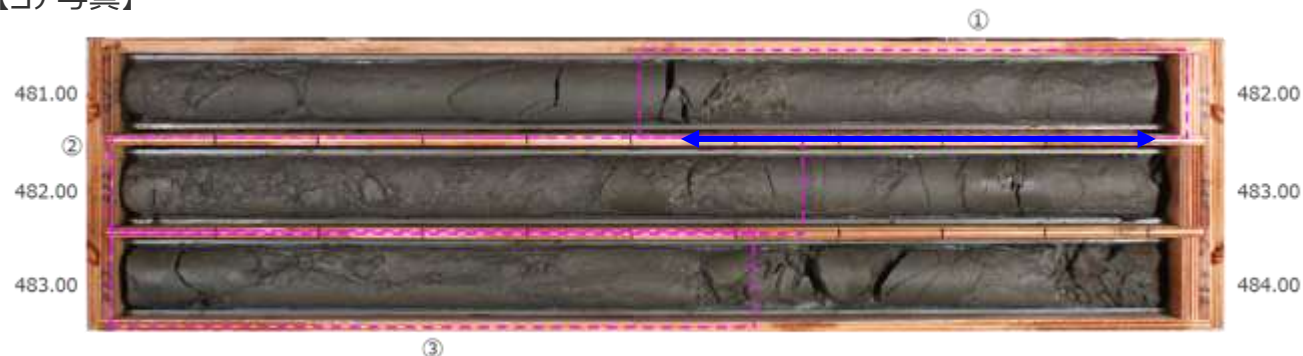


No.0孔（孔口標高52.65m） No.29①断層（深度481.55～482.00m）

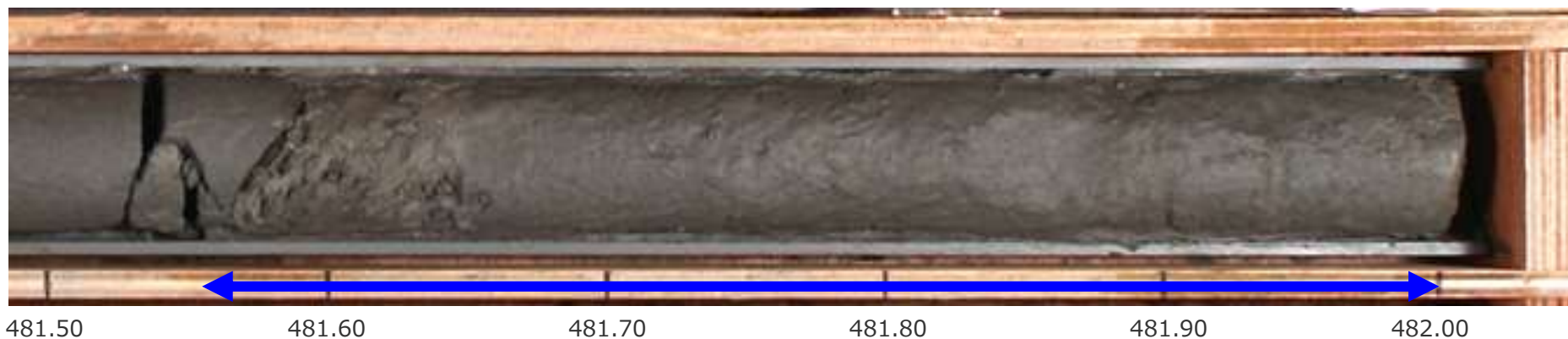
【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：－

【解釈】

- 481.55～482.00mまで、コア表面に削剥が認められ、スライムが付着している。
- ただし、明瞭な高角の断層面は認められない。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

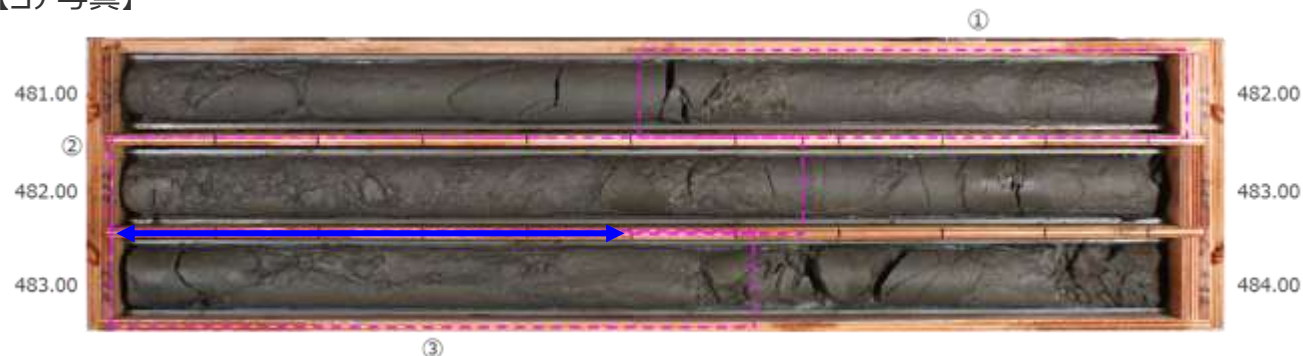
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.29②断層（深度482.00～482.50m）

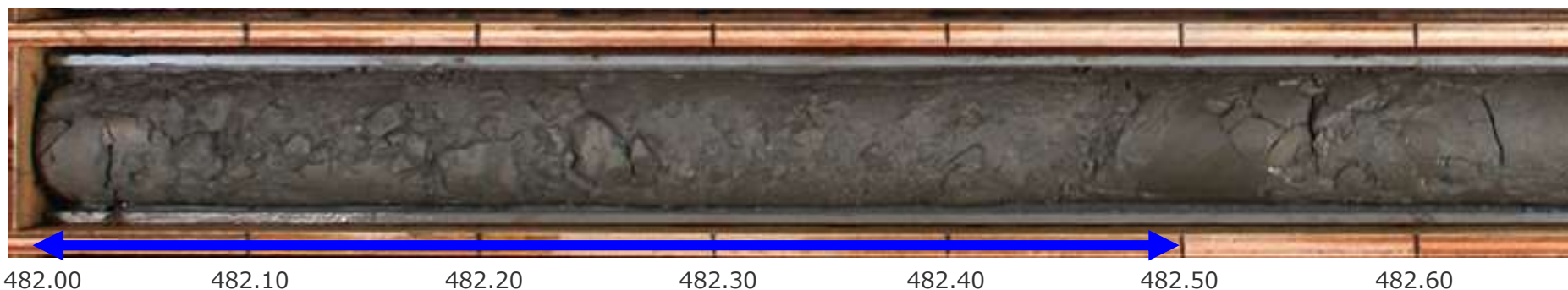
【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：-

【解釈】

- 482.00～482.50mの間で、コア表面に削剥が認められる。
- ただし、明瞭な高角の断層面は認められない。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

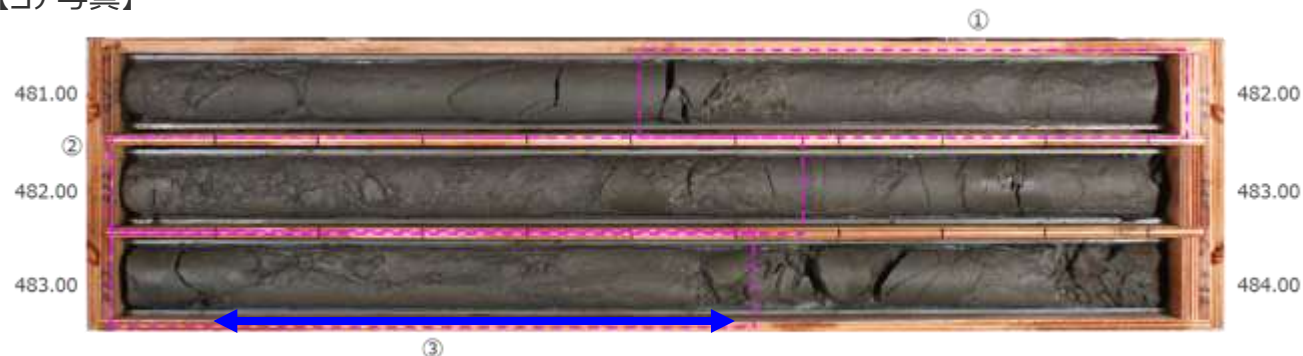
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.29③断層（深度483.10～483.60m）

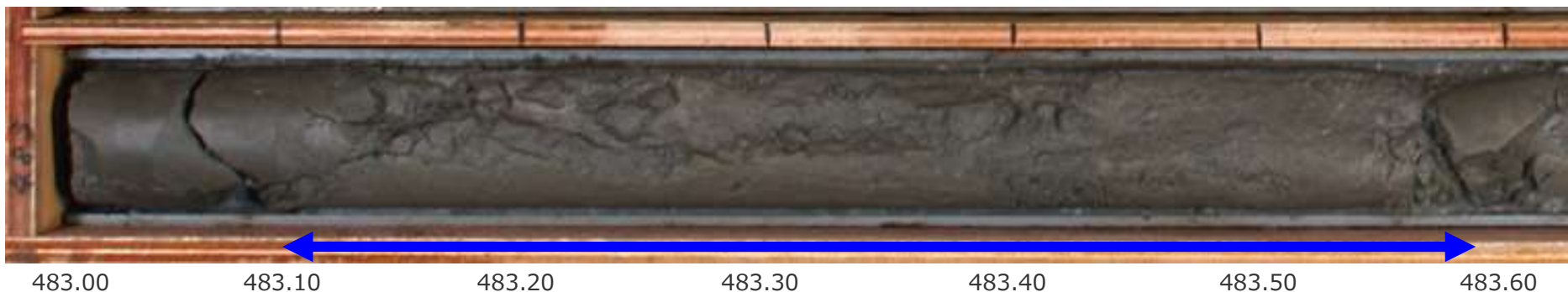
【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：－

【解釈】

- 483.00～483.60m付近まで、ほぼ垂直なき裂が連続して認められ、全長に亘って、コア表面に削剥が認められる。
- ただし、明瞭な高角の断層は認められず、483.60m付近の水平割れ目を下部の境界としている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.30断層（深度484.46～488.00m）

【柱状図】

484.46-485.44 コアの流出

486.17-486.19 泥質凝灰岩. 灰白色. 5° 傾斜.
切られている.

- この区間は、コアの乱れが複数確認されるため、以下、3つの区間（①～③）に分けて、それぞれ個別に解釈を行う。

【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.30断層①（深度484.46～485.44m）

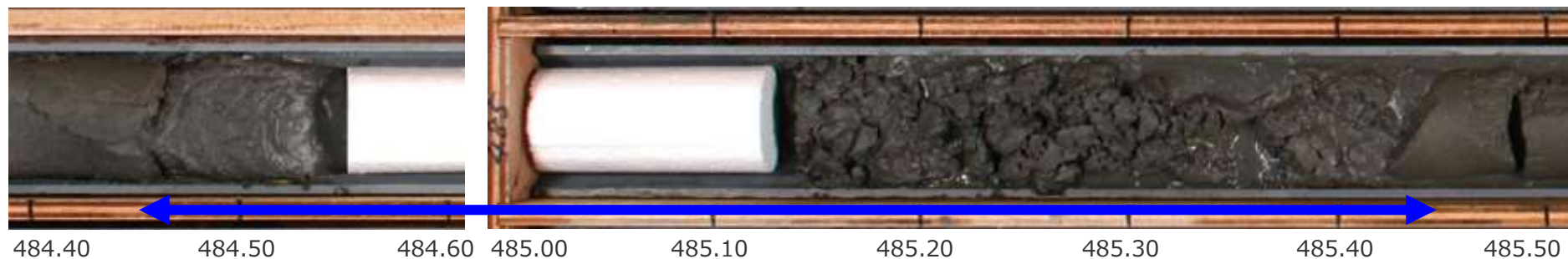
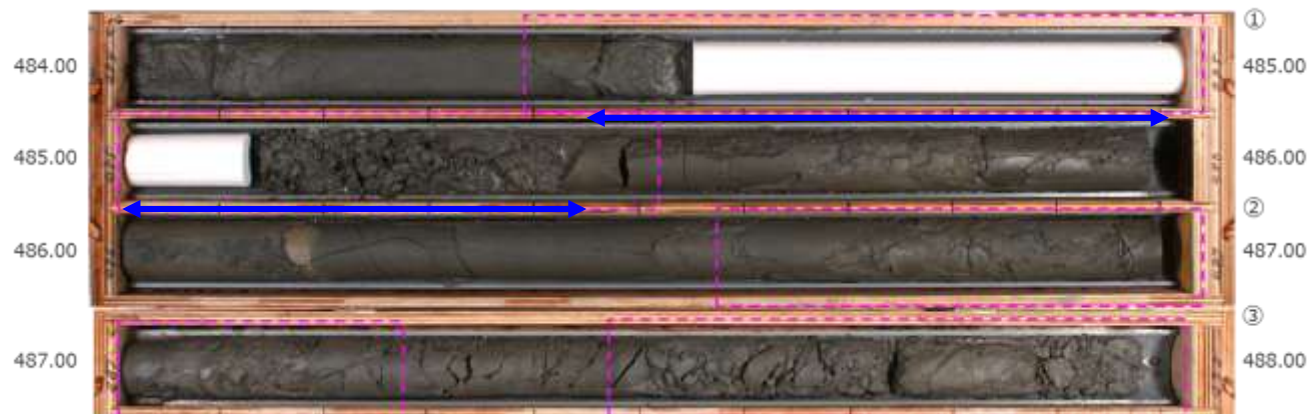
【柱状図】

484.46-485.44 コアの流出

486.17-486.19 泥質凝灰岩、灰白色、5° 傾斜、切られている。

拡大写真

【コア写真】



コア長： -

【解釈】

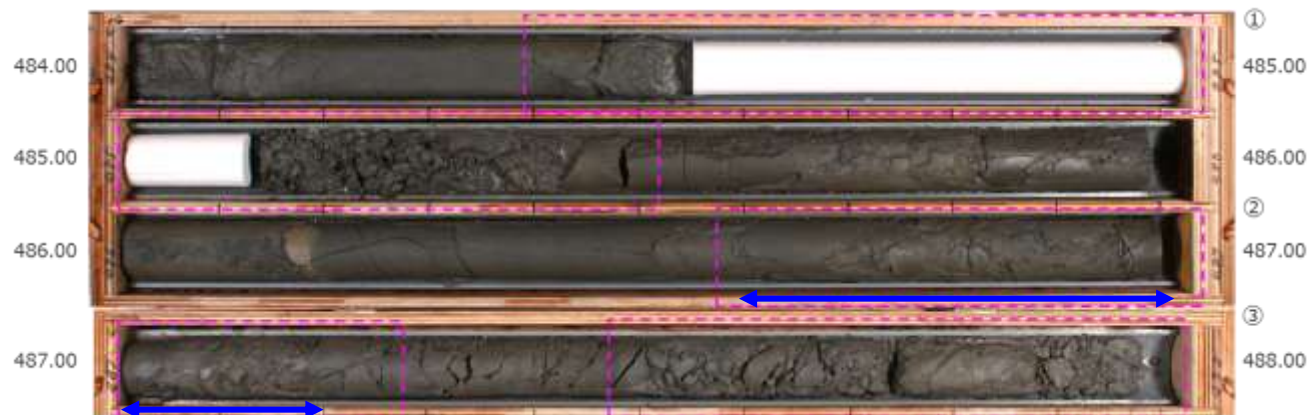
- コアが流出しているが、明瞭な高角の断層面は認められない。
 - これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
- ⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.30断層②（深度486.65～487.20m）

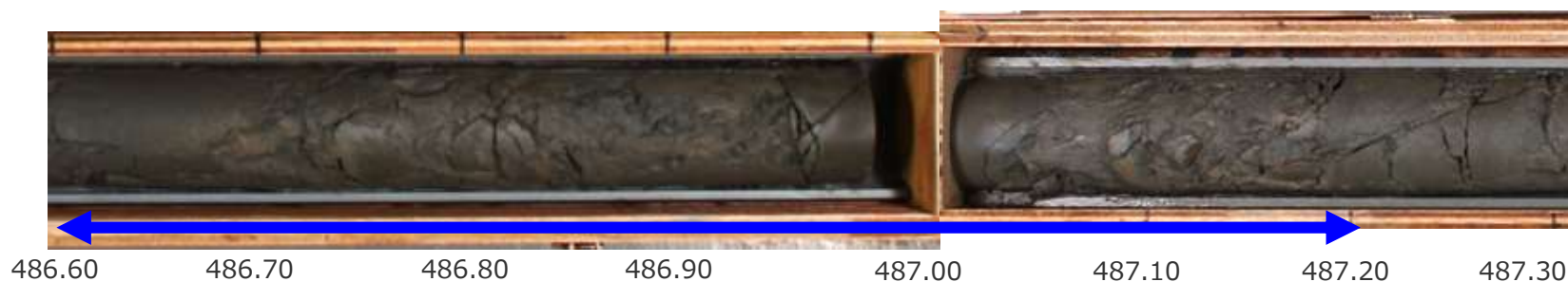
【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：－

【解釈】

- 水平な割れ目および、高角～ほぼ垂直な割れ目（断層）に沿って、一部にき裂が認められるが、明瞭な高角の断層面は認められない。
- これらのことから、本断層は、本断層は幅を持たない小断層および掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.30断層③（深度487.50～488.00m）

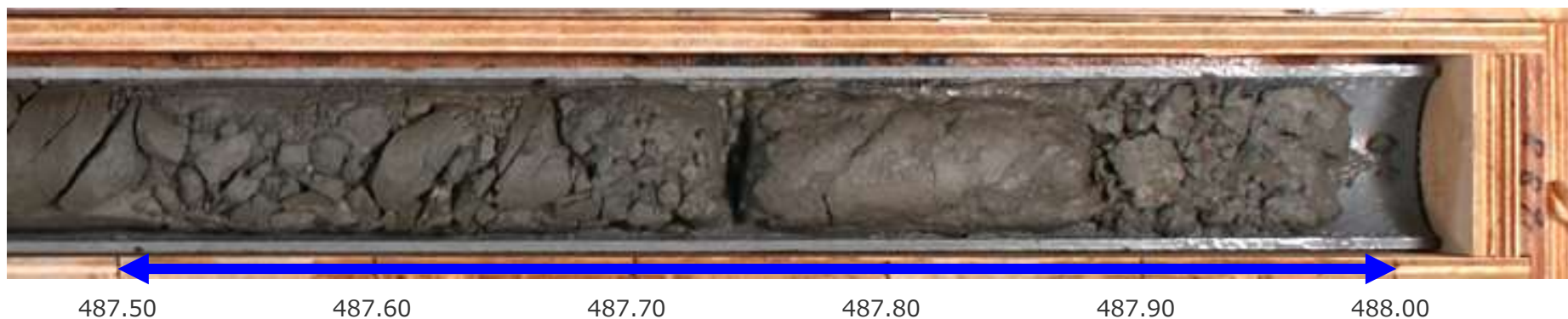
【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：－

【解釈】

- 全体的にコアが乱れているが、明瞭な高角な断層は認められず、不均質に割れており、水平な割れ目も多い。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.31断層（深度514.00～514.50m）

【柱状図】

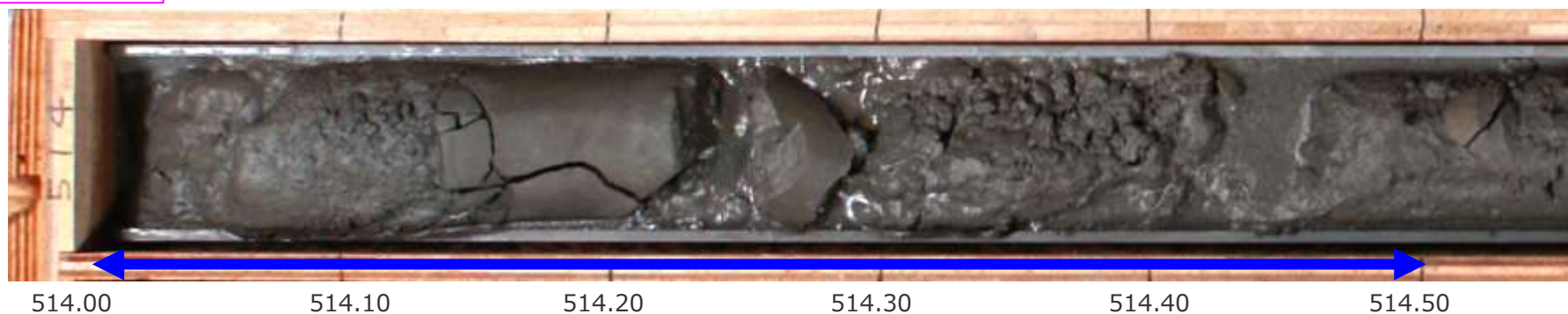
記事無し

コア長：-

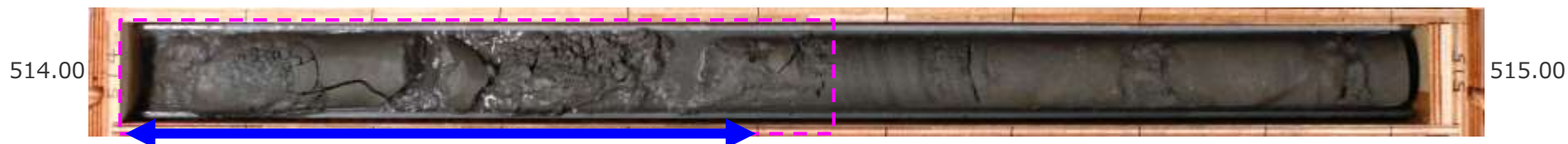
【解釈】

- コアの一部の流出，コア表面に削剥が認められ，スライムが付着している。
- ただし，明瞭な高角の断層面は認められない。
- これらのことから，本構造は，掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.32断層（深度518.55～519.60m）

【柱状図】

記事無し

拡大写真

コア長：-

【解釈】

- 518.55～519.60mまで、コアは岩片状となっているが、明瞭な高角の断層面は認められず、コアは不均質に割れており、水平割れ目も多く認められる。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

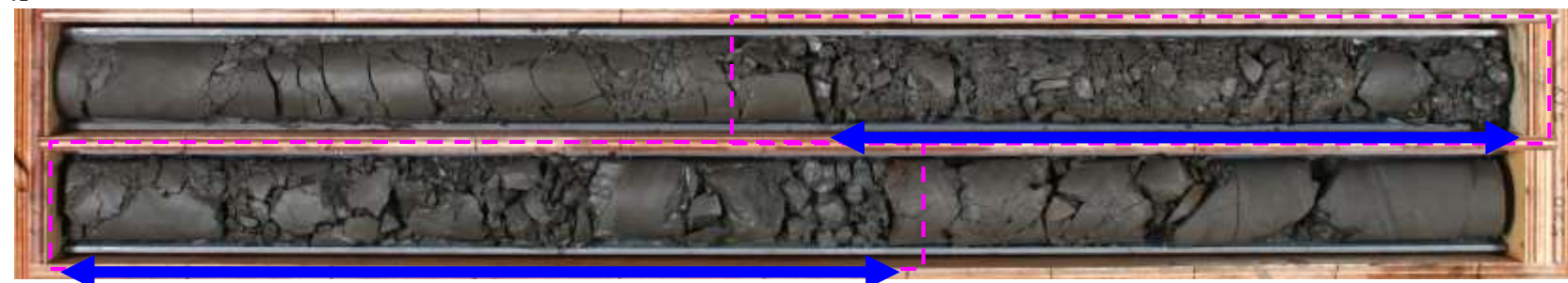


518.50 518.60 518.70 518.80 518.90 519.00



519.00 519.10 519.20 519.30 519.40 519.50 519.60

【コア写真】



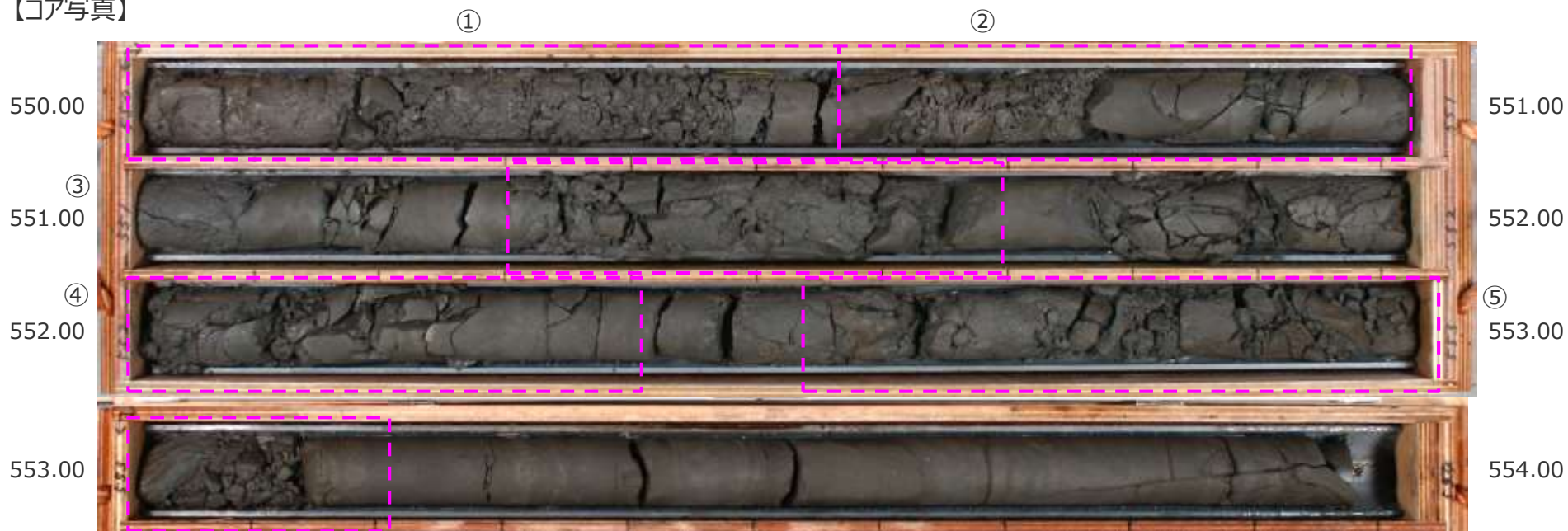
No.0孔（孔口標高52.65m） No.33断層（深度550.00～553.15m）

【柱状図】

記事無し

- この区間は、コアの乱れが複数確認されるため、以下、5つの区間（①～⑤）に分けて、それぞれ個別に解釈を行う。

【コア写真】

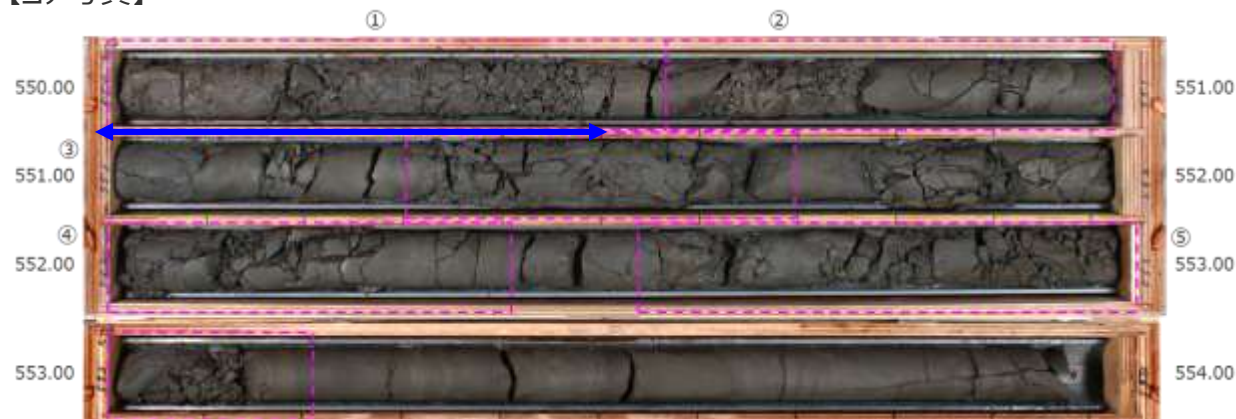


No.0孔（孔口標高52.65m） No.33断層①（深度550.00～550.50m）

【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：－

【解釈】

- 550.00～550.50mまで、コアが乱れているが、明瞭な高角の断層面は認められず、コアが不均質に割れ、水平割れ目も多い。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

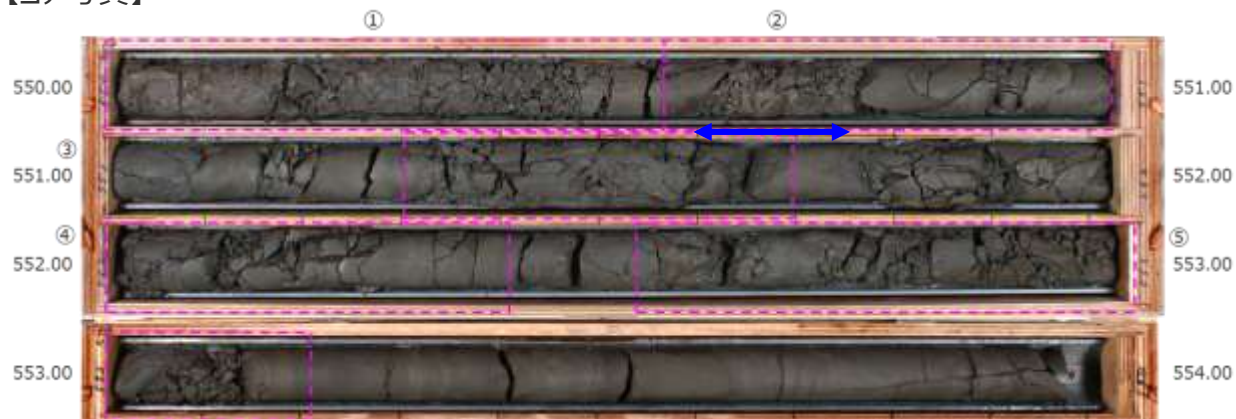
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.33断層②（深度550.60～550.75m）

【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：0.15m

【解釈】

- 550.60mに高角な割れ目が認められ、その下部の長さ15cm程度のコアに乱れが認められる。
- 下部の境界には明瞭な高角の断層面は認められず、コアも不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

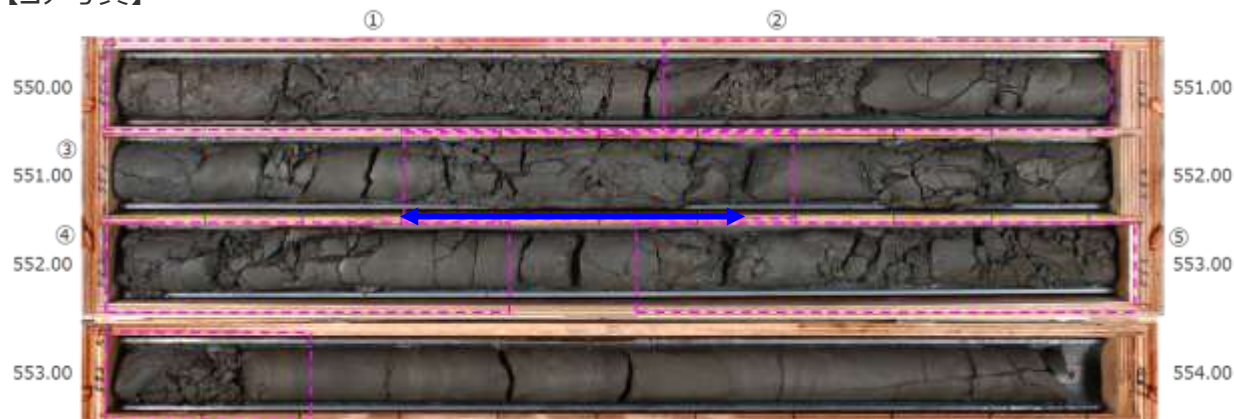
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.33断層③（深度551.30～551.65m）

【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



551.30

551.40

551.50

551.60

551.70

コア長：-

【解釈】

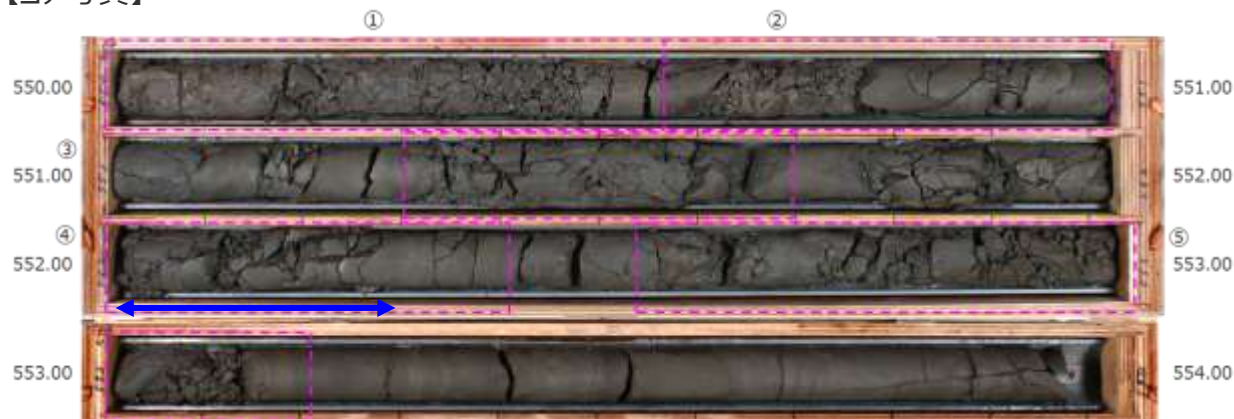
- 551.30～551.65mまで、コアに乱れが認められる。
 - 明瞭な高角な断層面は認められず、水平割れ目も多く、コアが不均質に割れている。また、コア表面に削剥が認められ、スライムが付着している。
 - これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
- ⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.33断層④（深度552.00～552.30m）

【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：－

【解釈】

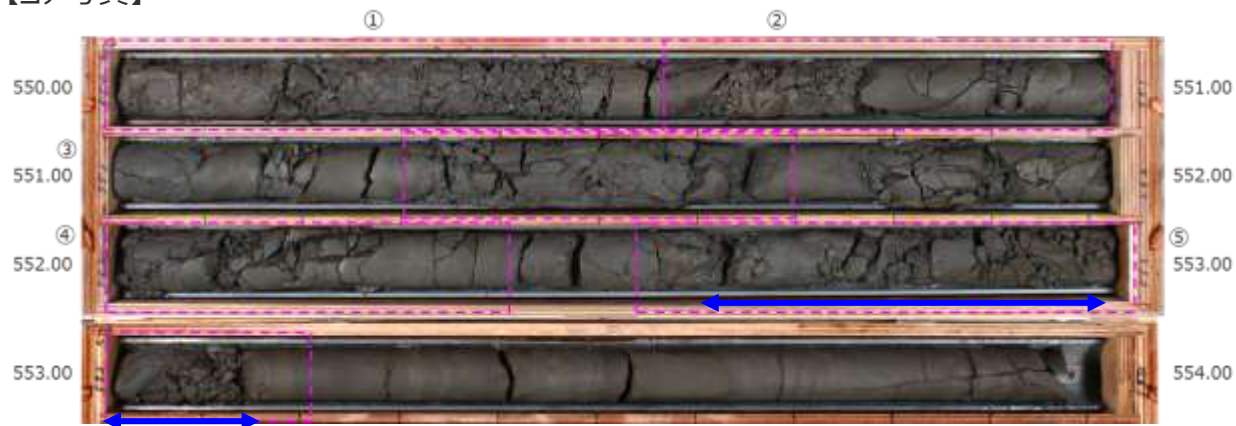
- 552.00～552.30mまで、岩片状となっているが、明瞭な高角の断層面は認められず、コアが不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.33断層⑤（深度552.60～553.15m）

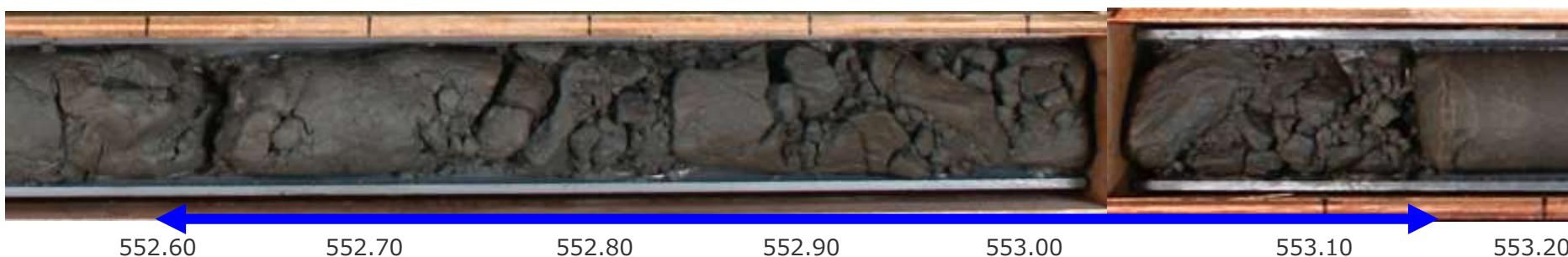
【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：－

【解釈】

- 552.60～553.15mまで、コアが岩片状となっている。
- 明瞭な高角の断層面は認められず、水平割れ目が卓越し、コアが不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.34断層（深度571.20～572.75m）

【柱状図】

- 571.01-571.03 粒状(30mm)
- 571.03 断層(5° 傾斜, 同方向), 幅2mm.
粘土. f.

- この区間は, コアの乱れが複数確認されるため, 以下, 3つの区間 (①～③)に分けて, それぞれ個別に解釈を行う。

【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.34断層①（深度571.20～571.65m）

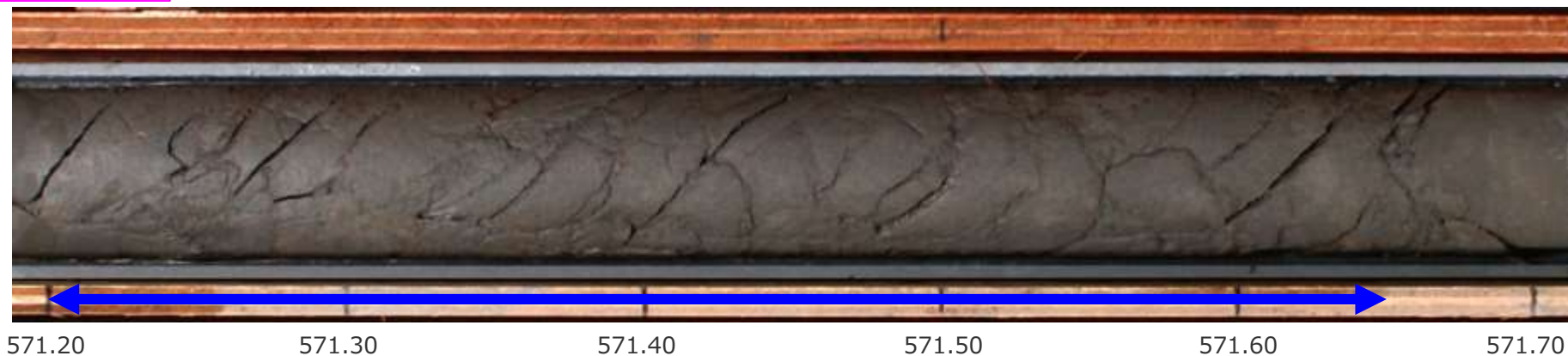
【柱状図】

- 571.01-571.03 粒状(30mm)
- 571.03 断層(5° 傾斜, 同方向), 幅2mm. 粘土. f.

【コア写真】



拡大写真①



コア長：－

【解釈】

- 571.20～571.65mまで、ほぼ垂直な割れ目と、それに斜交する平行な割れ目群が複数認められる。
- ただし、明瞭な高角の断層面は認められず、コアは概ね健岩である。
- これらのことから、本構造は、幅を持たない小断層あるいは亀裂と解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.34断層②（深度572.05～572.20m）

【柱状図】

- 571.01-571.03 粒状(30mm)
- 571.03 断層(5° 傾斜, 同方向), 幅2mm.
粘土, f.

【コア写真】



コア長：-

【解釈】

- コアが岩片状になっているが、明瞭な高角の断層は認められず、水平割れ目を境界とし、コアは不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真②



No.0孔（孔口標高52.65m） No.34断層③（深度572.40～572.75m）

【柱状図】

- 571.01-571.03 粒状(30mm)
- 571.03 断層(5° 傾斜, 同方向), 幅2mm.
粘土. f.

【コア写真】



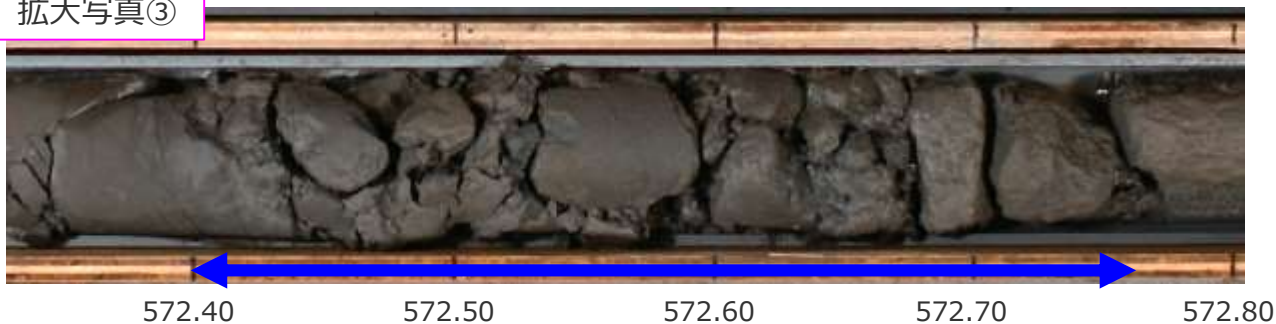
コア長：－

【解釈】

- コアが岩片状となっているが、明瞭な高角の断層は認められず、水平割れ目が卓越し、コアも不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真③



No.0孔（孔口標高52.65m） No.35断層（深度574.20～575.95m）

【柱状図】

記事無し

- この区間は、コアの乱れが複数確認されるため、以下、2つの区間（①，②）に分けて、それぞれ個別に解釈を行う。

【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.35断層①（深度574.20～574.80m）

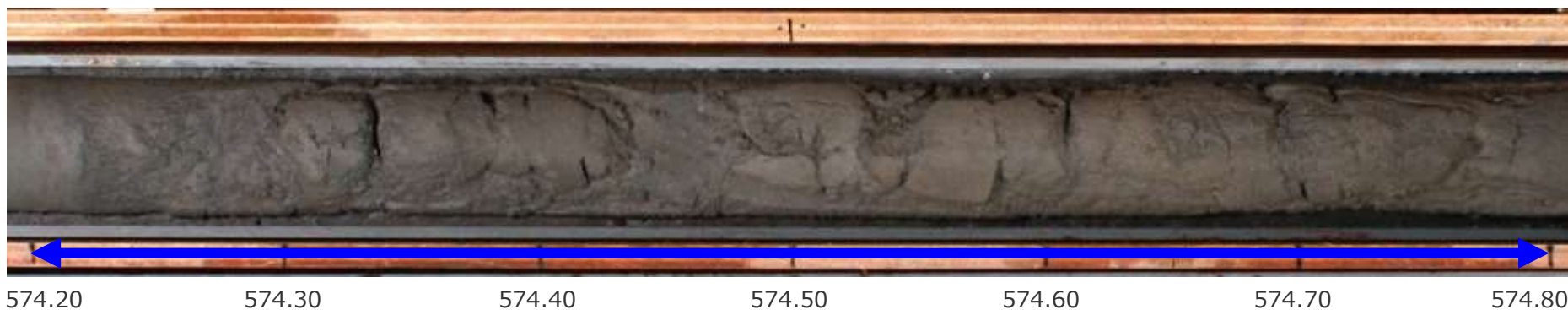
【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：－

【解釈】

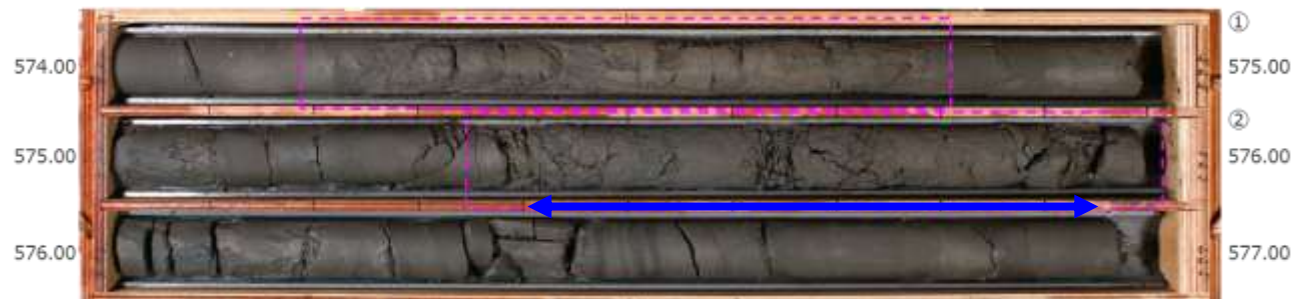
- 高角～ほぼ垂直なき裂が連続して認められる。ただし、明瞭な高角の断層面は認められず、水平割れ目も卓越している。コア表面には一部乱れが認められるが、概ね健岩となっている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.35断層②（深度575.40～575.95m）

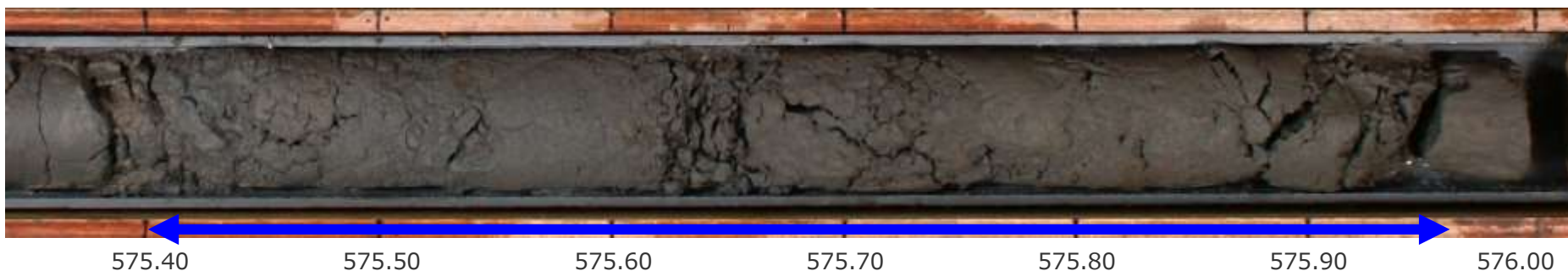
【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：－

【解釈】

- コアの表面に乱れが認められるが、明瞭な高角の断層面は認められず、水平割れ目が多い。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.36断層（深度577.20～577.85m）

【柱状図】

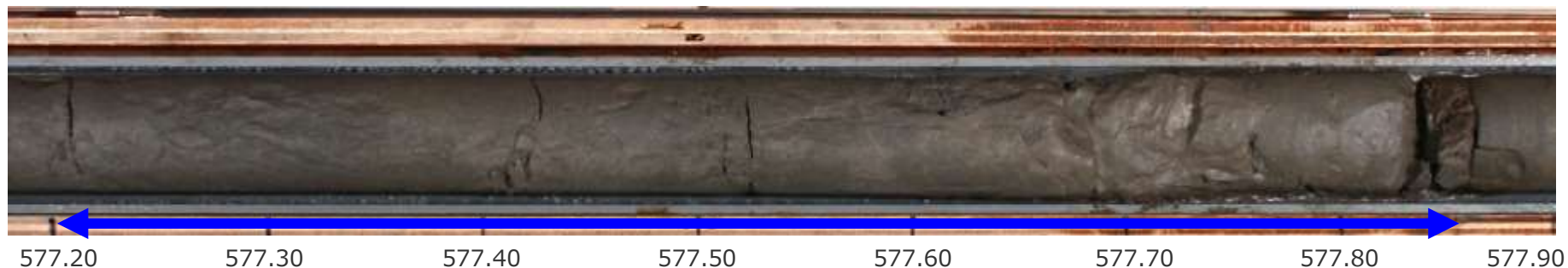
記事無し

コア長：－

【解釈】

- ほぼ垂直なき裂が認められ、コアの表面に若干の乱れが認められる。
 - ただし、明瞭な高角の断層面は認められず、コアも概ね健岩となっている。
 - これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
- ⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.37断層（深度604.00～604.30m）

【柱状図】

記事無し

コア長：－

【解釈】

- コアが一部岩片状となっているが明瞭な高角の断層面は確認されず、水平割れ目が卓越している。また、コア表面に削剥が見られ、一部にスライムが付着している。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



604.00

604.10

604.20

604.30

604.40

【コア写真】



604.00

605.00

No.0孔（孔口標高52.65m） No.38断層（深度606.00～606.55m）

【柱状図】

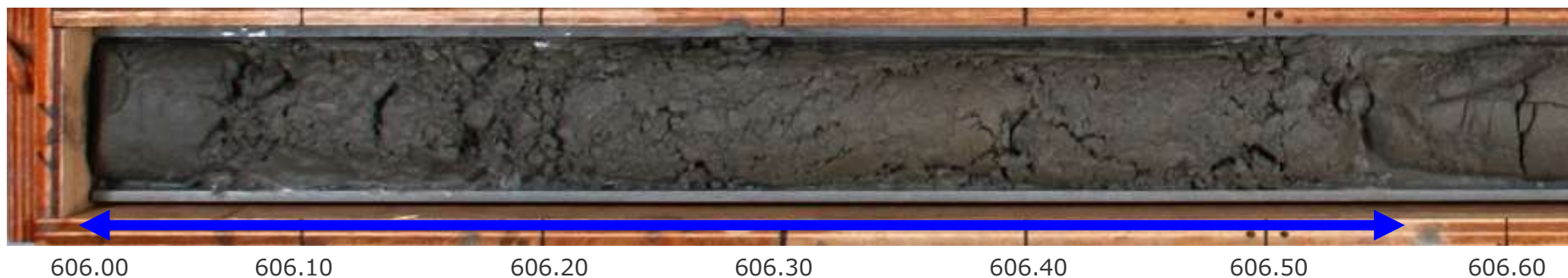
記事無し

コア長：-

【解釈】

- コアの表面に乱れが認められるが、明瞭な高角な断層面は認められず、水平割れ目が多い。コア表面に削剥が認められ、一部にスライムが付着している。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



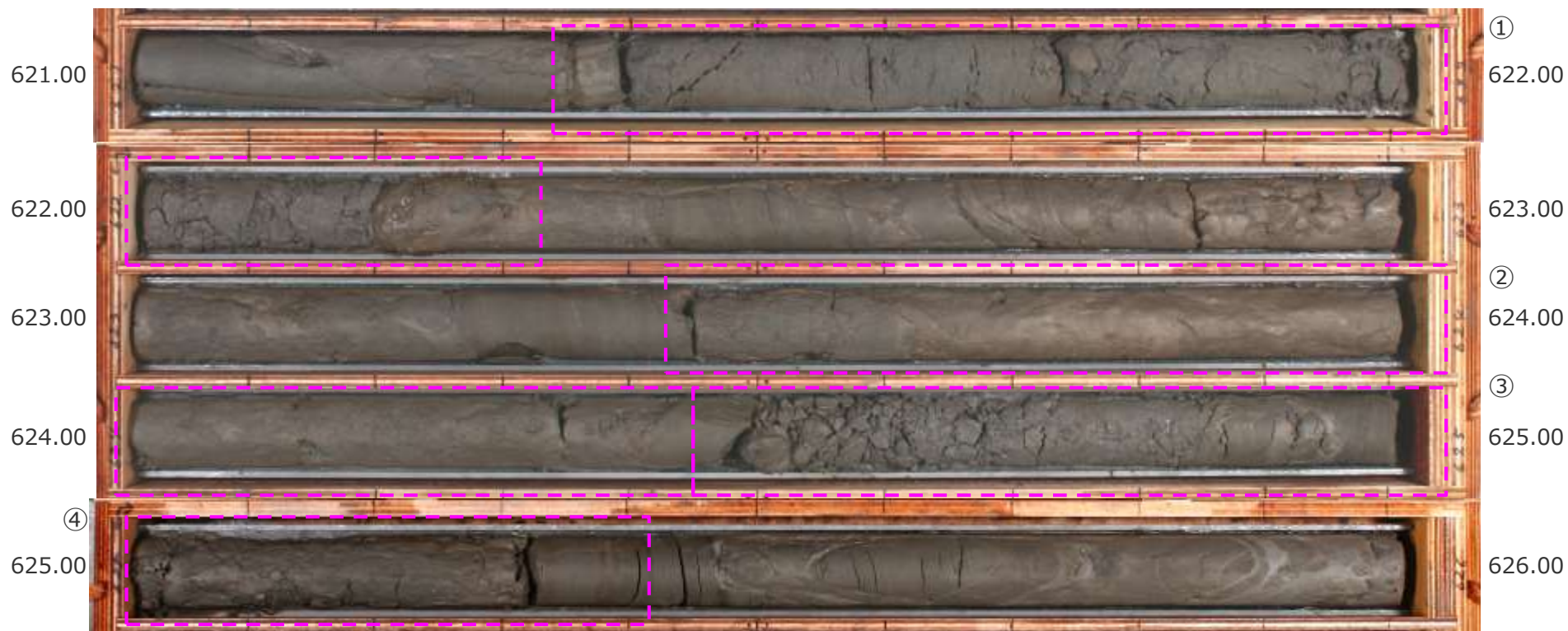
No.0孔（孔口標高52.65m） No.39断層（深度621.40～625.32m）

【柱状図】

623.50-624.41 地層混交帯

- 623.50～624.41mまでが地層混交帯とされている。
- また、その上部および下部にも、コアの乱れが複数確認される。
- 以下、621.00～626.00mの区間を、以下4つの区間（①～④）に分けて、それぞれ個別に解釈を行う。

【コア写真】

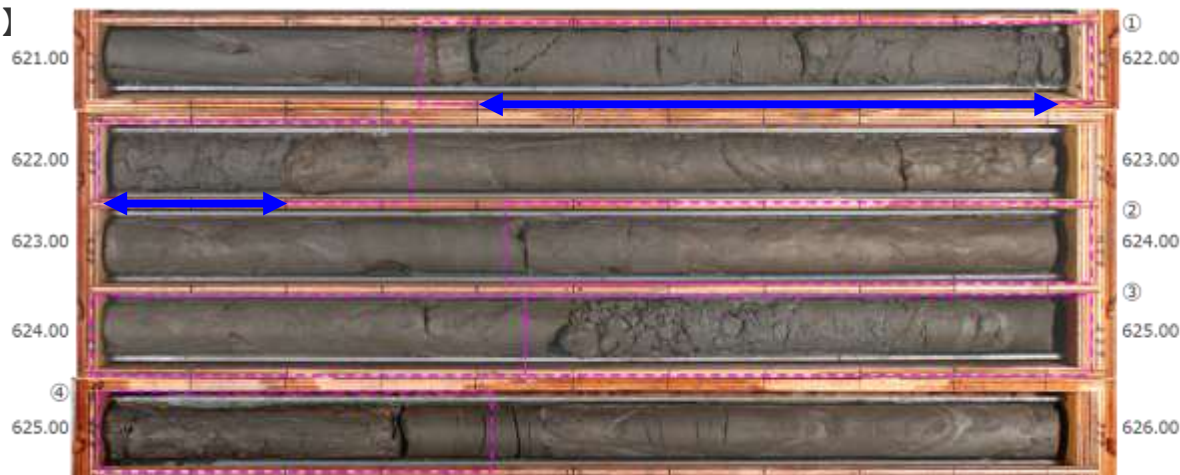


No.0孔（孔口標高52.65m） No.39断層①（深度621.40～622.20m）

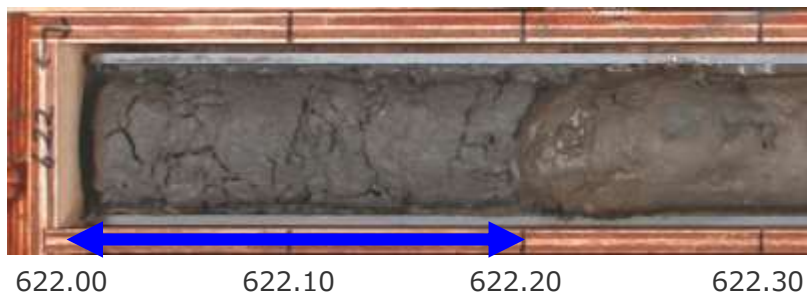
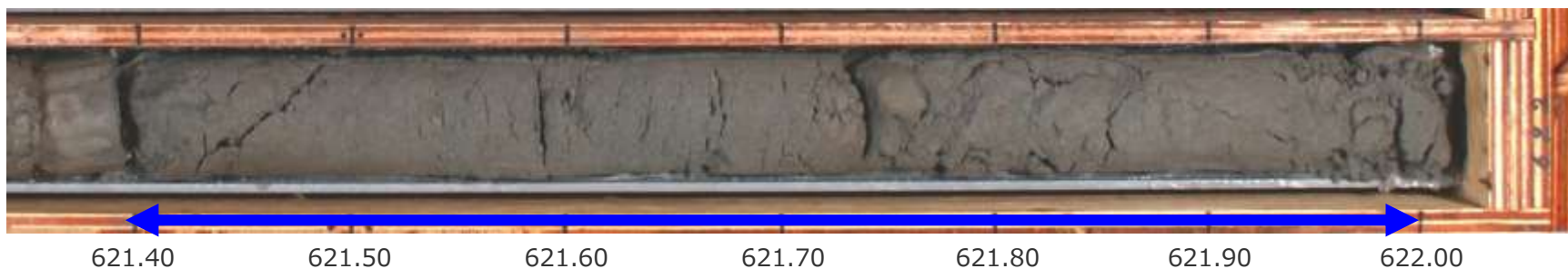
【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：－

【解釈】

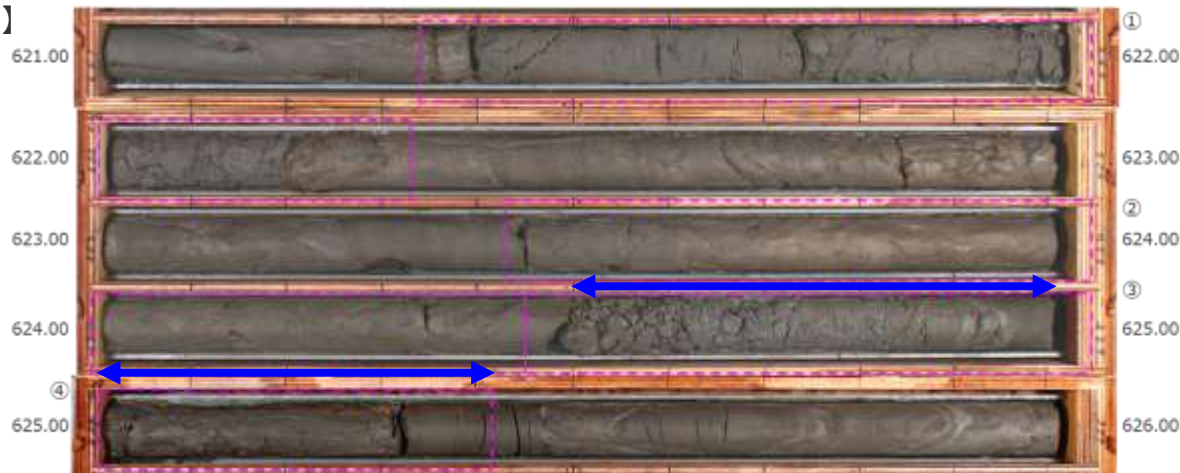
- コアの表面に乱れが認められるが、明瞭な高角の断層面は認められず、水平割れ目を境界としている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.39断層②（深度623.50～624.41m）

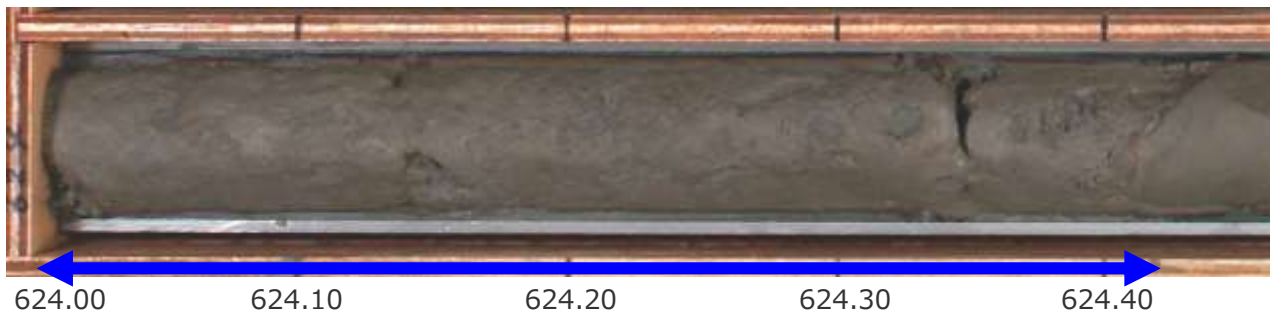
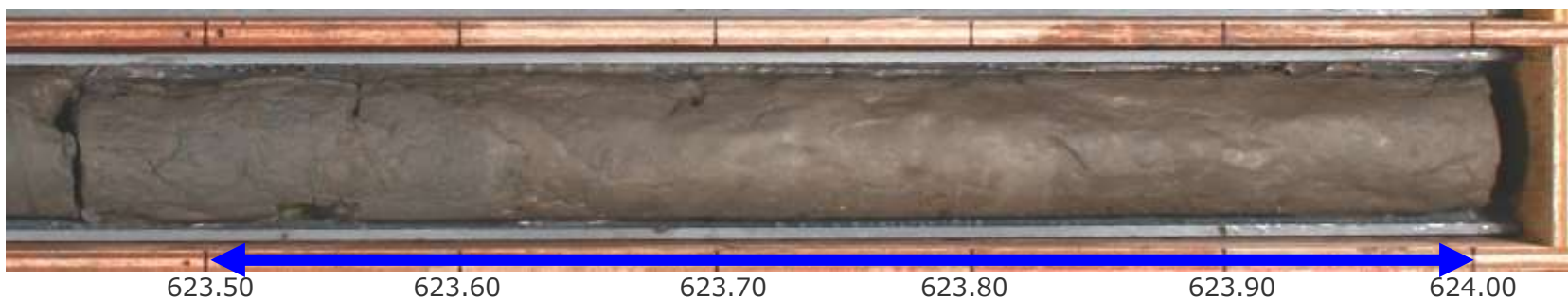
【柱状図】

623.50-624.41 地層混交帯

【コア写真】



拡大写真



コア長：-

【解釈】

- 記事では“地層混交帯”とされている。
- コア表面に乱れが認められるが、明瞭な高角の断層面は認められず、水平割れ目を境界としている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

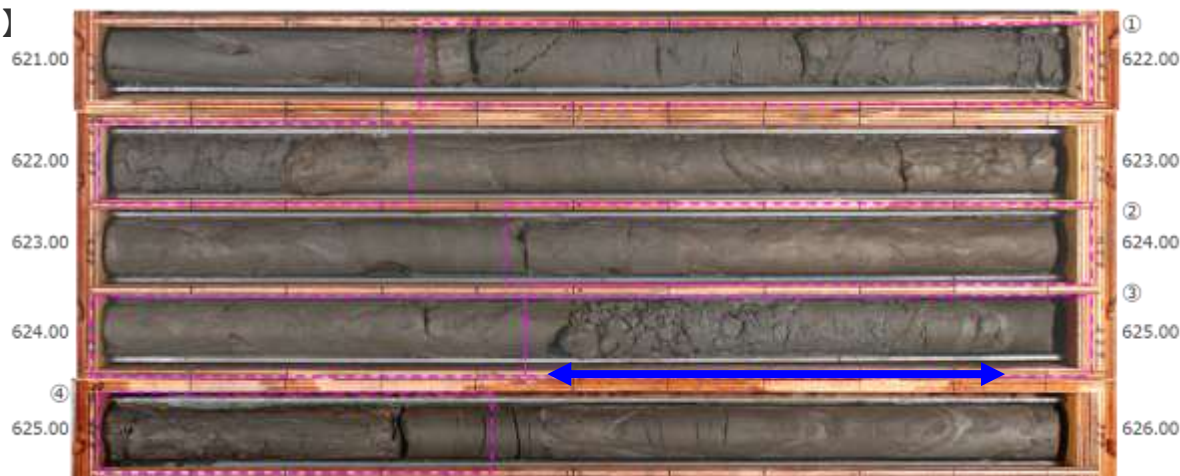
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.39断層③（深度624.50～624.95m）

【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：－

【解釈】

- 624.50mに高角な亀裂が認められ、その下部のコアが岩片状となっている。
- コアに乱れが認められるが、明瞭な高角の断層面は認められず、コアは不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

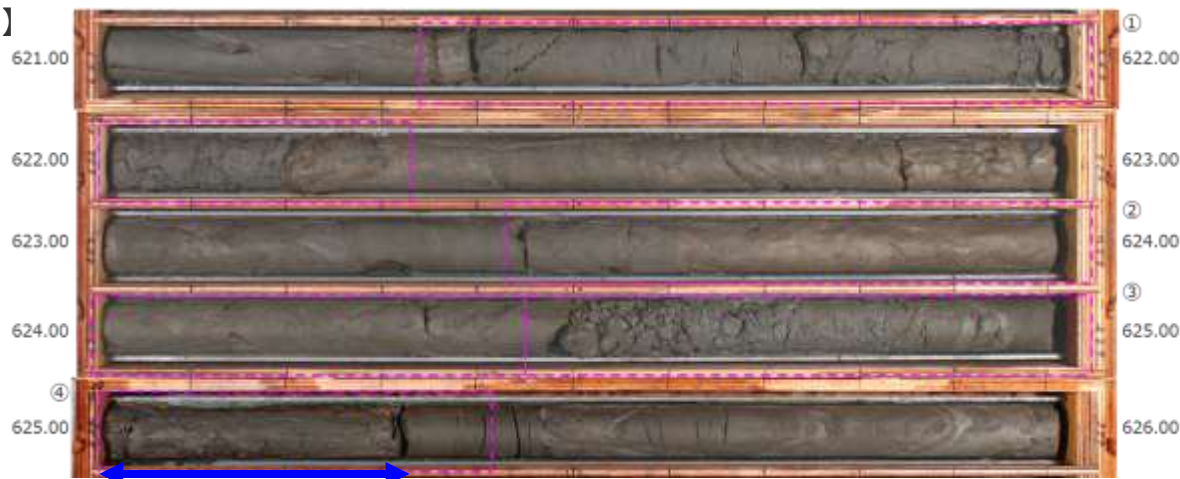
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.39断層④（深度626.00～625.32m）

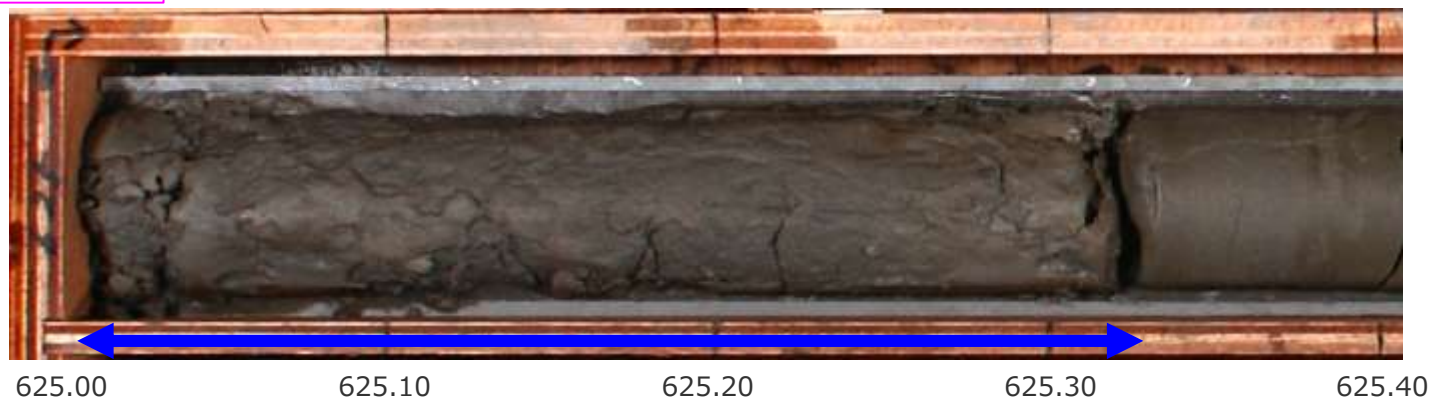
【柱状図】

記事無し

【コア写真】



拡大写真



コア長：-

【解釈】

- コアに乱れが認められるが、明瞭な高角の断層面は認められず、水平割れ目を境界としている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

No.0孔（孔口標高52.65m） No.40断層（深度636.30～638.00m）

【柱状図】

- 636.40-636.68 70° 傾斜, 斜交, 面なし断層が密集する.
- 636.45 断層(70° 傾斜, 斜交), 幅5mm, 粘土, f.
- 637.94-937.95 断層(45° 傾斜, 斜交), 幅10mm, 粒状, f.

- この区間は, コアの乱れが複数確認されるため, 以下, 2つの区間 (①, ②)に分けて, それぞれ個別に解釈を行う。

【コア写真】

①

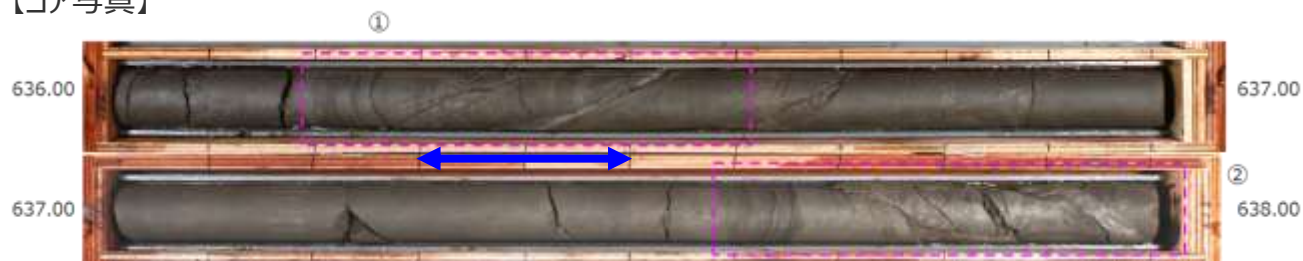


No.0孔（孔口標高52.65m） No.40断層①（深度636.30～635.50m）

【柱状図】

- 636.40-636.68 70° 傾斜, 斜交, 面なし断層が密集する.
- 636.45 断層(70° 傾斜, 斜交), 幅5mm, 粘土, f.
- 637.94-937.95 断層(45° 傾斜, 斜交), 幅10mm, 粒状, f.

【コア写真】



コア長：-

【解釈】

- 高角な断層面が認められ, 近傍に並行な亀裂も認められるが, 層理面に变形は認められない。
- これらのことから, 本構造は, 幅を持たない小断層あるいは亀裂と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真①

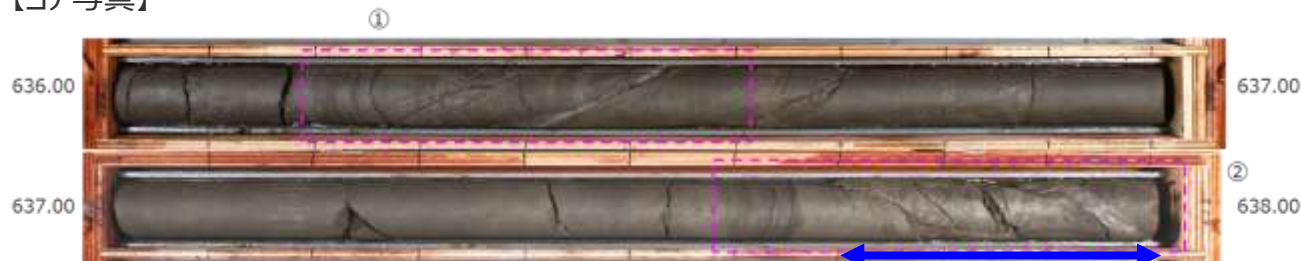


No.0孔（孔口標高52.65m） No.40断層②（深度637.70～638.00m）

【柱状図】

- 636.40-636.68 70° 傾斜, 斜交, 面なし断層が密集する.
- 636.45 断層(70° 傾斜, 斜交), 幅5mm, 粘土, f.
- 637.94-937.95 断層(45° 傾斜, 斜交), 幅10mm, 粒状, f.

【コア写真】



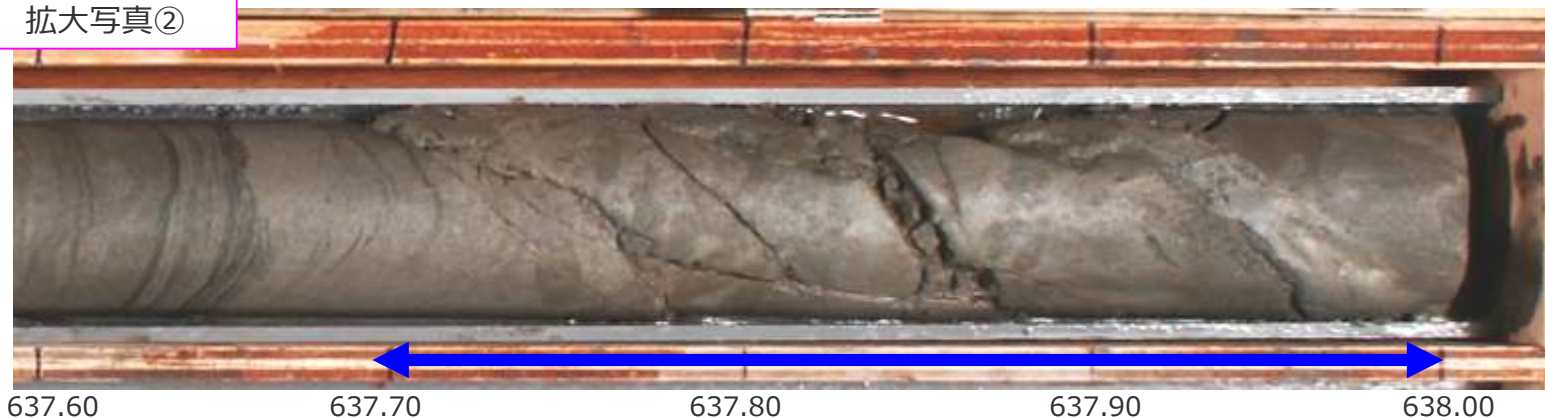
コア長：-

【解釈】

- 高角な断層面が認められ, 近傍に並行な亀裂も認められるが, 層理面に変形は認められない。
- これらのことから, 本構造は, 幅を持たない小断層あるいは亀裂と解釈する。

⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真②



No.0孔（孔口標高52.65m） No.41断層（深度829.33～831.96m）

【柱状図】

829.33-831.96 コア流出

コア長：-

【解釈】

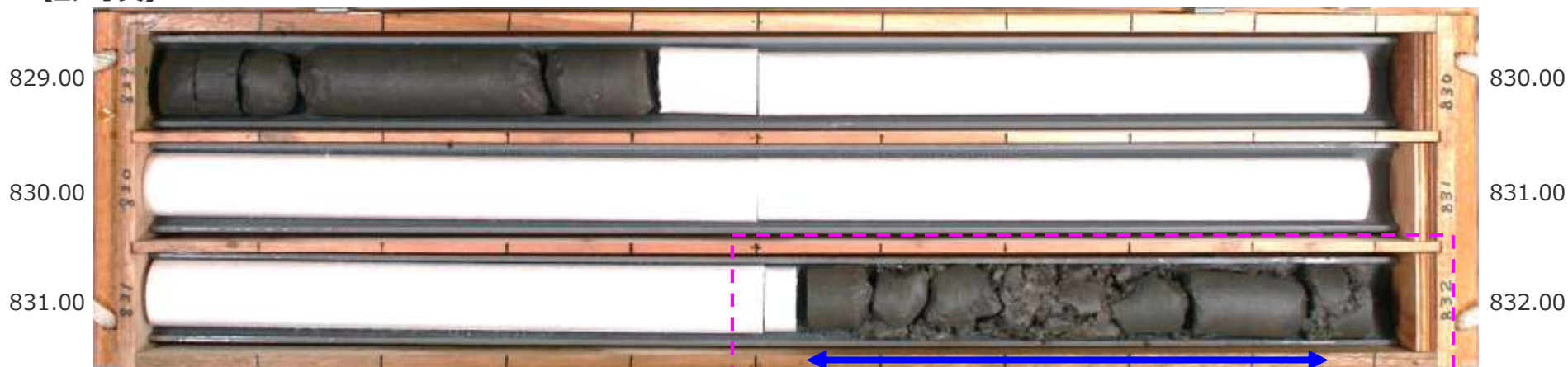
- 829.33～831.55mまで、コアが流出しているが、周辺のコアには明瞭な高角の断層は認められない。
- 831.55～831.96mの区間で、コアが岩片状になっているが、明瞭な高角の断層は認められず、水平割れ目が卓越し、コアが不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



831.50 831.60 831.70 831.80 831.90 832.00

【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.42断層（深度854.00～855.00m）

【柱状図】

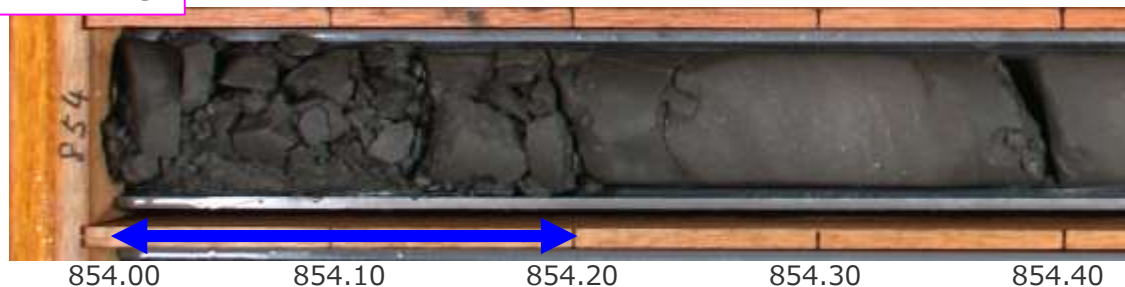
記事無し

コア長：－

【解釈】

- コアが岩片状となっているが、明瞭な高角の断層は認められず、水平割れ目が多く、コアは不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真①



拡大写真②



【コア写真】

①

②

854.00



855.00

No.0孔（孔口標高52.65m） No.43断層（深度863.00～863.95m）

【柱状図】

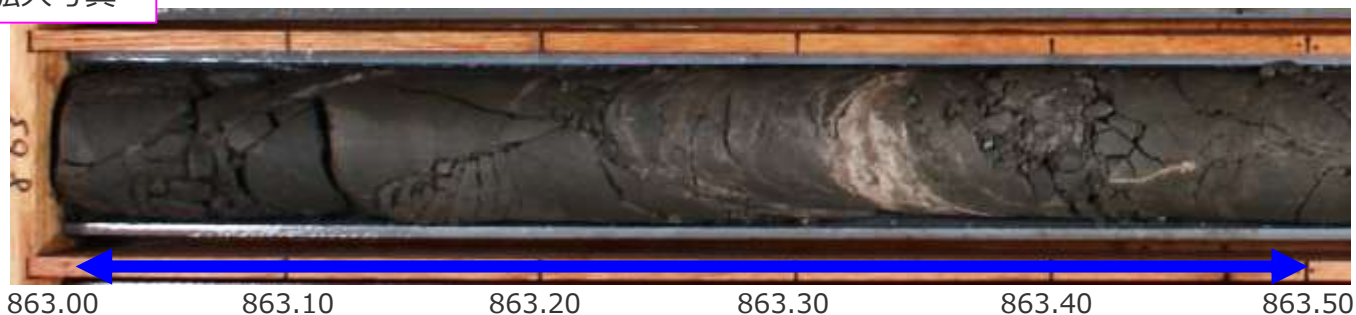
863.33-863.35 灰白色凝灰岩、45° 傾斜、
切られている。
・ 863.75-863.76 断層(45° 傾斜、斜交)、
幅10mm、粒状、f.

コア長：-

【解釈】

- 高角～ほぼ垂直な断層に沿って、網目状粘土が発達しているが、コアは健岩であり、層理面に变形は認められない。
- これらのことから、本構造は、幅を持たない小断層あるいは亀裂と解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.44断層（深度897.30～897.68m）

【柱状図】

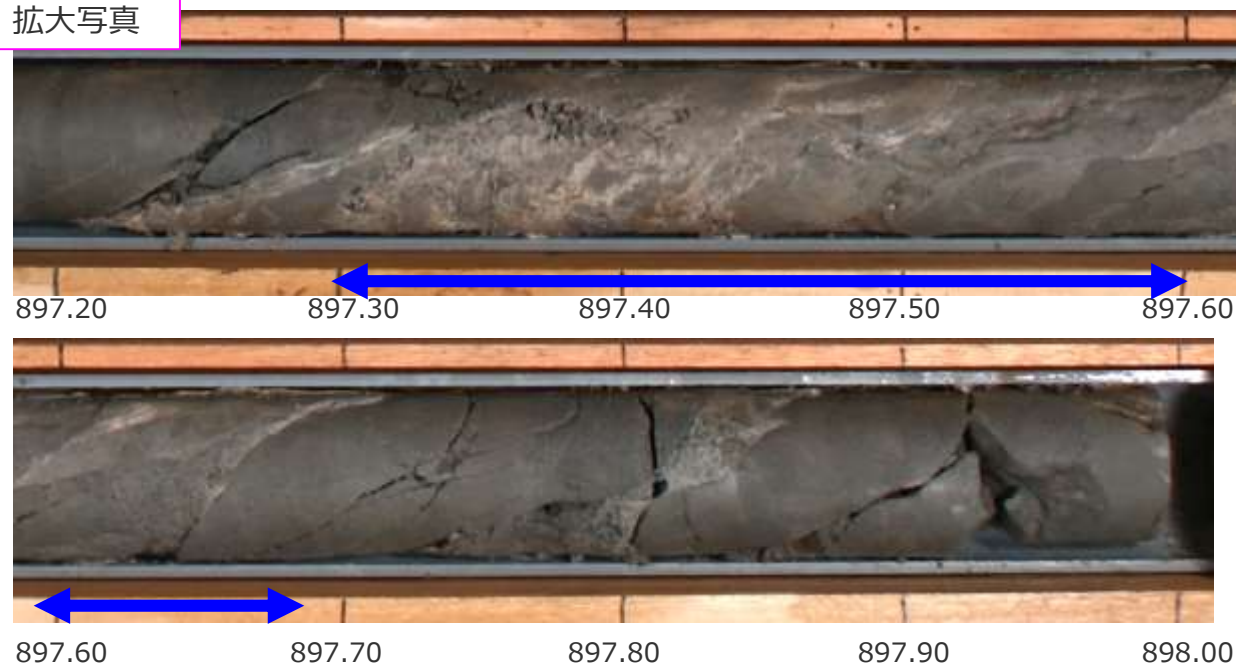
- 897.25-897.34 岩片状(90mm)
- 897.30-897.68 地層混交帯
- 897.34-897.44 粒状(100mm)
- 897.44 断層(45° 傾斜, 斜交), 幅5mm, 粘土, f.
- 897.44-897.50 岩片状(60mm)
- 897.50-897.68 粒状(190mm)
- 897.67-897.69 断層(60° 傾斜, 斜交), 幅10mm, 粒状, f.
- 897.80-897.83 断層(60° 傾斜, 斜交), 幅30mm, 粒状, f.

コア長：-

【解釈】

- 記事では“地層混交帯”とされており，断層および粒状の記事がある。
- コアでは，複数の高角な断層面と，それに平行な亀裂が認められ，同断層や亀裂にそって網目状粘土の発達が認められる。
- これらのことから，本構造は，幅を持たない小断層あるいは亀裂と解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真



【コア写真】



No.0孔（孔口標高52.65m） No.45断層（深度910.15～911.60m）

【柱状図】

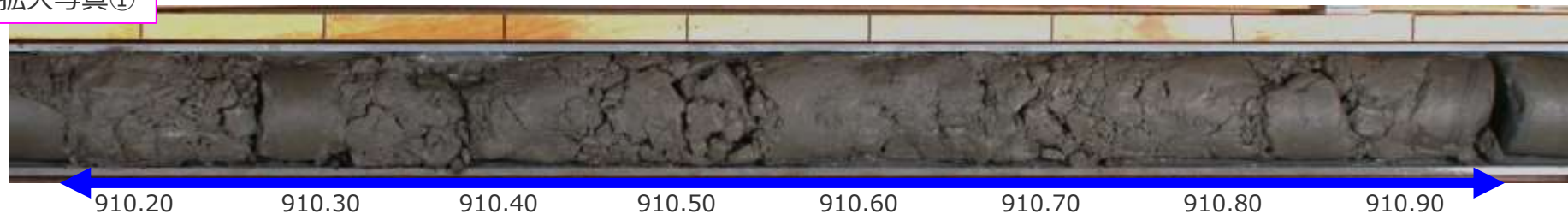
記事無し

コア長：－

【解釈】

- コアが全体的に乱れているが、明瞭な高角の断層は認められず、水平割れ目も多く、コアは不均質に割れている。
- これらのことから、本構造は、掘削・採取時のコアの乱れによるものと解釈する。
⇒H断層系と同性状の断層に該当しない。

拡大写真①



拡大写真②



【コア写真】

